東栄町　高齢者実態調査
報告書

令和４年３月

東栄町

目　次

Ⅰ　調査の概要 1

１．調査目的 1
２．調査の実施状況 1
３．調査項目 1
４．基本チェックリストに基づく該当リスクと判定基準 2
（１）基本チェックリスト 2
（２）判定基準 3
５．本報告書を読む際の留意点 3
６．分析記述の基本的考え方 4
７．標本誤差について 4
８．相関分析について 4

Ⅱ　基礎調査の結果 5

１．人口、世帯数の推移 5
（１）総人口 5
（２）年齢別人口割合 6
（３）世帯数 7
２．高齢化率、要支援・要介護認定者数等の推移 8
（１）高齢化率の推移（愛知県、東三河広域連合との比較） 8
（２）要支援・要介護認定者数 9
（３）要支援・要介護認定率の推移（愛知県、東三河広域連合との比較） 9

Ⅲ　アンケート調査の結果 10

１．日常生活関連動作について 10
（１）バスや電車で１人で外出していますか。 10
（２）日用品の買物をしていますか。 11
（３）預貯金の出し入れをしていますか。 12
（４）友人の家を訪ねていますか。 13
（５）家族や友人の相談にのっていますか。 14
２．運動器の機能について 15
（６）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。 15
（７）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。 16

（８）15 分位続けて歩いていますか。 17
（９）この１年間に転んだことがありますか。 18
(10) 転倒に対する不安は大きいですか。 19
３．栄養状態について 20
(11) 6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか。 20
(12) 身長と体重についてお答えください。 21
４．口腔機能について 23
(13) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。 23
(14) お茶や汁物等でむせることがありますか。 24
(15) 口の渇きが気になりますか。 25
５．外出状況について 26
(16) 週に１回以上は外出していますか。 26
(17) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。 27
６．認知機能について 28
(18) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか。 28
(19) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。 29
(20) 今日が何月何日かわからない時がありますか。 30
７．毎日の充実感について 31
(21) 毎日の生活に充実感がないと感じますか。 31
(22) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったと感じますか。 32
(23) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じますか。 33
(24) 自分が役に立つ人間だと思えないことがありますか。 34
(25) わけもなく疲れたような感じがしますか。 35
８．地域での支え合いについて 36
(26) 日常生活で地域の人と支え合っていること（声をかけあって散歩にでかける、ゴミ出しを手伝うなど）はありますか。 36
(27) この地域で安心して暮らし続けるために、どのような支え合いがあると良いと思いますか。（複数回答） 38
(28) 地域の人と支え合うために、あなたが支援できることはありますか。（複数回答） 40
(29) 地域の人と支え合う仕組みの「支える側」になりたいと思いますか。 42
９．生活の様子について 43
(30) ご自身を含めて何人で暮らしていますか。また同居されている方はどなたですか。 43
(31) 外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__①買物 45
(31) 外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__②仕事 46
(31) 外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__③散歩や運動 47
(31) 外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__④地域活動や趣味 48
(31) 外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__⑤友人・知人と会う 49
(32) 生活支援拠点施設「おいでん家」をご存じですか。 50

(33)　パソコンやスマートフォンなどを日常的に使っていますか。 51
(34) パソコンやスマートフォンなどの用途は何ですか。(複数回答) 52
10. リスク指標の状況について 54
(35) 生活機能全般のリスク 55
(36) 運動器機能リスク 60
(37) 低栄養リスク 65
(38) 口腔機能リスク 70
(39) 閉じこもりリスク 75
(40) 認知機能リスク 80
(41) うつリスク 85
11. 自由意見 90
自由意見の概況 90
項目別件数 91
Ⅳ　地区別カルテ 93
１．中設楽 94
２．月 96
３．本郷 98
４．下川 100
５．御園 102
６．足込 104
７．東薗目 106
８．西薗目 108
９．小林・粟代 110
10. 古戸 112
11. 三輪 114
Ⅴ　まとめ 116
１．各種リスクについて 116
（１）身体機能との関連が強いリスク（生活機能全般リスク、運動器機能リスク、口腔機能リスク、閉じこもりリスク） 116
（２）認知機能リスクとうつリスク 117
◎リスク予防に向けて 118
２．住民同士の支え合い・自主的な活動 119
（１）現在行われている支え合い 119
（２）これからの支え合い 120

（３）住民の自主的な活動 121
◎生活支援の資源の整理 122

Ⅰ　調査の概要

１．調査目的

東栄町では現在、高齢者の生活支援や介護予防など、高齢者福祉施策を推進しています。しかし、今後人口が減少していく中で、東栄町が高齢者にとって安全に安心して暮らせるような町であり続けるためには、一人ひとりが健康でいることや地域での支え合いなど、町民の皆様のご理解・ご協力が必要です。

本調査は、皆様の生活の様子等を把握し、今後の高齢者福祉施策の基礎資料とするために実施しました。

２．調査の実施状況

実施期間	実施方法	対象者	配布数	回収数
令和３年７月 31 日 ～ 令和３年８月 23 日	郵送による 配布・回収	町内の 65 歳以上の方で、要支援・要介護認定を受けていない方	1,164 通	857 通 73.6%

※「広報とうえい」等における本調査実施のお知らせでは、1,200 人を抽出するとしていましたが、対象者の抽出から調査実施までの期間に転出等があり 1,164 人となりました。

※本調査は、令和２年来の新型コロナウイルス感染症感染拡大する中で実施されました。

３．調査項目

本調査の調査項目は、国が示した基本チェックリストと町独自の設問で構成しています。なお、各リスク対象者の判定・集計処理については、国が示した基準に基づいて行いました。

調査項目	
１．介護予防に関すること（25 項目）	①日常生活関連動作について　⑤外出状況について ②運動器の機能について　⑥認知機能について ③栄養状態について　⑦毎日の充実感について ④口腔機能について
２．地域での支え合いの仕組みづくりに関すること（７項目）	⑧地域での支え合いについて ⑨生活の様子について ⑩自由意見

４．基本チェックリストに基づく該当リスクと判定基準

（１）基本チェックリスト

質問項目			回答	
問1　日常生活関連動作				
	(1)	バスや電車で 1 人で外出していますか	0. はい	1. いいえ
	(2)	日用品の買物をしていますか	0. はい	1. いいえ
	(3)	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい	1. いいえ
	(4)	友人の家を訪ねていますか	0. はい	1. いいえ
	(5)	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい	1. いいえ
問2　運動器の機能について				
	(6)	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ
	(7)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい	1. いいえ
	(8)	15 分位続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ
	(9)	この 1 年間に転んだことがありますか	1. はい	0. いいえ
	(10)	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ
問3　栄養状態について				
	(11)	6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか	1. はい	0. いいえ
	(12)	身長・体重についてお答えください（→BMIが 18.5 未満である）	1. はい	0. いいえ
問4　口腔機能について				
	(13)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ
	(14)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ
	(15)	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ
問5　外出状況について				
	(16)	週に1回以上は外出していますか	0. はい	1. いいえ
	(17)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	0. いいえ
問6　認知機能について				
	(18)	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	1. はい	0. いいえ
	(19)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ
	(20)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	0. いいえ
問7　毎日の充実感について				
	(21)	（ここ 2 週間）毎日の生活に充実感がない	1. はい	0. いいえ
	(22)	（ここ 2 週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい	0. いいえ
	(23)	（ここ 2 週間）以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1. はい	0. いいえ
	(24)	（ここ 2 週間）自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい	0. いいえ
	(25)	（ここ 2 週間）わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	0. いいえ

※網掛けの選択肢がリスク判定における該当項目となっています。

（２）判定基準

	判定基準	考えられること
1	(1)～(20)で 10 項目以上に該当	生活機能全般の低下のおそれがあります。
2	(6)～(10)で3項目以上に該当	運動器機能低下のおそれがあります。
3	(11)、(12)で2項目に該当	低栄養のおそれがあります。
4	(13)～(15)で2項目以上に該当	口腔機能低下のおそれがあります。
5	(16)～(17)で(16)に該当	家に閉じこもりがちになっている可能性があります。
6	(18)～(20)で1項目以上に該当	認知機能低下のおそれがあります。
7	(21)～(25)で2項目以上に該当	うつ傾向の可能性があります。

５．本報告書を読む際の留意点

○本調査では、町内を 11 地区に分けて集計・分析を行っています。地区の分け方は、以下の表のとおりです。

地区名		該当地域
1	中設楽	中設楽
2	月	月
3	本郷	本郷・奈根
4	下川	下田・川角
5	御園	御園
6	足込	足込

地区名		該当地域
7	東薗目	東薗目
8	西薗目	西薗目
9	古戸	古戸
10	小林・粟代	小林・上粟代・下粟代
11	三輪	三輪

○図表中の「n」は、設問への回答者数を表しています。
○図表中の数値は、特に断りのある場合を除き、いずれも回答率（%）を表示しています。
○回答率（%）は、すべて小数点以下第二位を四捨五入し、小数点以下第一位までを表示しています。したがって、その合計値が 100.0%にならない場合があります。
○回答には、単数回答と複数回答があり、複数回答は、回答率が 100.0%を超える場合があります。
○クロス集計表には、全体より高い値、全体より低い値に網掛けをしています。クロス集計の分析記述の考え方は「６．分析記述の基本的考え方」のとおりとします。
○分析記述の中には、クロス集計の回答者数が 20 サンプル未満の結果も含まれており、結果を見る上では注意が必要です。
○図表のタイトル及び回答の選択肢は、調査票の表記から簡略化して表現している場合があります。
○自由意見については、記入者の意向を尊重し、可能な限り原文のまま掲載していますが、誤字・脱字と思われる表記や、個人が特定されるおそれがあると考えられる意見などは修正等をしています。

６．分析記述の基本的考え方

クロス集計の結果については、全体との比較を中心に分析記述を行っており、その回答差が大きい項目を分析記述の対象としています。記述の目安は以下の表のとおりです。

記述無し	高い／低い	とても高い／低い
±10.0%未満	±10.0%以上 20.0%未満	±20.0%以上

７．標本誤差について

例えば、今回の調査の回答者数（n）を 100%とする比率で、ある質問の回答が 50%であった場合、母集団（**町内の 65 歳以上の方で、要支援・要介護認定を受けていない方 1,164 人**）のこの質問に対する回答は、48.3%（50%－1.7%）～51.7%（50%＋1.7%）の間にあると考えられます。

回答割合	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%
標本誤差	±1.0%	±1.4%	±1.6%	±1.7%	±1.7%	±1.7%	±1.6%	±1.4%	±1.0%

８．相関分析について

各種リスクと、日常生活の行動頻度等について、相関係数を算出し、リスクの該当状況と外出行動の関連を分析しています。

相関分析とは、２つの要素（変数）がどの程度同じような動きをするかを、数値（相関係数（r））で表す分析です。

相関係数は、相関関係の強さを数値で示したもので、＋１に近づくほど正の相関（正比例）の関係が、－１に近づくと負の相関（反比例）の関係が強くなります。また、０に近づくほど無関係になります。相関の強さの目安は以下のように言われています。

相関係数の絶対値	相関の強さの目安
0.0<|r|≦0.2	ほとんど相関関係がない
0.2<|r|≦0.4	弱い相関関係がある
0.4<|r|≦0.7	相関関係がある
0.7<|r|≦1.0	強い相関関係がある

Ⅱ　基礎調査の結果

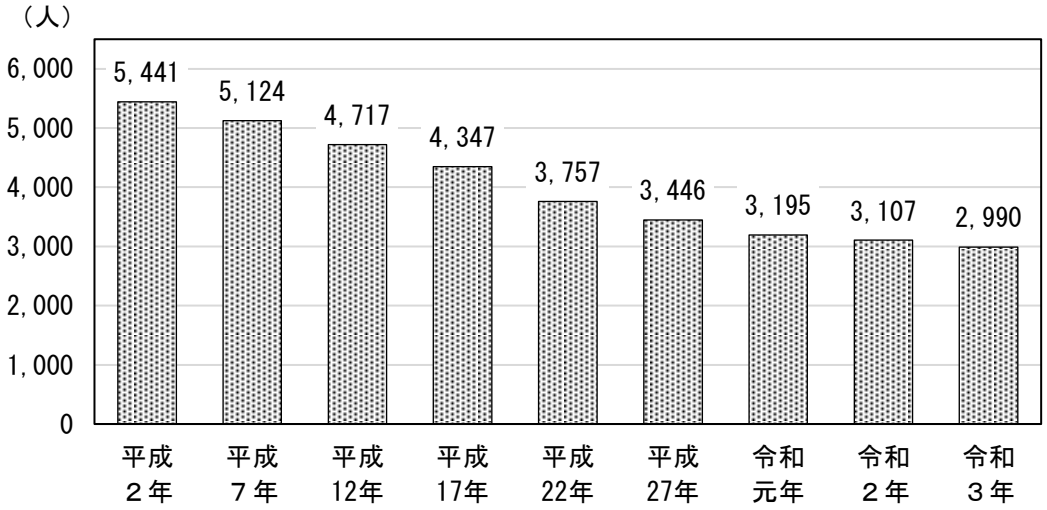
１．人口、世帯数の推移

（１）総人口

平成２年の総人口は 5,441 人でしたが、その後減少を続けており、令和３年には 2,990 人となっています。

男女別人口の推移を見ると、いずれの年も女性の人口が男性の人口を上回っています。

図表　総人口の推移



図表　男女別人口の推移

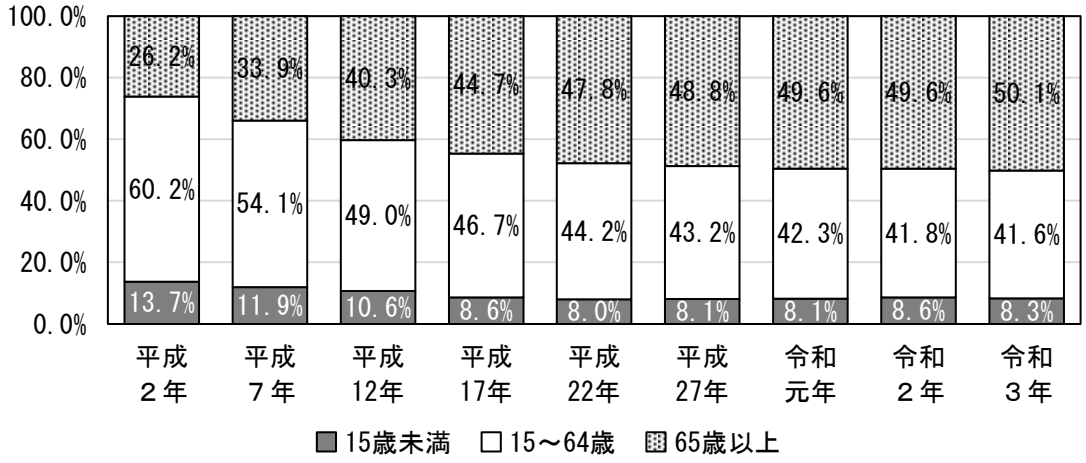
		平成２年	平成７年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和元年	令和２年	令和３年
男性	（人）	2,579	2,430	2,197	2,029	1,727	1,632	1,509	1,479	1,441
女性	（人）	2,862	2,694	2,520	2,318	2,030	1,814	1,686	1,628	1,549
合計	（人）	5,441	5,124	4,717	4,347	3,757	3,446	3,195	3,107	2,990

出典：平成２年から平成27年…国勢調査
令和元年～令和３年…住民基本台帳（各年４月１日現在）

（２）年齢別人口割合

65歳以上の人口の割合は、平成２年以降高くなっており、令和３年には50.1%となっています。一方、15～64 歳の人口の割合は平成２年には 60.2%でしたが、令和３年には 41.6%まで減少しています。15 歳未満の人口の割合は、平成２年には 13.7%でしたが、減少し、平成 17 年以降は８%台で推移しています。

図表　年齢別人口割合の推移



		平成２年	平成７年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和元年	令和２年	令和３年
15 歳未満	(%)	13.7	11.9	10.6	8.6	8.0	8.1	8.1	8.6	8.3
15～64 歳	(%)	60.2	54.1	49.0	46.7	44.2	43.2	42.3	41.8	41.6
65 歳以上	(%)	26.2	33.9	40.3	44.7	47.8	48.8	49.6	49.6	50.1

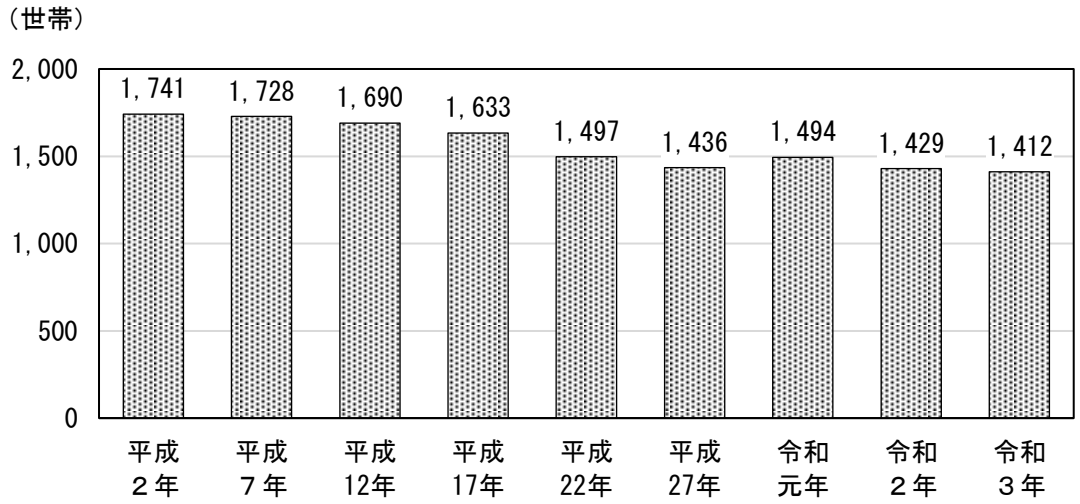
※小数点第二位を四捨五入して算出しているため割合の数値の合計が 100.0 にならない場合があります。

出典：平成２年から平成 27 年…国勢調査
令和元年～令和３年…住民基本台帳（各年４月１日現在）

（３）世帯数

東栄町の世帯数は平成２年以降、減少傾向で推移しています。平成 22 年以降は 1,500 世帯を下回り、令和３年には 1,412 世帯となっています。

図表　世帯数の推移



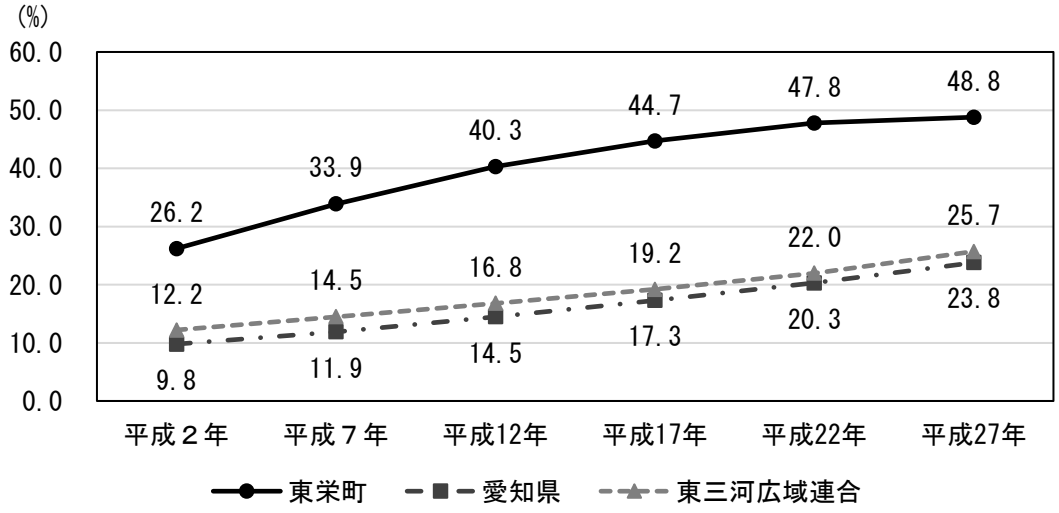
出典：平成２年から平成 27 年…国勢調査
令和元年から令和３年…東栄町役場振興課（各年４月１日現在）

２．高齢化率、要支援・要介護認定者数等の推移

（１）高齢化率の推移（愛知県、東三河広域連合との比較）

65 歳以上の人口の割合を愛知県、東三河広域連合と比較すると、平成２年には東栄町が 26.2%と最も高く、次いで東三河広域連合が 12.2%、愛知県が 9.8%でした。その後、いずれにおいても高齢化率は上昇傾向で推移し、平成 27 年には東栄町が 48.8%と最も高く、次いで東三河広域連合が 25.7%、愛知県が 23.8%となっています。

図表　年齢別人口割合の比較



出典：国勢調査

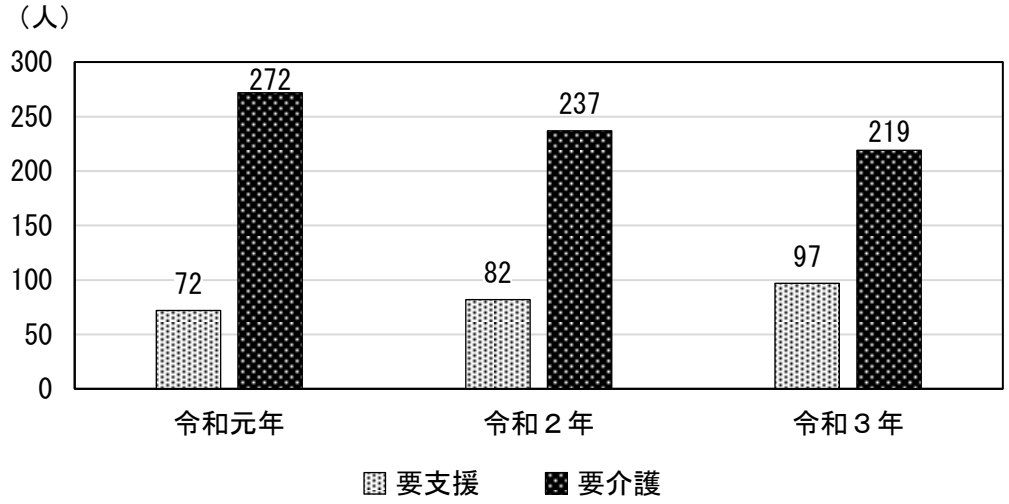
東三河広域連合とは

豊橋市・豊川市・蒲郡市・新城市・田原市・設楽町・東栄町・豊根村の８市町村で構成され、広域的な地域振興や介護保険などの行政サービスを提供しています。

（２）要支援・要介護認定者数

要支援認定者数は令和元年の 72 人から令和３年には 97 人に増加していますが、要介護者認定者数については、令和元年の 272 人から令和３年には 219 人に減少しています。

図表　要支援・要介護認定者数の推移

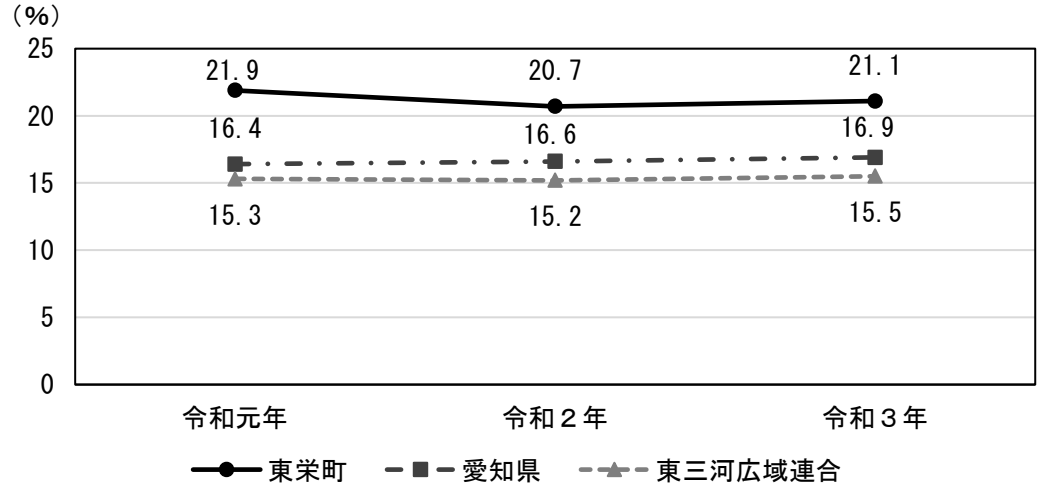


出典：東栄町役場住民福祉課（各年４月１日現在）

（３）要支援・要介護認定率の推移（愛知県、東三河広域連合との比較）

要支援・要介護認定率を愛知県、東三河広域連合と比較すると、令和元年には、東栄町が 21.9%と最も高く、次いで愛知県が 16.4%、東三河広域連合が 15.3%となっています。令和元年から令和３年にかけて愛知県、東三河広域連合、東栄町のいずれにおいても横ばいで推移し、令和３年は東栄町が 21.1%と最も高くなっています。

図表　要介護認定率の比較



出典：東栄町…東栄町役場住民福祉課（各年４月１日現在）
愛知県、東三河広域連合…介護保険事業状況報告（各年３月月報）

Ⅲ　アンケート調査の結果

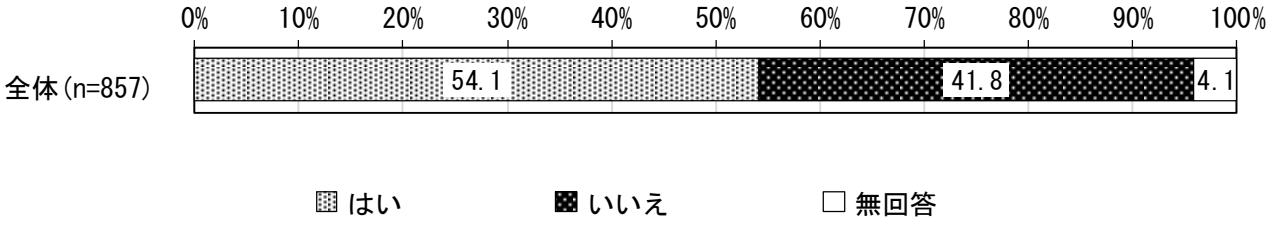
１．日常生活関連動作について

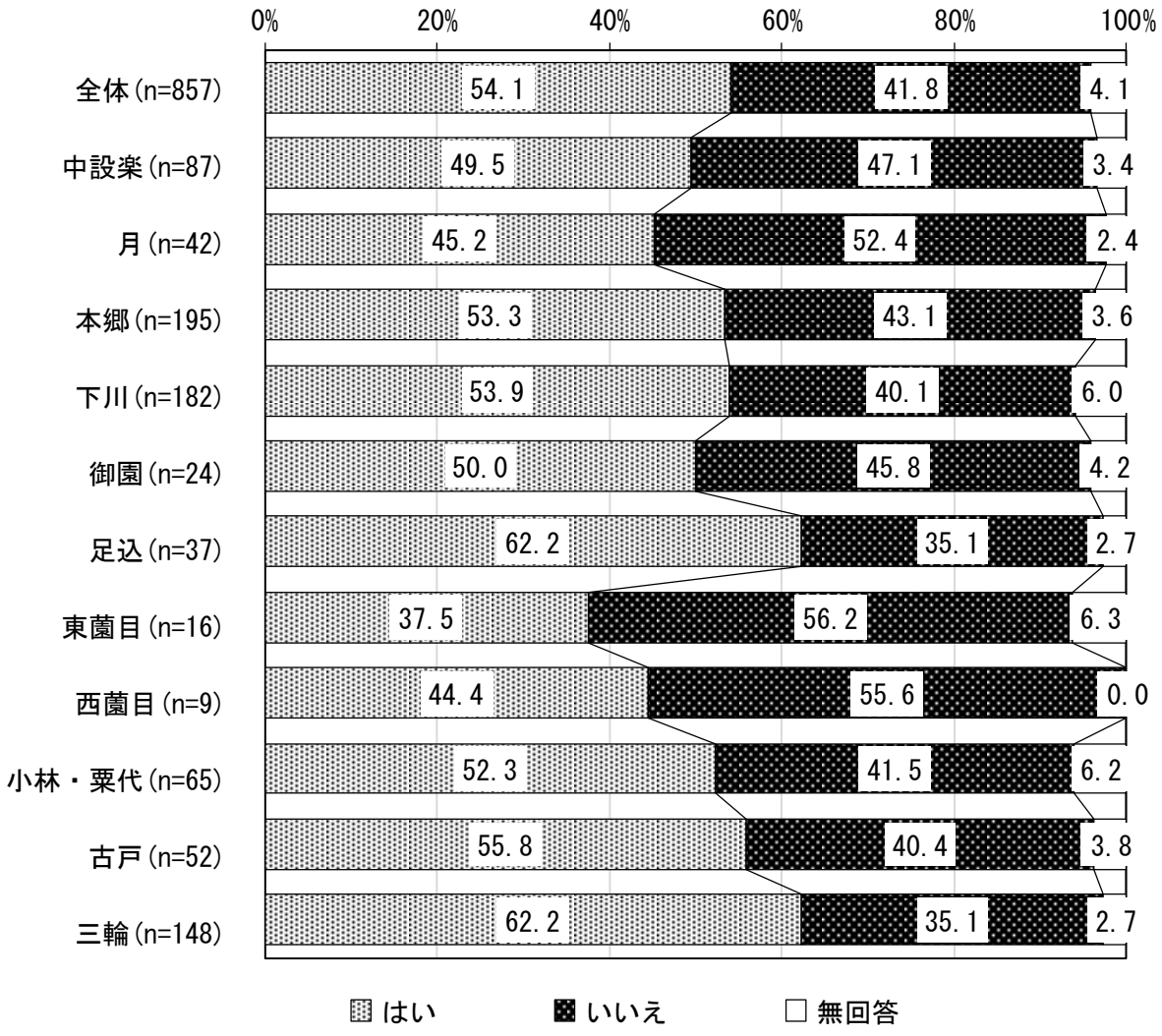
（１）バスや電車で１人で外出していますか。

バスや電車で１人で外出しているかについて聞いたところ、「はい」が 54.1%、「いいえ」が 41.8%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、東薗目地区が 56.2%で最も高く、足込地区と三輪地区が 35.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 21.1 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　バスや電車で１人で外出しているか



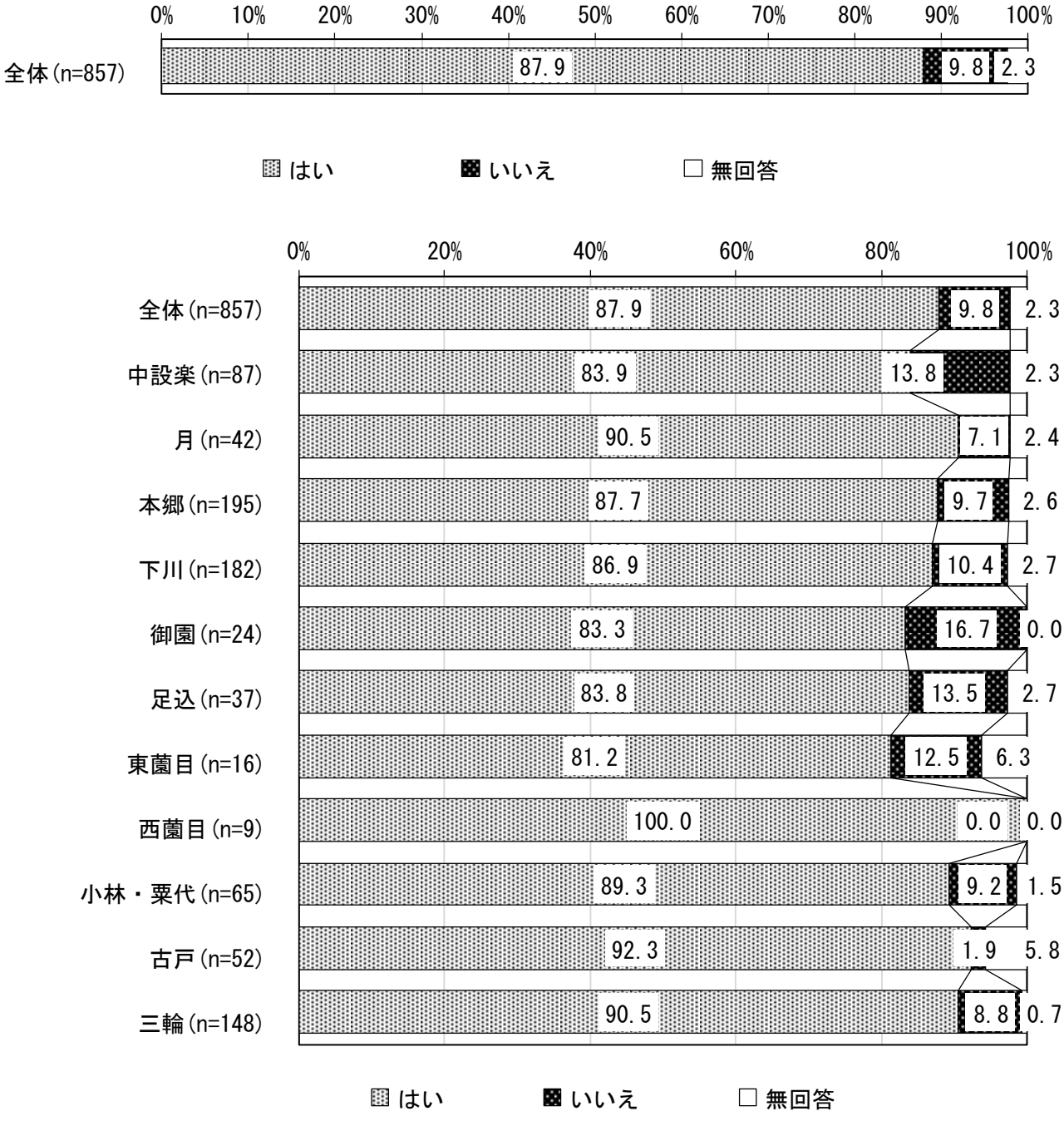


（２）日用品の買物をしていますか。

日用品の買物をしているかについて聞いたところ、「はい」が 87.9%、「いいえ」が 9.8%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、御園地区が 16.7%で最も高く、西薗目地区が 0.0%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 16.7 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　日用品の買物をしているか

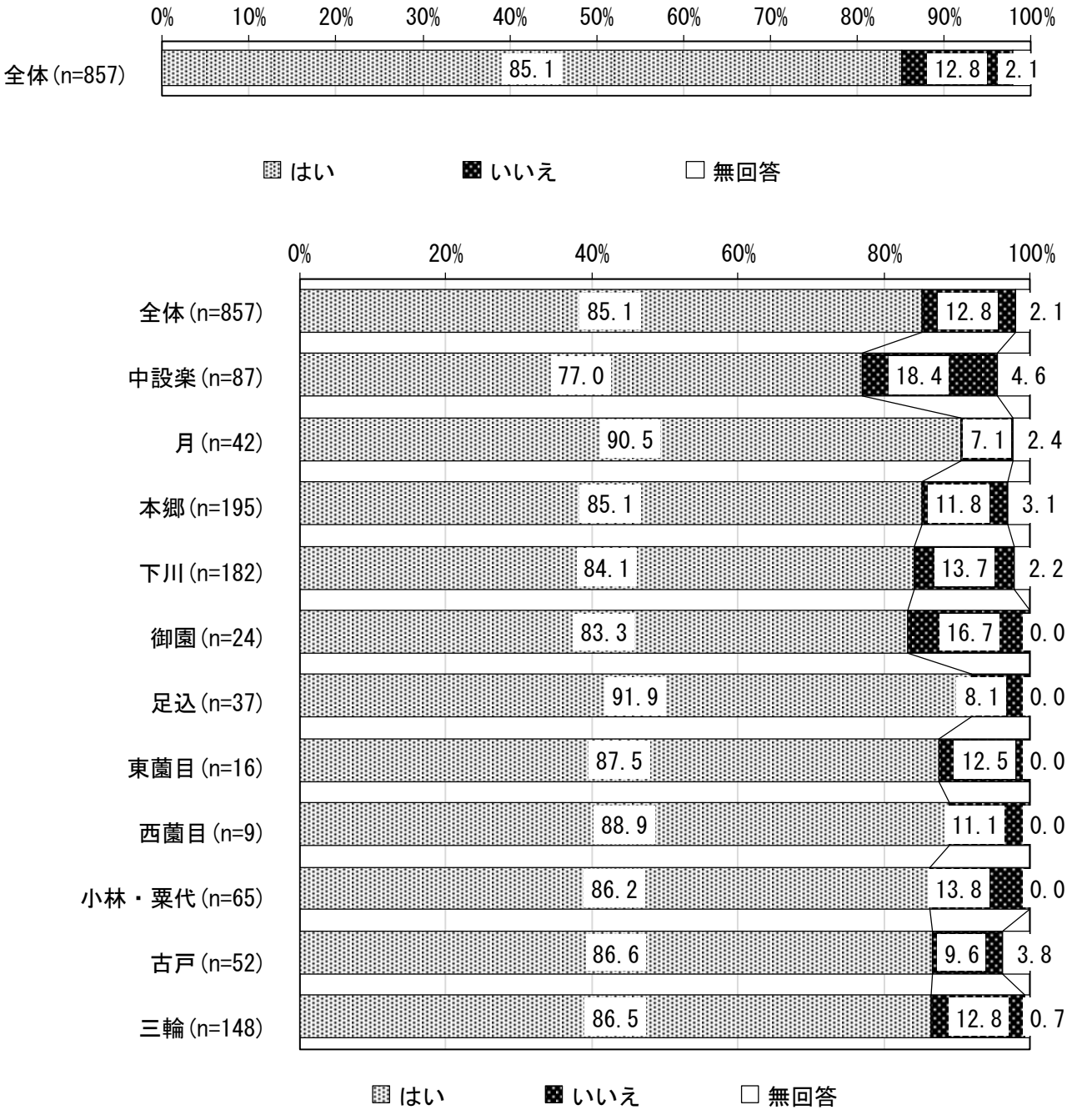


（３）預貯金の出し入れをしていますか。

預貯金の出し入れをしているかについて聞いたところ、「はい」が 85.1%、「いいえ」が 12.8%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、中設楽地区が 18.4%で最も高く、月地区が 7.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 11.3 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　預貯金の出し入れをしているか

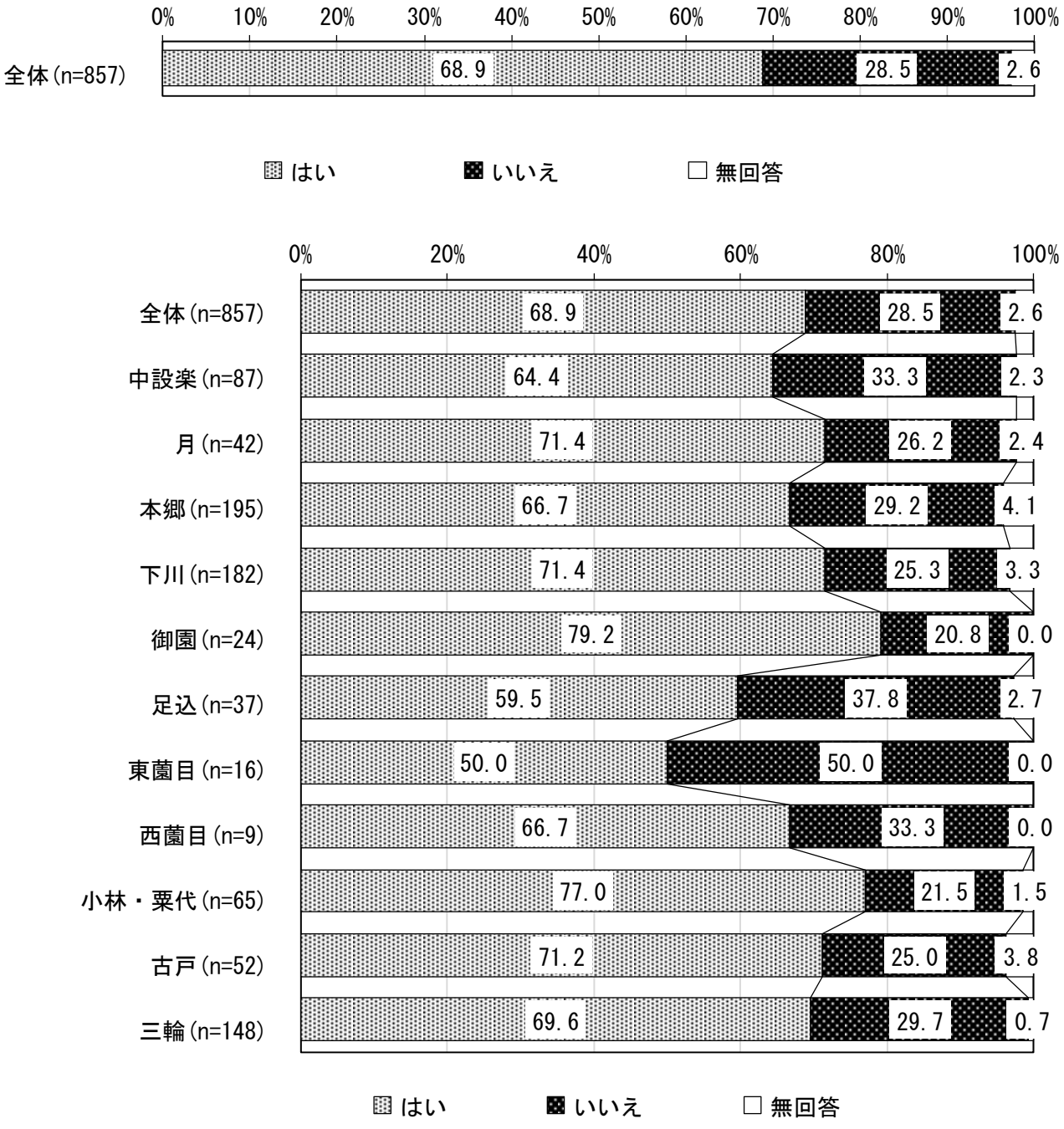


（４）友人の家を訪ねていますか。

友人の家を訪ねているかについて聞いたところ、「はい」が 68.9%、「いいえ」が 28.5%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、東薗目地区が 50.0%で最も高く、御園地区が 20.8%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 29.2 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　友人の家を訪ねているか

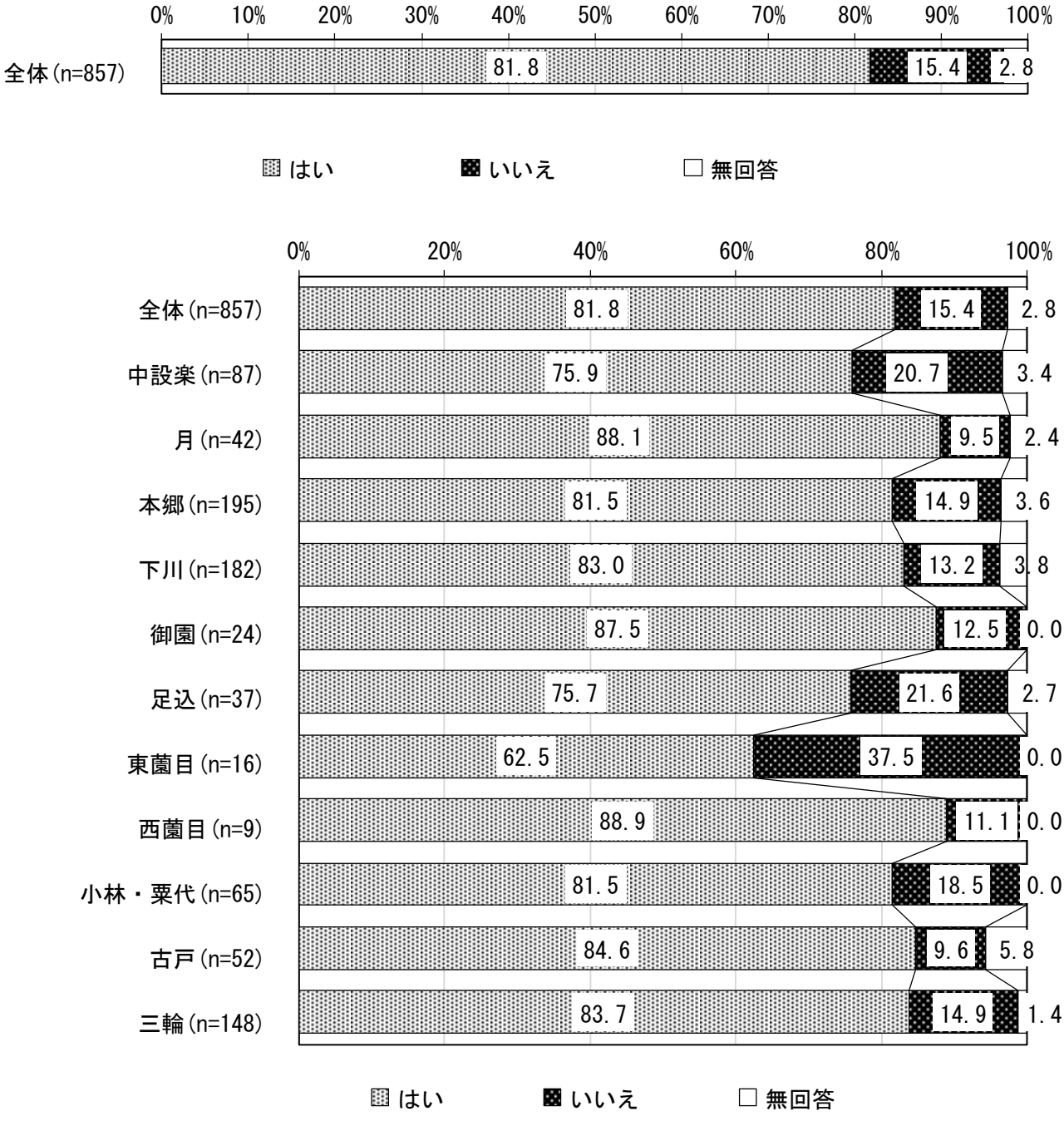


（５）家族や友人の相談にのっていますか。

家族や友人の相談にのっているかについて聞いたところ、「はい」が 81.8%、「いいえ」が 15.4%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、東薗目地区が 37.5%で最も高く、月地区が 9.5%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 28.0 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　家族や友人の相談にのっているか



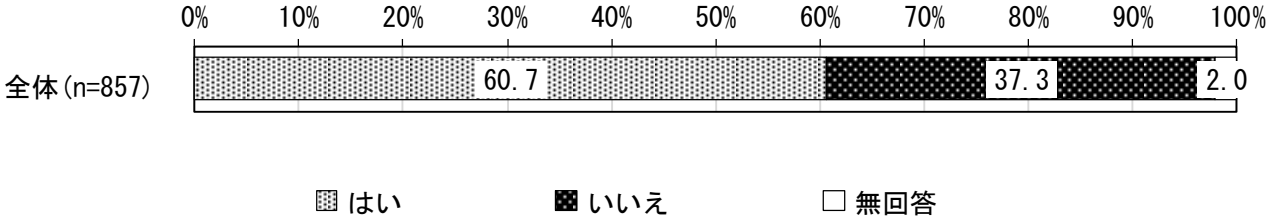
２．運動器の機能について

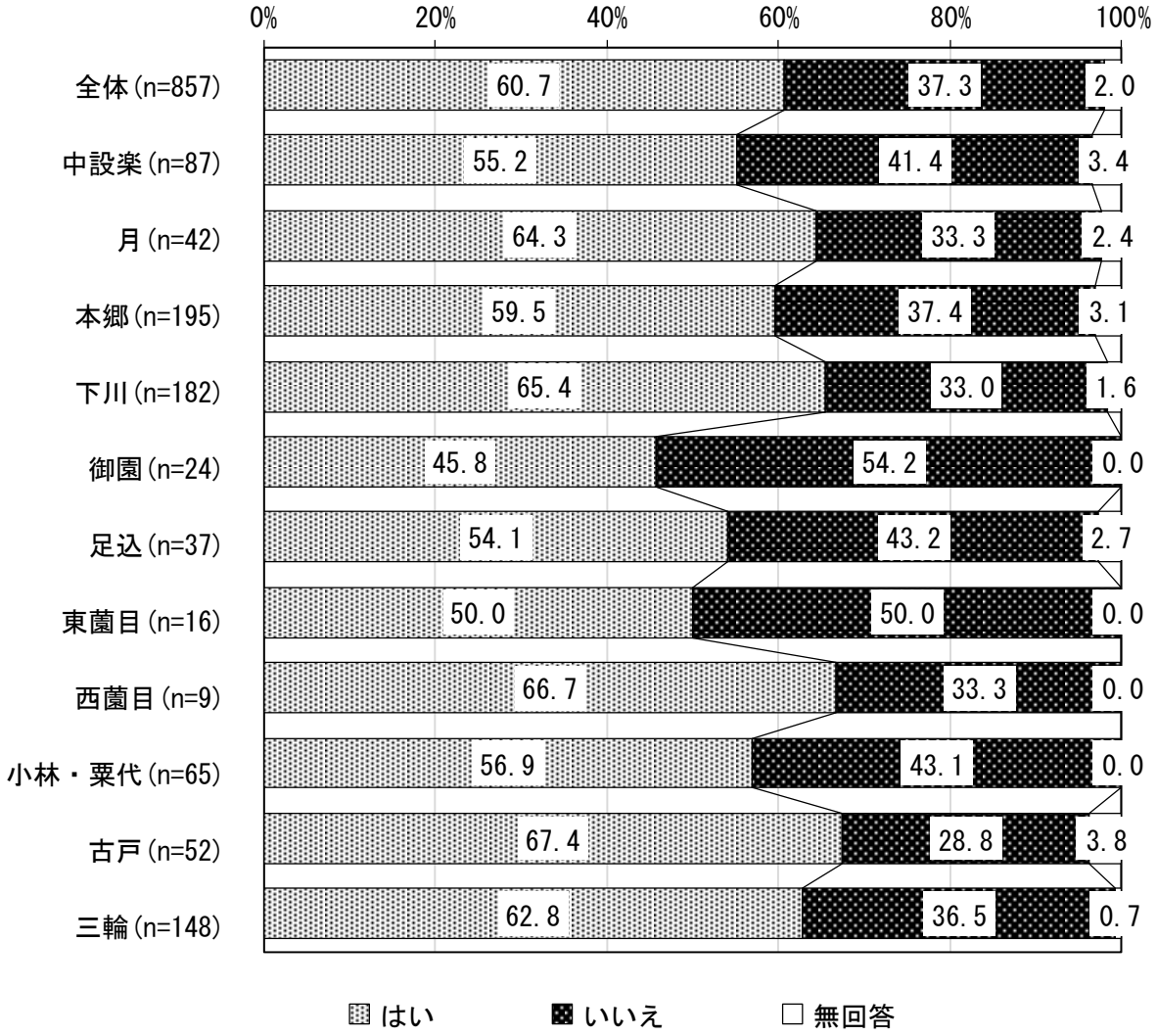
（６）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。

階段を手すりや壁をつたわらずに昇っているかについて聞いたところ、「はい」が 60.7%、「いいえ」が 37.3%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、御園地区が 54.2%で最も高く、古戸地区が 28.8%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 25.4 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　階段を手すりや壁をつたわらずに昇っているか



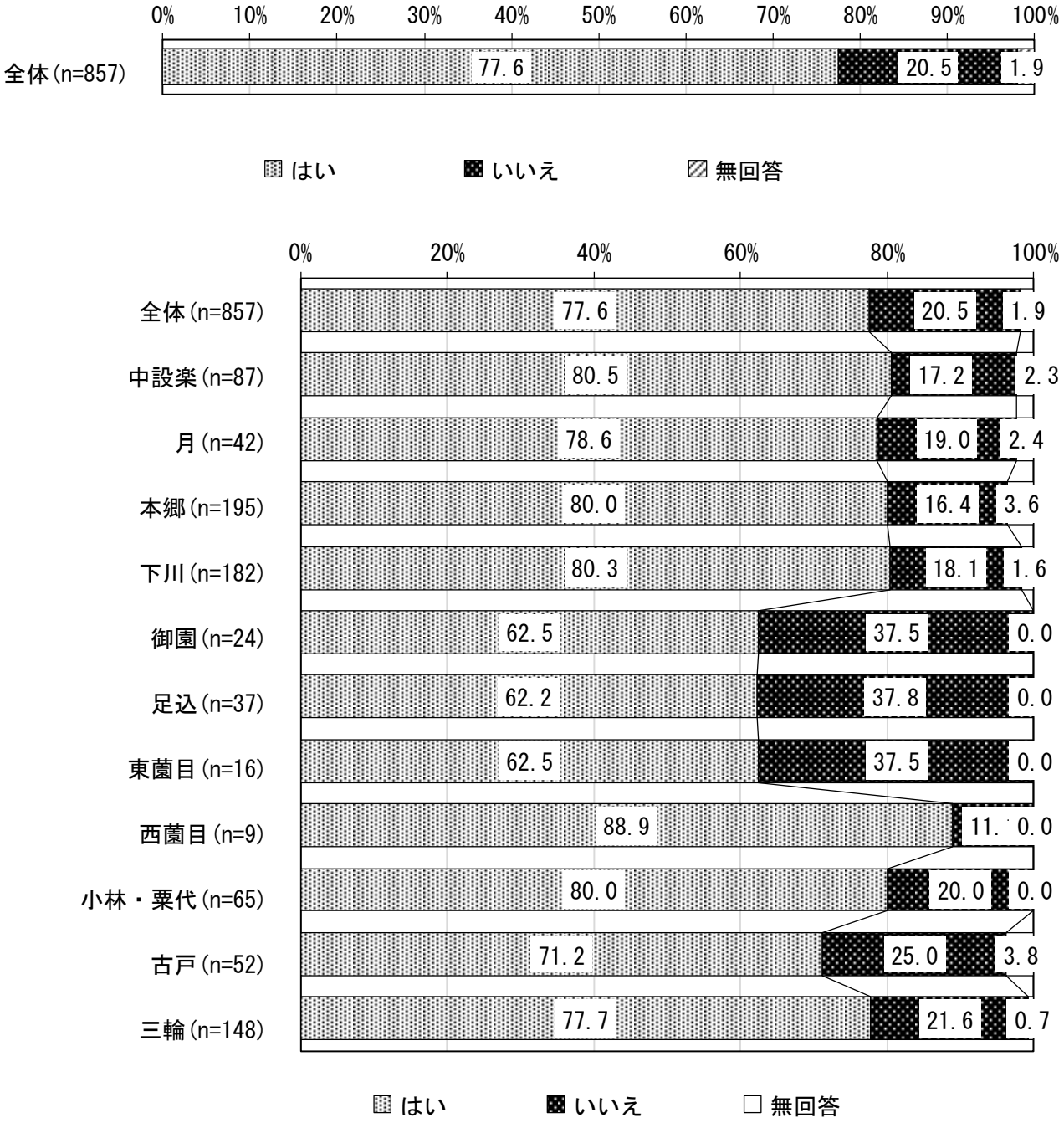


（７）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについて聞いたところ、「はい」が 77.6%、「いいえ」が 20.5%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、足込地区が 37.8%で最も高く、西薗目地区が 11.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 26.7 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

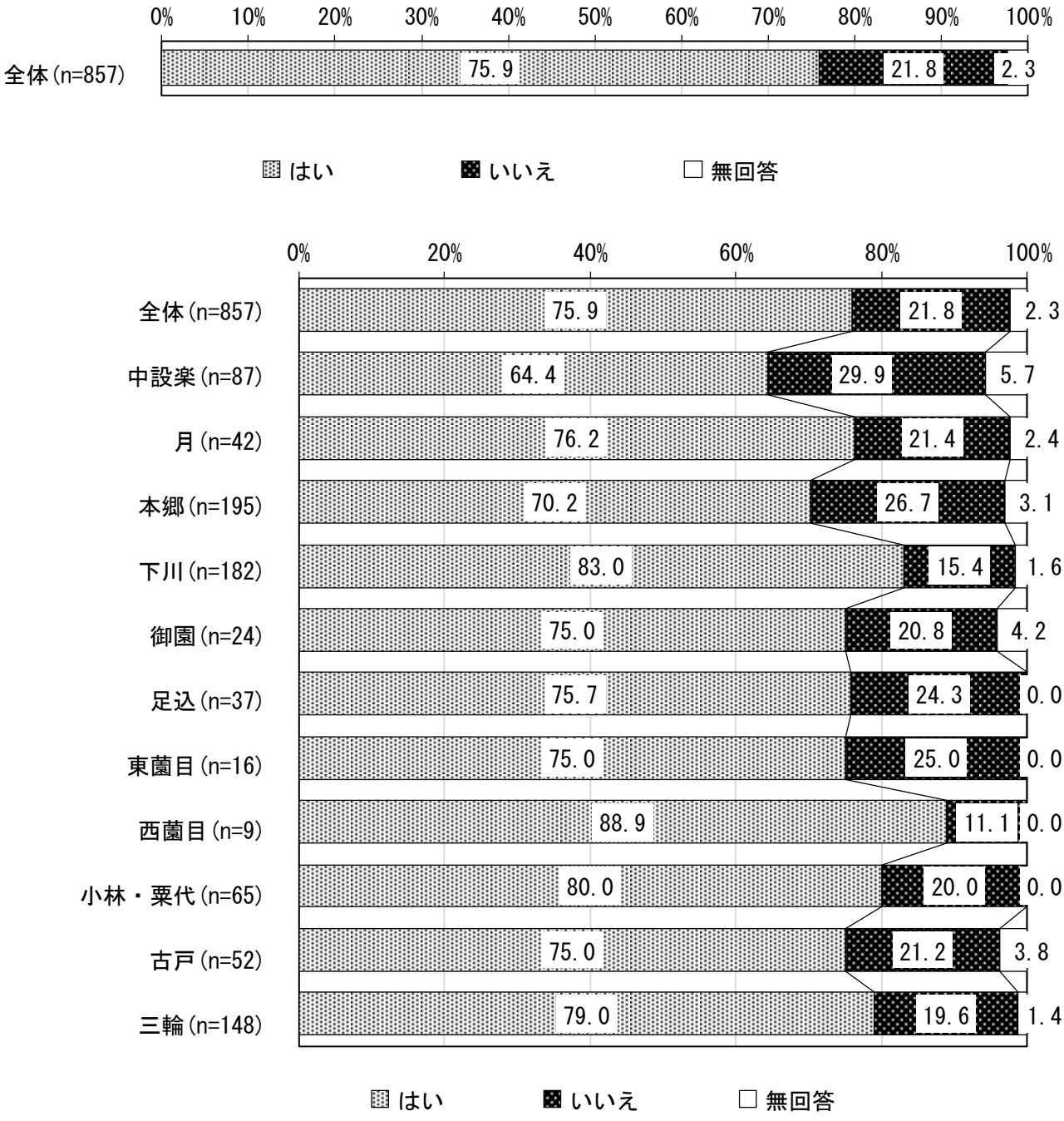


（８）15 分位続けて歩いていますか。

15 分位続けて歩いているかについて聞いたところ、「はい」が 75.9%、「いいえ」が 21.8%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、中設楽地区が 29.9%で最も高く、西薗目地区が 11.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 18.8 ポイント差があります。(ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。)

図表　15 分位続けて歩いているか

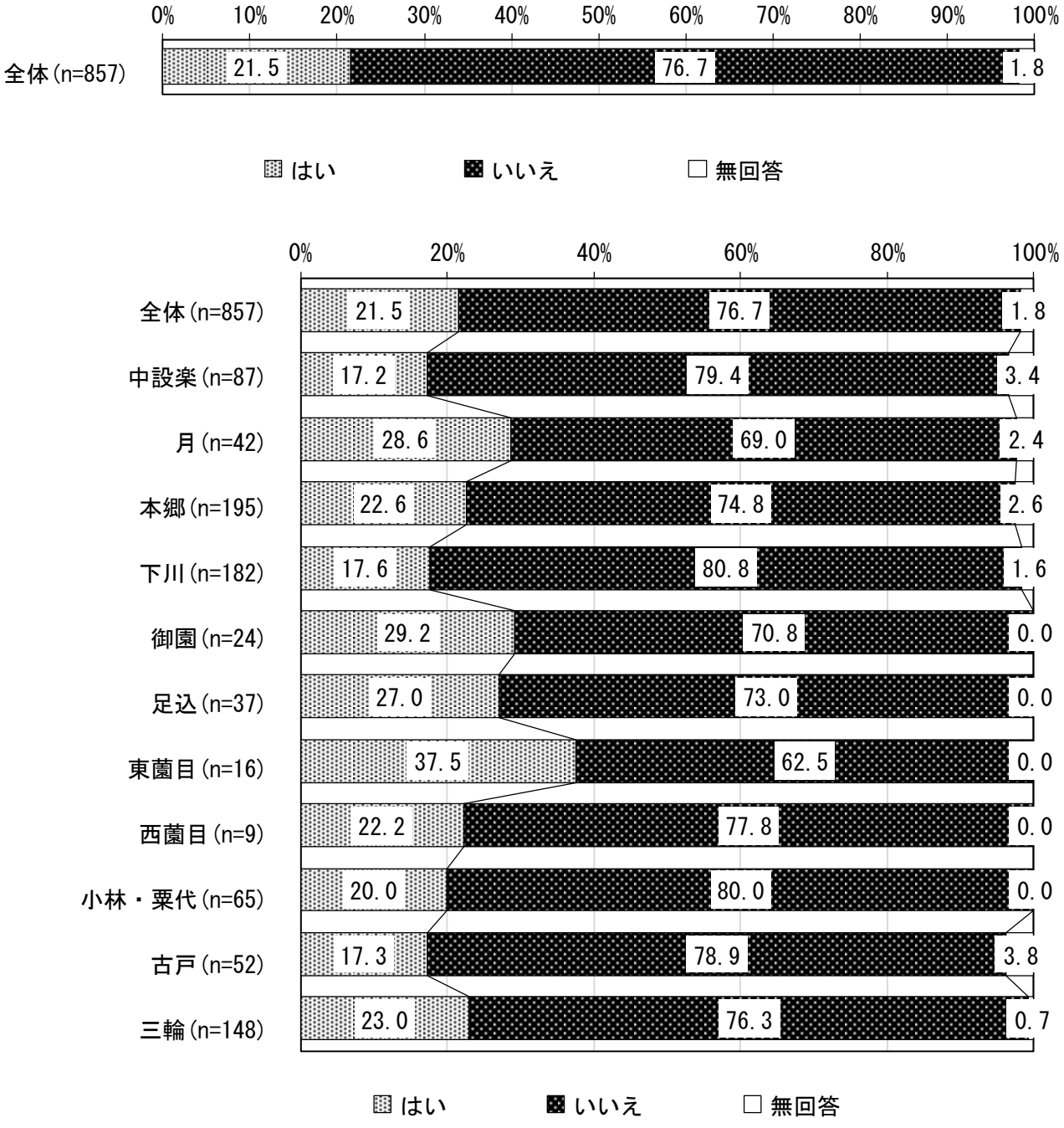


（９）この１年間に転んだことがありますか。

この１年間に転んだことがあるかについて聞いたところ、「いいえ」が 76.7%、「はい」が 21.5%となっています。

「はい」について地区別に見ると、東薗目地区が 37.5%で最も高く、中設楽地区が 17.2%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 20.3 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　この１年間に転んだことがあるか

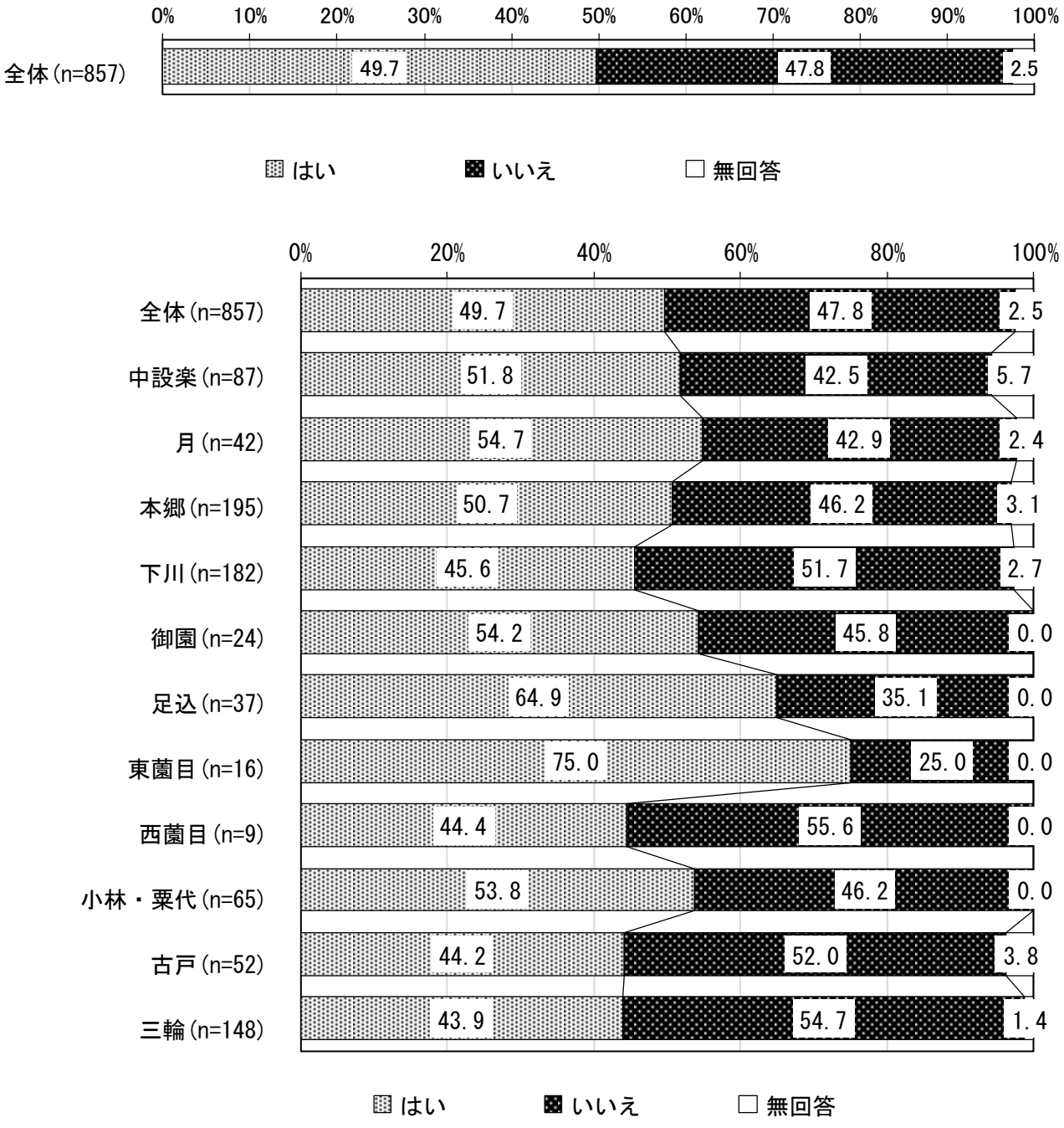


（10）転倒に対する不安は大きいですか。

転倒に対する不安は大きいかについて聞いたところ、「はい」が 49.7%、「いいえ」が 47.8%となっています。

「はい」について地区別に見ると、東薗目地区が 75.0%で最も高く、三輪地区が 43.9%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 31.1 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　転倒に対する不安は大きいか



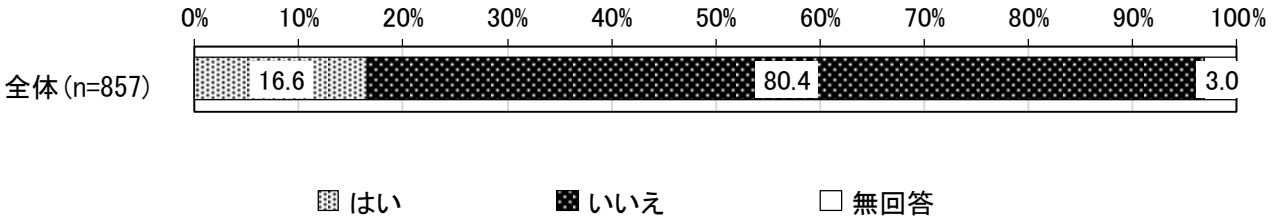
３．栄養状態について

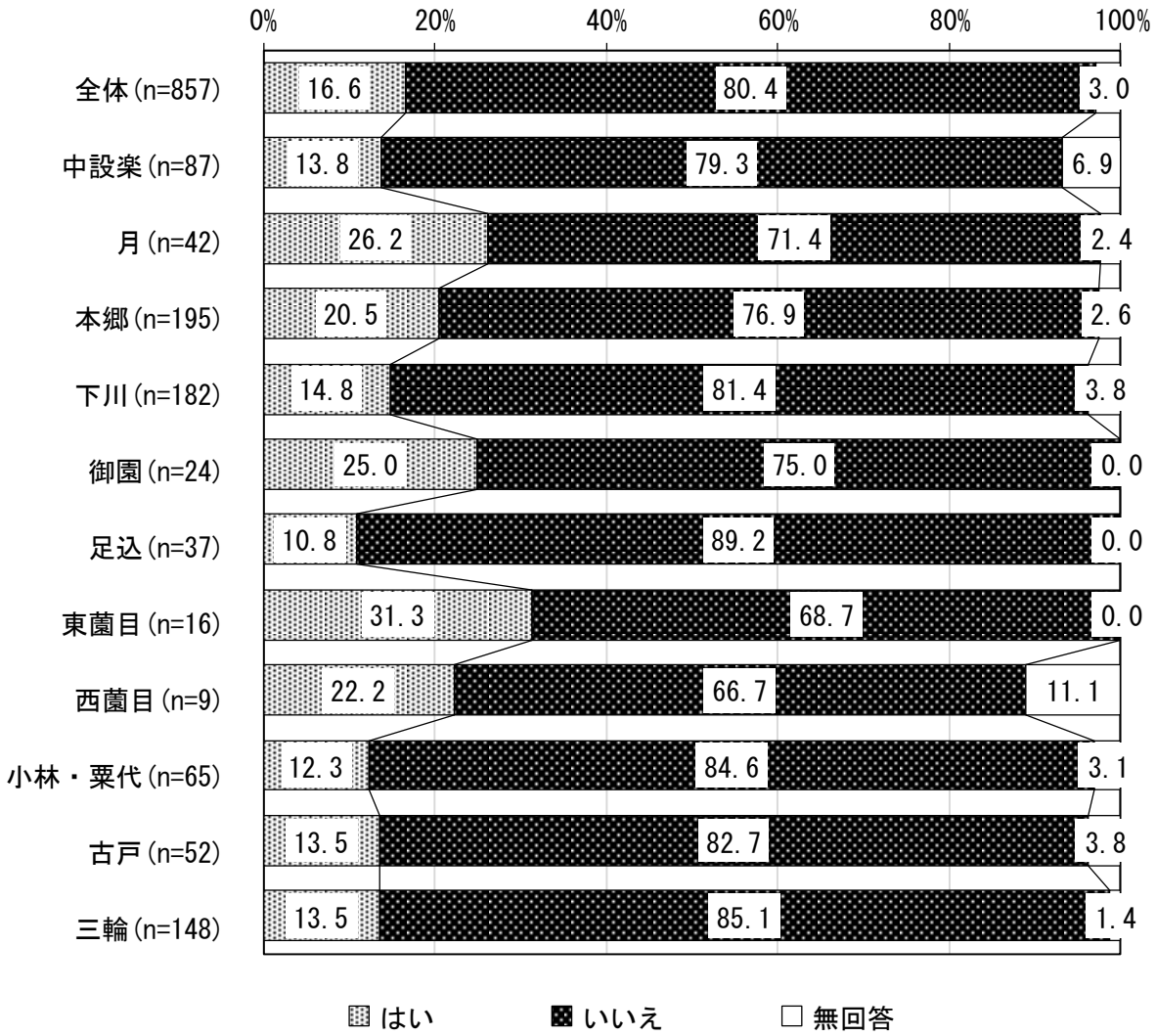
（11）6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか。

6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少があったかについて聞いたところ、「いいえ」が 80.4%、「はい」が 16.6%となっています。

「はい」について地区別に見ると、東薗目地区が 31.3%で最も高く、足込地区が 10.8%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 20.5 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少があったか



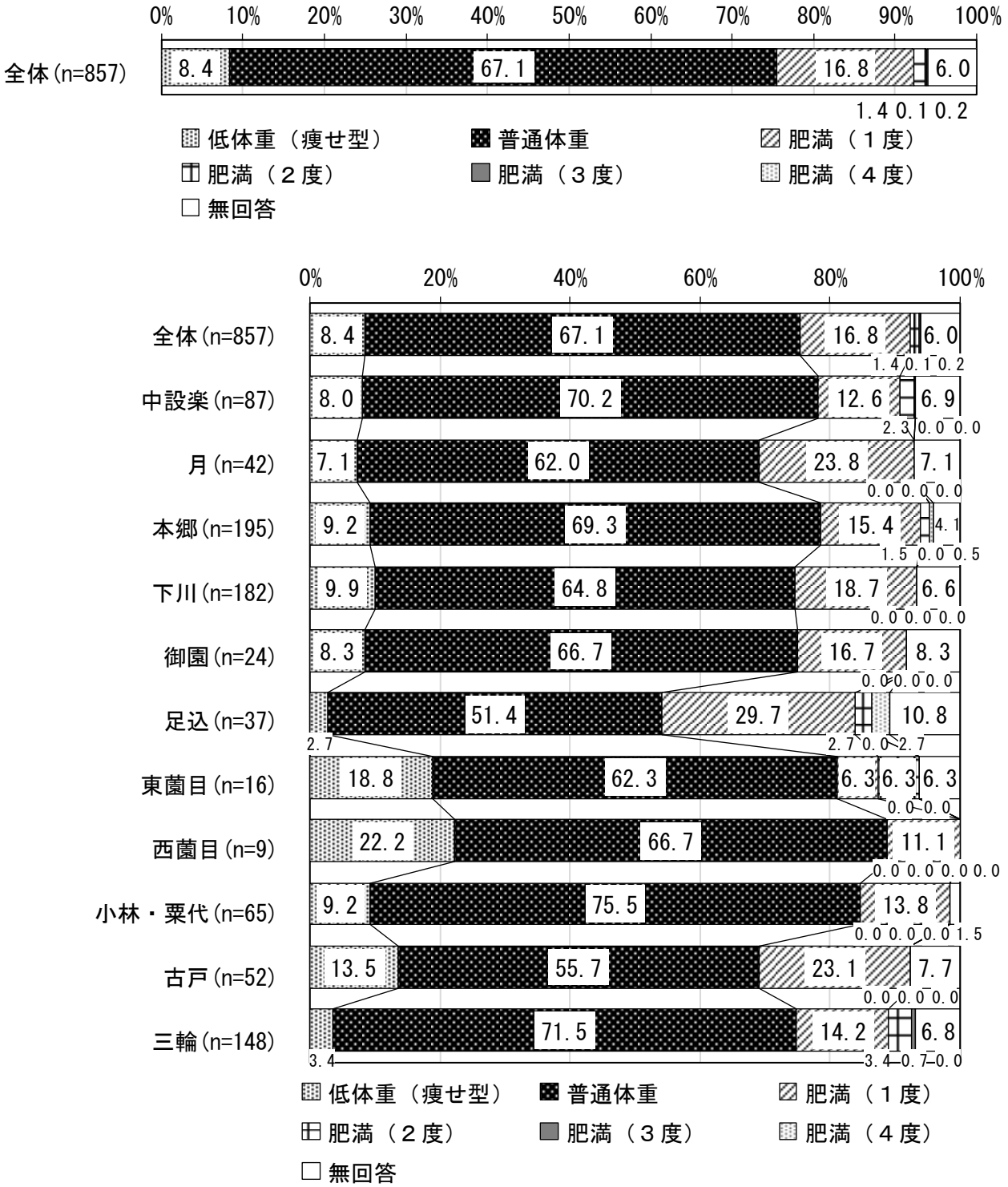


（12）身長と体重についてお答えください。

身長と体重についてたずね、ＢＭＩ（次ページ参照）を算出したところ、「普通体重」が 67.1%、「低体重（痩せ型）は 8.4%となっています。

「低体重（痩せ型)」について地区別に見ると、西薗目が 22.2%で最も高く、三輪が 3.4%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 18.8 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表 BMIに基づく肥満度



BMIとは

［体重(kg)］÷［身長(m)の２乗］で算出される値で、肥満や低体重の判定に用いられます。日本肥満学会の定めた基準では、ＢＭＩによって以下のように分類され、前ページの分析もこの基準に基づいて行っています。

BMI(身長 kg／身長m^2)	判定
18.5 未満	低体重
18.5 以上 25.0 未満	普通体重
25.0 以上 30.0 未満	肥満(1度)
30.0 以上 35.0 未満	肥満(2度)
35.0 以上 40.0 未満	肥満(3度)
40.0 以上	肥満(4度)

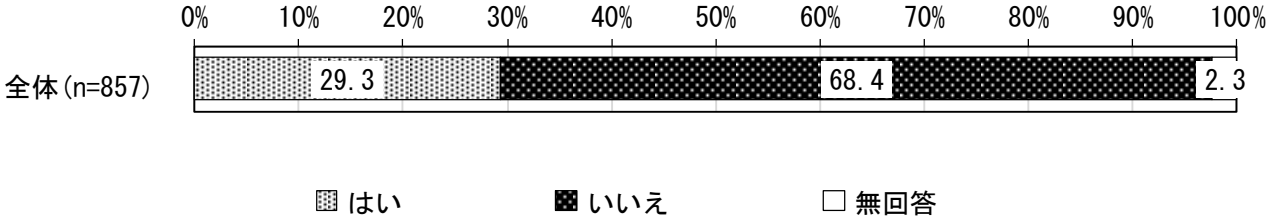
４．口腔機能について

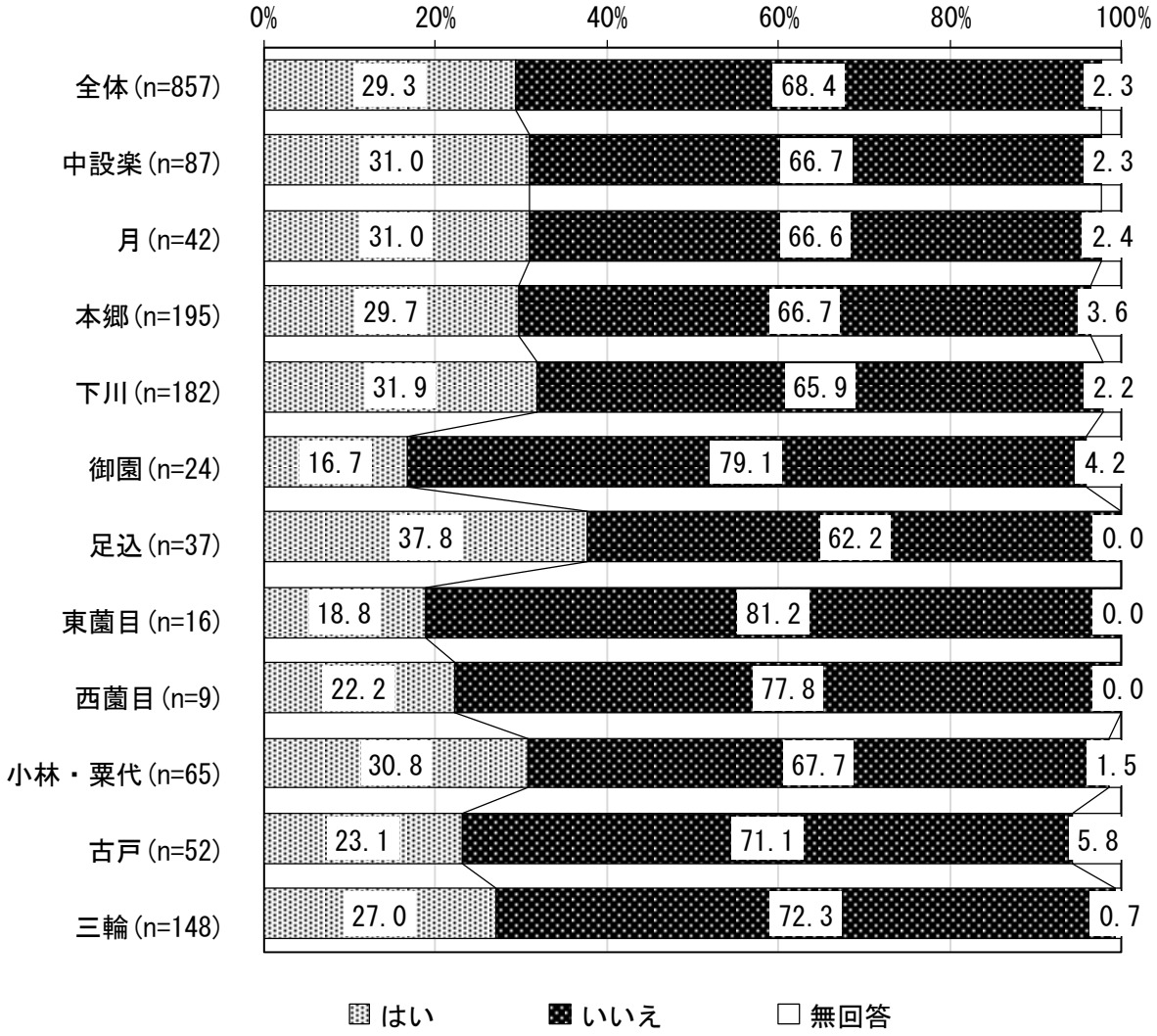
（13）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについて聞いたところ、「いいえ」が 68.4%、「はい」が 29.3%となっています。

「はい」について地区別に見ると、足込地区が 37.8%で最も高く、御園地区が 16.7%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 21.1 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



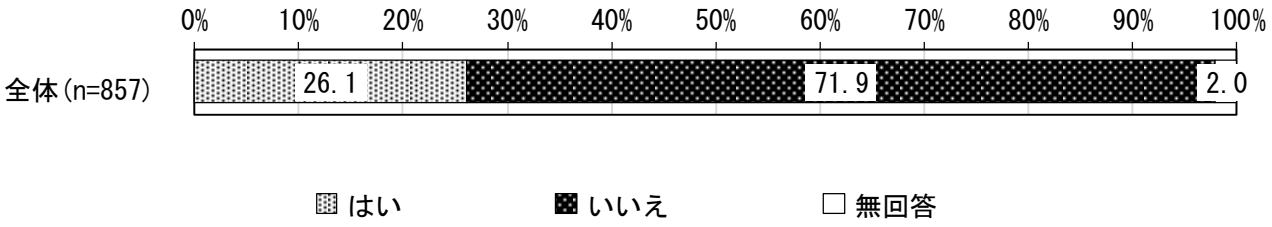


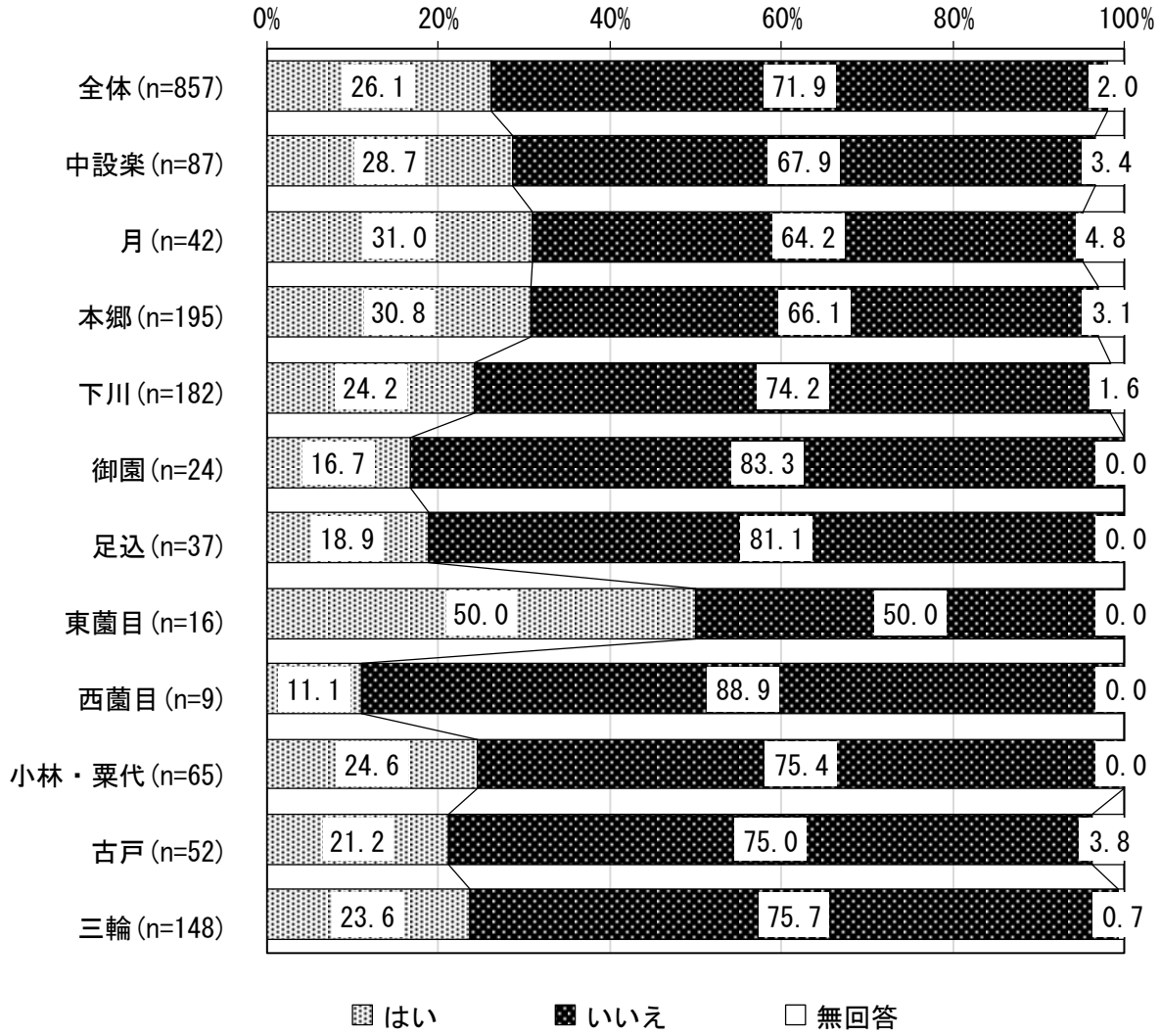
（14）お茶や汁物等でむせることがありますか。

お茶や汁物等でむせることがあるかについて聞いたところ、「いいえ」が 71.9%、「はい」が 26.1%となっています。

「はい」について地区別に見ると、東薗目地区が 50.0%で最も高く、西薗目地区が 11.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 38.9 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　お茶や汁物等でむせることがあるか



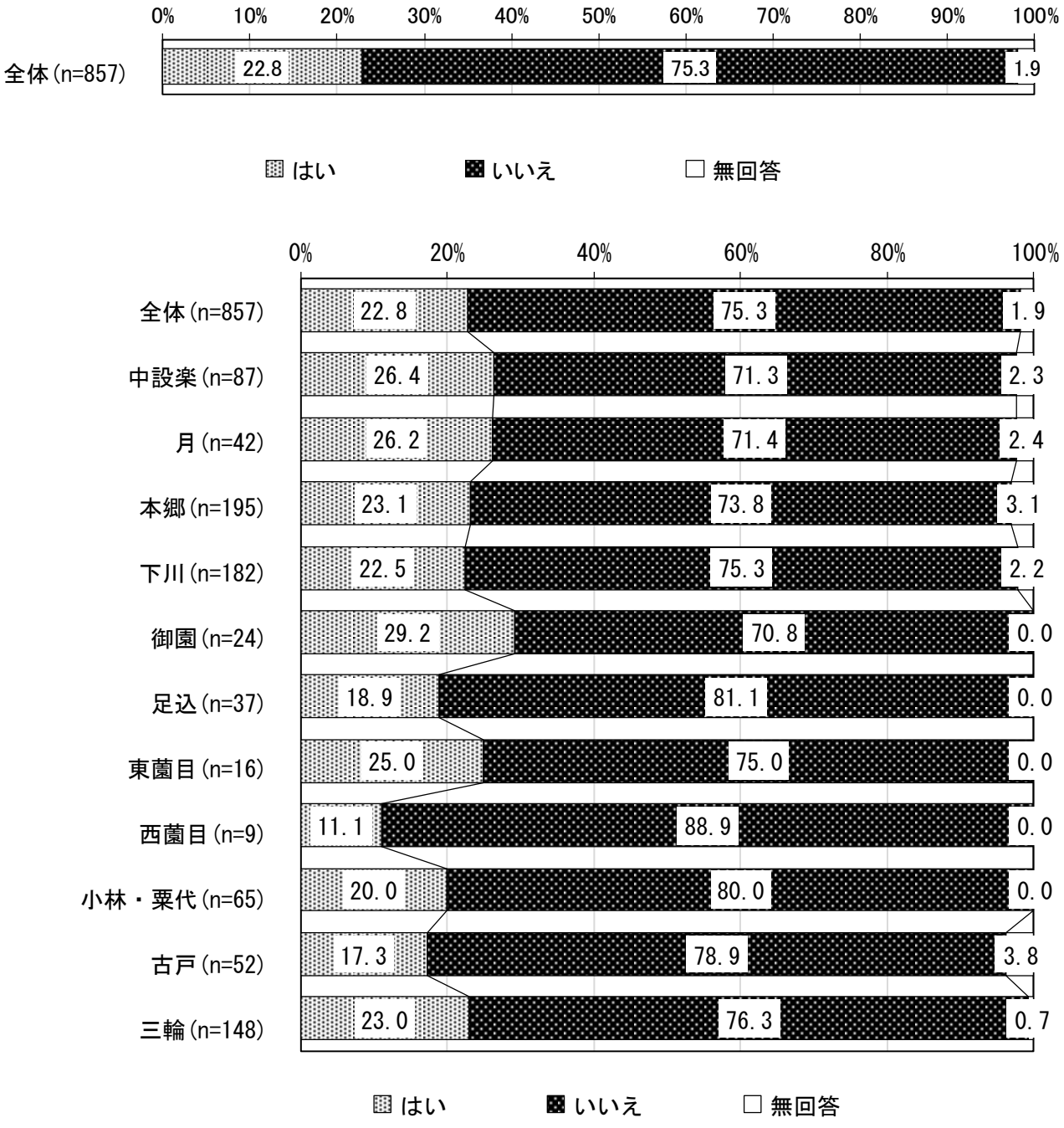


（15）口の渇きが気になりますか。

口の渇きが気になるかについて聞いたところ、「いいえ」が 75.3%、「はい」が 22.8%となっています。

「はい」について地区別に見ると、御園地区が 29.2%で最も高く、西薗目地区が 11.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 18.1 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　口の渇きが気になるか



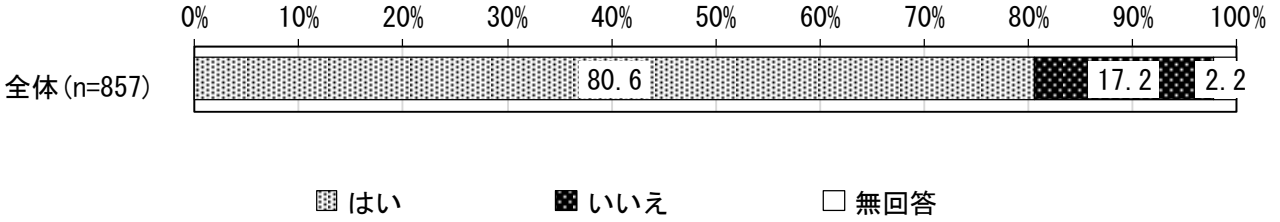
５．外出状況について

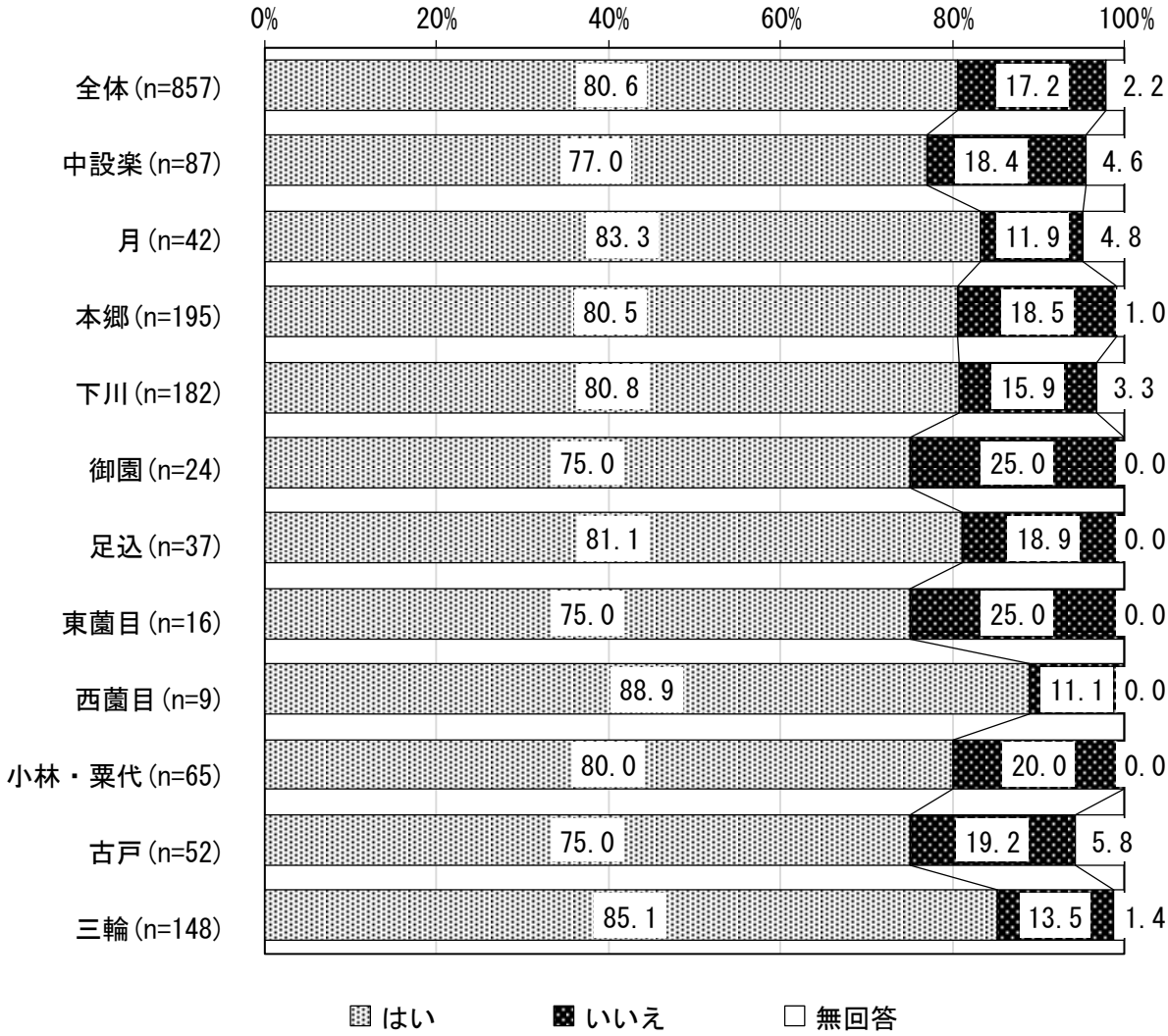
（16）週に１回以上は外出していますか。

週に１回以上は外出しているかについて聞いたところ、「はい」が 80.6%、「いいえ」が 17.2%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、御園地区と東薗目地区が 25.0%で最も高く、西薗目地区が 11.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 13.9 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　週に１回以上は外出しているか



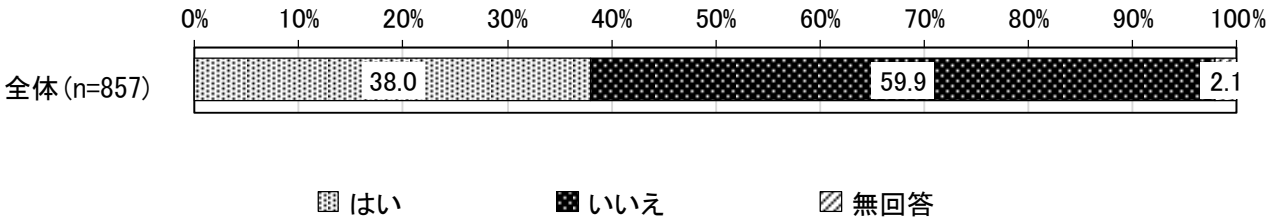


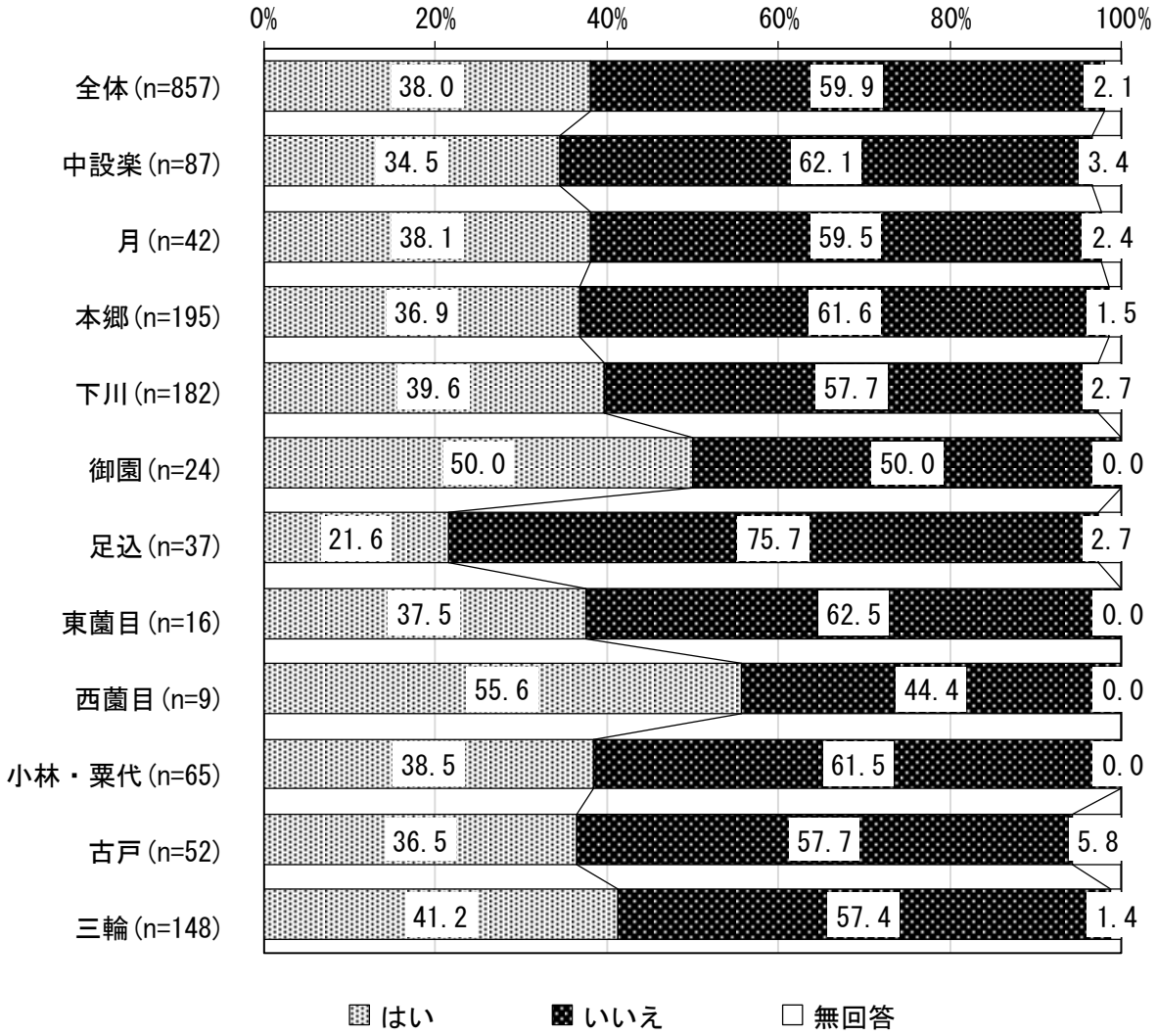
（17）昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

昨年と比べて外出の回数が減っているかについて聞いたところ、「いいえ」が 59.9%、「はい」が 38.0%となっています。

「はい」について地区別に見ると、西薗目地区が 55.6%で最も高く、足込地区が 21.6%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 34.0 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　昨年と比べて外出の回数が減っているか





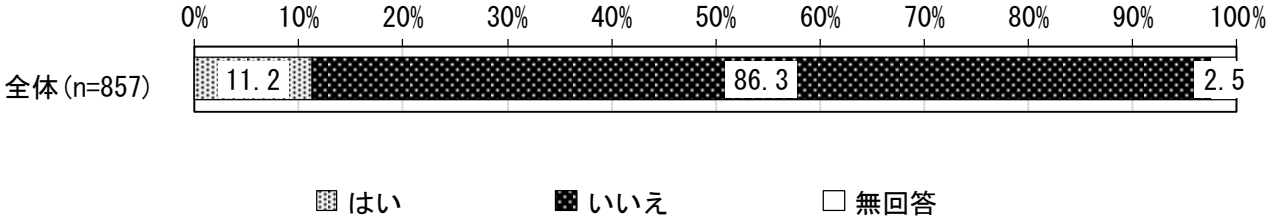
６．認知機能について

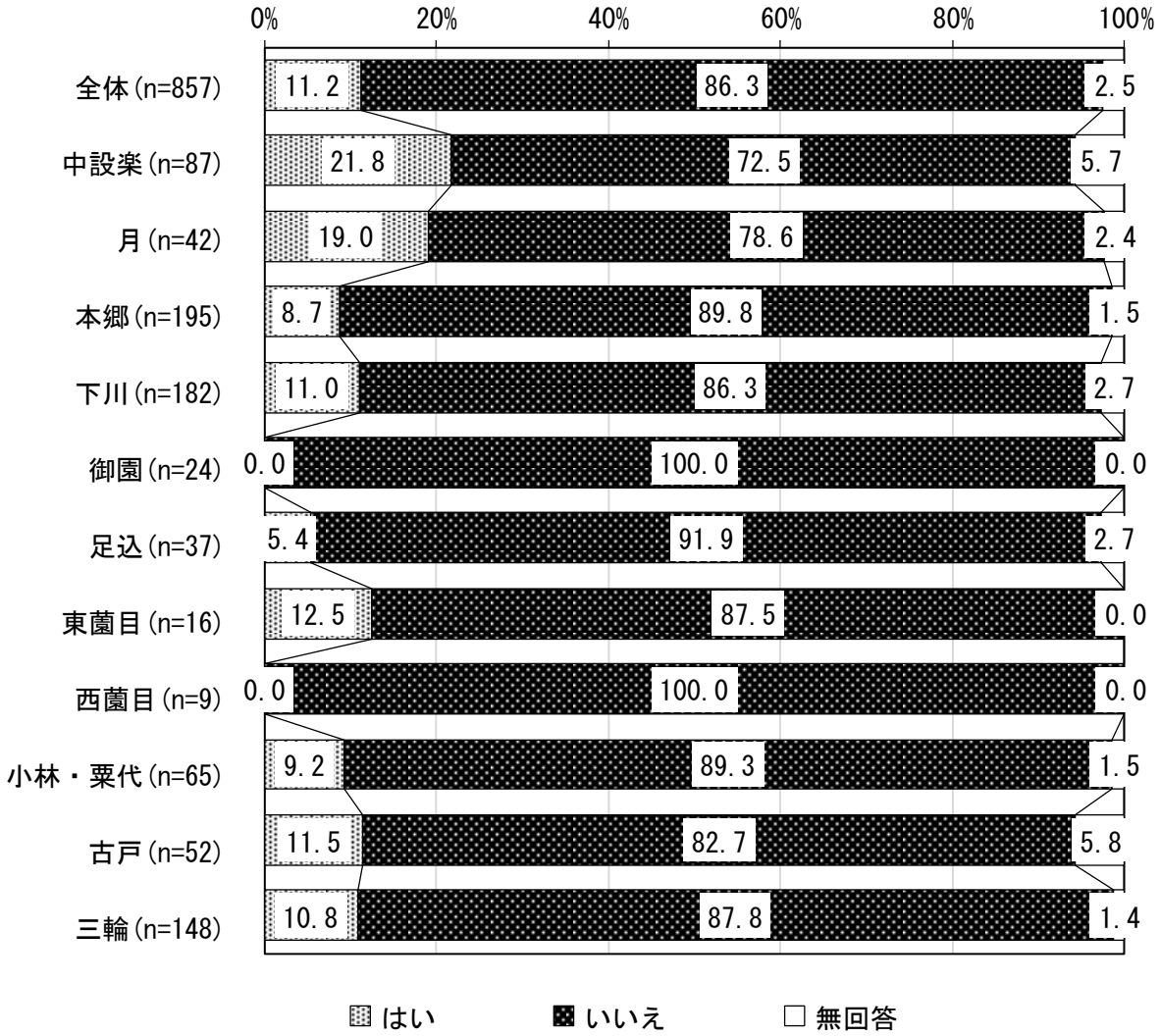
（18）周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか。

周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われるかについて聞いたところ、「いいえ」が 86.3%、「はい」が 11.2%となっています。

「はい」について地区別に見ると、中設楽地区が 21.8%で最も高く、御園地区と西薗目地区が 0.0%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 21.8 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われるか



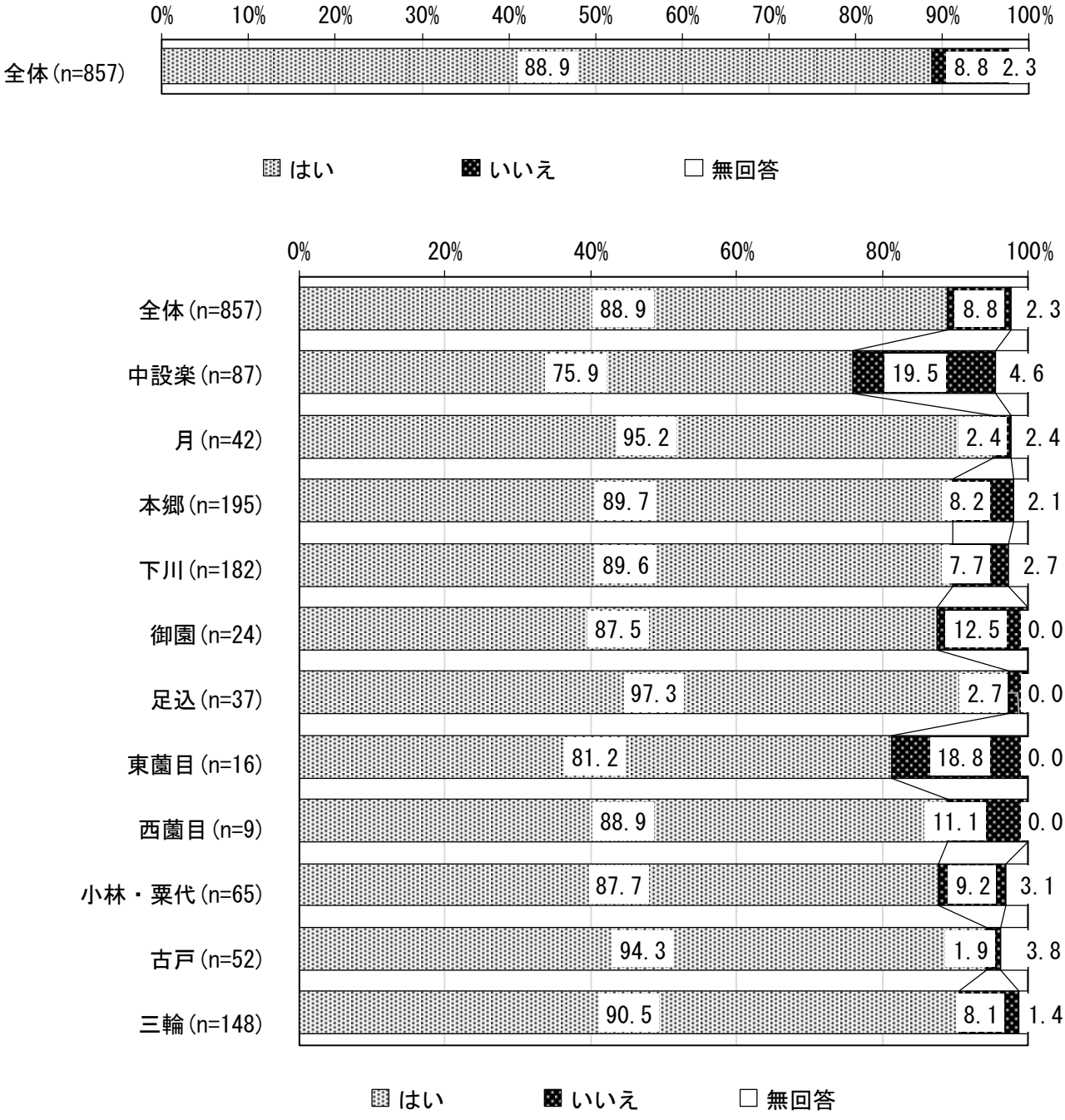


（19）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについて聞いたところ、「はい」が88.9%、「いいえ」が8.8%となっています。

「いいえ」について地区別に見ると、中設楽地区が19.5%で最も高く、古戸地区が1.9%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で17.6ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているか

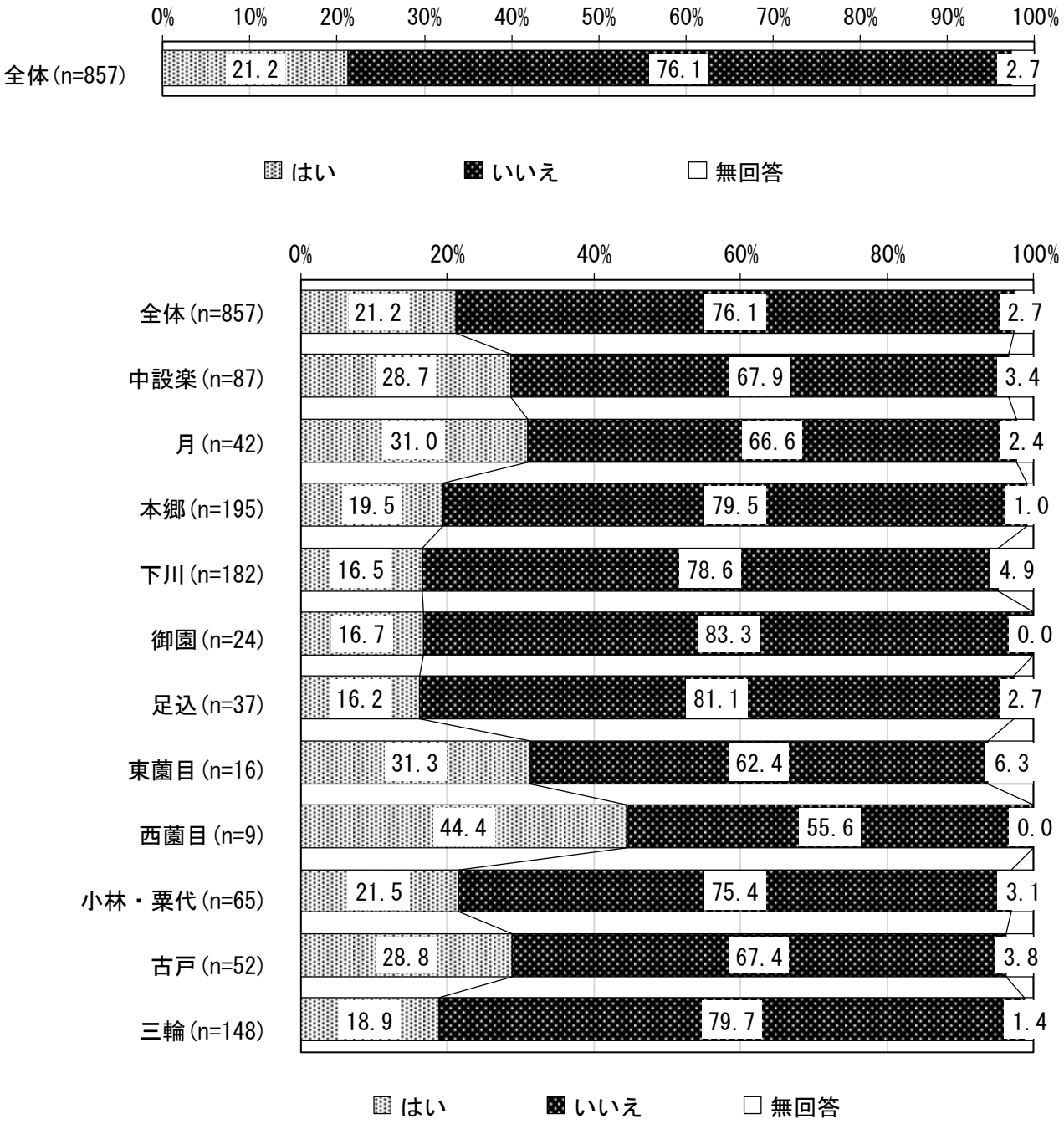


（20）今日が何月何日かわからない時がありますか。

今日が何月何日かわからない時があるかについて聞いたところ、「いいえ」が 76.1%、「はい」が 21.2%となっています。

「はい」について地区別に見ると、西薗目地区が 44.4%で最も高く、足込地区が 16.2%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 28.2 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　今日が何月何日かわからない時があるか



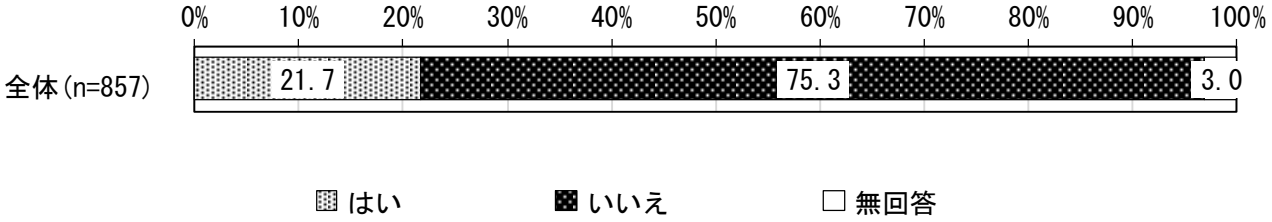
７．毎日の充実感について

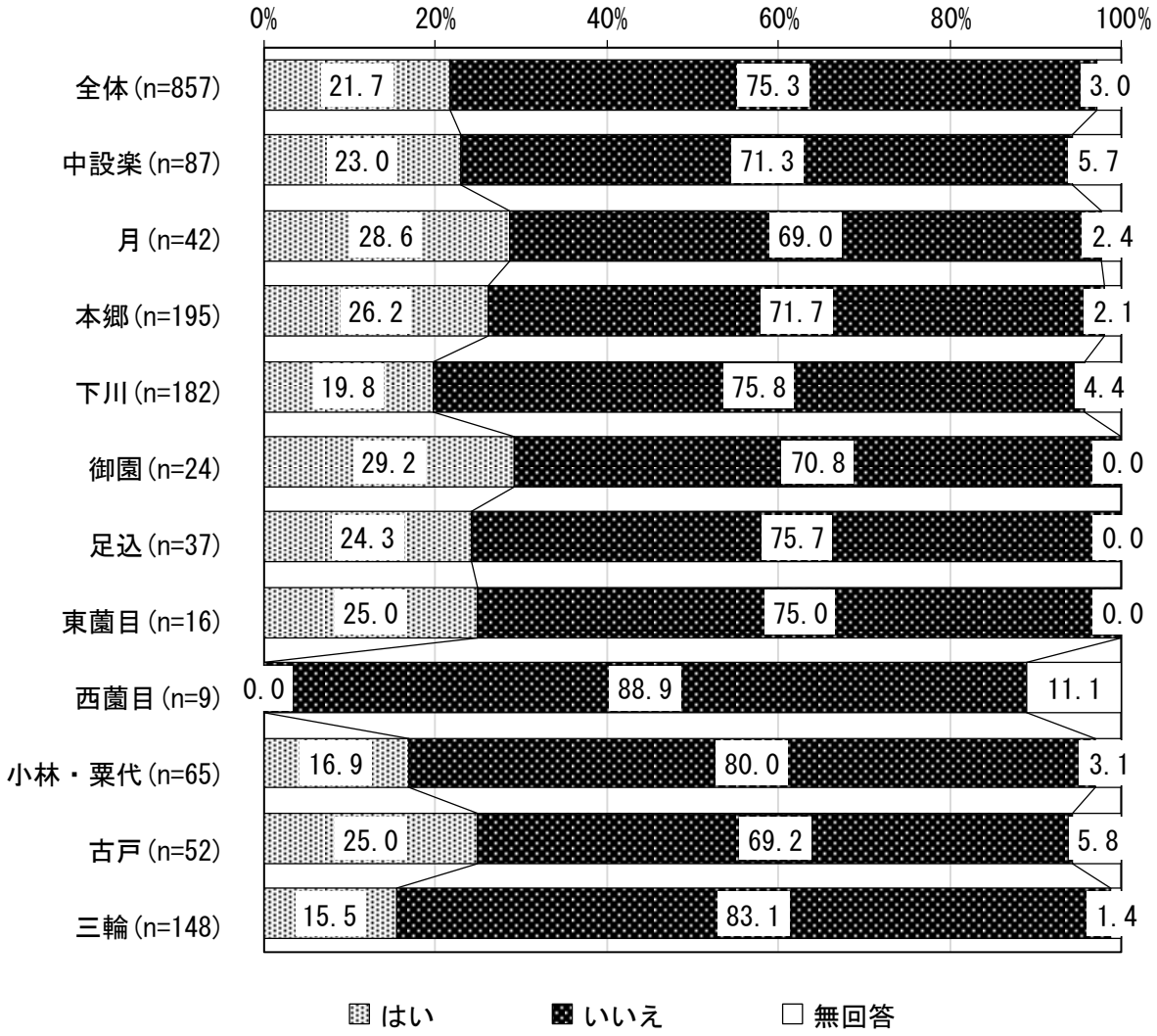
（21）毎日の生活に充実感がないと感じますか。

毎日の生活に充実感がないと感じるかについて聞いたところ、「いいえ」が 75.3%、「はい」が 21.7%となっています。

「はい」について地区別に見ると、御園地区が 29.2%で最も高く、西薗目地区が 0.0%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 29.2 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　毎日の生活に充実感がないと感じるか



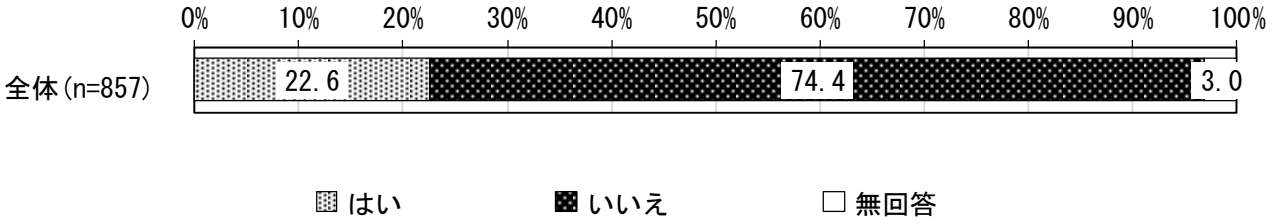


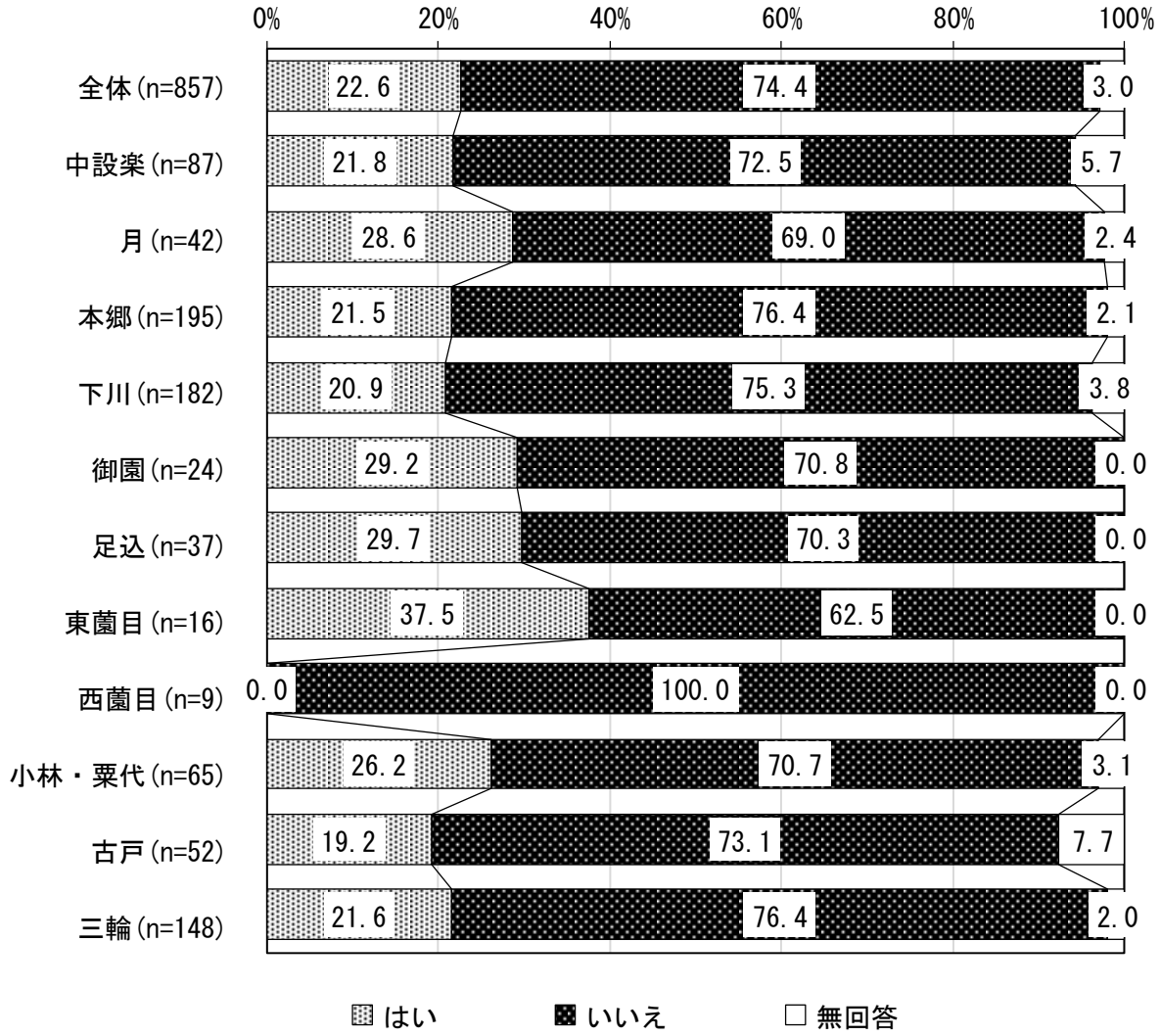
（22）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったと感じますか。

これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったと感じるかについて聞いたところ、「いいえ」が 74.4%、「はい」が 22.6%となっています。

「はい」について地区別に見ると、東薗目地区が 37.5%で最も高く、西薗目地区が 0.0%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 37.5 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったと感じるか



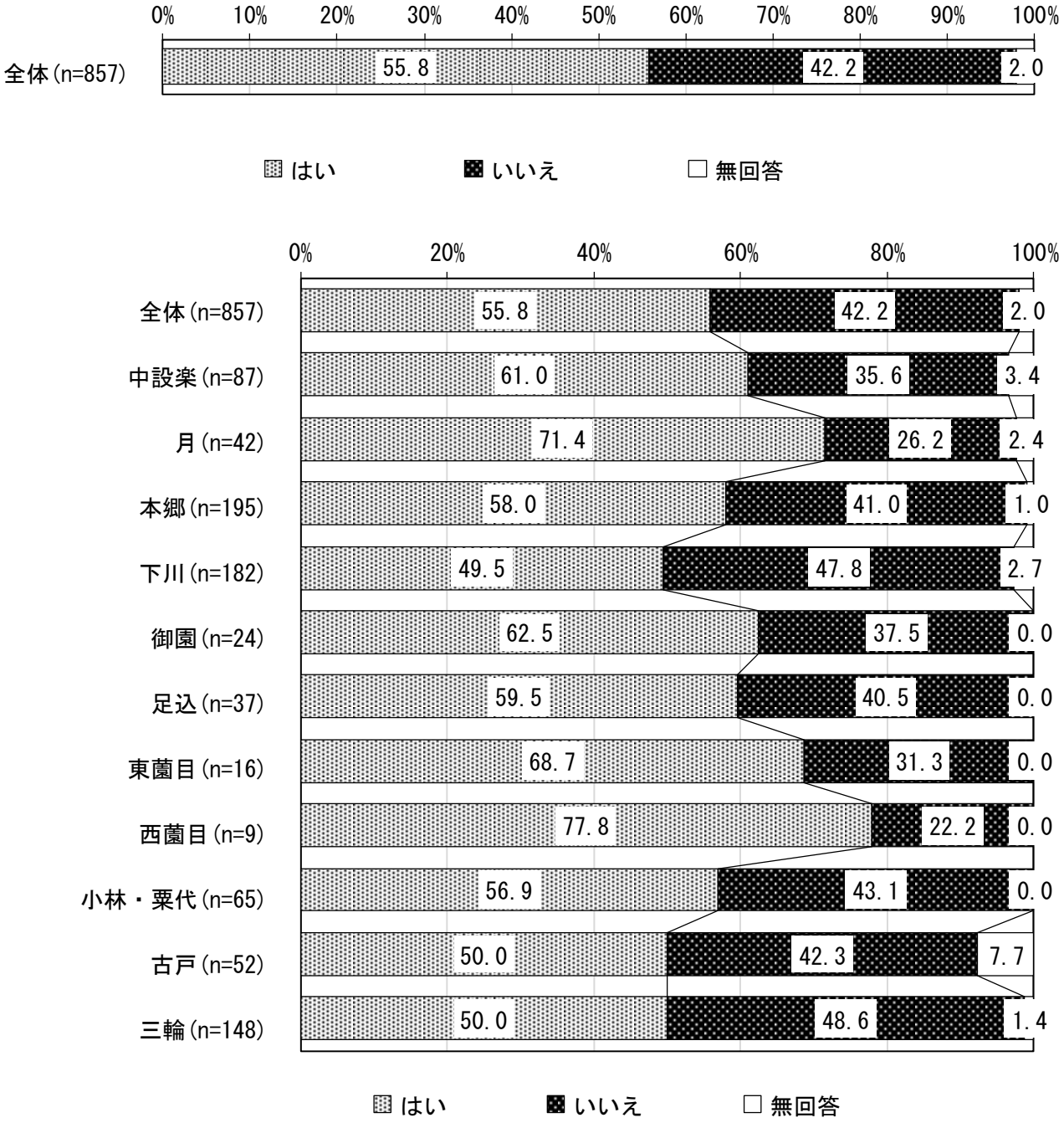


（23）以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じますか。

以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じるかについて聞いたところ、「はい」が55.8%、「いいえ」が42.2%となっています。

「はい」について地区別に見ると、西薗目地区が 77.8%で最も高く、下川地区が 49.5%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で28.3ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じるか

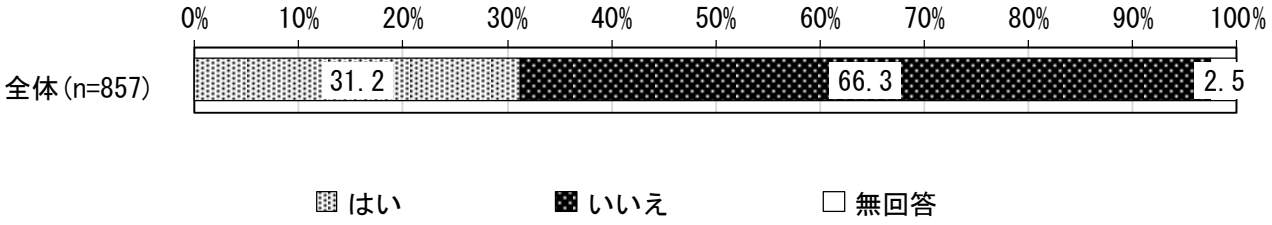


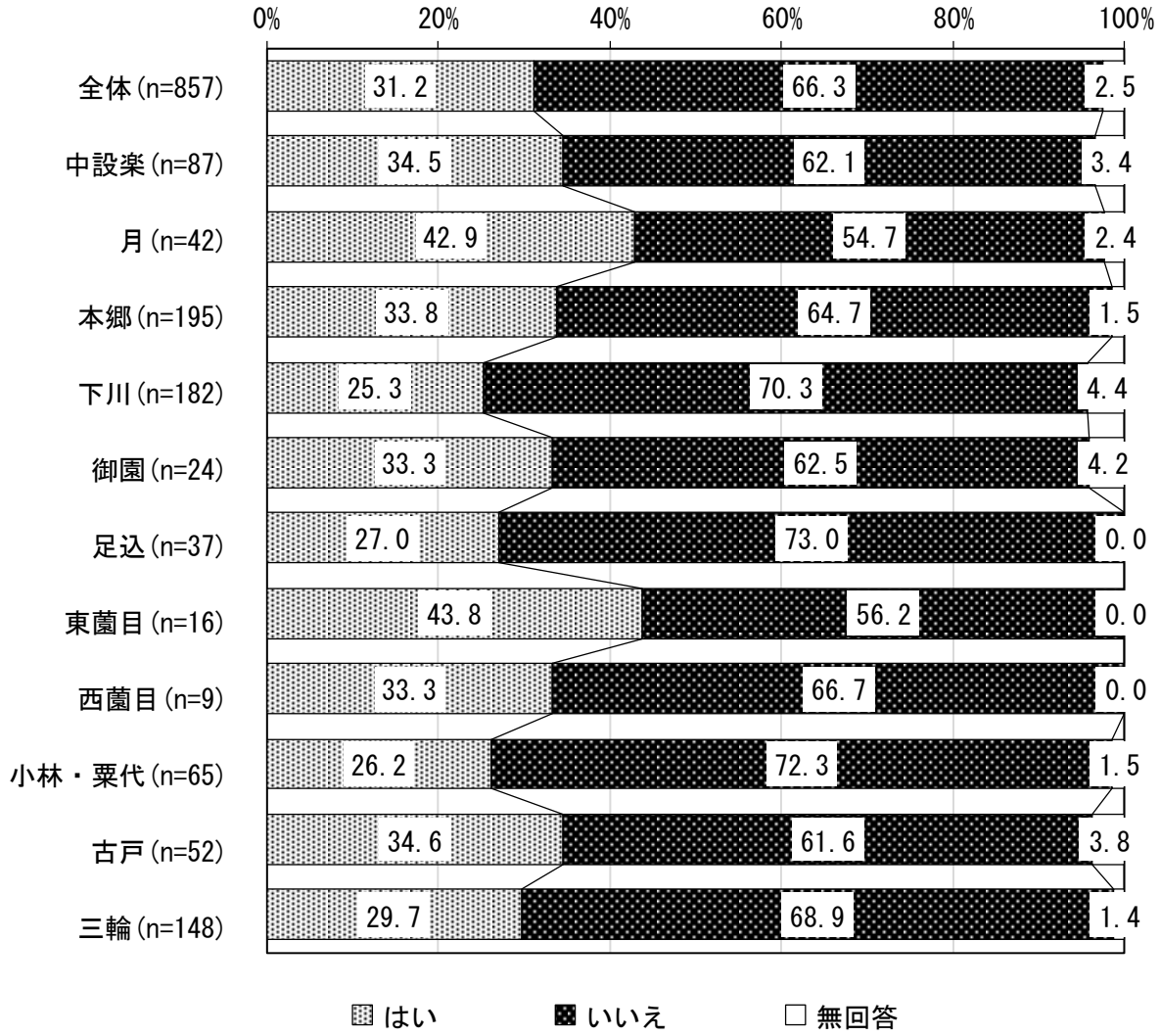
（24）自分が役に立つ人間だと思えないことがありますか。

自分が役に立つ人間だと思えないことがあるかについて聞いたところ、「いいえ」が 66.3%、「はい」が 31.2%となっています。

「はい」について地区別に見ると、東薗目地区が 43.8%で最も高く、下川地区が 25.3%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 18.5 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　自分が役に立つ人間だと思えないことがあるか



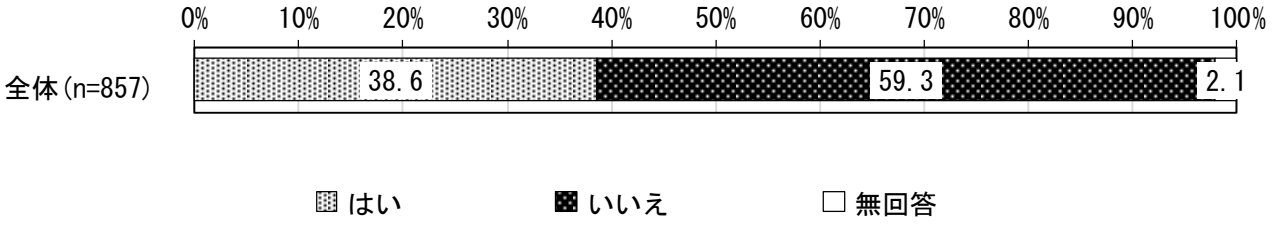


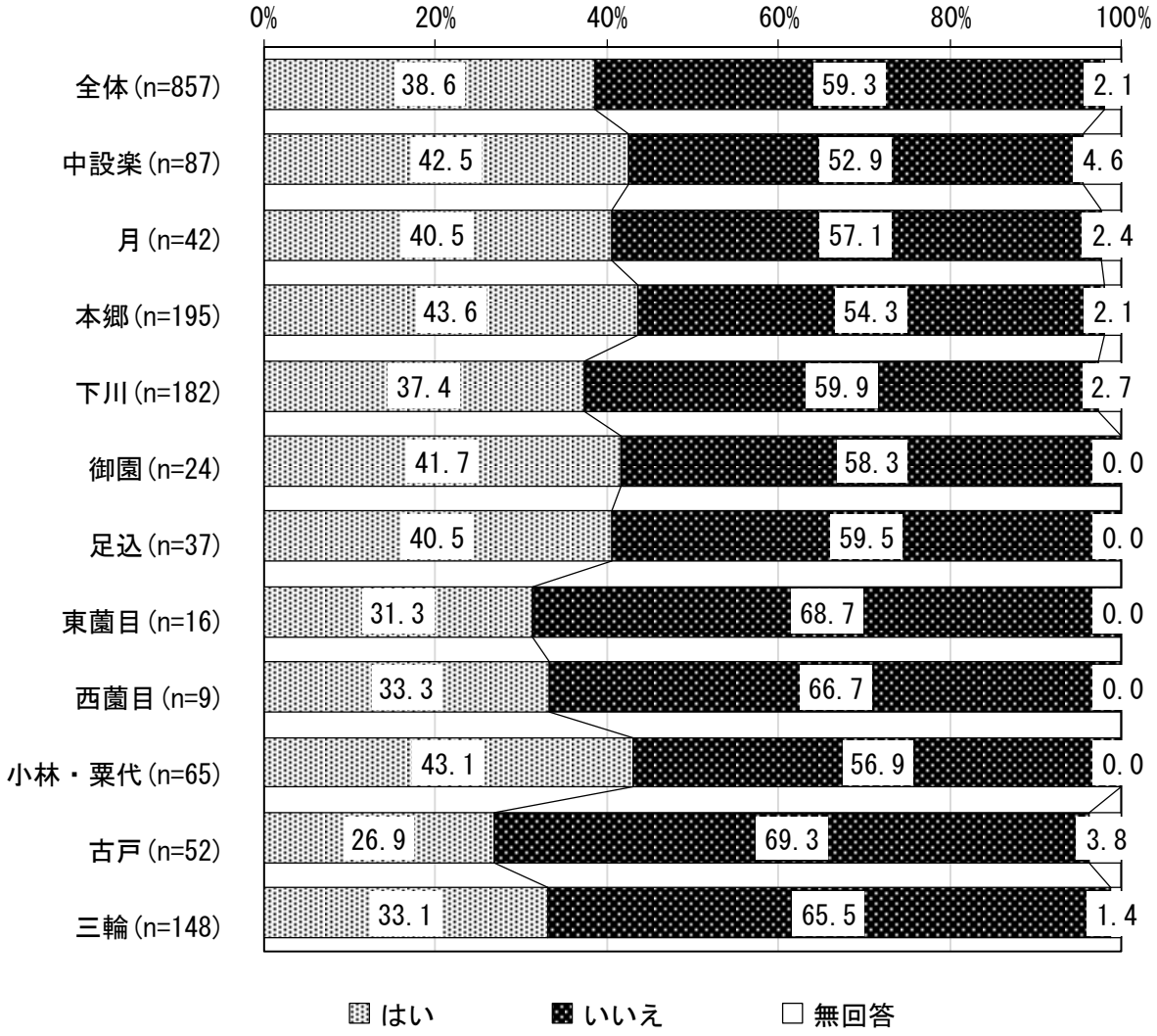
（25）わけもなく疲れたような感じがしますか。

わけもなく疲れたような感じがするかについて聞いたところ、「いいえ」が 59.3%、「はい」が 38.6%となっています。

「はい」について地区別に見ると、本郷地区が 43.6%で最も高く、古戸地区が 26.9%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 16.7 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　わけもなく疲れたような感じがするか





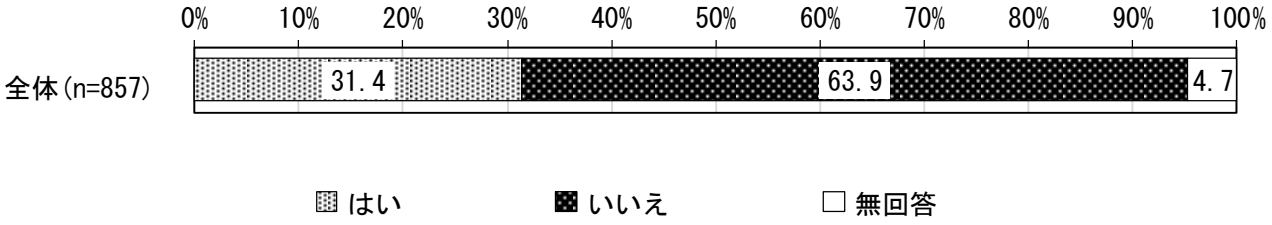
８．地域での支え合いについて

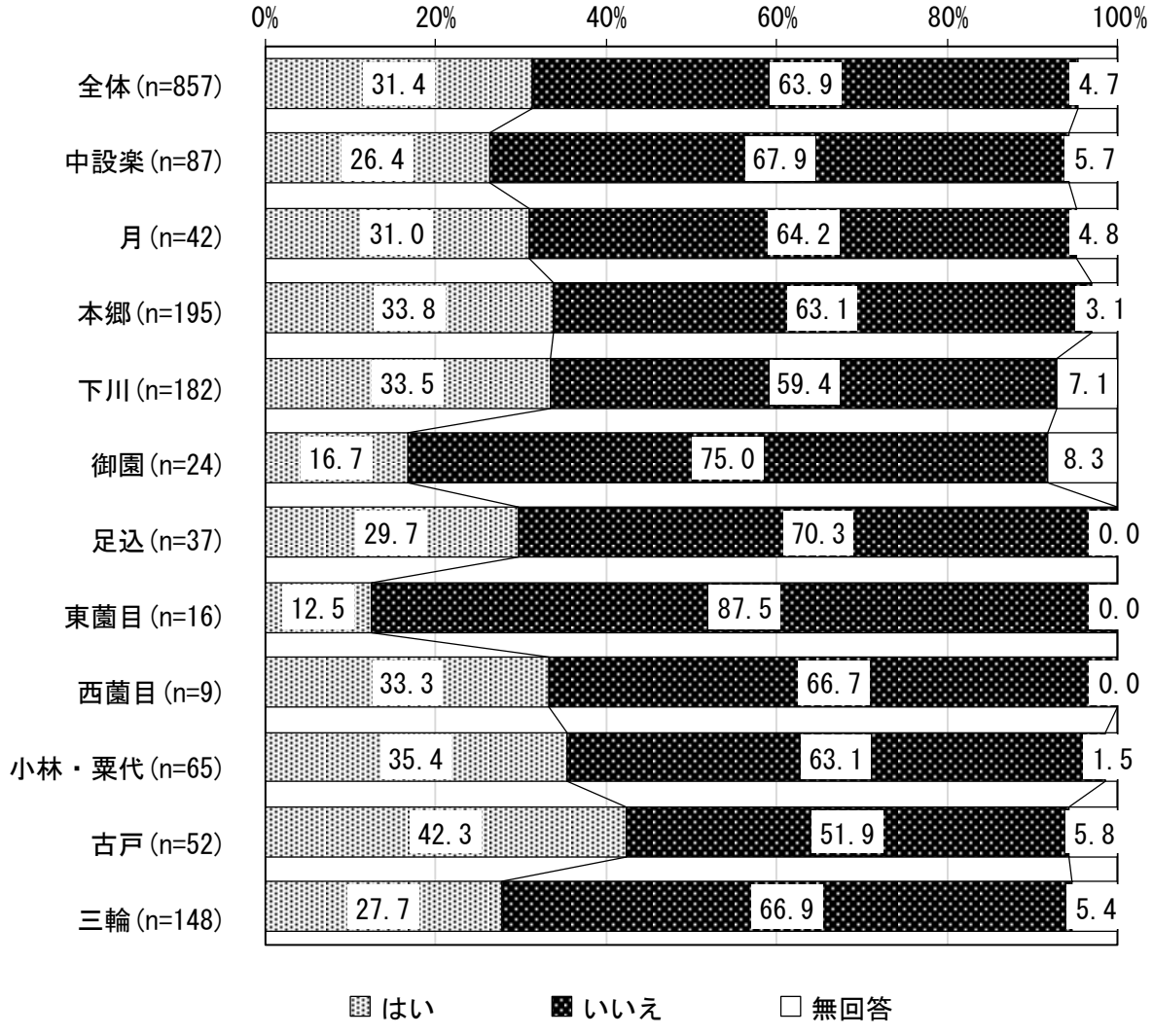
（26）日常生活で地域の人と支え合っていること（声をかけあって散歩にでかける、ゴミ出しを手伝うなど）はありますか。

日常生活で地域の人と支え合っていること（声をかけあって散歩にでかける、ゴミ出しを手伝うなど）はあるかについて聞いたところ、「いいえ」が 63.9%、「はい」が 31.4%となっています。

「はい」について地区別に見ると、古戸地区が 42.3%で最も高く、東薗目地区が 12.5%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 29.8 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　日常生活で地域の人と支え合っていることはあるか





「はい」と回答した方からは、実際に支え合っていることの具体例として以下のような回答がありました。

内容を分類すると、「ゴミ出し」が 32 件と最も多くなっています。次いで、「声かけ・見守り（安否確認、お元気うかがい含む）」が 31 件、「話し相手（近所付き合い含む）」が 31 件となっています。

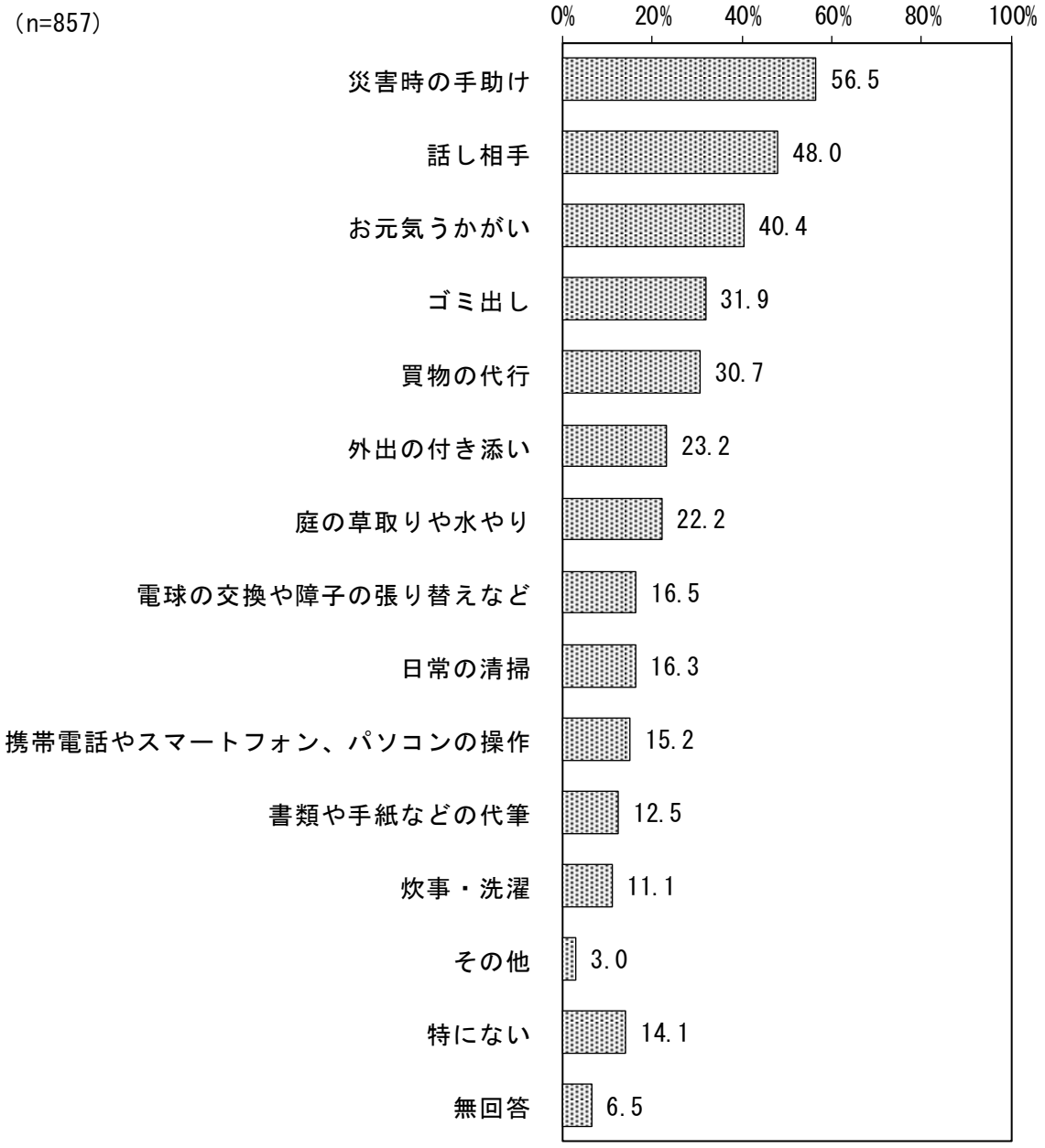
図表　日常生活で地域の人と支え合っていることの具体的な回答

NO.	内容	件数
1	ゴミ出し	32
2	声かけ・見守り（安否確認、お元気うかがい含む）	31
3	話し相手（近所付き合い含む）	31
4	一緒に体を動かす（散歩、体操など）	29
5	庭の草取り	25
6	外出の付き添い（送迎含む）	20
7	野菜やおかずなどのおすそ分け	18
8	地区・組の活動への参加する	13
9	日常の清掃	11
10	買物の代行	7
11	農作業の手伝い（野菜づくりの相談含む）	7
12	老人クラブ、おいでん家等に参加する	6
13	その他	19

（27）この地域で安心して暮らし続けるために、どのような支え合いがあると良いと思いますか。（複数回答）

この地域で安心して暮らし続けるために、どのような支え合いがあると良いと思うかについて聞いたところ、「災害時の手助け」が 56.5%と最も高くなっています。次いで、「話し相手」が 48.0%、「お元気うかがい」が 40.4%、「ゴミ出し」が 31.9%、「買物の代行」が 30.7%となっています。

図表　この地域で安心して暮らし続けるために、どのような支え合いがあると良いと思うか（複数回答）



地区別に見ると、月地区では「災害時の手助け」(69.0%)、「携帯電話やスマートフォン、パソコンの操作」(28.6%) が全体より高くなっています。下川地区では「ゴミ出し」(42.3%) が全体より高くなっています。御園地区では「話し相手」(62.5%) が全体より高くなっています。西薗目地区では「買物の代行」(44.4%)、「日常の清掃」(33.3%)、「炊事・洗濯」(22.2%) が全体より高くなっています。小林・粟代地区では「話し相手」(60.0%)、「買物の代行」(41.5%)、「外出の付き添い」(35.4%)、「炊事・洗濯」(21.5%) が全体より高くなっています。古戸地区では「話し相手」(59.6%) が全体より高くなっています。

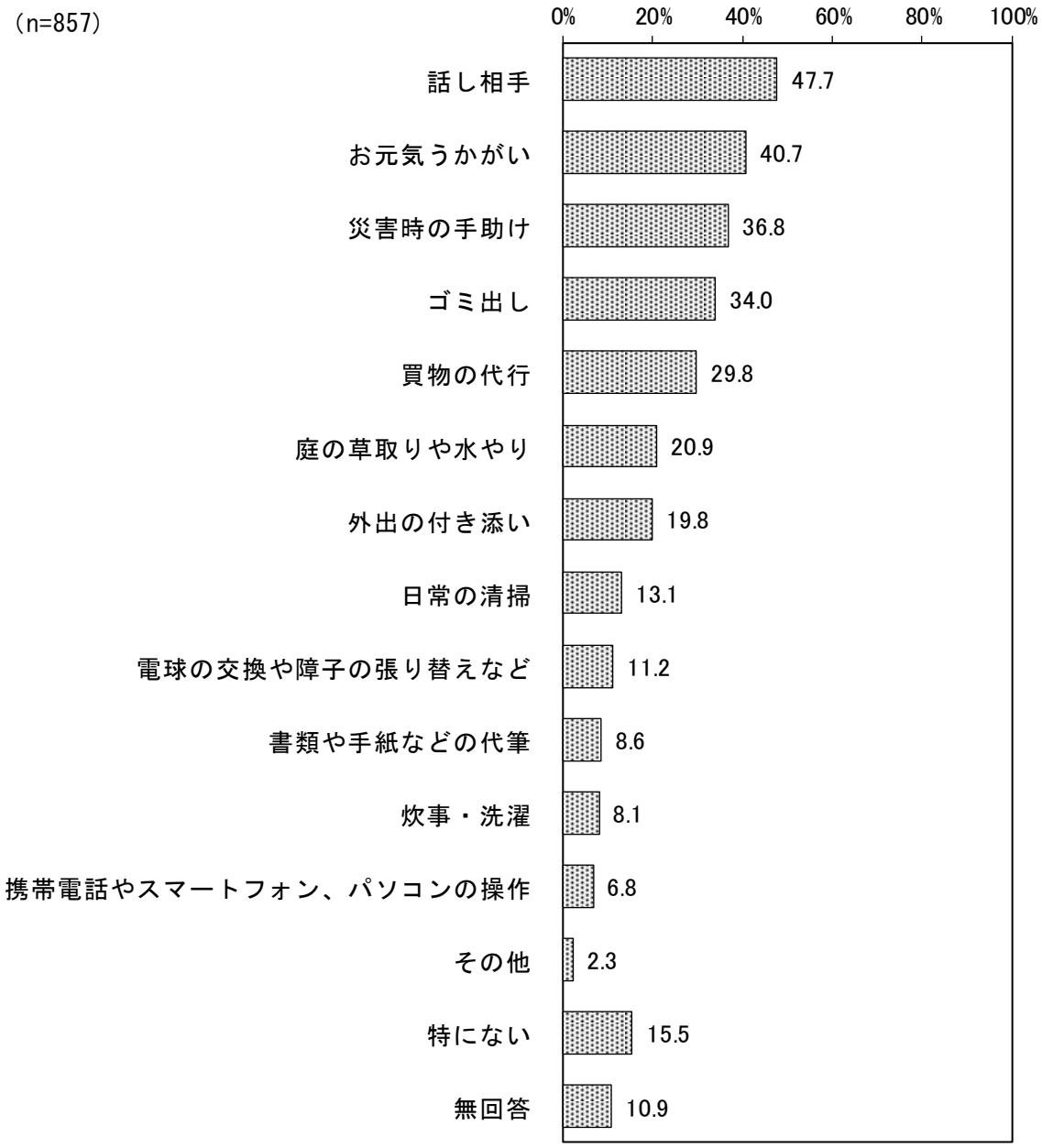
	n	災害時の手助け	話し相手	お元気うかがい	ゴミ出し	買物の代行	外出の付き添い	庭の草取りや水やり	電球の交換や障子の張り替えなど	日常の清掃	携帯電話やスマートフォン、パソコンの操作
全体	857	56.5	48.0	40.4	31.9	30.7	23.2	22.2	16.5	16.3	15.2
中設楽	87	49.4	42.5	35.6	33.3	27.6	27.6	21.8	21.8	21.8	21.8
月	42	69.0	57.1	50.0	23.8	31.0	16.7	21.4	11.9	14.3	28.6
本郷	195	56.9	45.1	37.9	30.3	31.3	23.6	21.0	17.4	12.8	13.8
下川	182	56.0	45.1	40.7	42.3	30.8	20.3	27.5	16.5	16.5	8.8
御園	24	58.3	62.5	45.8	25.0	20.8	16.7	0.0	12.5	8.3	8.3
足込	37	45.9	43.2	29.7	24.3	18.9	8.1	13.5	13.5	8.1	16.2
東薗目	16	50.0	31.3	25.0	31.3	25.0	31.3	25.0	12.5	18.8	0.0
西薗目	9	44.4	22.2	44.4	22.2	44.4	11.1	0.0	11.1	33.3	11.1
小林･粟代	65	52.3	60.0	47.7	29.2	41.5	35.4	23.1	16.9	23.1	23.1
古戸	52	59.6	59.6	42.3	36.5	36.5	26.9	21.2	19.2	19.2	13.5
三輪	148	61.5	48.6	42.6	25.7	29.1	23.6	24.3	14.2	16.2	16.9

	n	書類や手紙などの代筆	炊事・洗濯	その他	特にない	無回答
全体	857	12.5	11.1	3.0	14.1	6.5
中設楽	87	16.1	10.3	4.6	18.4	9.2
月	42	19.0	11.9	2.4	9.5	4.8
本郷	195	12.8	9.2	3.1	11.3	6.7
下川	182	8.2	8.2	2.2	12.6	7.1
御園	24	8.3	4.2	0.0	20.8	4.2
足込	37	5.4	5.4	2.7	27.0	8.1
東薗目	16	6.3	12.5	12.5	12.5	12.5
西薗目	9	11.1	22.2	0.0	44.4	0.0
小林･粟代	65	16.9	21.5	3.1	15.4	1.5
古戸	52	15.4	19.2	5.8	13.5	5.8
三輪	148	13.5	11.5	2.0	12.2	6.8

（28）地域の人と支え合うために、あなたが支援できることはありますか。（複数回答）

地域の人と支え合うために、あなたが支援できることはあるかについて聞いたところ、「話し相手」が 47.7%と最も高くなっています。次いで、「お元気うかがい」が 40.7%、「災害時の手助け」が 36.8%、「ゴミ出し」が 34.0%の順となっています。

図表　地域の人と支え合うために、あなたが支援できることはあるか（複数回答）



地区別に見ると、月地区では「お元気うかがい」(59.5%) が全体より高く、「災害時の手助け」(59.5%) が全体よりとても高くなっています。下川地区では「ゴミ出し」(44.0%) が全体より高くなっています。東薗目地区では「外出の付き添い」(31.3%) が全体より高くなっています。小林・粟代地区では「話し相手」(60.0%)、「お元気うかがい」(50.8%)、「買物の代行」(40.0%)、「外出の付き添い」(33.8%) が全体より高くなっています。

	n	話し相手	お元気うかがい	災害時の手助け	ゴミ出し	買物の代行	庭の草取りや水やり	外出の付き添い	日常の清掃	電球の交換や障子の張り替えなど	書類や手紙などの代筆
全体	857	47.7	40.7	36.8	34.0	29.8	20.9	19.8	13.1	11.2	8.6
中設楽	87	41.4	36.8	34.5	34.5	31.0	27.6	25.3	17.2	12.6	3.4
月	42	47.6	59.5	59.5	31.0	31.0	21.4	21.4	11.9	11.9	9.5
本郷	195	43.6	34.4	31.3	26.2	27.2	15.9	17.4	7.7	9.2	9.7
下川	182	50.5	40.7	34.6	44.0	33.5	28.6	18.1	15.4	8.8	8.2
御園	24	54.2	50.0	37.5	37.5	33.3	20.8	25.0	20.8	12.5	8.3
足込	37	43.2	24.3	27.0	24.3	13.5	8.1	10.8	8.1	8.1	0.0
東薗目	16	43.8	31.3	31.3	25.0	12.5	12.5	31.3	18.8	12.5	0.0
西薗目	9	11.1	33.3	22.2	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1
小林・粟代	65	60.0	50.8	32.3	33.8	40.0	20.0	33.8	18.5	13.8	12.3
古戸	52	55.8	42.3	42.3	40.4	28.8	19.2	13.5	15.4	21.2	11.5
三輪	148	48.0	45.3	45.3	33.8	29.7	20.3	18.2	12.2	12.2	10.8

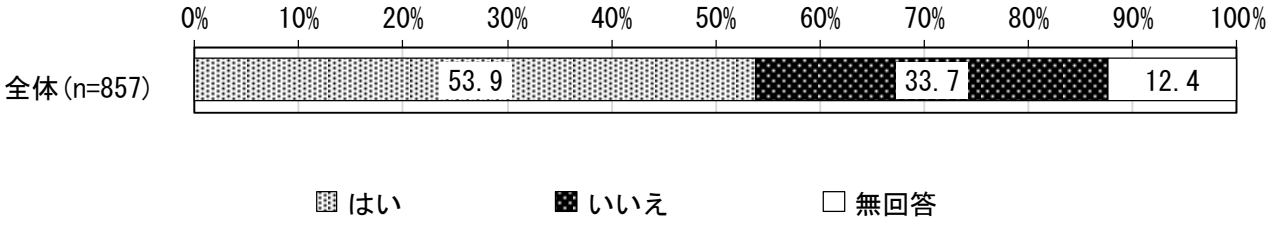
	n	炊事・洗濯	携帯電話やスマートフォン、パソコンの操作	その他	特にない	無回答
全体	857	8.1	6.8	2.3	15.5	10.9
中設楽	87	13.8	9.2	2.3	21.8	16.1
月	42	9.5	4.8	4.8	2.4	7.1
本郷	195	5.1	6.2	3.6	13.8	11.8
下川	182	7.7	6.0	0.5	13.2	8.2
御園	24	16.7	4.2	0.0	25.0	8.3
足込	37	5.4	0.0	2.7	27.0	13.5
東薗目	16	6.3	0.0	6.3	25.0	6.3
西薗目	9	0.0	11.1	0.0	44.4	11.1
小林・粟代	65	12.3	10.8	0.0	13.8	9.2
古戸	52	7.7	3.8	3.8	9.6	13.5
三輪	148	6.8	9.5	2.7	16.2	10.8

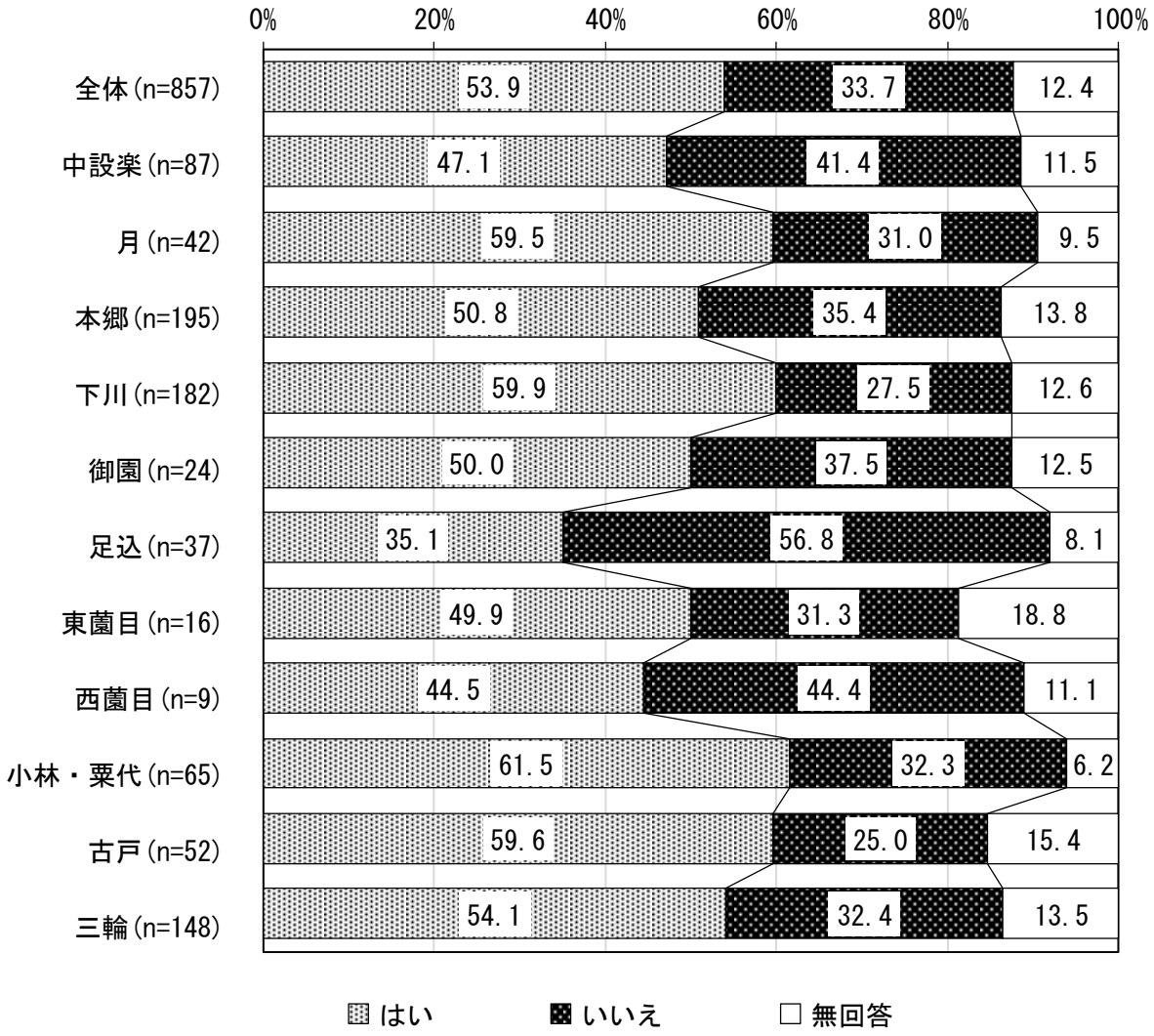
（29）地域の人と支え合う仕組みの「支える側」になりたいと思いますか。

地域の人と支え合う仕組みの「支える側」になりたいと思うかについて聞いたところ、「はい」が 53.9%、「いいえ」が 33.7%となっています。

「はい」について地区別に見ると、小林・粟代地区が 61.5%で最も高く、足込地区が 35.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 26.4 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　地域の人と支え合う仕組みの「支える側」になりたいと思うか



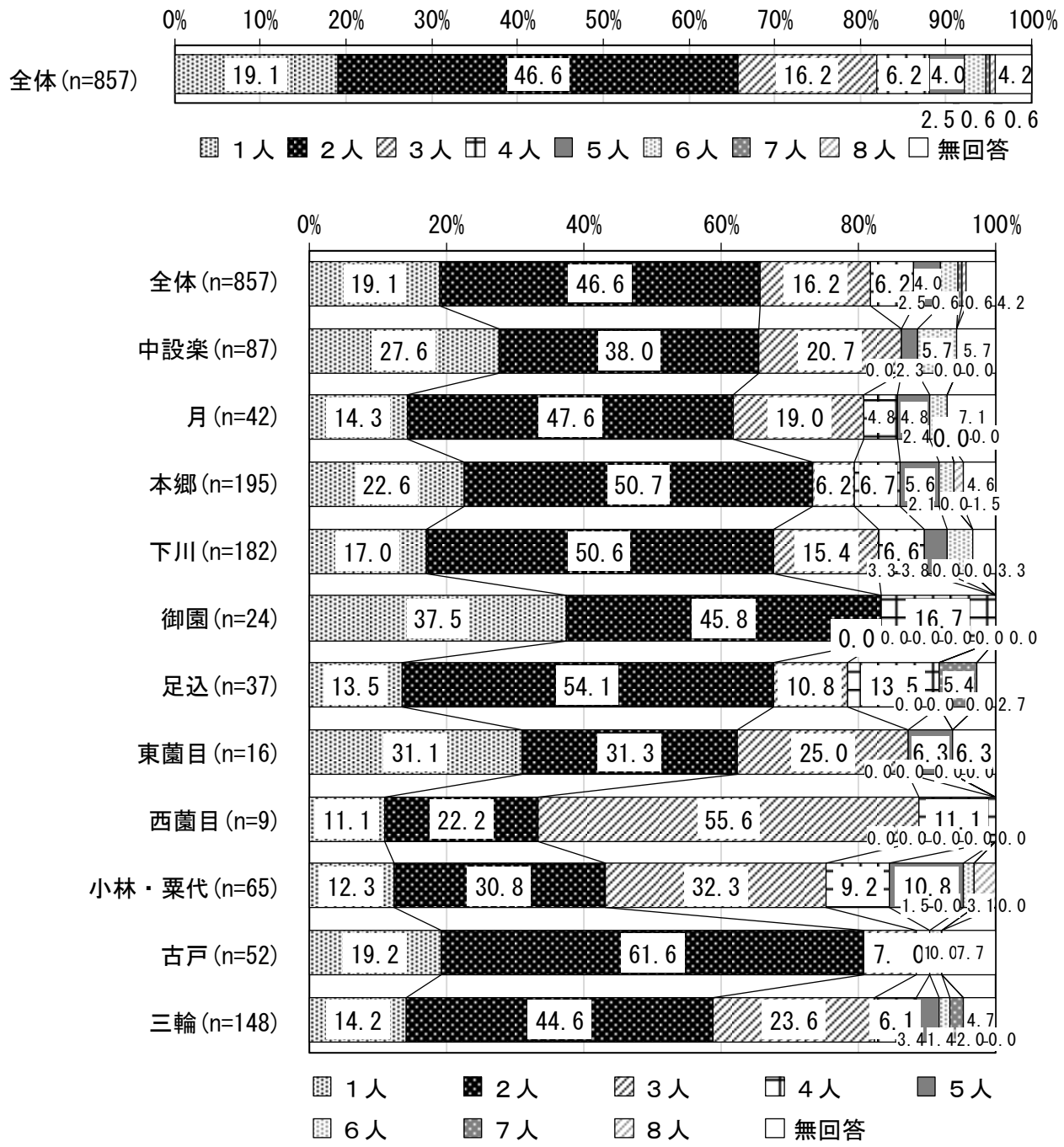


９．生活の様子について

（30）ご自身を含めて何人で暮らしていますか。また同居されている方はどなたですか。

ご自身を含めて何人で暮らしているかを聞いたところ、「２人」が 46.4%と最も高くなっています。次いで、「１人」が 19.1%、「３人」が 16.2%の順となっています。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

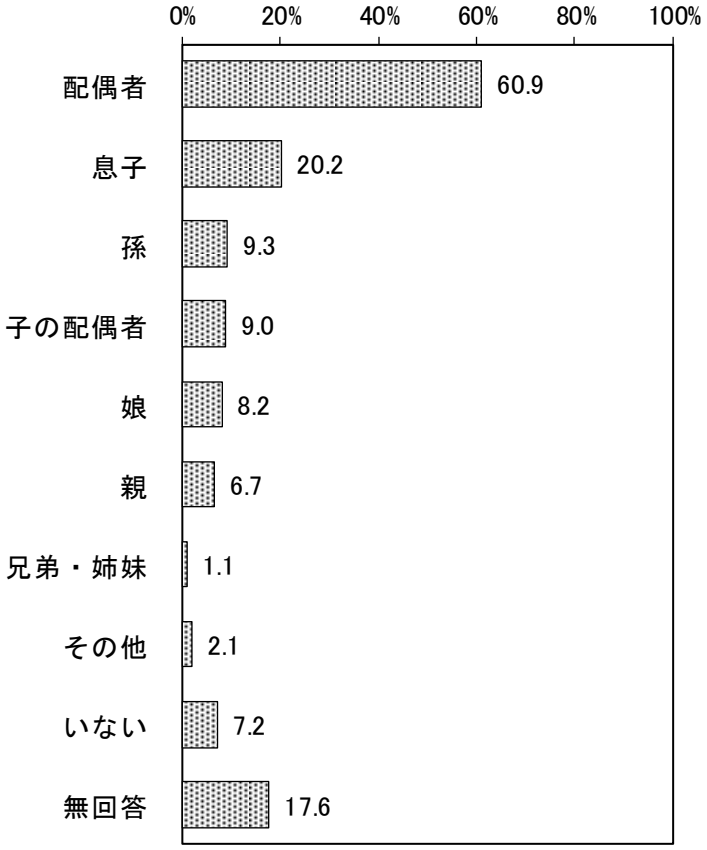
図表　ご自身を含めて何人で暮らしているか



同居している方について聞いたところ、「配偶者」が 60.9%と最も高くなっています。次いで、「息子」が 20.2%、「孫」が 9.3%、「子の配偶者」が 9.0%の順となっています。

図表　同居している方（複数回答）

（n=857）

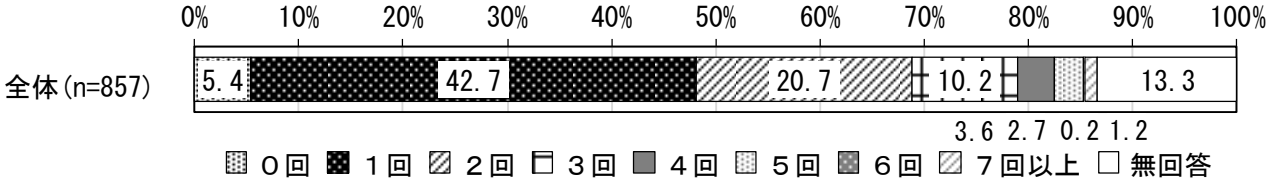


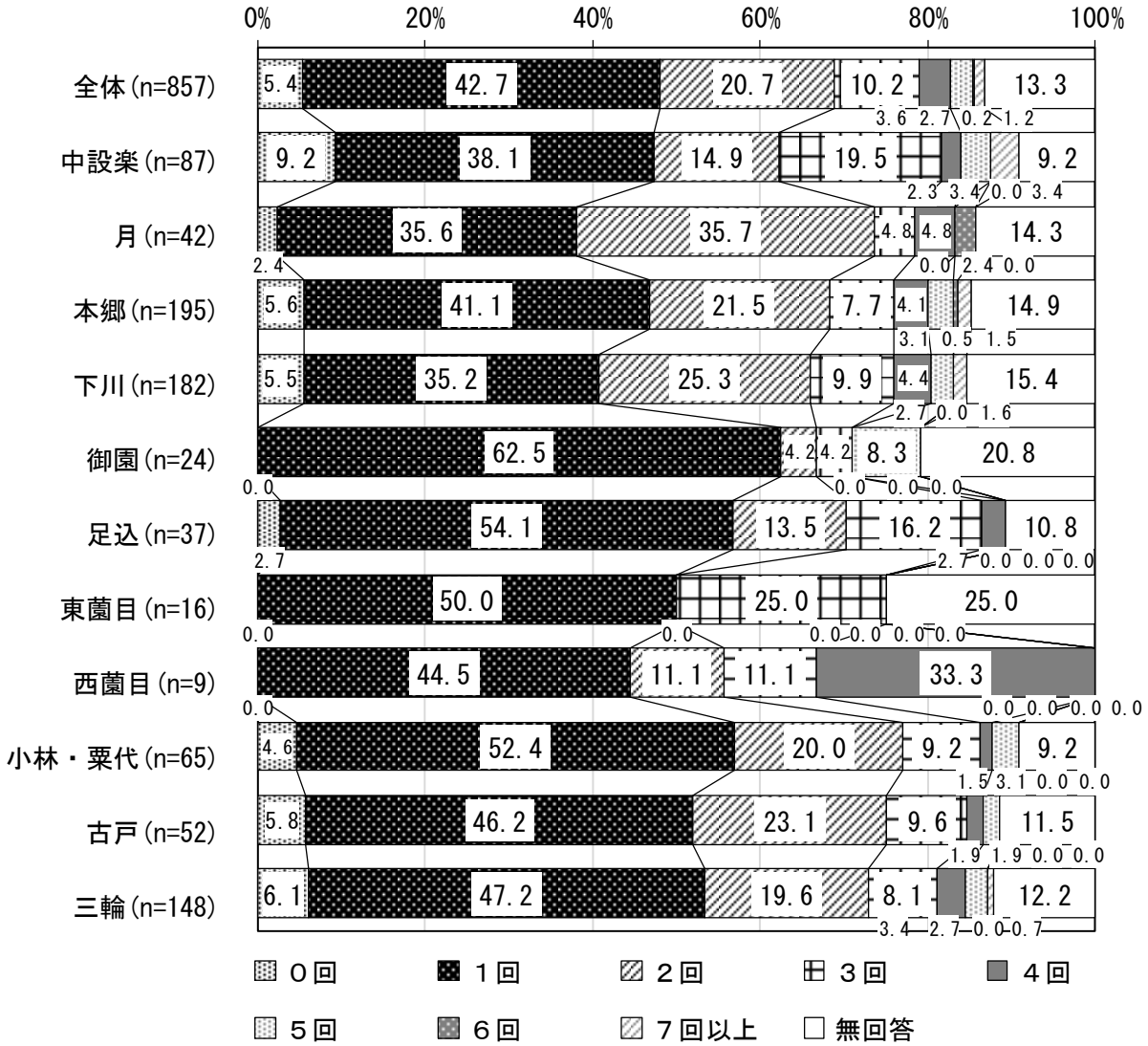
	n	配偶者	息子	孫	子の配偶者	娘	親	兄弟・姉妹	その他	いない	無回答
全体	857	60.9	20.2	9.3	9.0	8.2	6.7	1.1	2.1	7.2	17.6
中設楽	87	50.6	21.8	8.0	5.7	3.4	8.0	2.3	2.3	9.2	23.0
月	42	66.7	21.4	16.7	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	9.5	11.9
本郷	195	59.0	16.4	11.3	9.2	9.2	3.6	1.0	2.1	7.7	19.0
下川	182	65.4	20.3	6.6	8.8	8.8	6.6	0.0	1.6	5.5	17.0
御園	24	58.3	8.3	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	25.0
足込	37	62.2	27.0	5.4	13.5	5.4	0.0	0.0	8.1	2.7	18.9
東薗目	16	43.8	6.3	12.5	12.5	6.3	18.8	0.0	0.0	18.8	18.8
西薗目	9	55.6	33.3	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	22.2
小林･粟代	65	64.6	33.8	18.5	15.4	15.4	16.9	3.1	3.1	6.2	7.7
古戸	52	50.0	15.4	5.8	5.8	1.9	1.9	5.8	0.0	7.7	23.1
三輪	148	66.9	20.3	8.8	6.8	8.8	7.4	0.0	2.0	6.1	15.5

（31）外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__①買物

買物を目的とした１週間の外出の回数を聞いたところ、「１回」が 42.7%と最も高くなっています。次いで、「２回」が 20.7%、「３回」が 10.2%の順となっています。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　買物を目的とした１週間の外出の回数

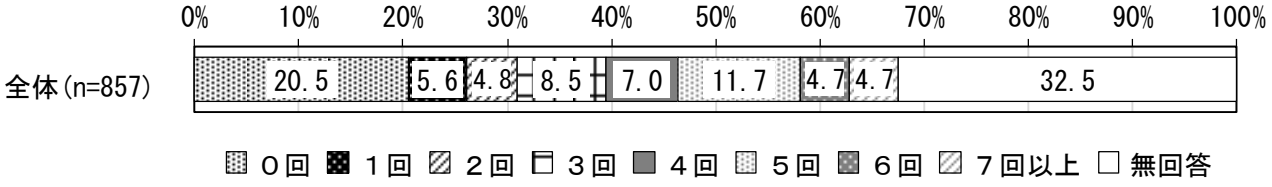


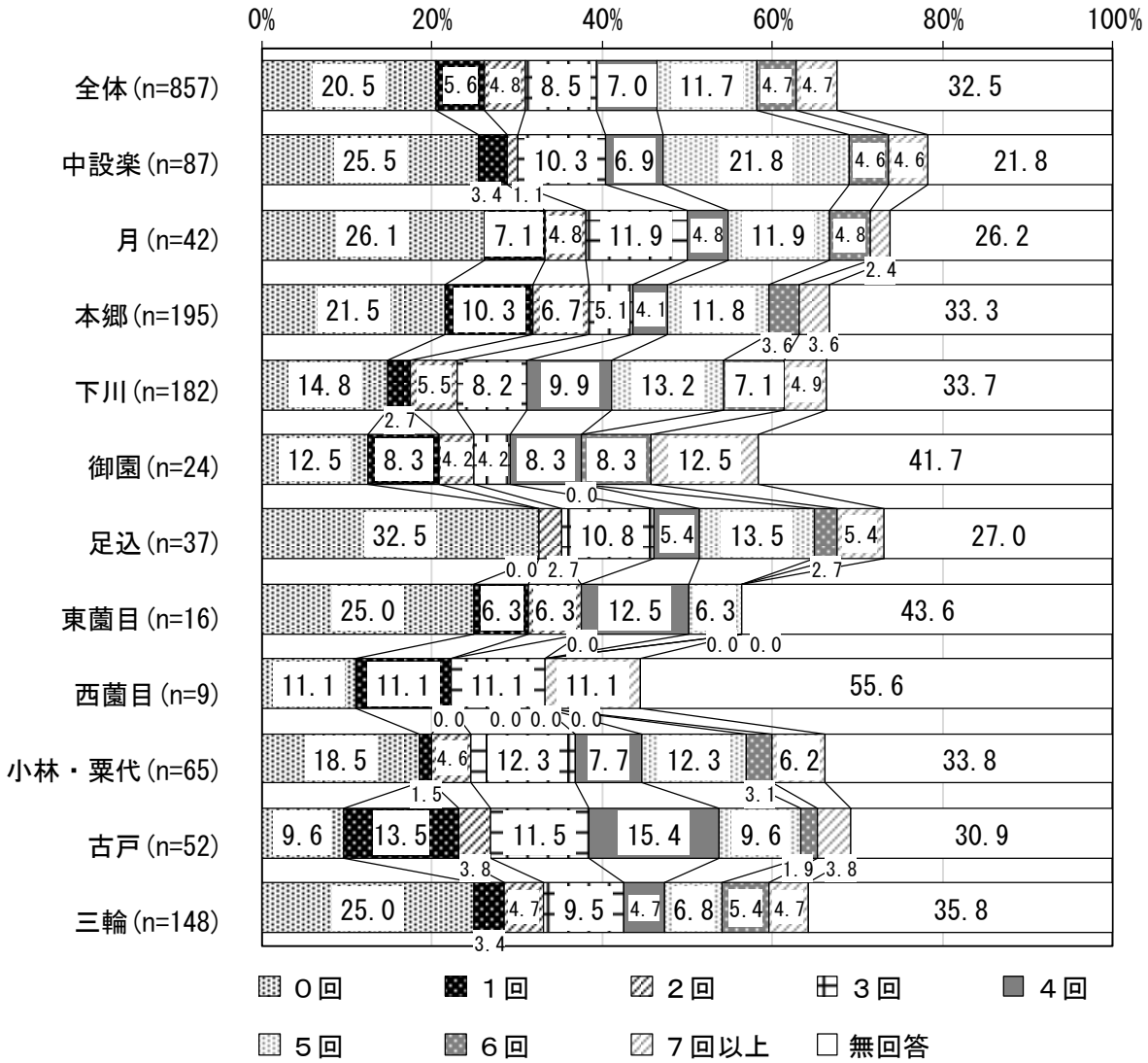


（31）外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__②仕事

仕事を目的とした１週間の外出の回数を聞いたところ、「０回」が 20.5%と最も高くなっています。次いで、「５回」が 11.7%、「３回」が 8.5%の順となっています。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　仕事を目的とした１週間の外出の回数

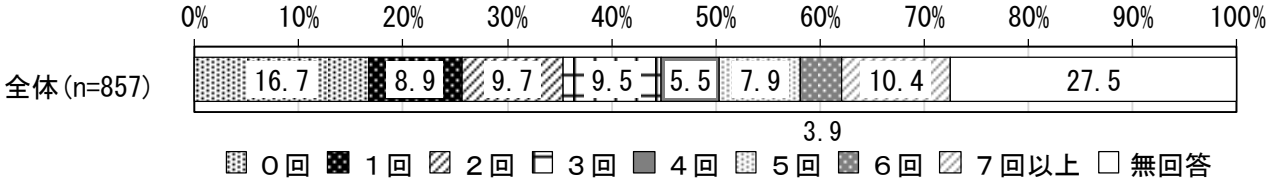


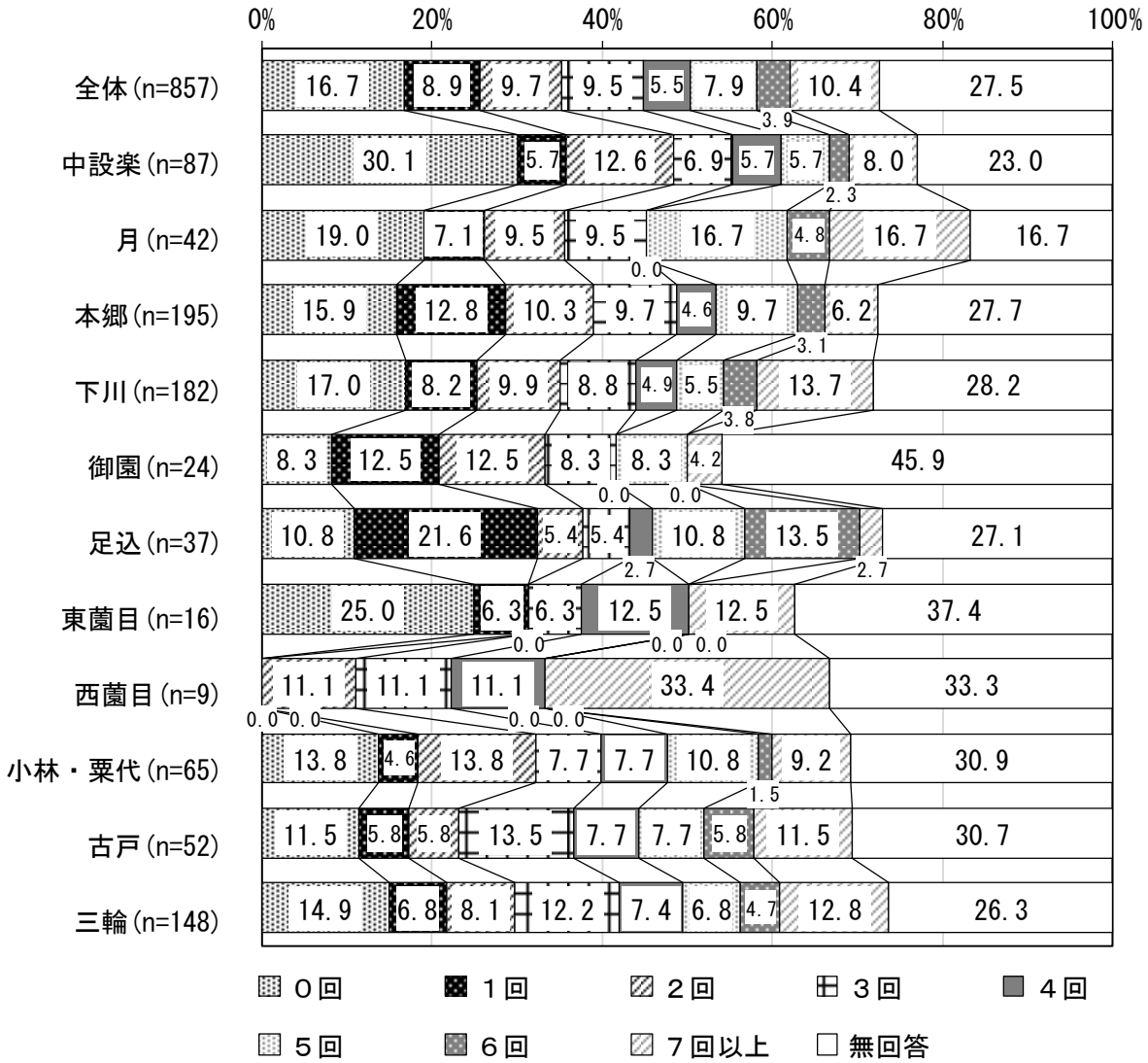


（31）外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__③散歩や運動

散歩や運動を目的とした１週間の外出の回数を聞いたところ、「０回」が 16.7%と最も高くなっています。次いで、「７回以上」が 10.4%、「２回」が 9.7%の順となっています。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　散歩や運動を目的とした１週間の外出の回数

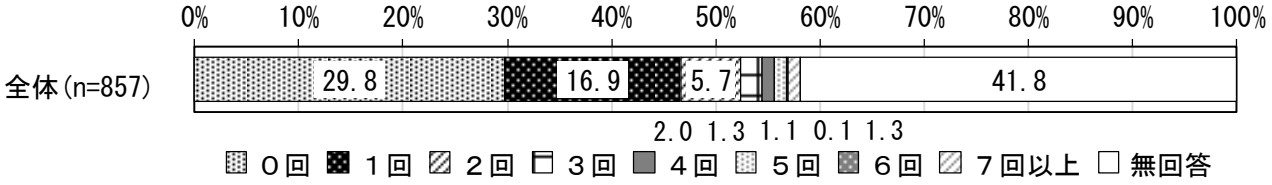


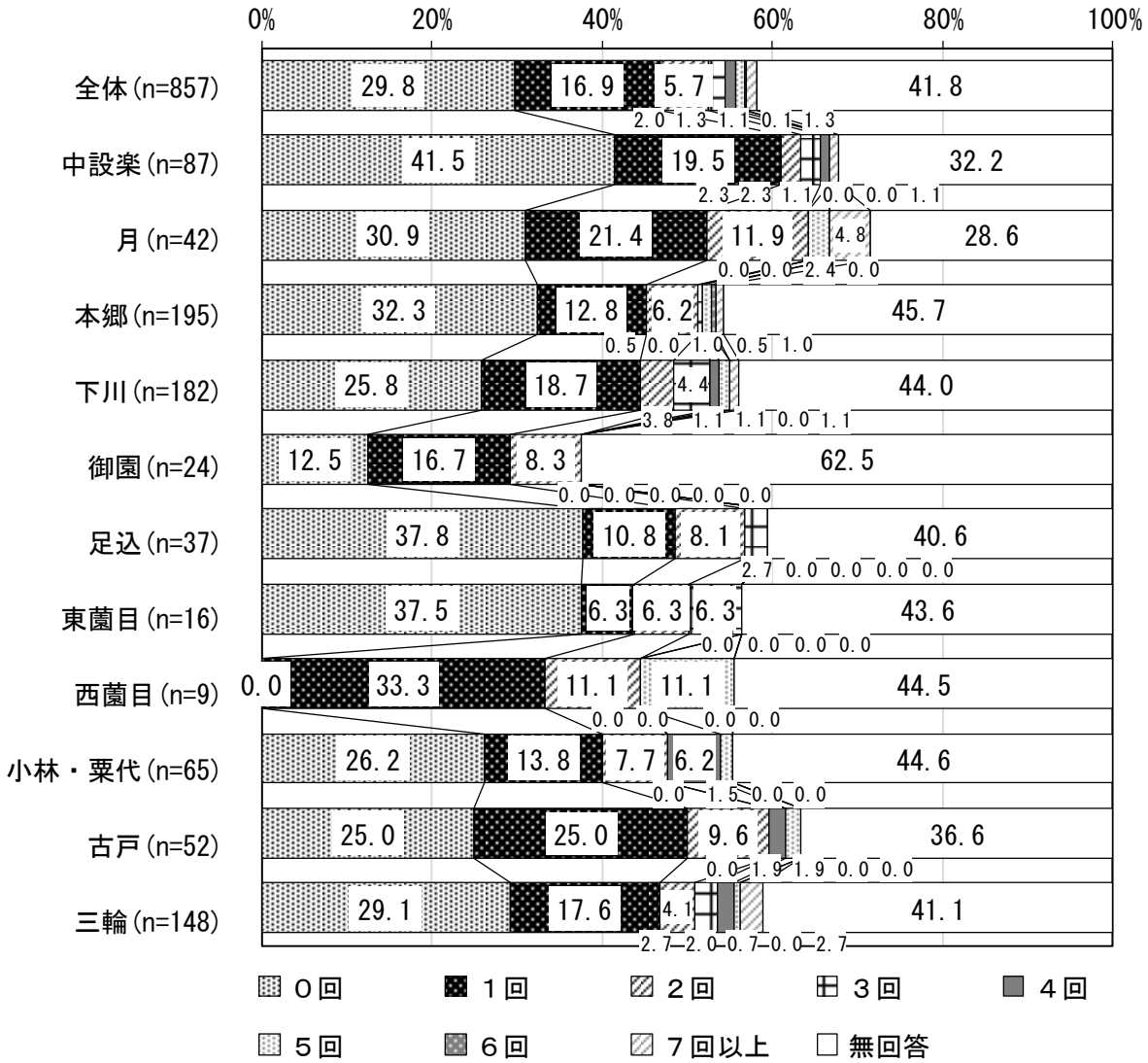


（31）外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__④地域活動や趣味

地域活動や趣味を目的とした１週間の外出の回数を聞いたところ、「０回」が 29.8%と最も高くなっています。次いで、「１回」が 16.9%、「２回」が 5.7%の順となっています。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　地域活動や趣味を目的とした１週間の外出の回数

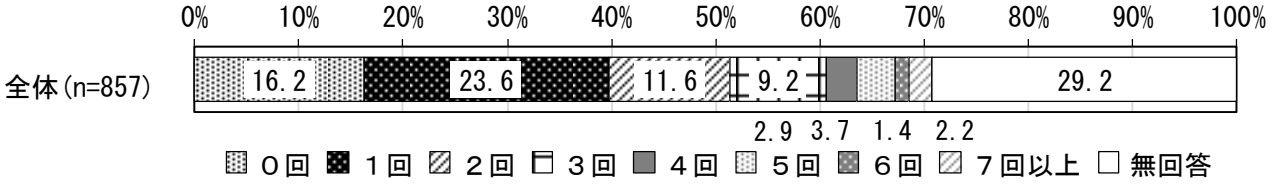


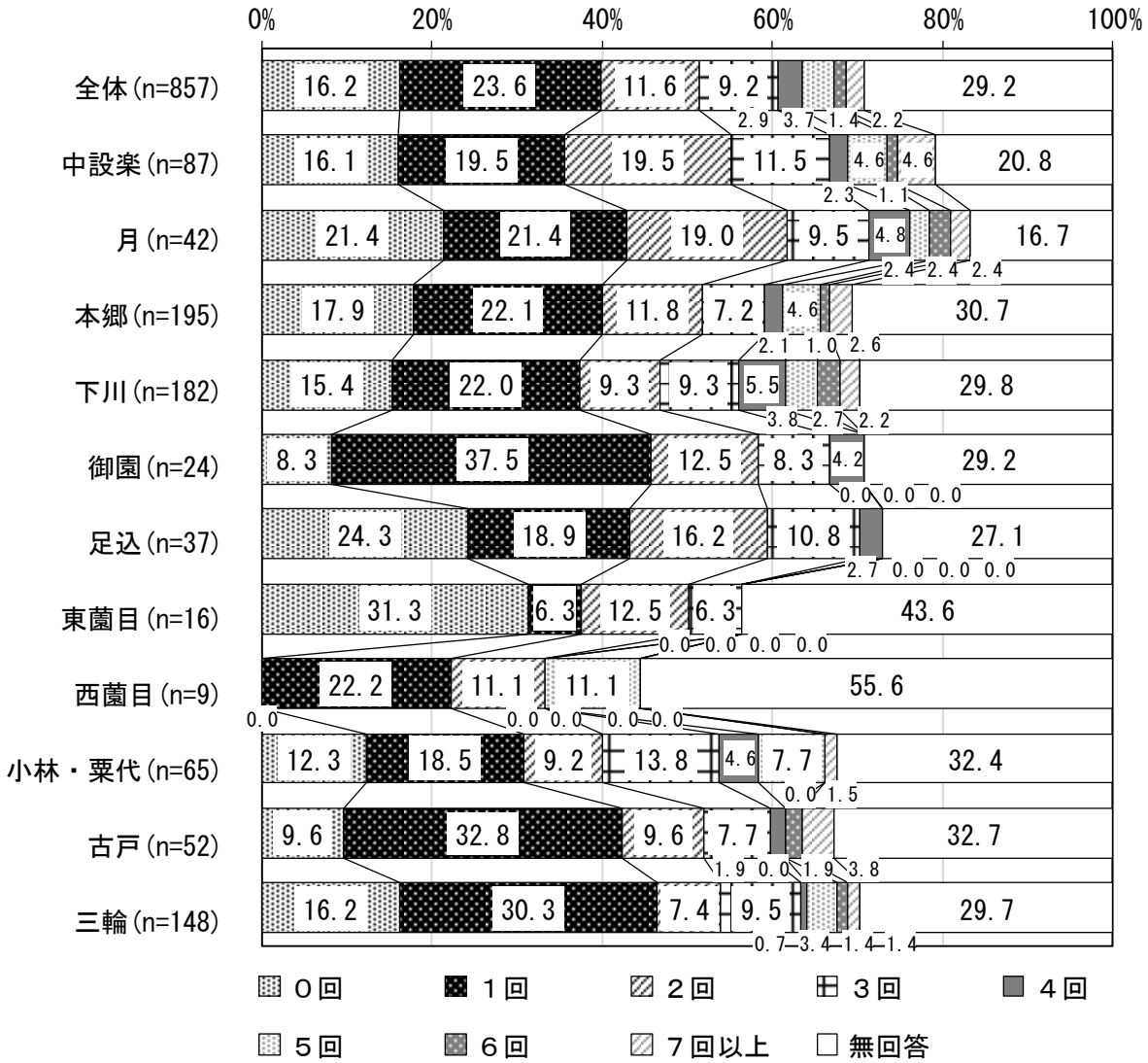


（31）外出はそれぞれ１週間に何回ありますか。__⑤友人・知人と会う

友人・知人と会うことを目的とした１週間の外出の回数を聞いたところ、「１回」が 23.6%と最も高くなっています。次いで、「０回」が 16.2%、「２回」が 11.6%の順となっています。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　友人・知人と会うことを目的とした１週間の外出の回数

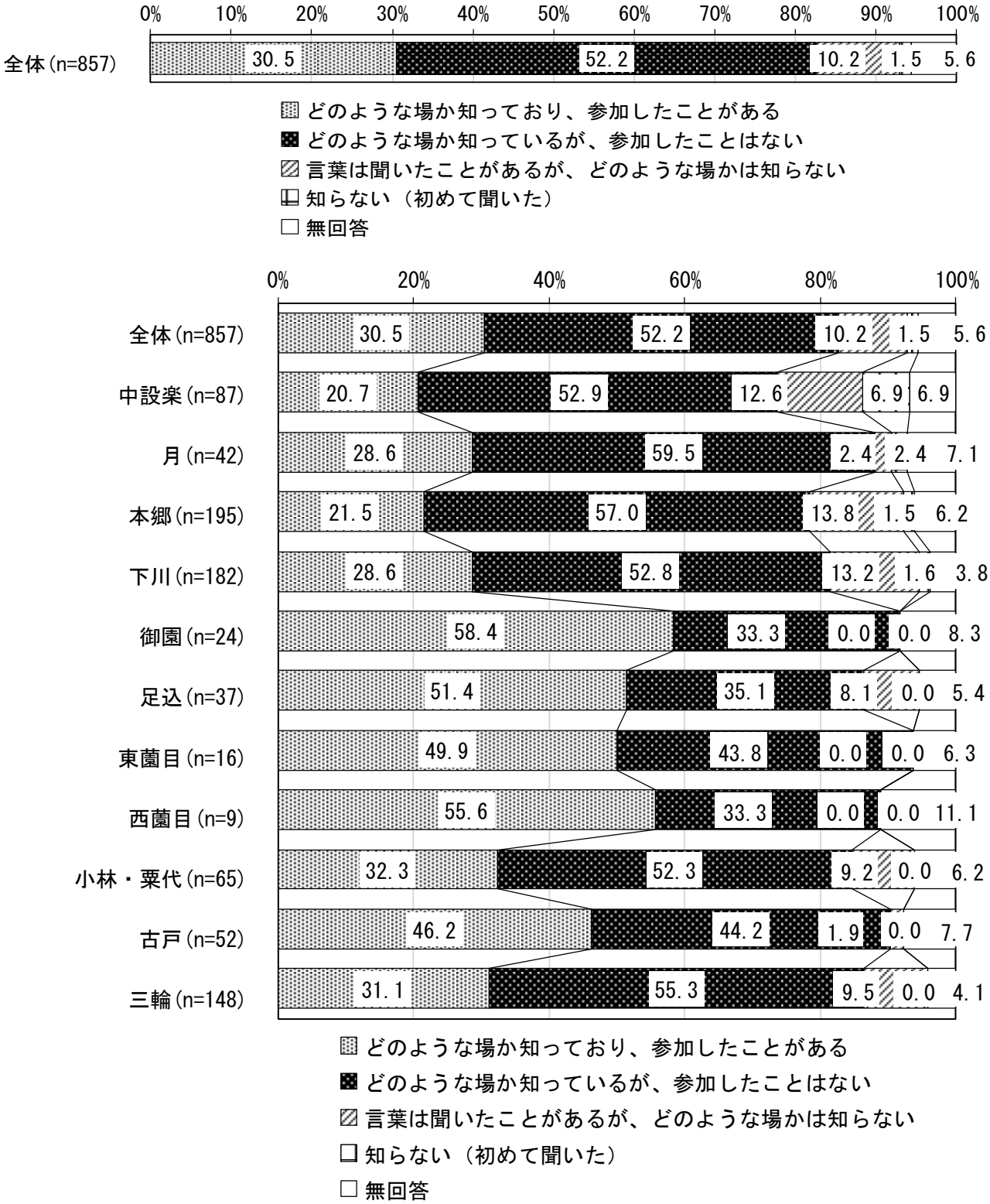




（32）生活支援拠点施設「おいでん家」をご存じですか。

生活支援拠点施設「おいでん家」をご存じかについて聞いたところ、「どのような場か知っているが、参加したことはない」が 52.2%と最も高くなっています。次いで、「どのような場か知っており、参加したことがある」が 30.5%、「言葉は聞いたことがあるが、どのような場かは知らない」が 10.2%、「知らない（初めて聞いた）」が 1.5%の順となっています。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　生活支援拠点施設「おいでん家」をご存じか

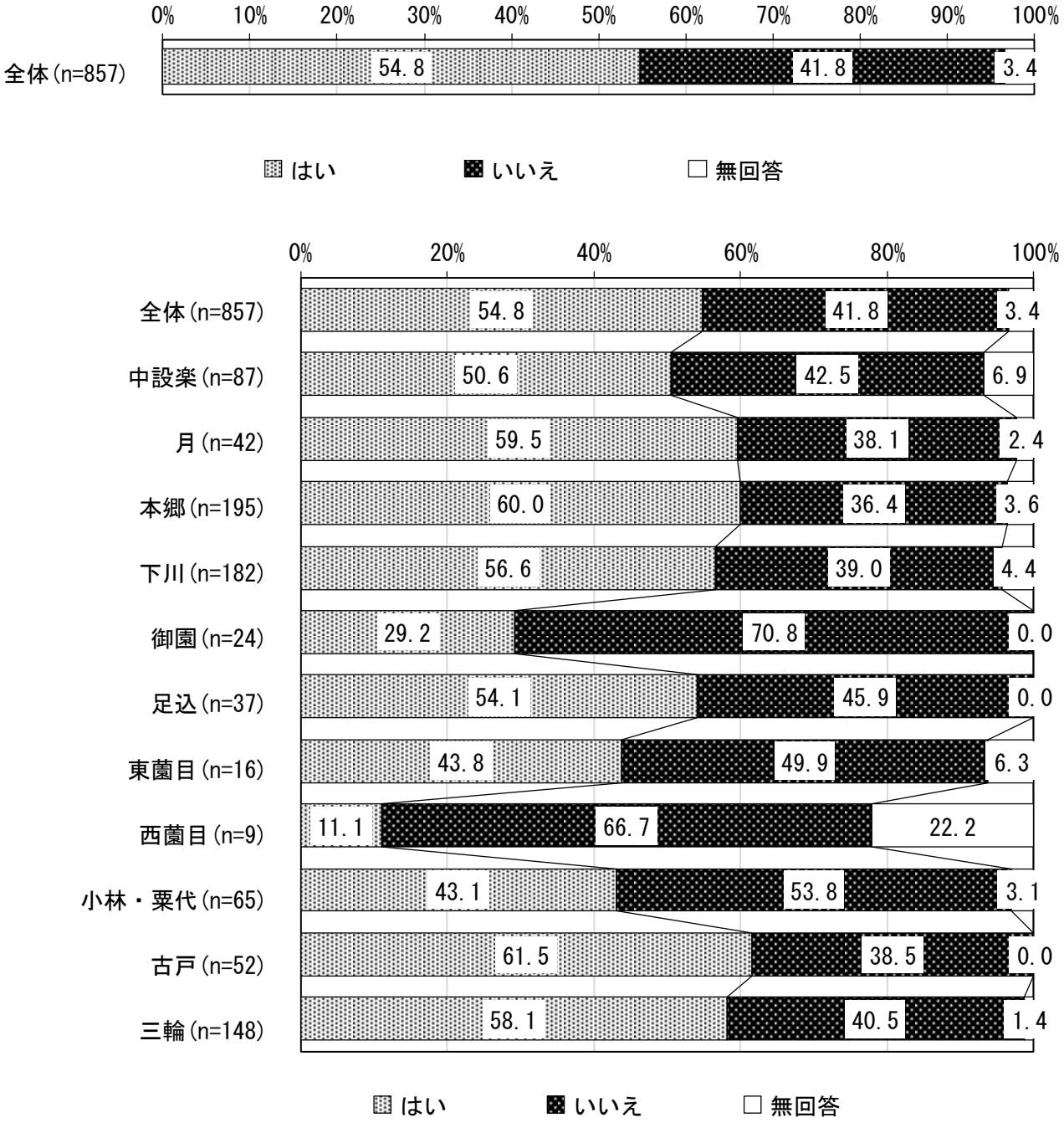


（33） パソコンやスマートフォンなどを日常的に使っていますか。

パソコンやスマートフォンなどを日常的に使っているかについて聞いたところ、「はい」が54.8%、「いいえ」が41.8%となっています。

「はい」について地区別に見ると、古戸地区が 61.5%で最も高く、西薗目地区が 11.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で50.4ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　パソコンやスマートフォンなどを日常的に使っているか

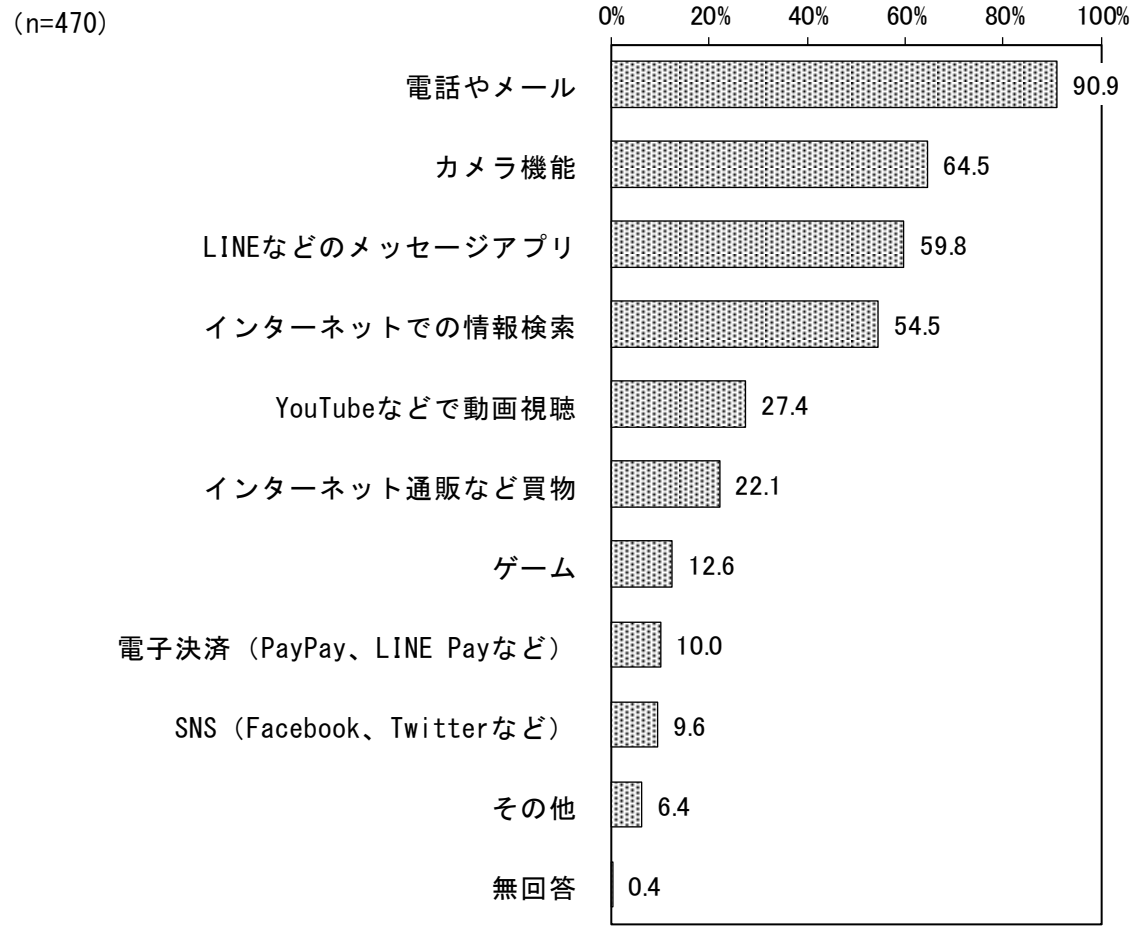


（34）パソコンやスマートフォンなどの用途は何ですか。（複数回答）

パソコンやスマートフォンなどの用途について聞いたところ、「電話やメール」が 90.9%と最も高くなっています。次いで、「カメラ機能」が 64.5%、「LINE などのメッセージアプリ」が 59.8%、「インターネットでの情報検索」が 54.5%の順となっています。

なお、「その他」の回答には文書作成ソフトの使用、表計算ソフトの使用等がありました。

図表　パソコンやスマートフォンなどを使用する用途（複数回答）



地区別に見ると、中設楽地区では「カメラ機能」(75.0%)、「YouTube などで動画視聴」(38.6%) が全体より高くなっています。御園地区では「LINE などのメッセージアプリ」(85.7%)、「カメラ機能」(85.7%) が全体よりとても高く、「インターネットでの情報検索」(71.4%)、「YouTube などで動画視聴」(42.9%)「SNS (Facebook、Twitter など)」(28.6%) が全体より高くなっています。東薗目地区では、「LINE などのメッセージアプリ」(85.7%)、「カメラ機能」(85.7%) が全体よりとても高く、「インターネットでの情報検索」(71.4%)、「ゲーム」(28.6%) が全体より高くなっています。西薗目地区では「インターネットでの情報検索」(100.0%)、「インターネット通販など買物」(100.0%)、「カメラ機能」(100.0%)、「SNS (Facebook、Twitter など)」(100.0%) が全体よりとても高くなっています。小林・粟代地区では「YouTube などで動画視聴」(50.0%) が全体よりとても高くなっています。

	n	電話やメール	LINEなどのメッセージアプリ	インターネットでの情報検索	インターネット通販など買物	電子決済（PayPay、LINE Payなど）	カメラ機能	YouTubeなどで動画視聴	ゲーム	SNS（Facebook、Twitterなど）	その他
全体	470	90.9	59.8	54.5	22.1	10.0	64.5	27.4	12.6	9.6	6.4
中設楽	44	100.0	65.9	56.8	22.7	11.4	75.0	38.6	13.6	18.2	6.8
月	25	72.0	48.0	56.0	24.0	8.0	48.0	32.0	4.0	12.0	20.0
本郷	117	94.9	65.0	56.4	20.5	8.5	70.1	26.5	17.1	7.7	5.1
下川	103	90.3	55.3	53.4	22.3	7.8	56.3	22.3	15.5	11.7	4.9
御園	7	85.7	85.7	71.4	0.0	14.3	85.7	42.9	0.0	28.6	0.0
足込	20	90.0	60.0	35.0	15.0	10.0	60.0	10.0	0.0	0.0	15.0
東薗目	7	100.0	85.7	71.4	14.3	0.0	85.7	28.6	28.6	0.0	0.0
西薗目	1	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
小林・粟代	28	92.9	50.0	50.0	21.4	14.3	60.7	50.0	3.6	17.9	7.1
古戸	32	93.8	62.5	50.0	21.9	12.5	65.6	21.9	6.3	6.3	6.3
三輪	86	84.9	57.0	55.8	26.7	12.8	64.0	25.6	12.8	3.5	4.7

	n	無回答
全体	470	0.4
中設楽	44	0.0
月	25	0.0
本郷	117	0.9
下川	103	0.0
御園	7	0.0
足込	20	0.0
東薗目	7	0.0
西薗目	1	0.0
小林・粟代	28	0.0
古戸	32	0.0
三輪	86	1.2

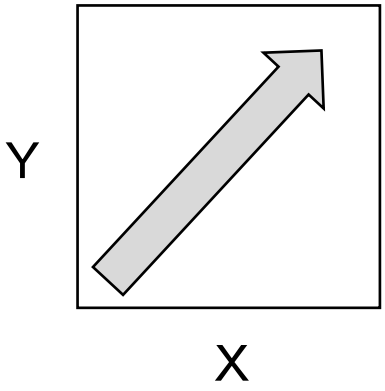
10. リスク指標の状況について

「10. リスク指標の状況について」では、相関分析と呼ばれる分析方法が出てきます。本報告書を読む手がかりとして、相関分析の考え方について説明します。

【相関分析とは】

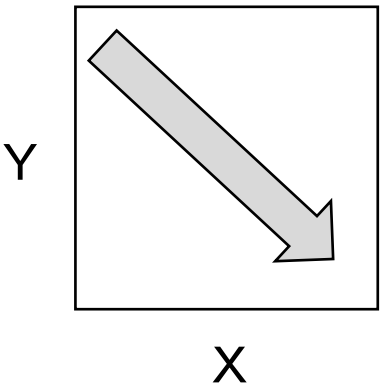
２つの要素が「どの程度同じような動きをするか」という要素間の関係性を明らかにする手法を相関分析と呼びます。これを散布図にして表し、以下のように特徴を見ます。

正の相関は右上がりの分布



・Ｘが増えるとき、Ｙも増える
・Ｘが減るとき、Ｙも減る
このような２つの要素の関係を
「正の相関」と呼びます。

負の相関は右下がりの分布

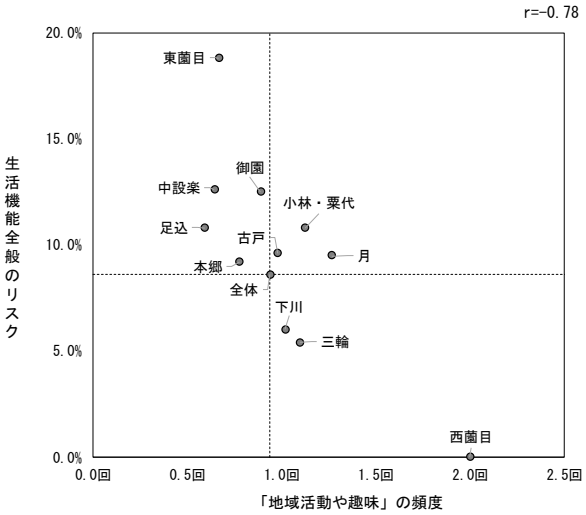


・Ｘが増えるとき、Ｙは減る
・Ｘが減るとき、Ｙは増える
このような２つの要素の関係を
「負の相関」と呼びます。

【本報告書における相関分析】

本報告書では、各種リスクと、日常生活の行動頻度等からこの分析を行っています。

例えば、右のグラフはＸ軸を「地域活動や趣味」で外出する頻度、Ｙ軸を生活機能全般のリスク該当率とした散布図ですが、これらの関係性は右下がりの負の相関であり、「地域活動や趣味」で外出する頻度が増えるとき、生活機能全般のリスクは減る関係にあると考えることができます。

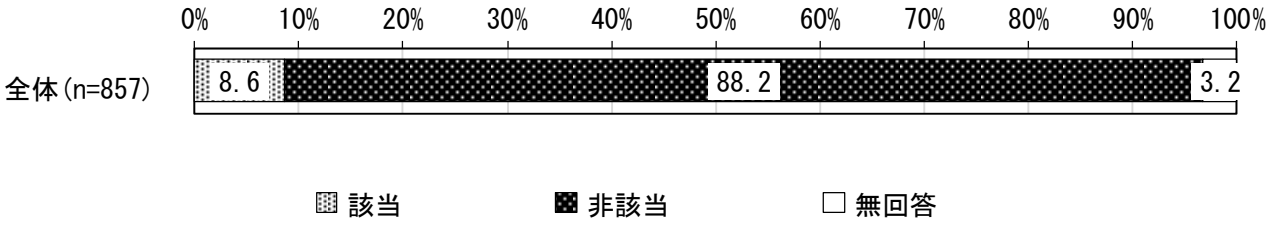


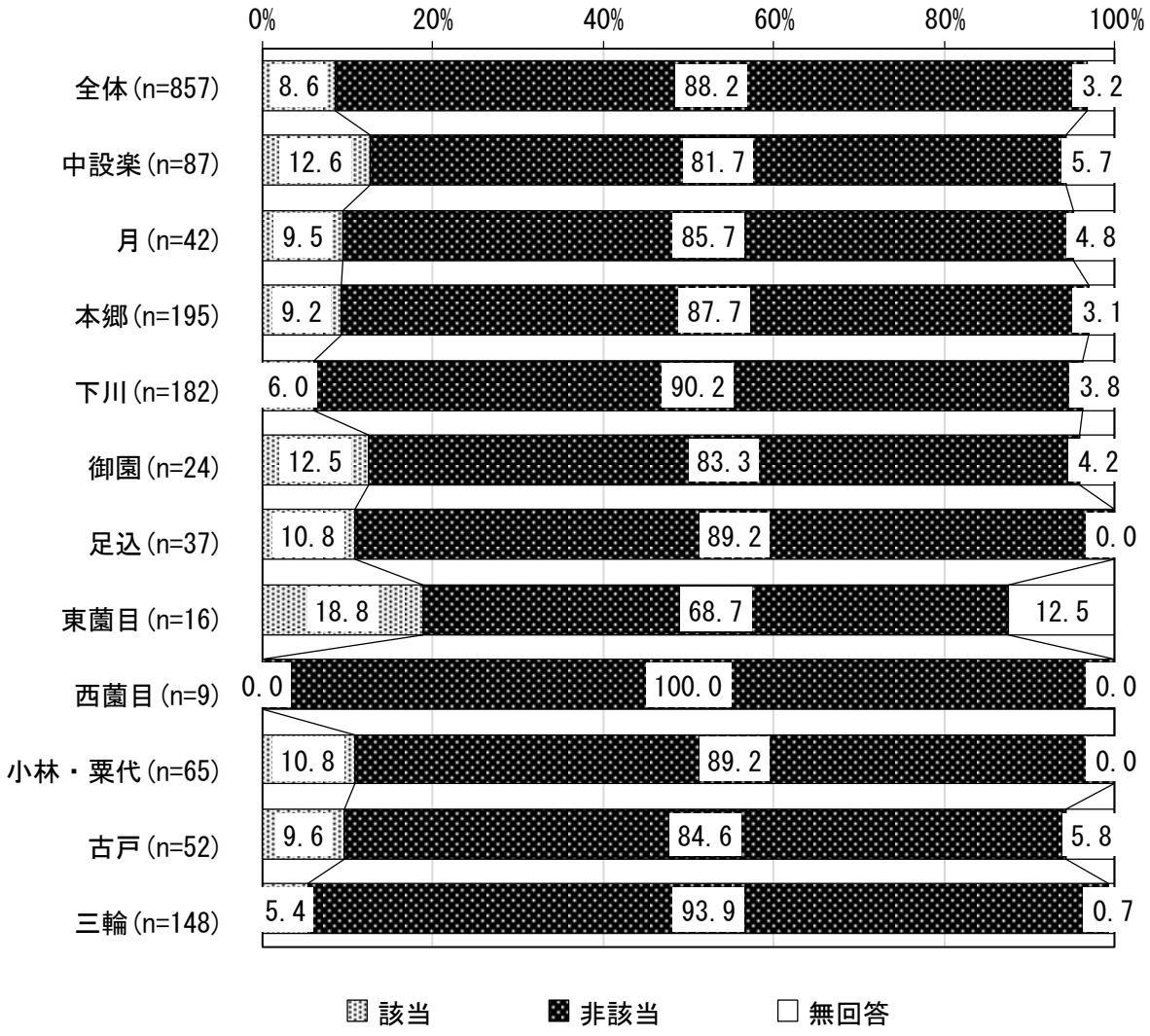
（35）生活機能全般のリスク

生活機能全般リスクについて、「非該当」が 88.2%、「該当」が 8.6%となっています。

「該当」について地区別に見ると、東薗目地区が 18.8%で最も高く、西薗目地区が 0.0%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 18.8 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

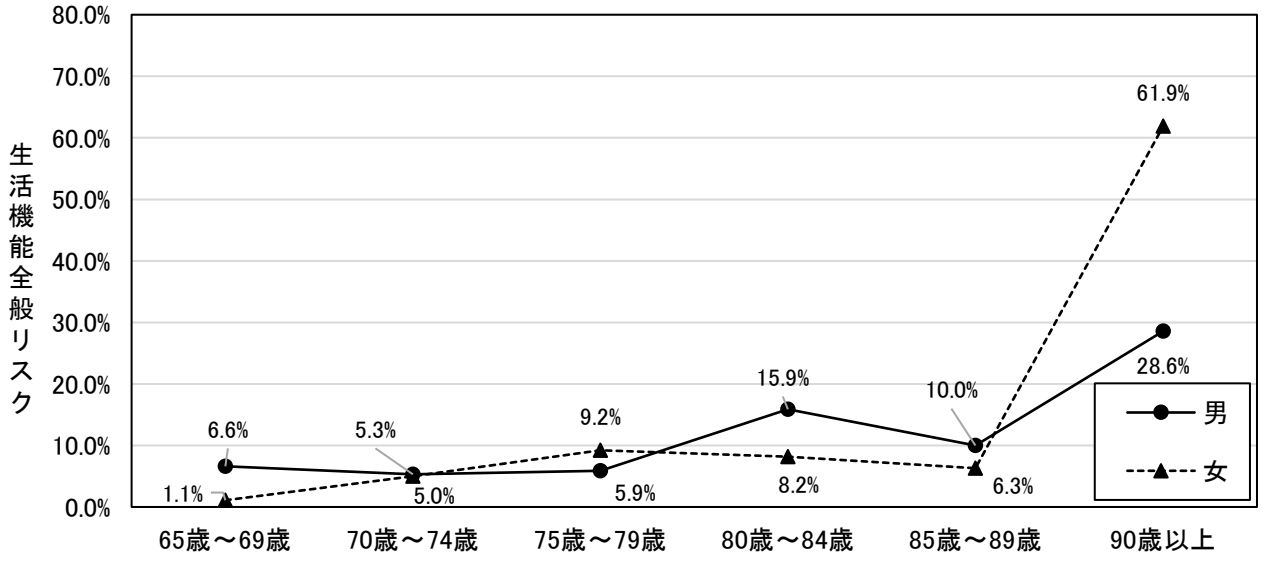
図表　生活機能全般のリスク





生活機能全般リスクについて性別・年齢階級別に見ると、男女共に「85 歳～89 歳」から「90 歳以上」にかけてリスクの該当率が高くなっており、女性の該当率は男性よりも 33.3 ポイント高くなっています。

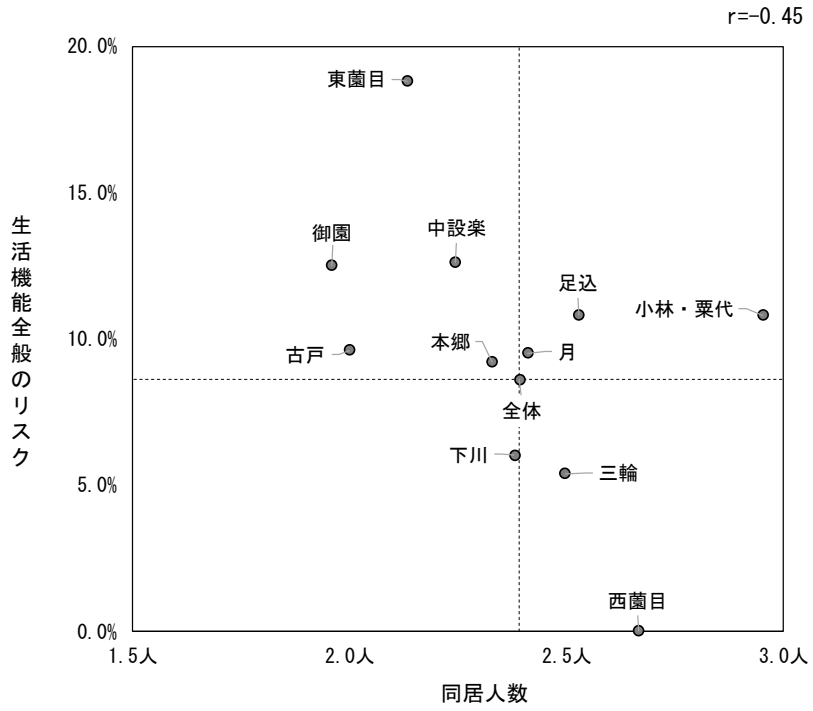
図表　性別・年齢階級別の生活機能全般リスクの該当率



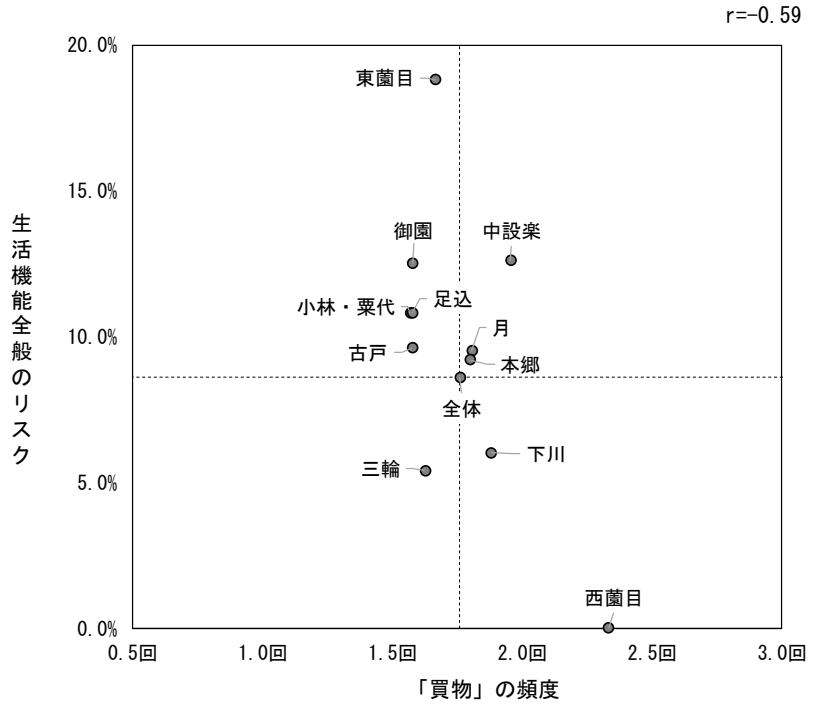
生活機能全般リスクと設問（30）同居人数と設問（31）１週間あたりの目的別外出回数とで相関分析を行いました。

その結果、「仕事」に弱い負の相関が、「同居人数」「買物」「友人・知人と会う」に負の相関が、「散歩や運動」「地域活動や趣味」に強い負の相関がありました。

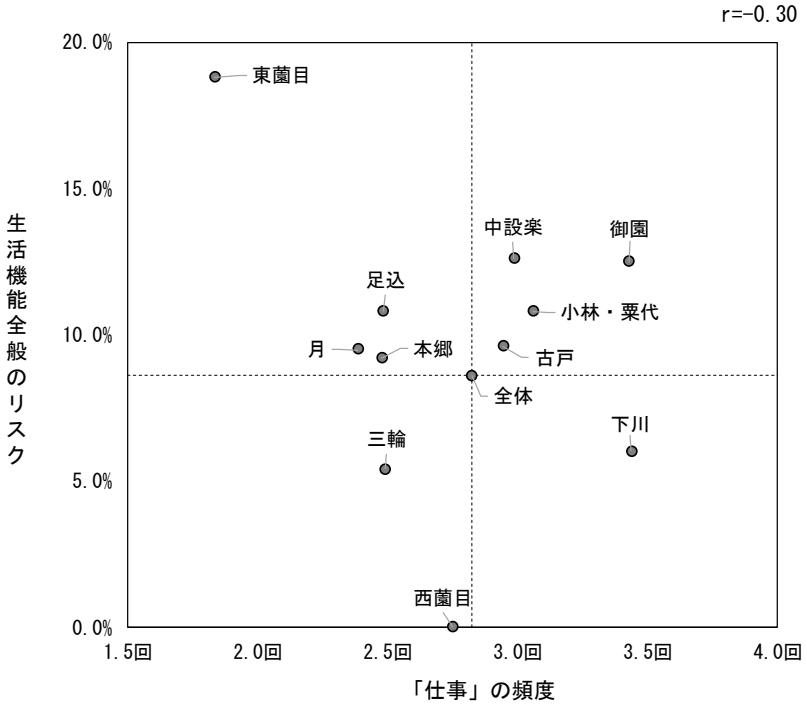
図表　生活機能全般リスクと同居人数の相関係数



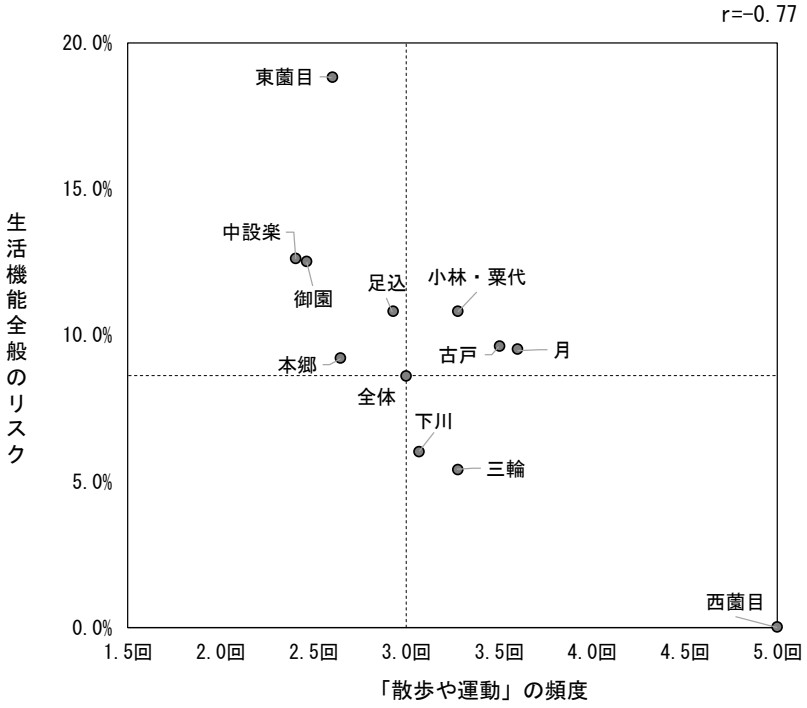
図表　生活機能全般リスクと「買物」の相関係数



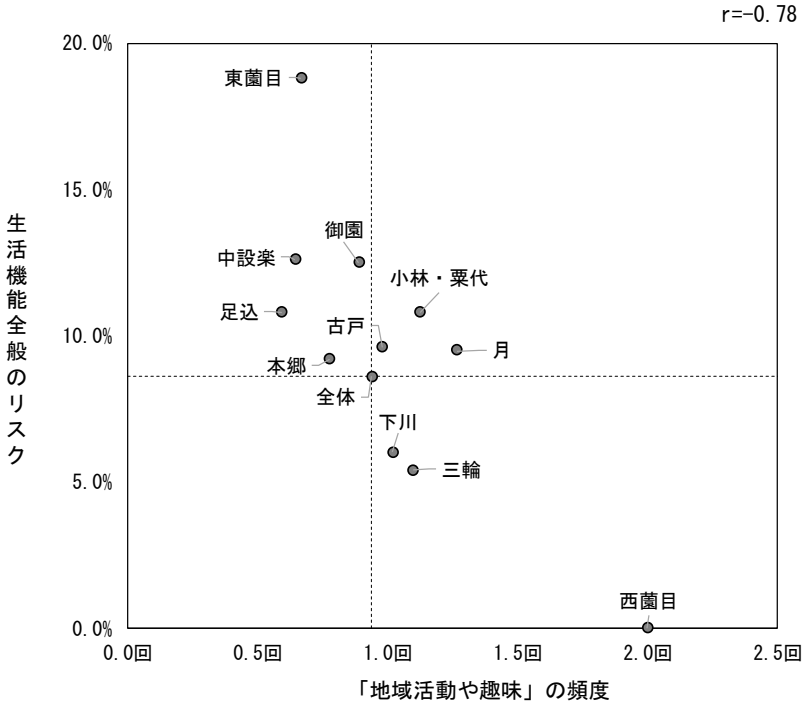
図表　生活機能全般リスクと「仕事」の相関係数



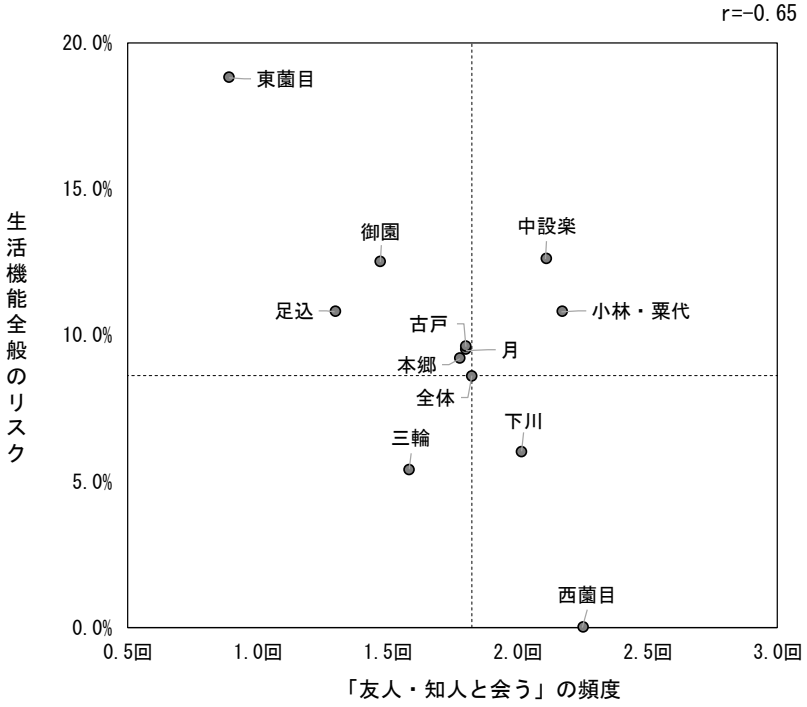
図表　生活機能全般リスクと「散歩や運動」の相関係数



図表　生活機能全般リスクと「地域活動や趣味」の相関係数



図表　生活機能全般リスクと「友人・知人と会う」の相関係数

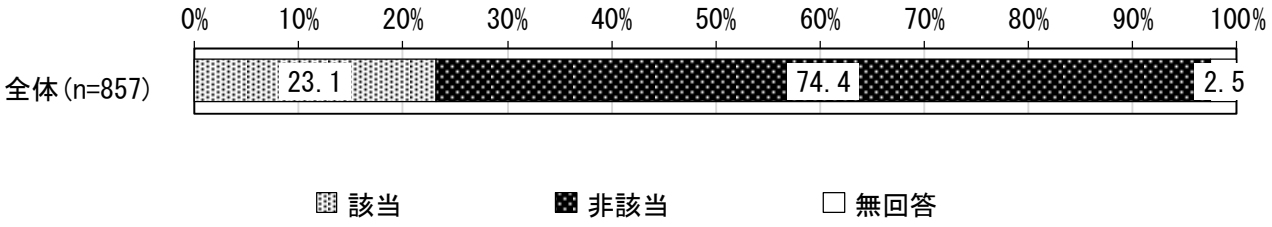


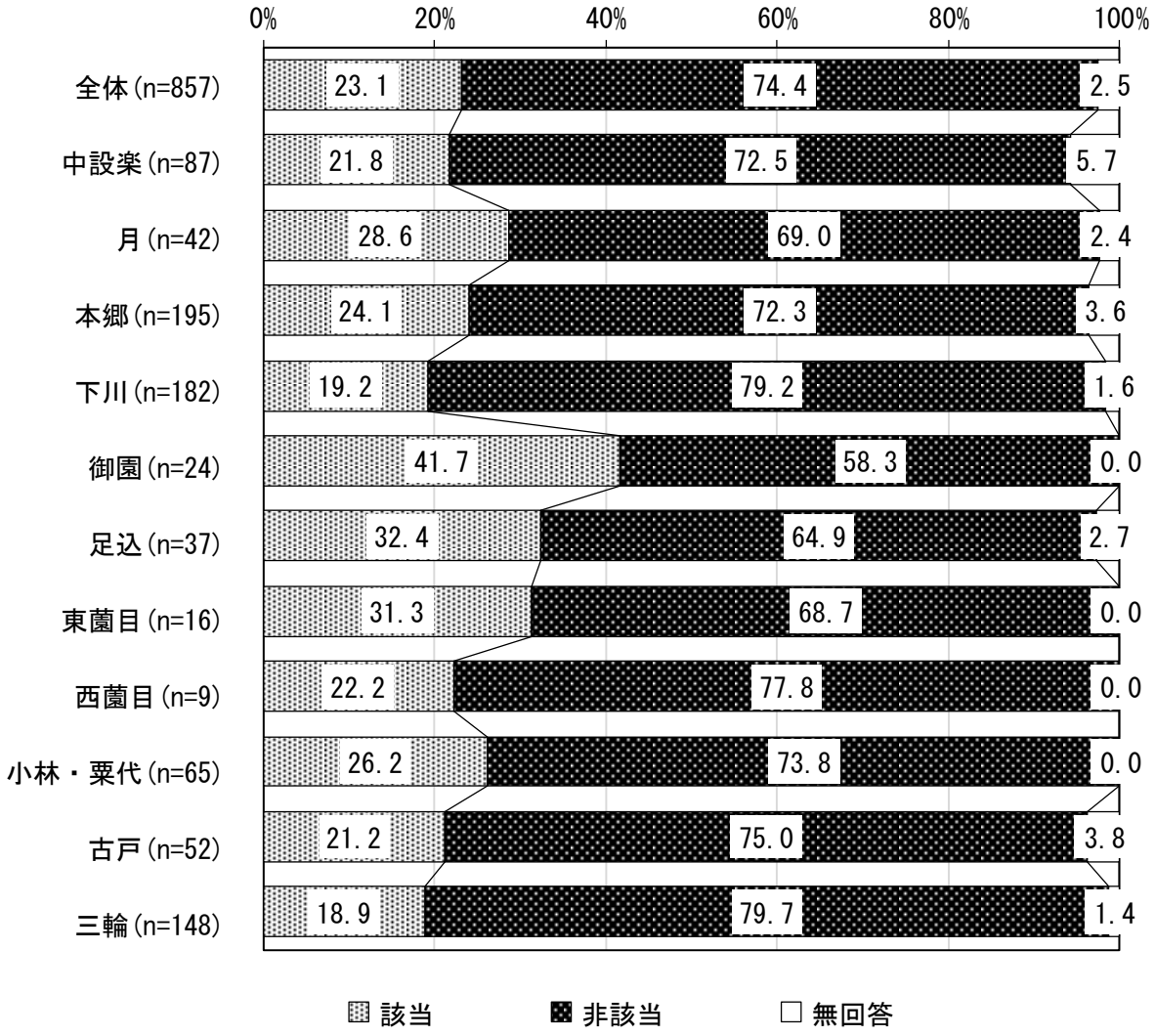
（36）運動器機能リスク

運動器機能リスクについて、「非該当」が 74.4%、「該当」が 23.1%となっています。

「該当」について地区別に見ると、御園地区が 41.7%で最も高く、三輪地区が 18.9%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 22.8 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　運動器機能リスク

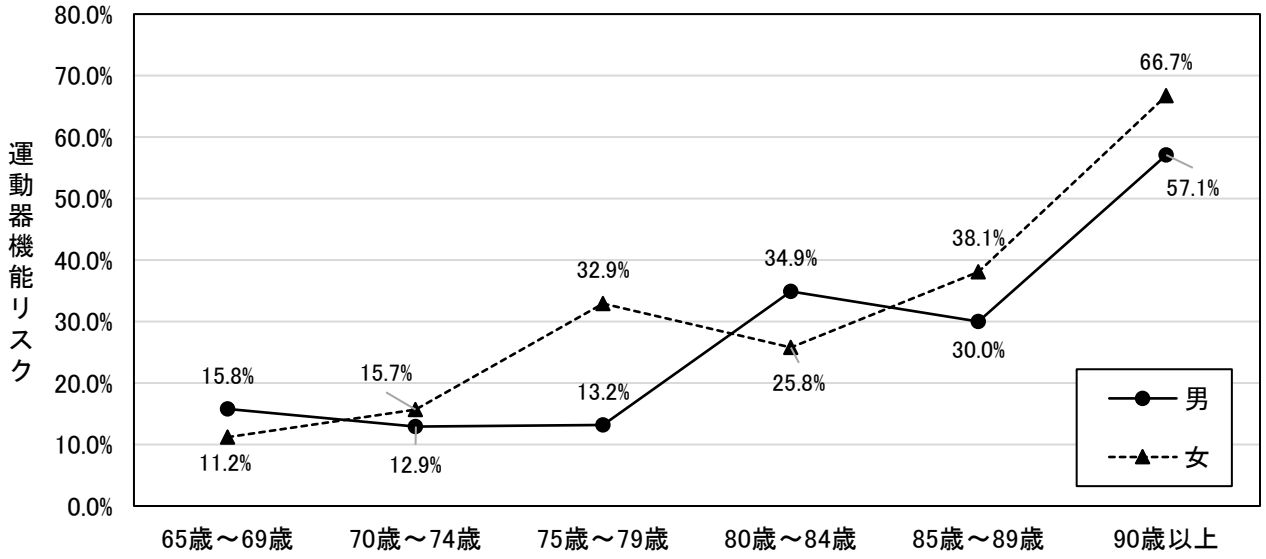




運動器機能リスクについて性別・年齢階級別に見ると、男性では「75 歳～79 歳」から「80 歳～84 歳」、「85 歳～89 歳」から「90 歳」にかけてリスクの該当率が高くなっています。女性では、「70 歳～74 歳」から「75～79 歳」にかけて、「85 歳～89 歳」から「90 歳以上」にかけてリスクの該当率が高くなっています。

また、「75 歳～79 歳」では、女性の該当率が男性よりも 19.7 ポイント高くなっています。

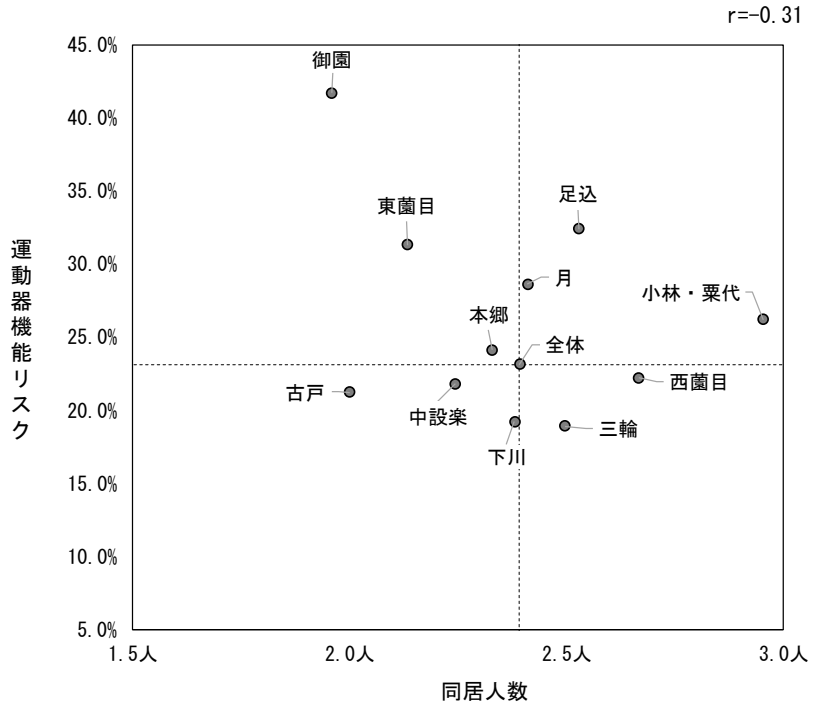
図表　性別・年齢階級別の動器機能リスクの該当率



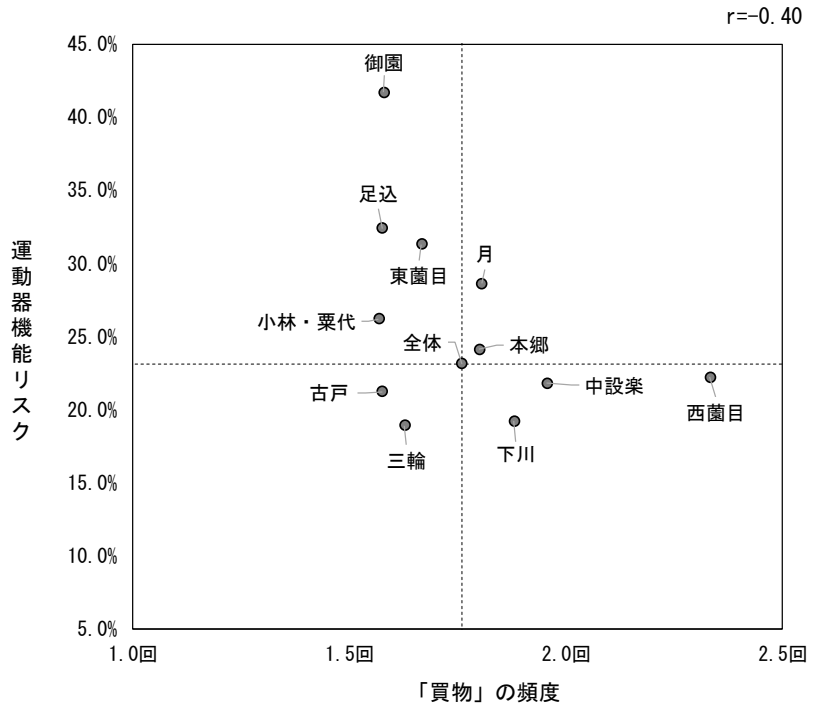
運動器機能全般リスクと設問（30）同居人数と設問（31）１週間あたりの目的別外出回数とで相関分析を行いました。

その結果、「同居人数」「買物」「散歩や運動」「地域活動や趣味」に弱い負の相関が、「友人・知人と会う」に負の相関がありました。

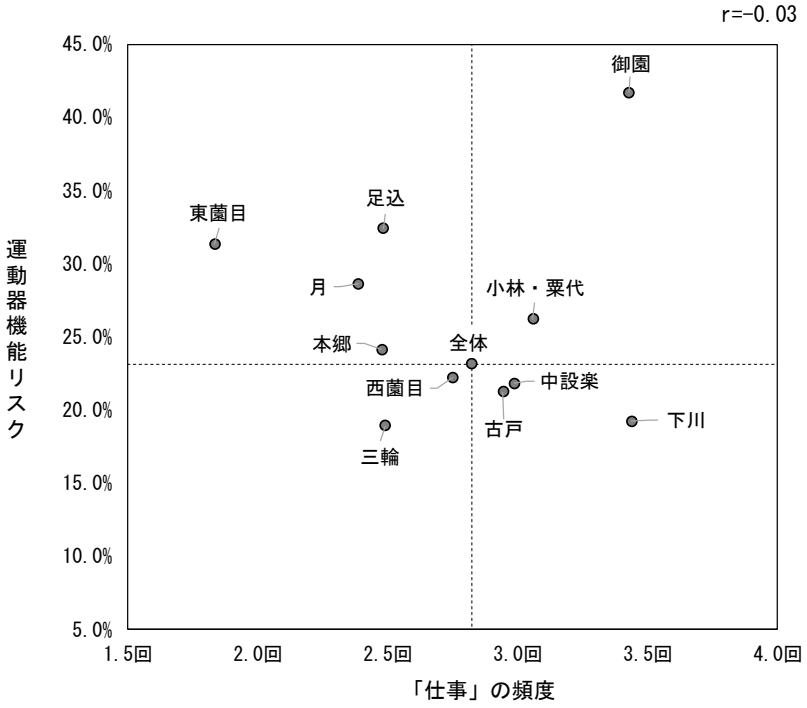
図表　運動器機能全般リスクと同居人数の相関係数



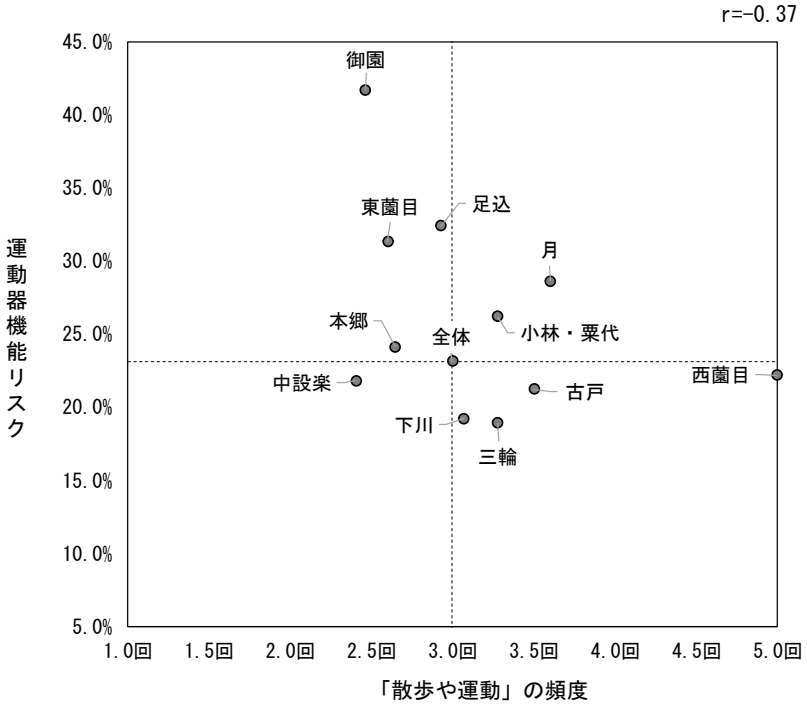
図表　運動器機能リスクと「買物」の相関係数



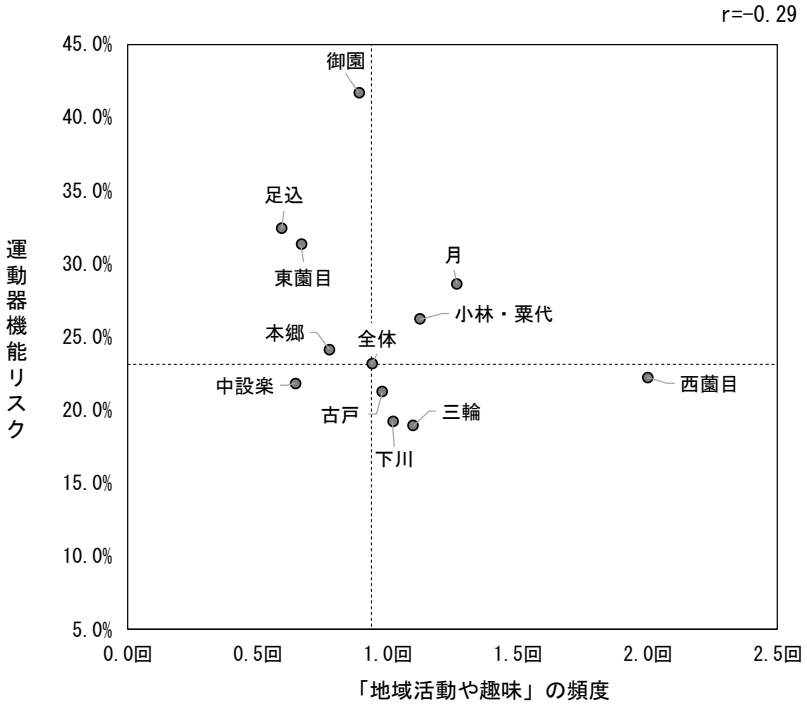
図表　運動器機能リスクと「仕事」の相関係数



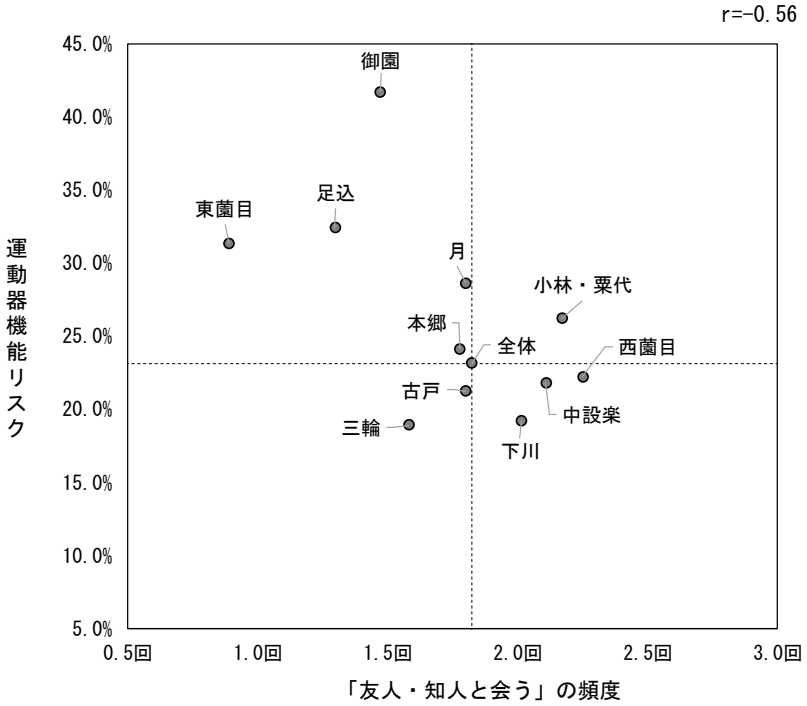
図表　運動器機能リスクと「散歩や運動」の相関係数



図表　運動器機能リスクと「地域活動や趣味」の相関係数



図表　運動器機能リスクと「友人・知人と会う」の相関係数

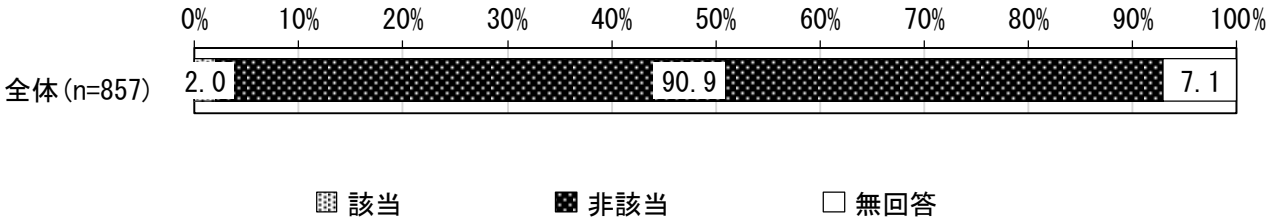


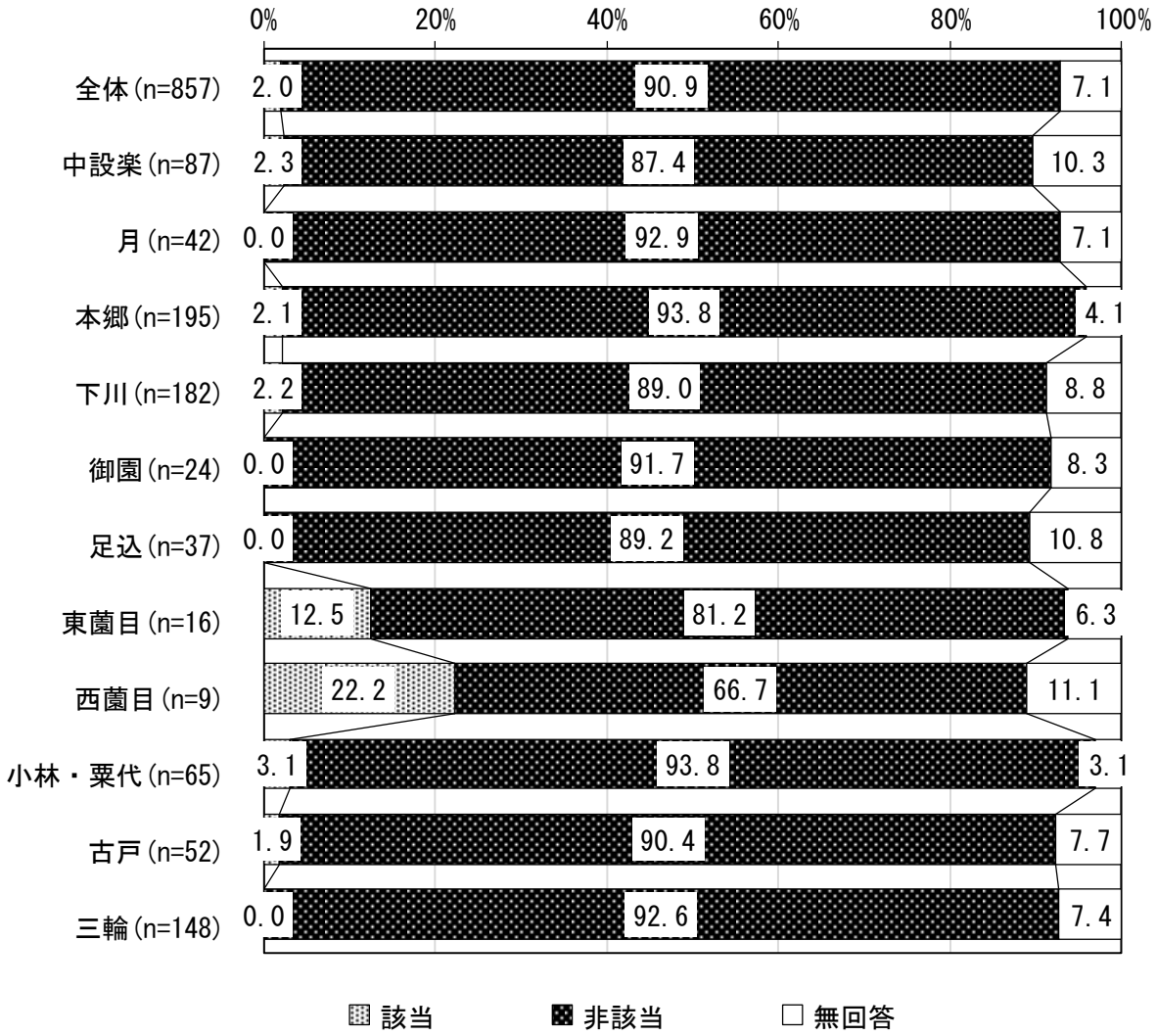
（37）低栄養リスク

低栄養リスクについて、「非該当」が 90.9%、「該当」が 2.0%となっています。

「該当」について地区別に見ると、西薗目地区が 22.2%で最も高く、月地区と御園地区と足込地区と三輪地区が 0.0%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 22.2 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　低栄養リスク

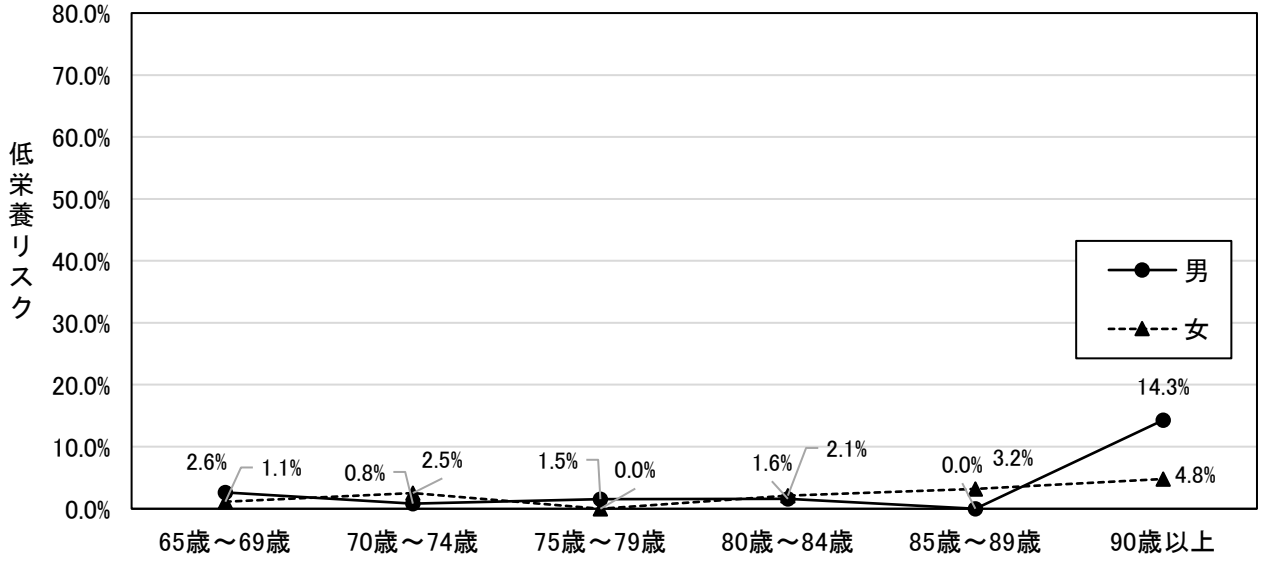




低栄養リスクについて性別・年齢階級別に見ると、男性では「85 歳～89 歳」から「90 歳以上」にかけてリスクの該当率が高くなっています。女性では年齢階級による該当率に大きな変化は見られません。

「90 歳以上」では、男性の該当率が 14.3%と女性よりも 9.5 ポイント高くなっています。

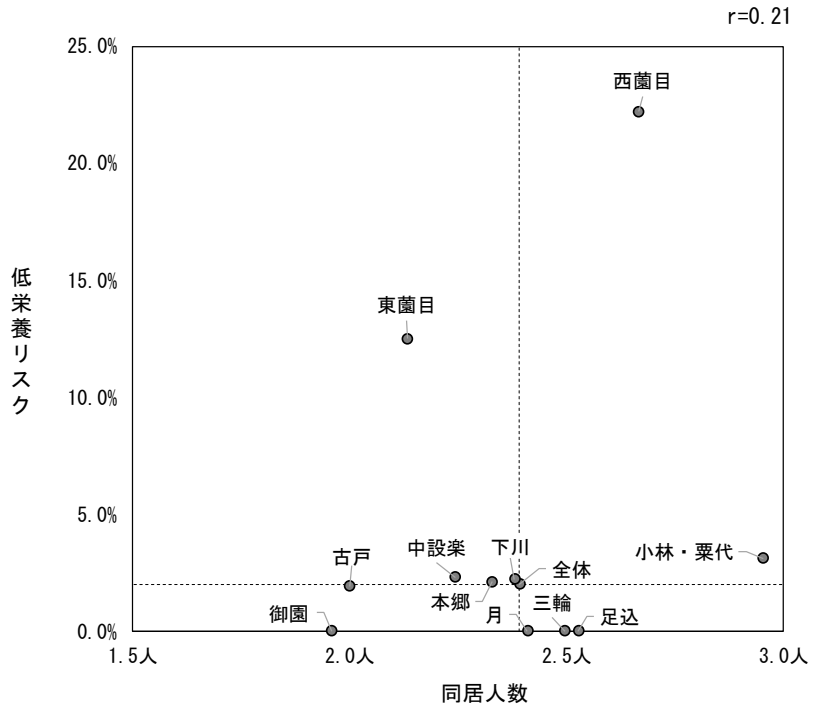
図表　性別・年齢階級別の低栄養リスクの該当率



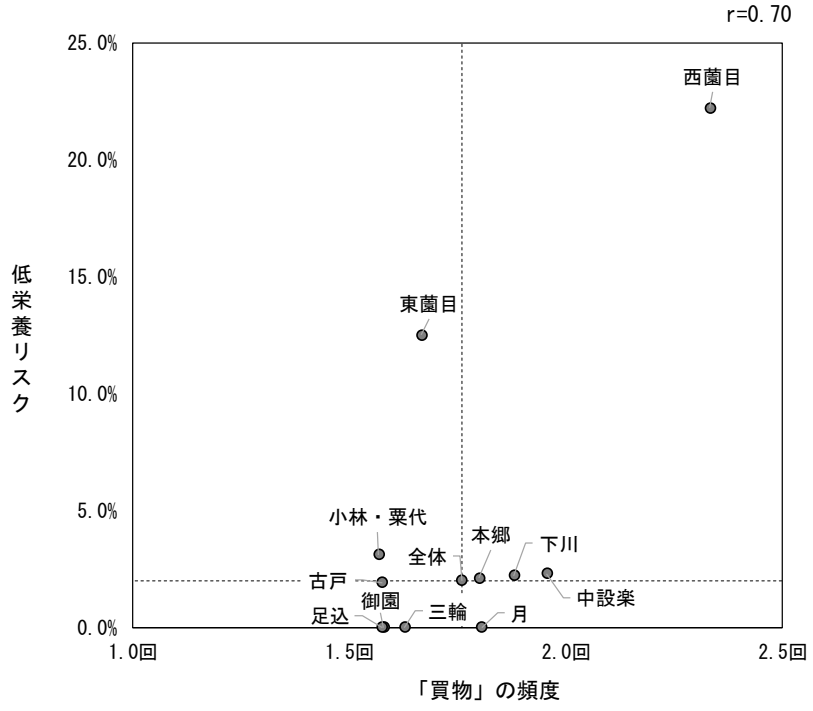
低栄養リスクと設問（30）同居人数と設問（31）１週間あたりの目的別外出回数とで相関分析を行いました。

その結果、「仕事」に弱い負の相関が、「同居人数」に弱い正の相関が、「買物」「散歩や運動」「地域活動や趣味」に正の相関がありました。

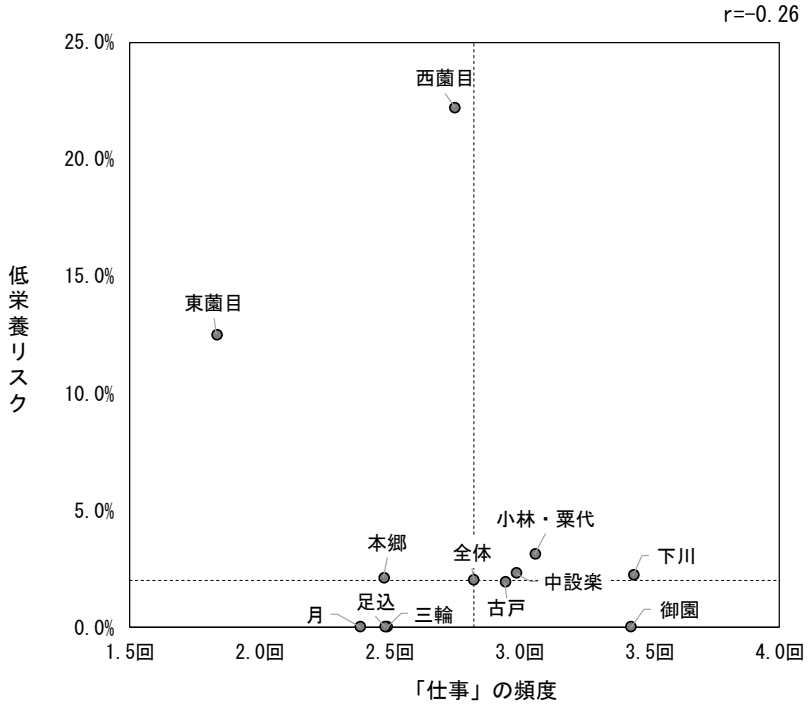
図表　低栄養リスクと同居人数の相関係数



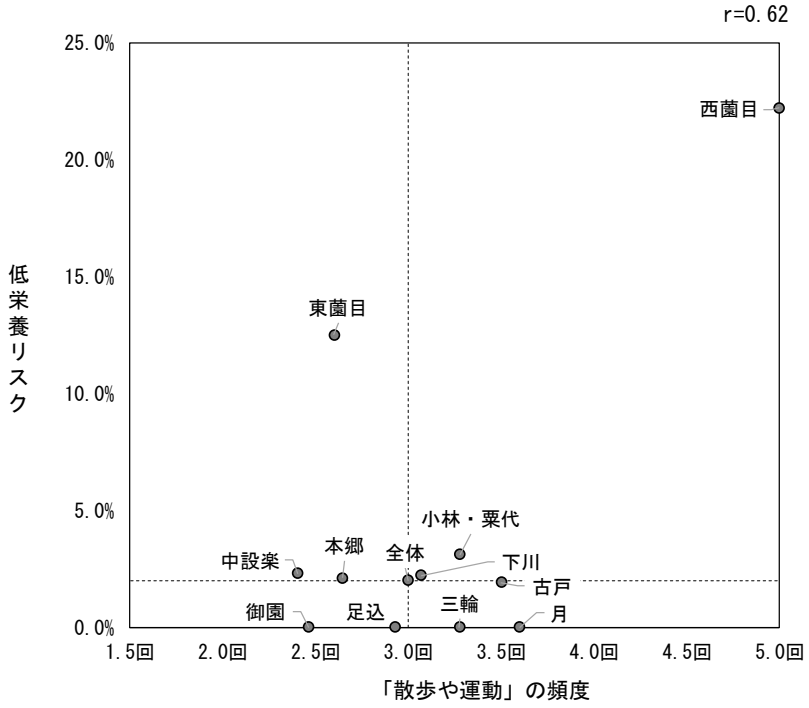
図表　低栄養リスクと「買物」の相関係数



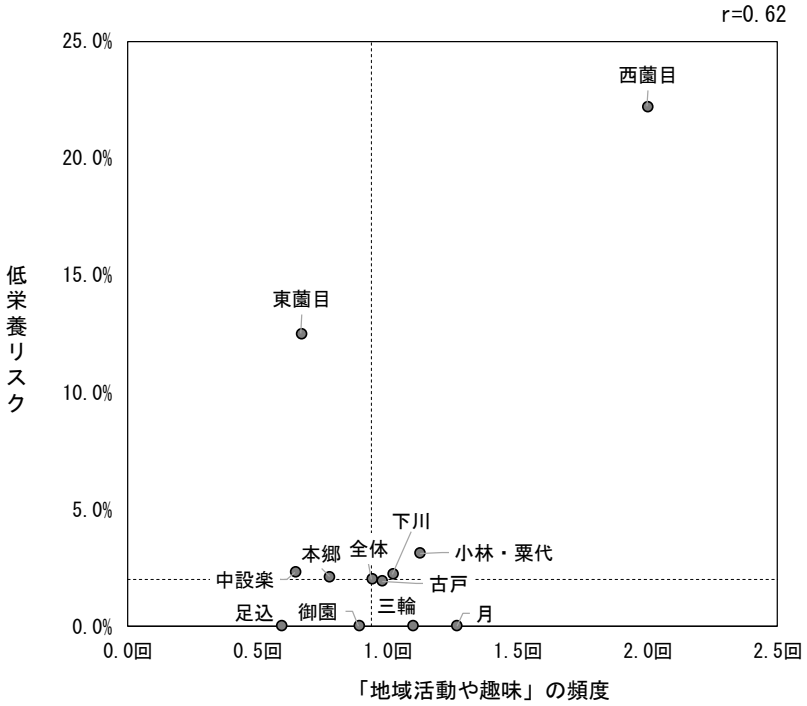
図表　低栄養リスクと「仕事」の相関係数



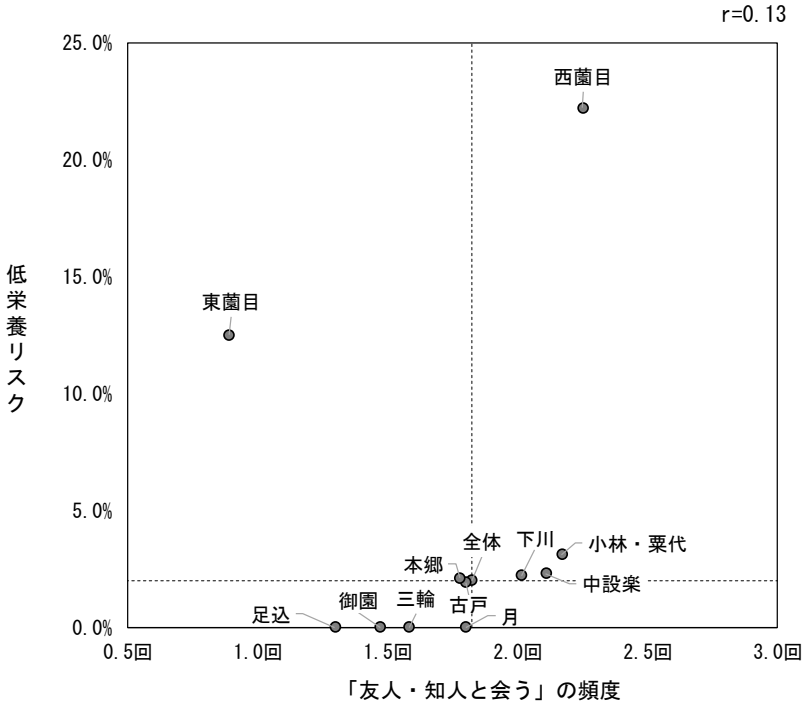
図表　低栄養リスクと「散歩や運動」の相関係数



図表　低栄養リスクと「地域活動や趣味」の相関係数



図表　低栄養リスクと「友人・知人と会う」の相関係数

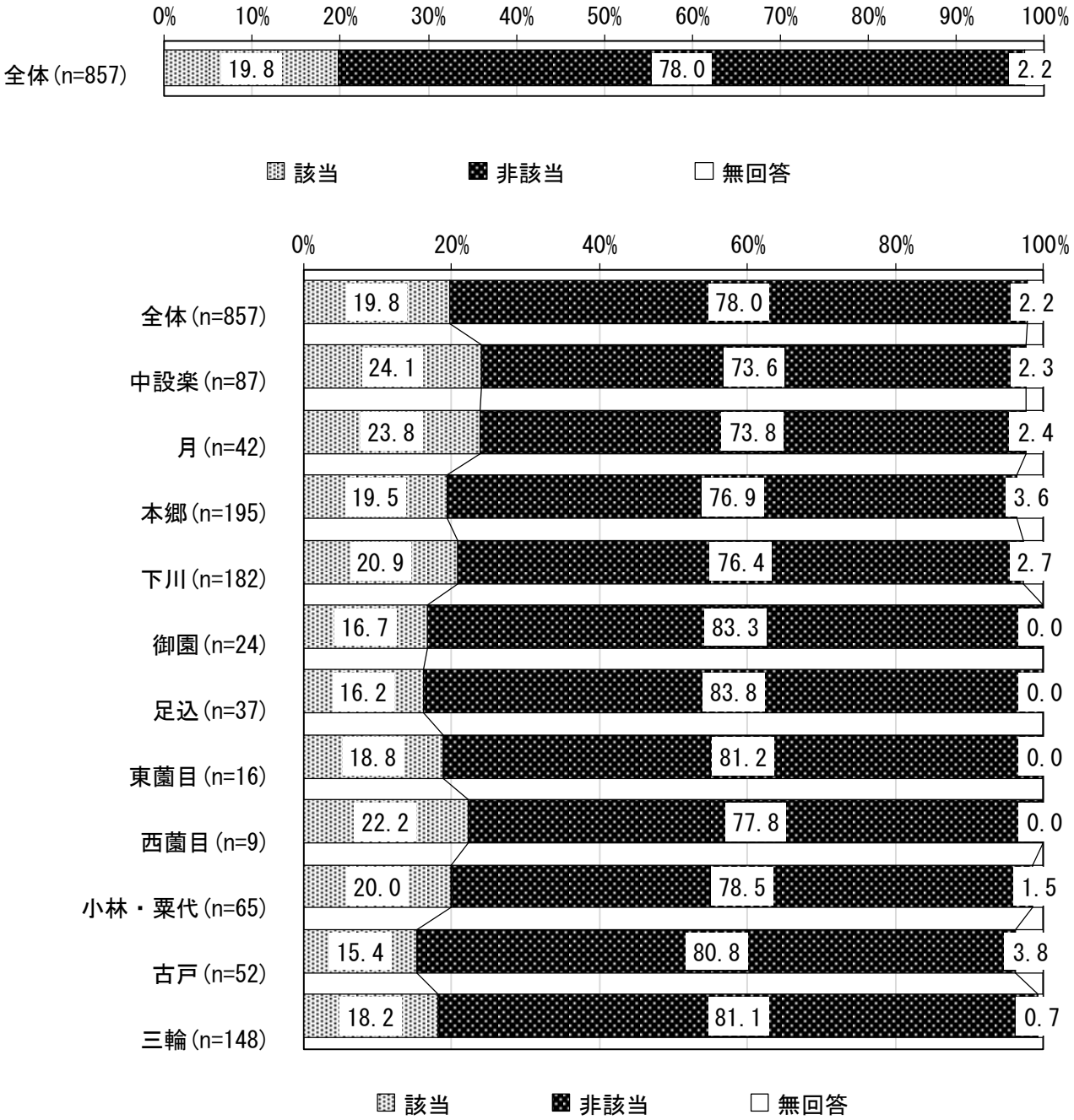


（38）口腔機能リスク

口腔機能リスクについて、「非該当」が 78.0%、「該当」が 19.8%となっています。

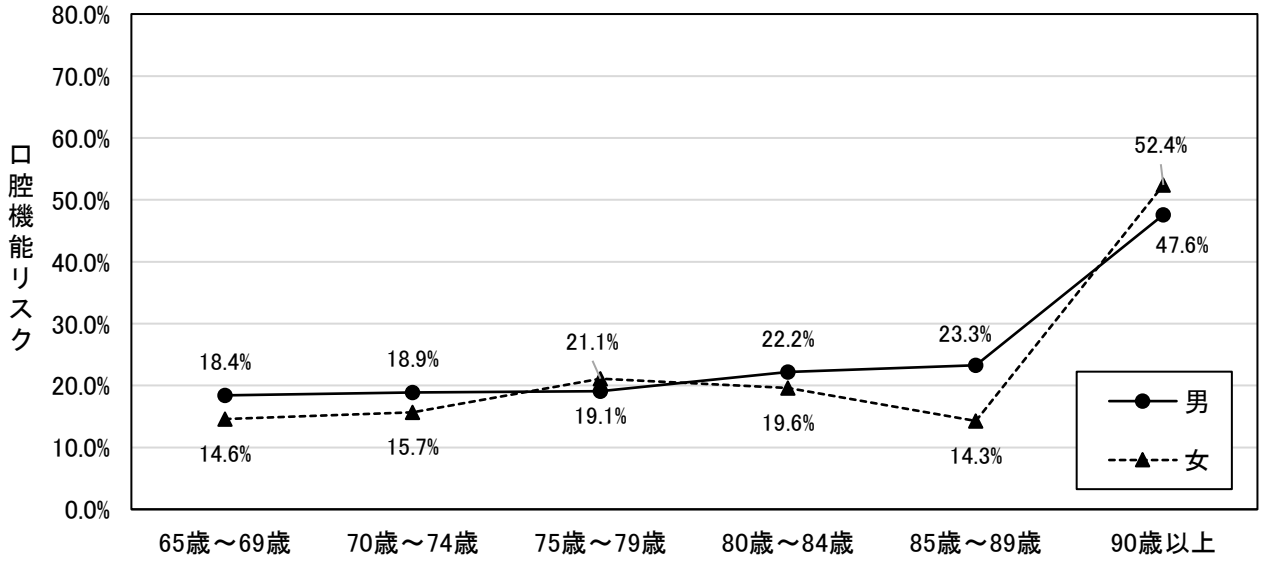
「該当」について地区別に見ると、中設楽地区が 24.1%で最も高く、古戸地区が 15.4%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 8.7 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　口腔機能リスク



口腔機能リスクについて性別・年齢階級別に見ると、男女共に「85 歳～89 歳」から「90 歳以上」にかけてリスクの該当率が高くなっています。

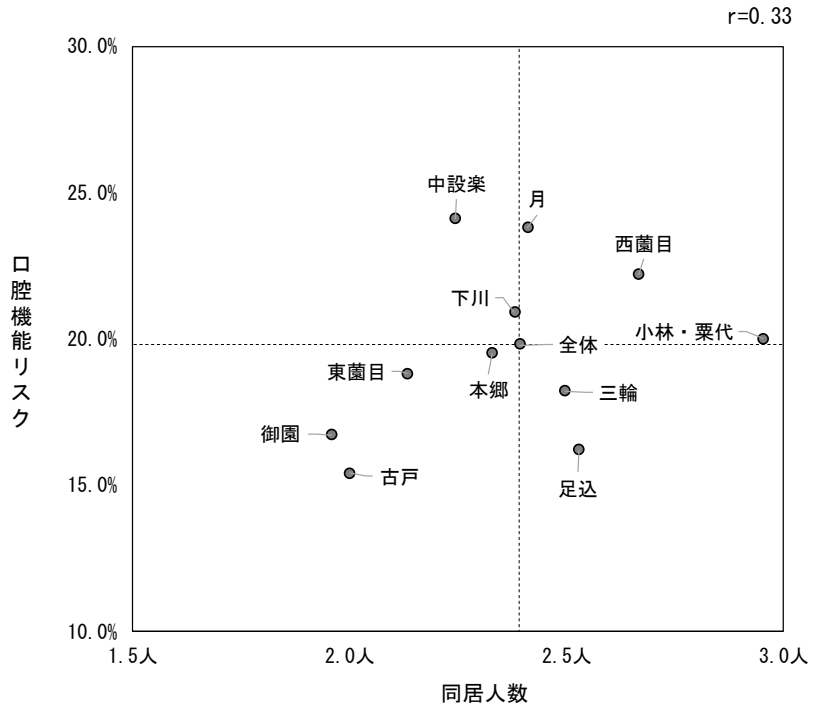
図表　性別・年齢階級別の口腔機能リスクの該当率



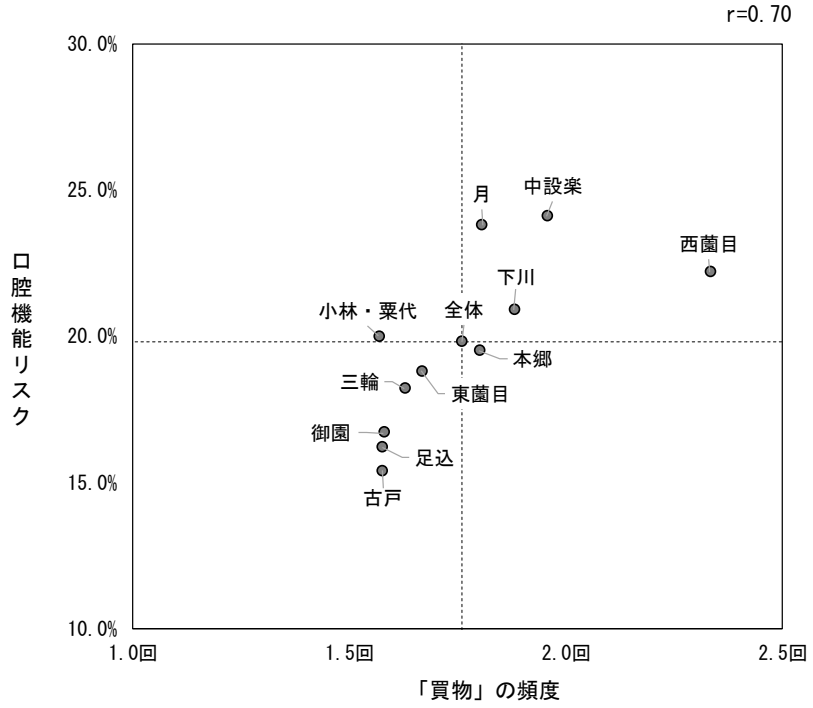
口腔機能リスクと設問（30）同居人数と設問（31）１週間あたりの目的別外出回数とで相関分析を行いました。

その結果、「同居人数」「散歩や運動」「地域活動や趣味」に弱い正の相関が、「買物」「友人・知人と会う」に正の相関がありました。

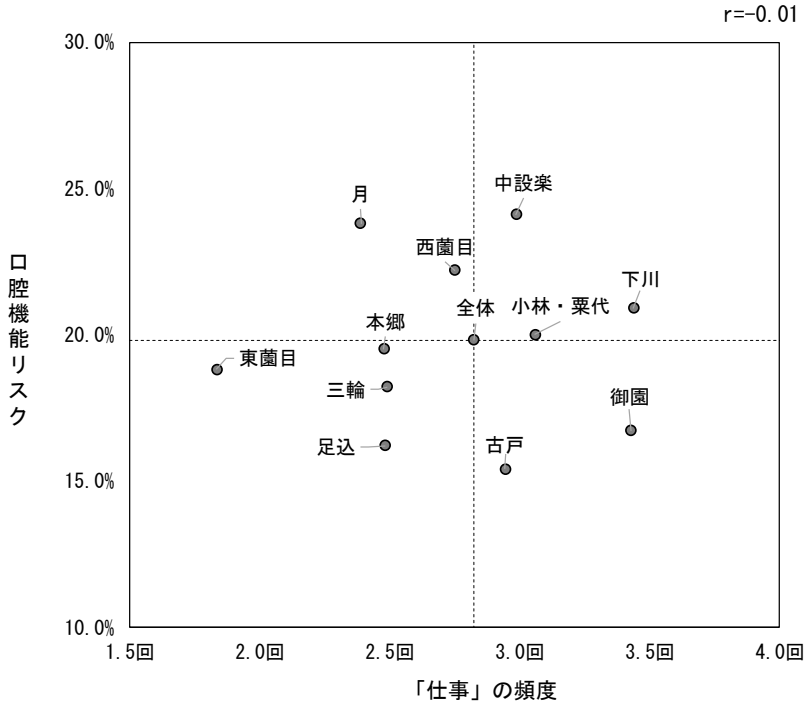
図表　口腔機能全般リスクと同居人数の相関係数



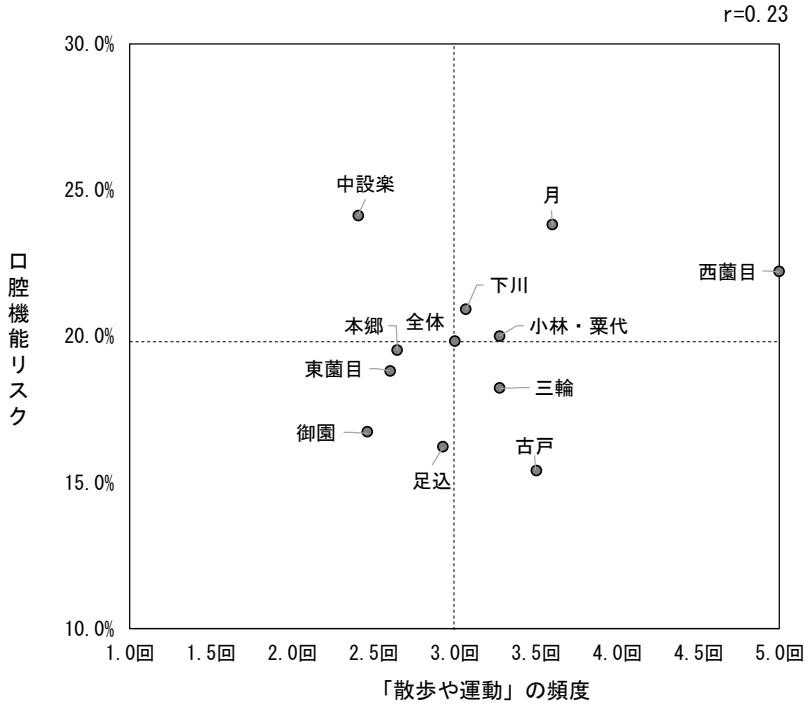
図表　口腔機能リスクと「買物」の相関係数



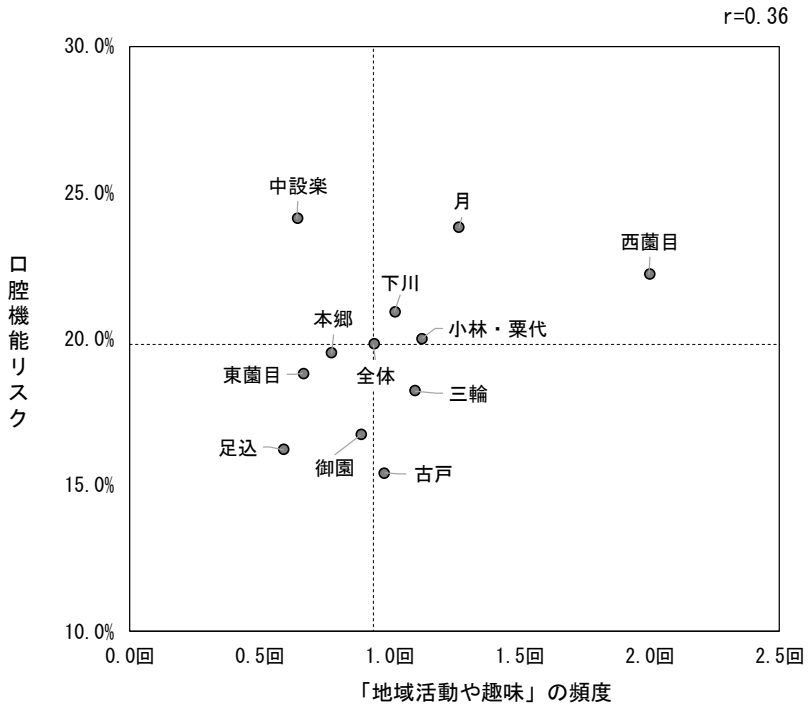
図表　口腔機能リスクと「仕事」の相関係数



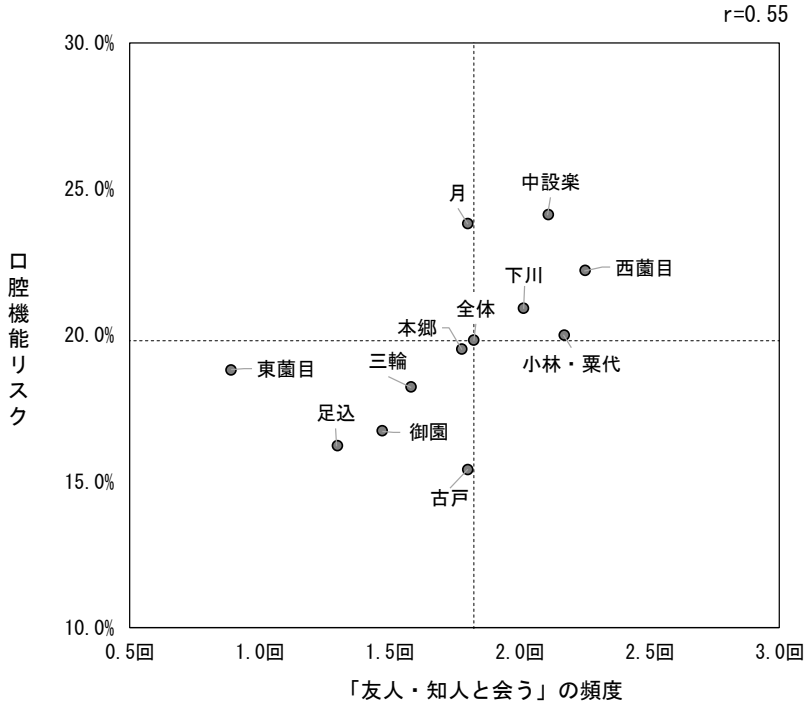
図表　口腔機能リスクと「散歩や運動」の相関係数



図表　口腔機能リスクと「地域活動や趣味」の相関係数



図表　口腔機能リスクと「友人・知人と会う」の相関係数

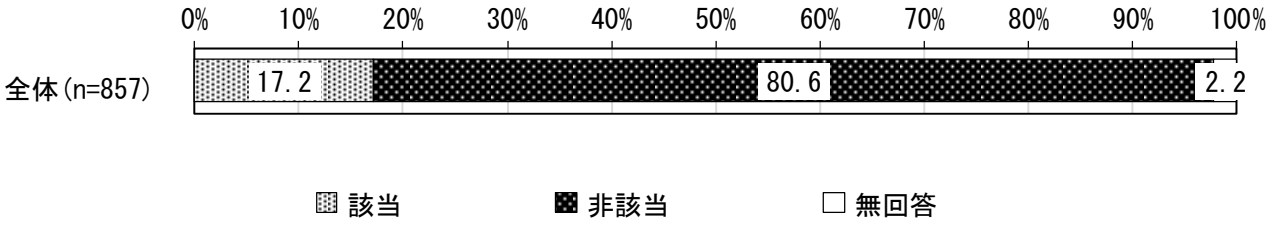


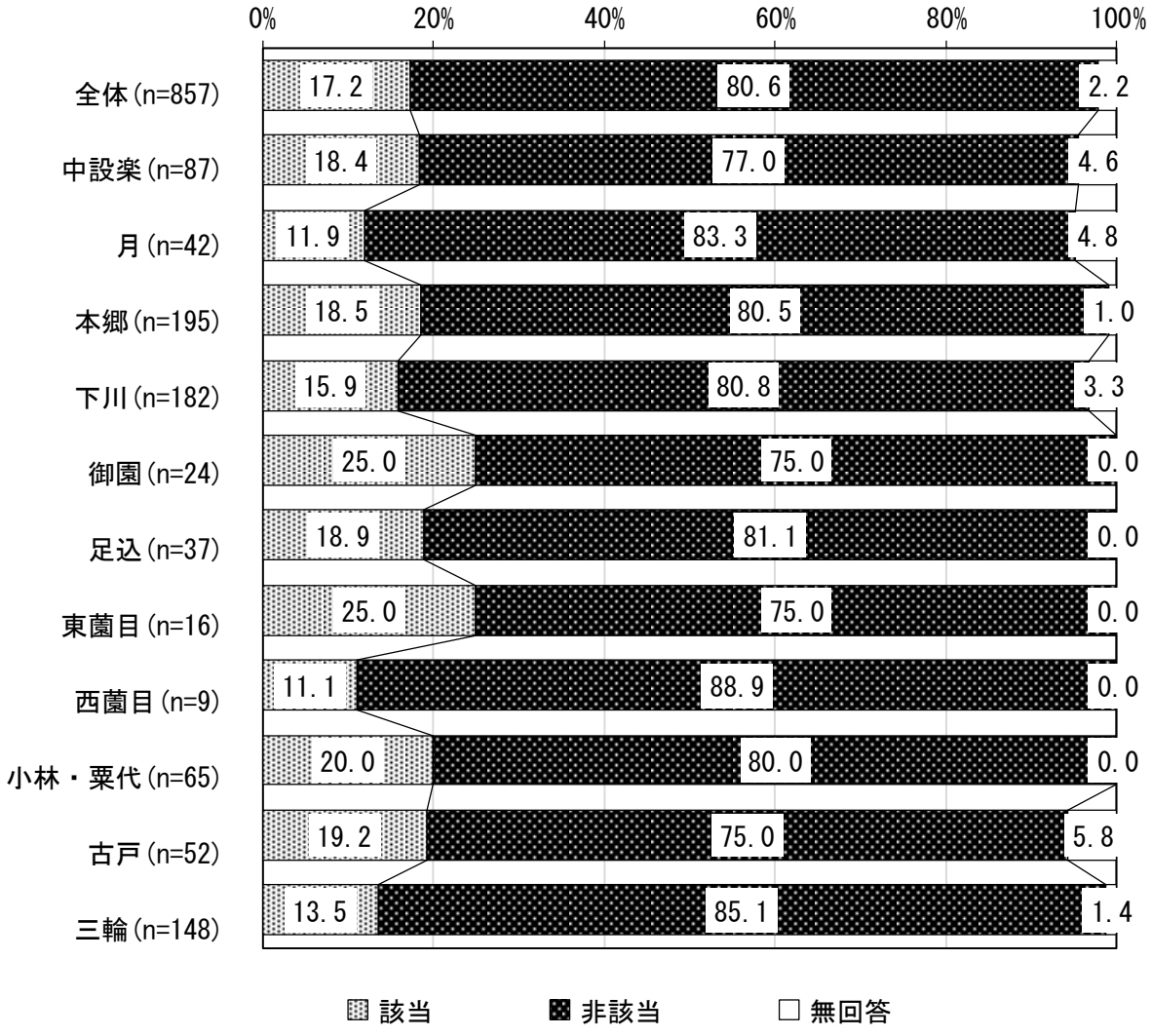
（39）閉じこもりリスク

閉じこもりリスクについて、「非該当」が 80.6%、「該当」が 17.2%となっています。

「該当」について地区別に見ると、御園地区と東薗目地区が 25.0%で最も高く、西薗目地区が 11.1%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 13.9 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

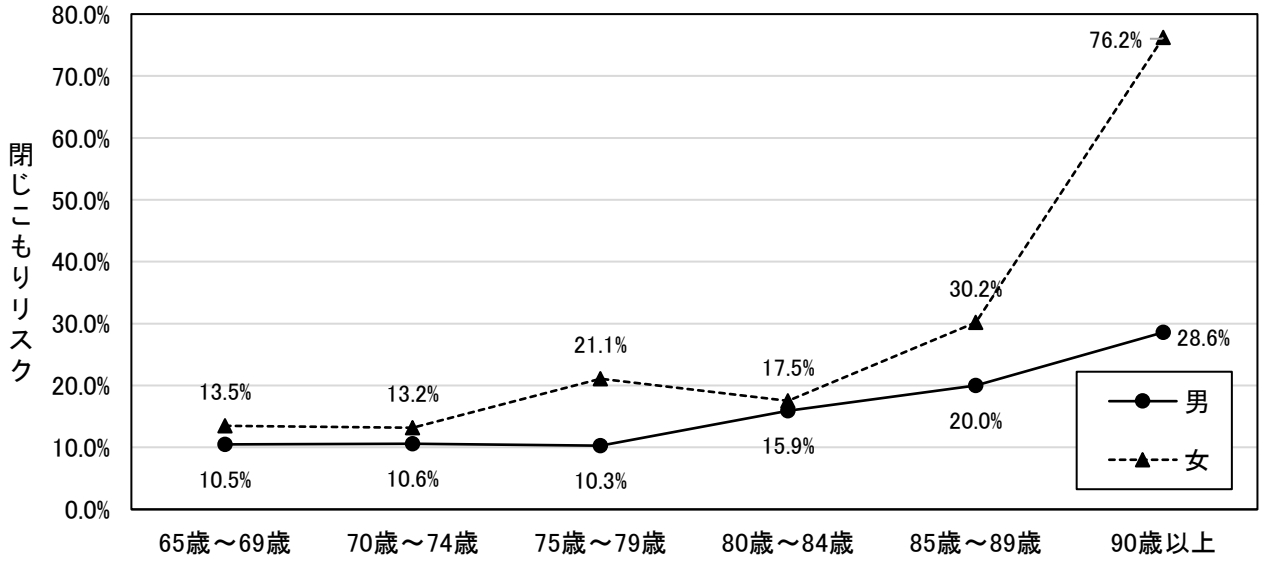
図表　閉じこもりリスク





閉じこもりリスクについて性別・年齢階級別に見ると、女性では、「70 歳～74 歳」から「75 歳～79 歳」にかけて、「85 歳～89 歳」から「90 歳以上」にかけて該当率が高くなっています。男性では、「75 歳～79 歳」以降で該当率が高くなる傾向にあります。いずれの年齢階級でも男性よりも女性で割合が高くなっており、「90 歳以上」では女性の該当率は 76.2%と男性よりも 47.6 ポイント高くなっています。

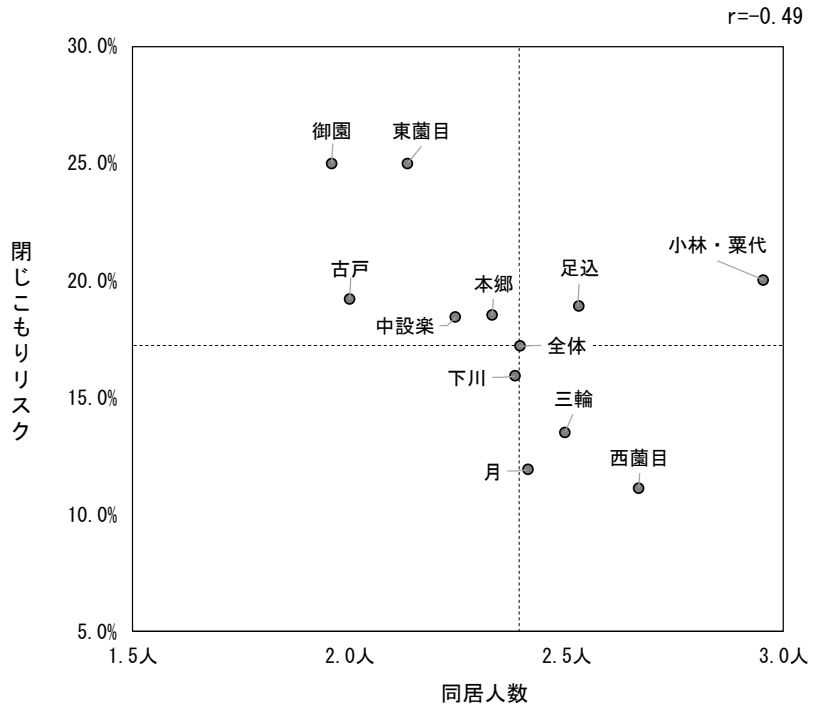
図表　性別・年齢階級別の閉じこもりリスクの該当率



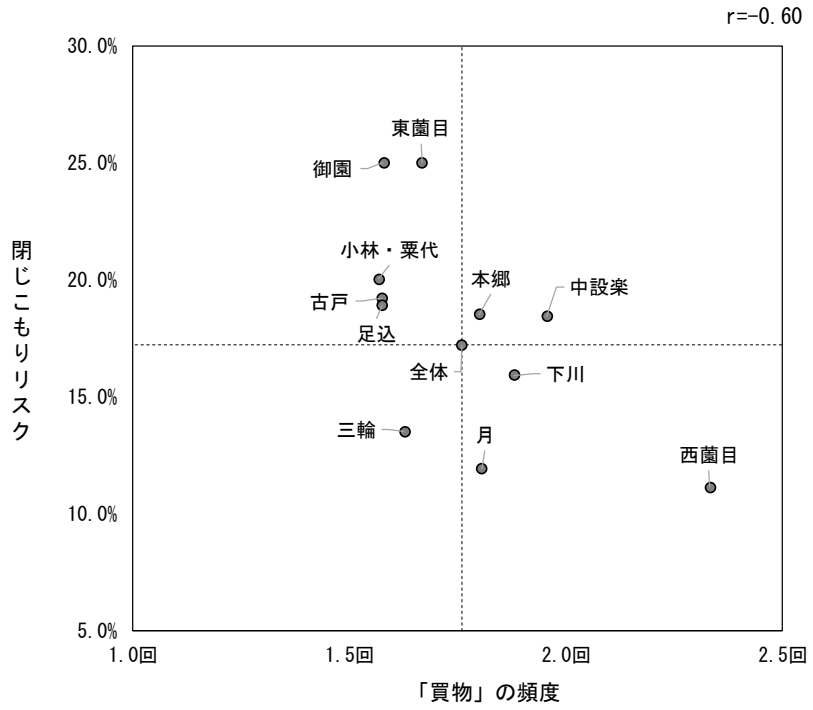
閉じこもりリスクと設問（30）同居人数と設問（31）１週間あたりの目的別外出回数とで相関分析を行いました。

その結果、「同居人数」「買物」「地域活動や趣味」「友人・知人と会う」に負の相関が、「散歩や運動」に強い負の相関がありました。

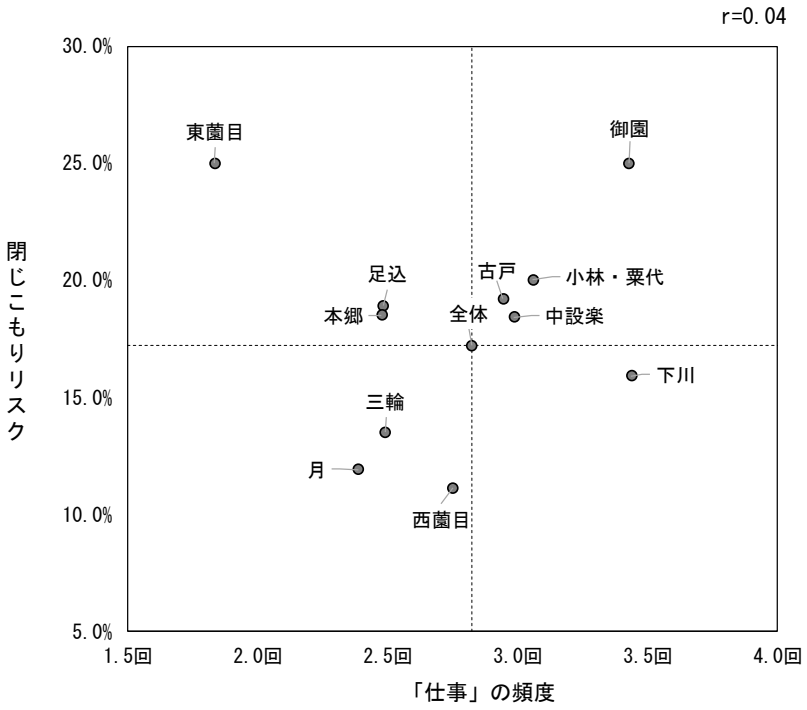
図表　閉じこもりリスクと同居人数の相関係数



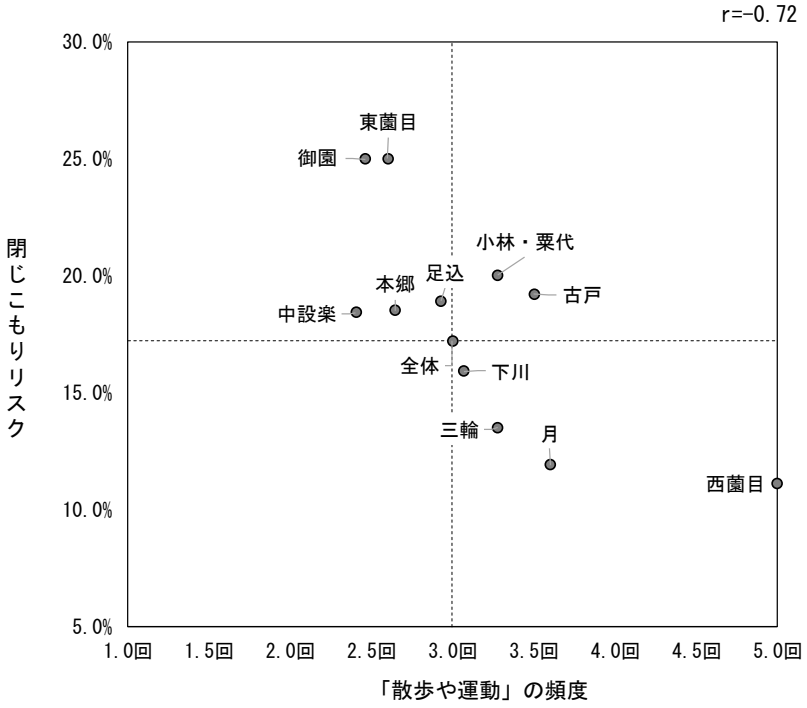
図表　閉じこもりリスクと「買物」の相関係数



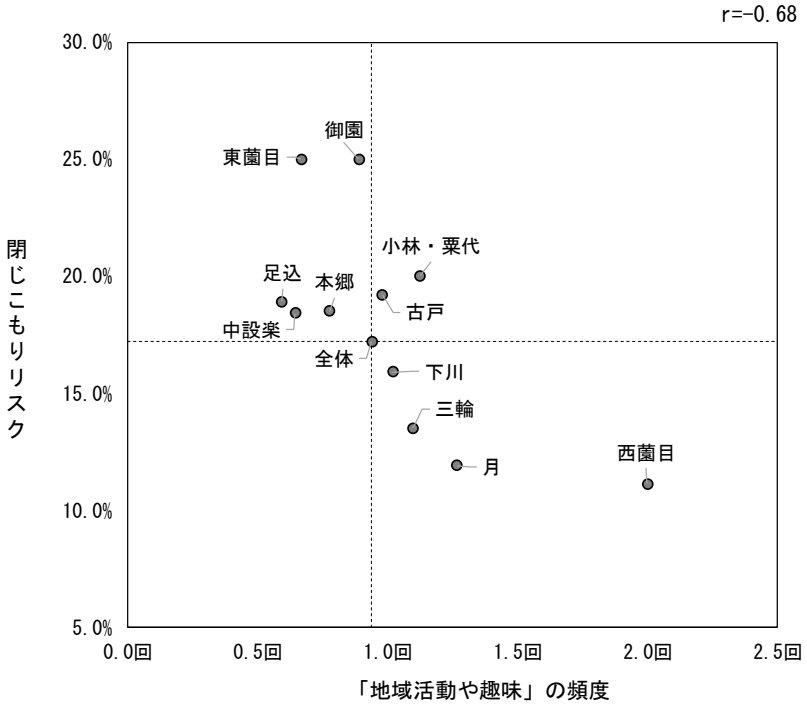
図表　閉じこもりリスクと「仕事」の相関係数



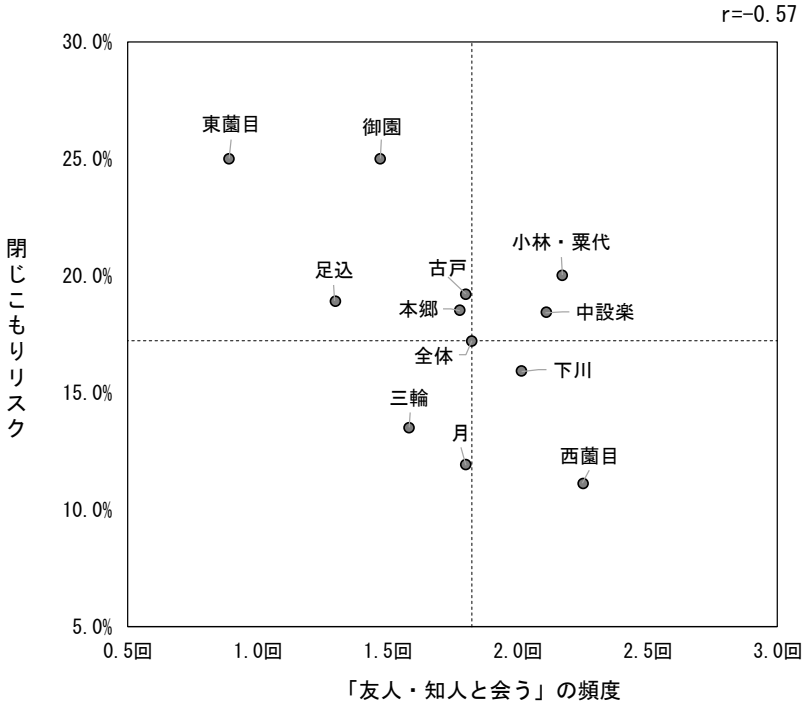
図表　閉じこもりリスクと「散歩や運動」の相関係数



図表　閉じこもりリスクと「地域活動や趣味」の相関係数



図表　閉じこもりリスクと「友人・知人と会う」の相関係数

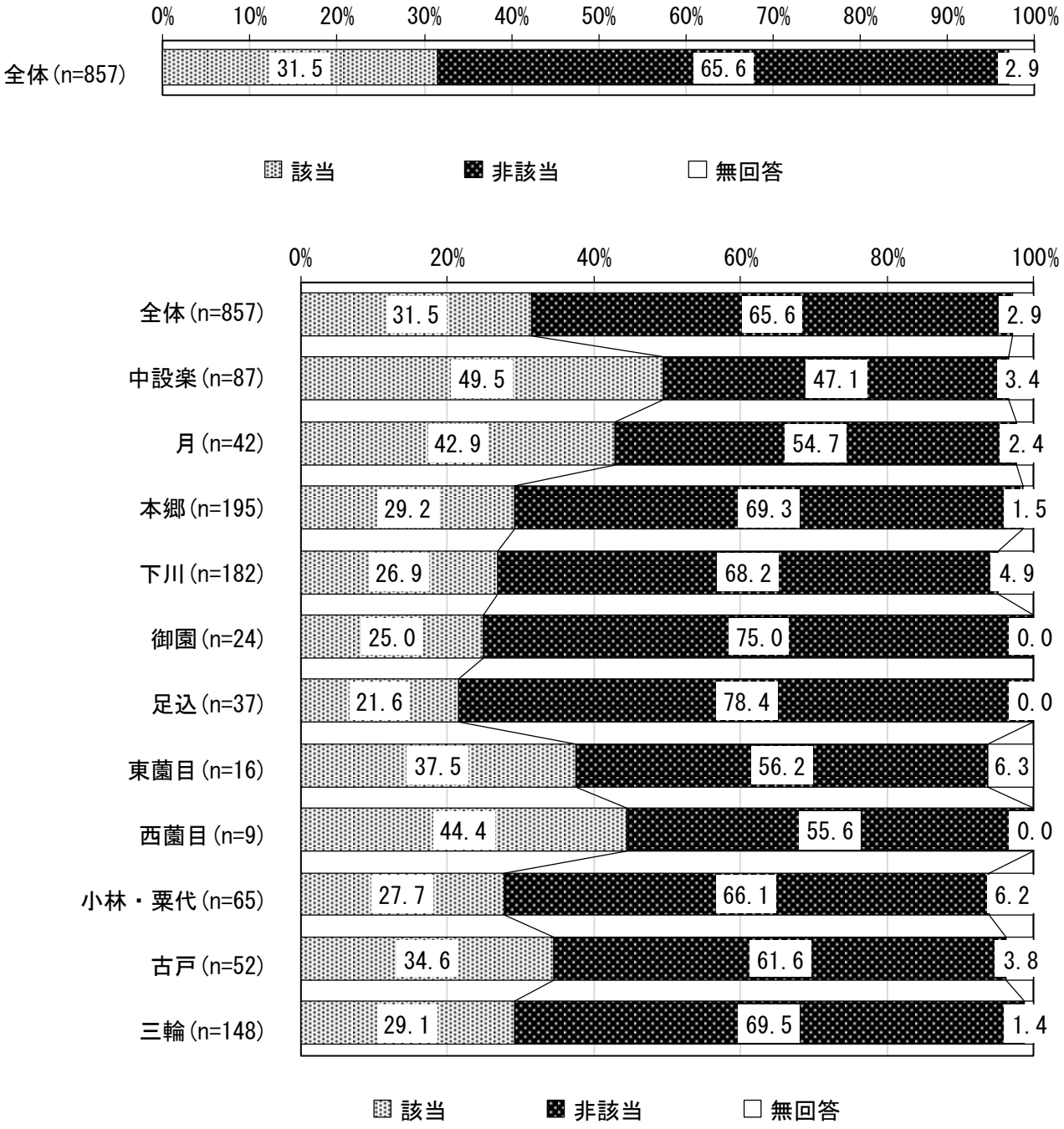


（40）認知機能リスク

認知機能リスクについて、「非該当」が 65.6%、「該当」が 31.5%となっています。

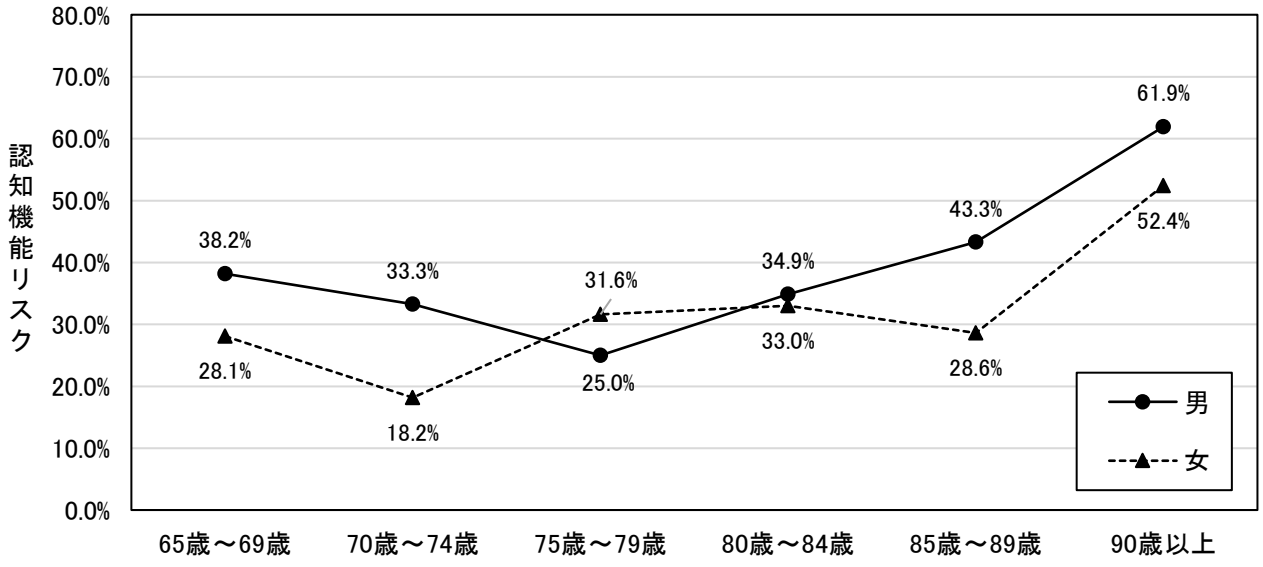
「該当」について地区別に見ると、中設楽地区が 49.5%で最も高く、足込地区が 21.6%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 27.9 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　認知機能リスク



認知機能リスクについて年齢階級ごとに見ると、男性では、「75 歳～79 歳」以降、該当率が高くなっています。女性では、「85 歳～89 歳」から「90 歳以上」にかけて該当率が高くなっています。

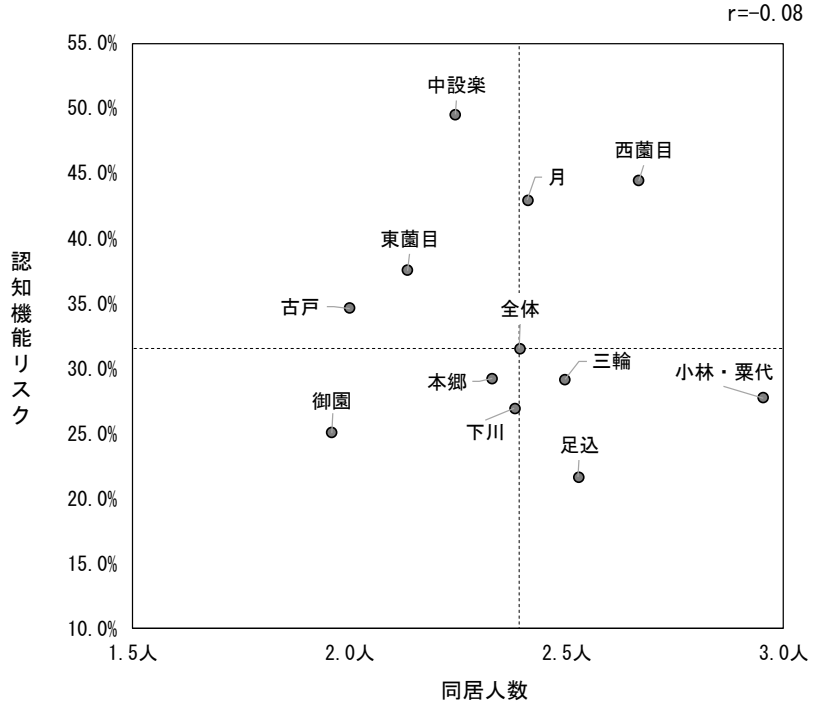
図表　性別・年齢階級別の認知機能リスクの該当率



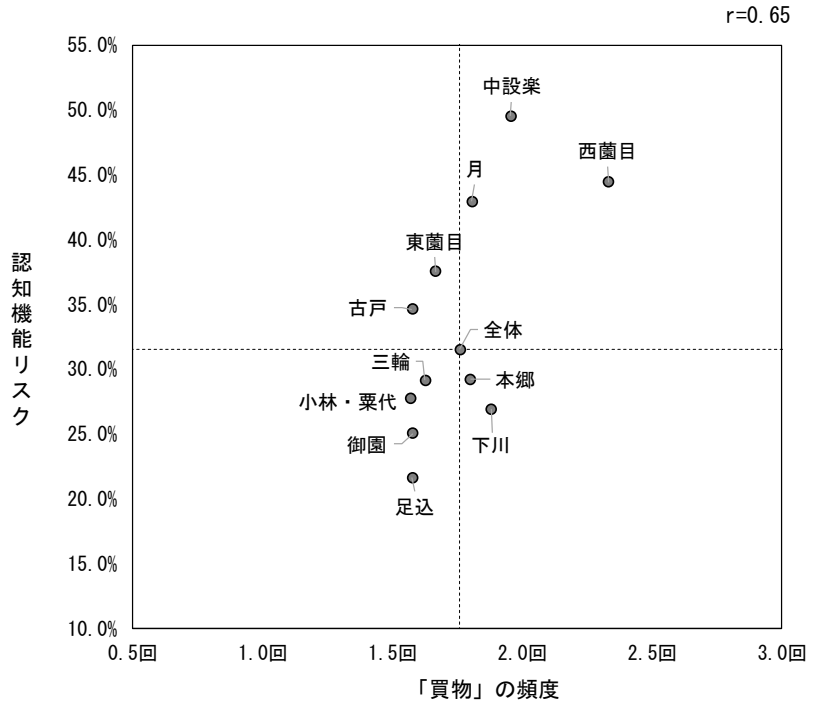
認知機能リスクと設問（30）同居人数と設問（31）１週間あたりの目的別外出回数とで相関分析を行いました。

その結果、「仕事」に弱い負の相関が、「散歩や運動」「地域活動や趣味」「友人・知人と会う」に弱い正の相関が、「買物」に正の相関がありました。

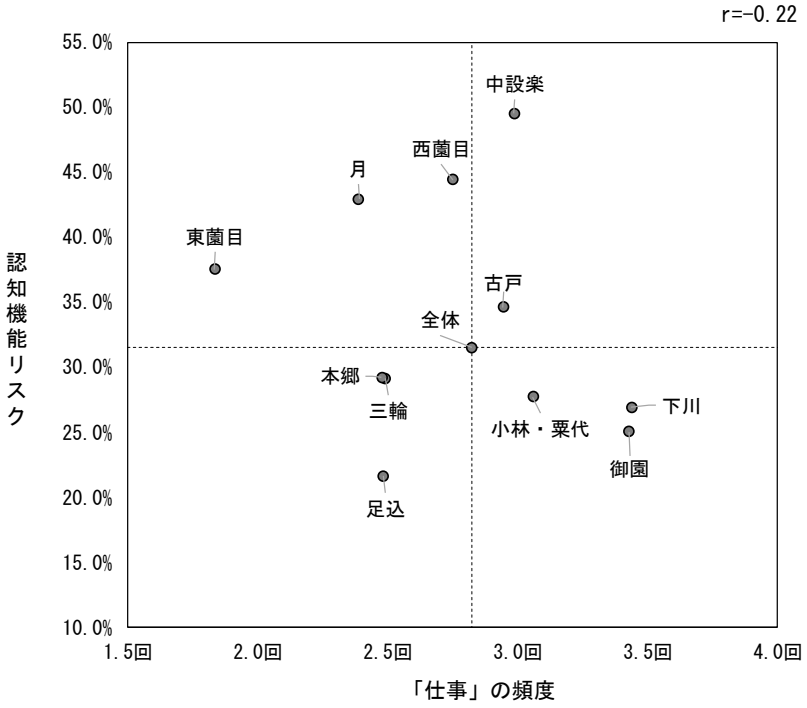
図表　認知機能リスクと「同居人数」の相関係数



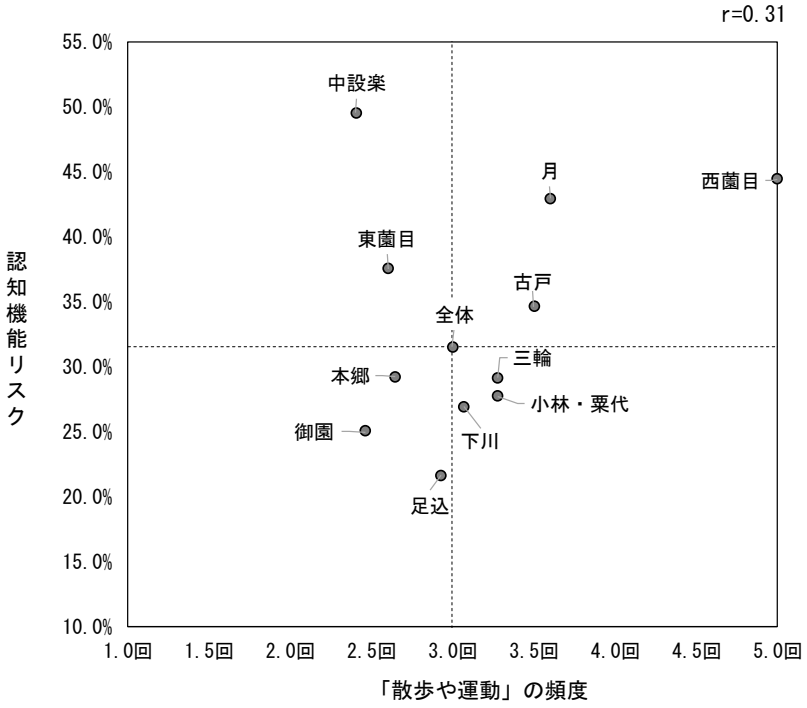
図表　認知機能リスクと「買物」の相関係数



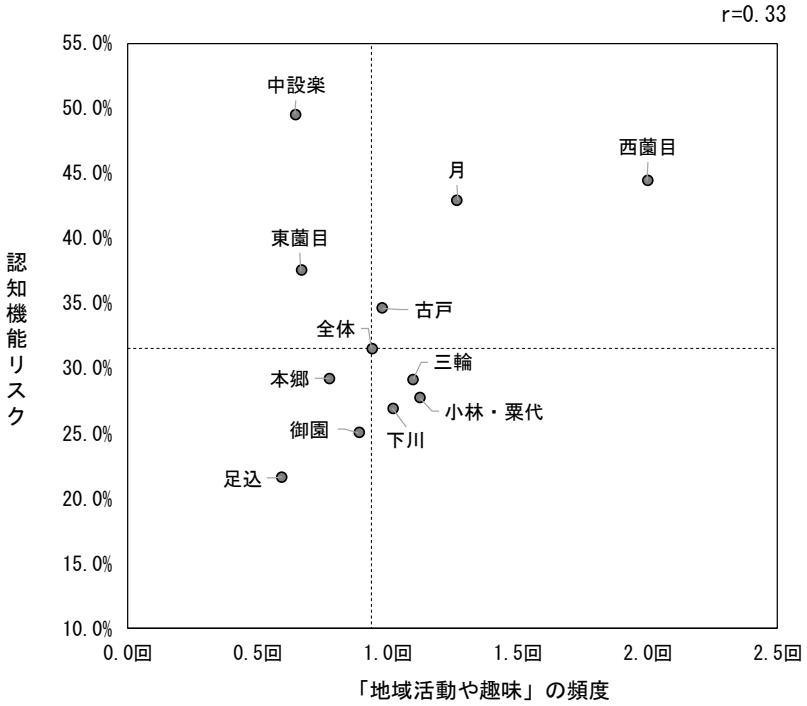
図表　認知機能リスクと「仕事」の相関係数



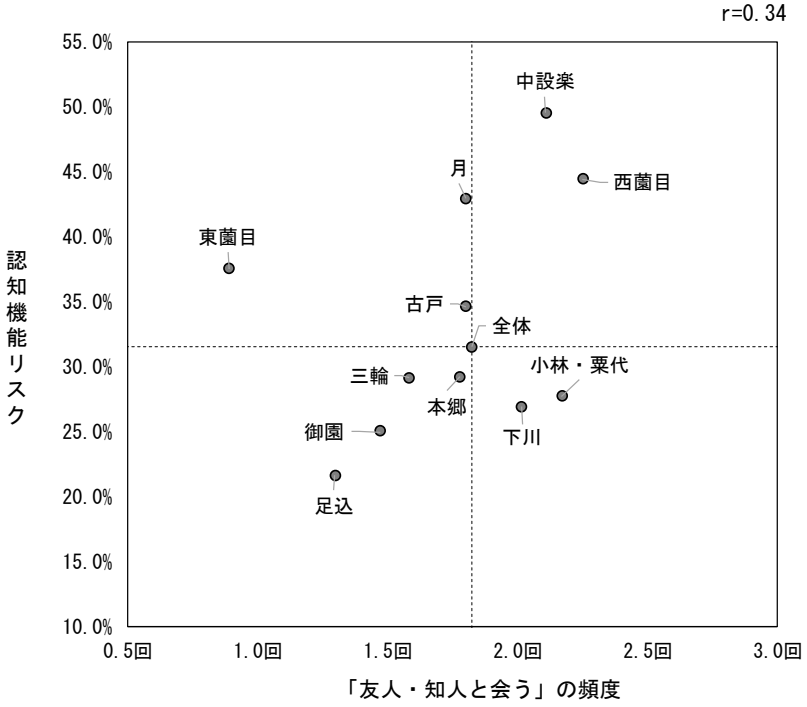
図表　認知機能リスクと「散歩や運動」の相関係数



図表　認知機能リスクと「地域活動や趣味」の相関係数



図表　認知機能リスクと「友人・知人と会う」の相関係数

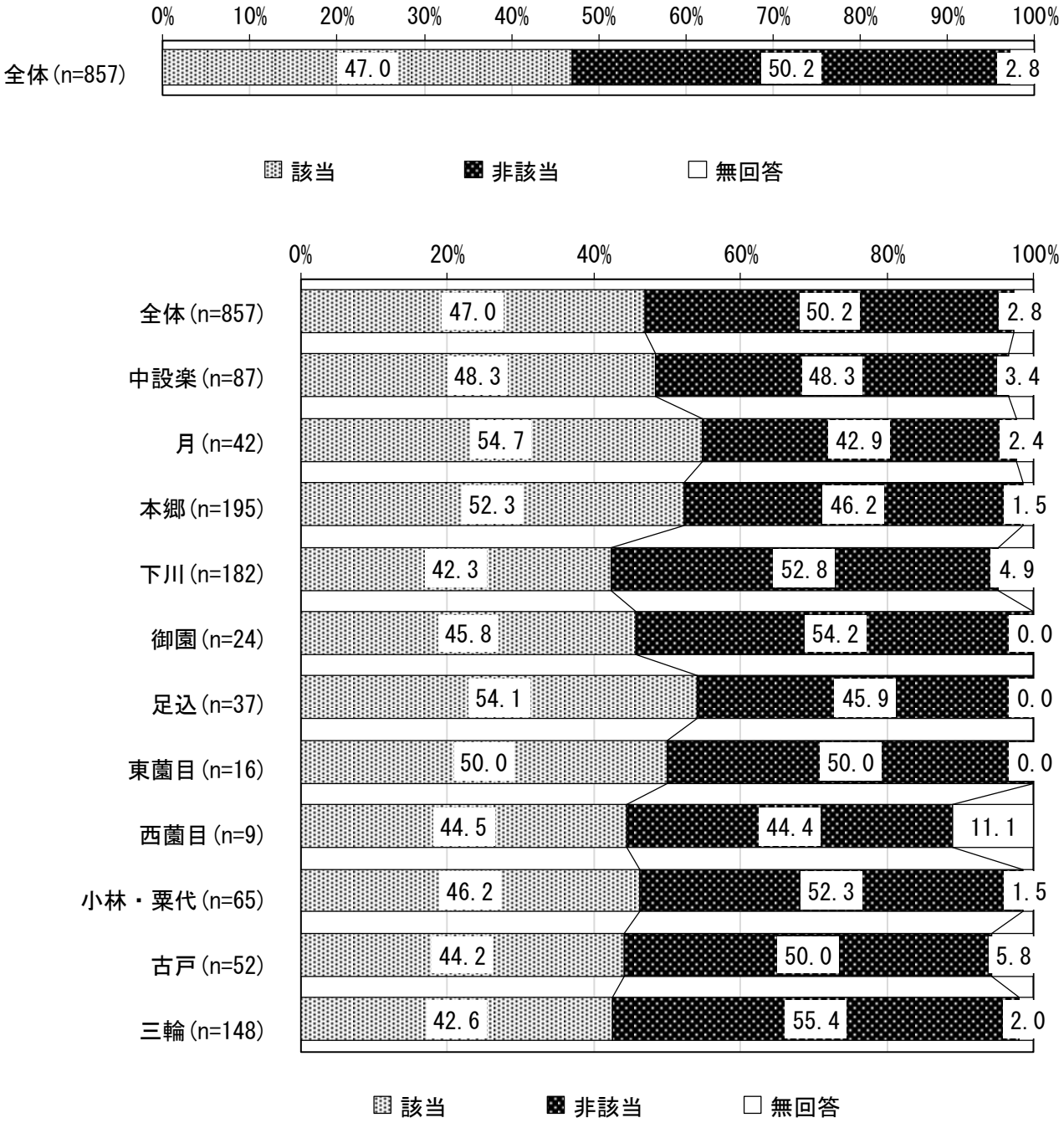


（41）うつリスク

うつリスクについて、「非該当」が 50.2%、「該当」が 47.0%となっています。

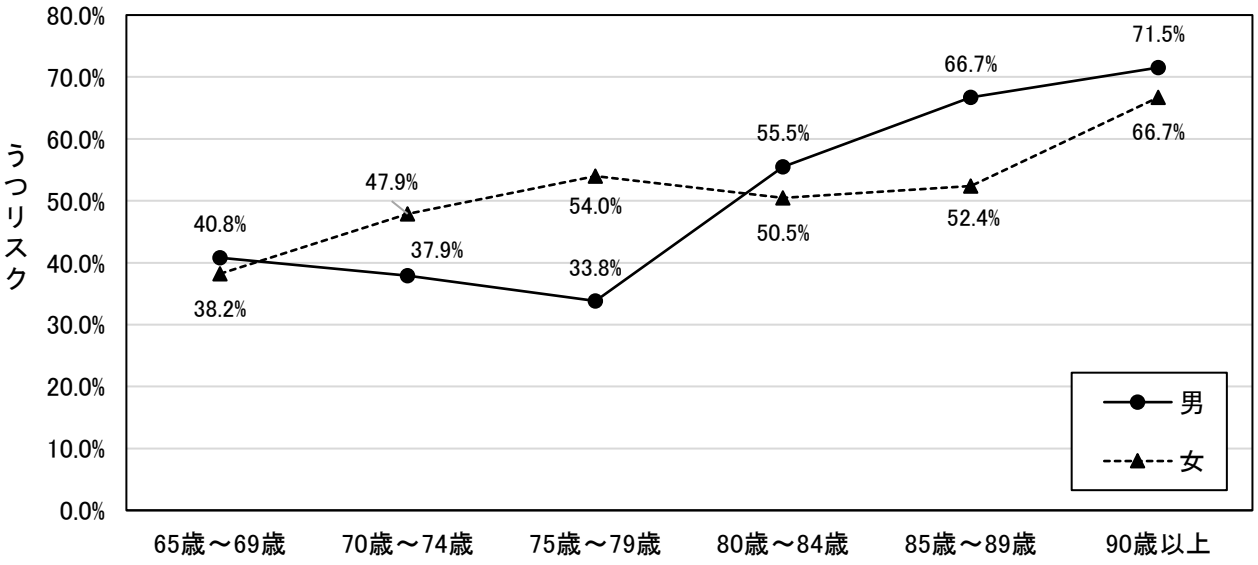
「該当」について地区別に見ると、月地区が 54.7%で最も高く、下川地区が 42.3%で最も低くなっており、高い地区と低い地区で 12.4 ポイント差があります。（ただし、東薗目地区、西薗目地区では、サンプル数が少ないため結果を見る上では注意が必要です。）

図表　うつリスク



うつリスクについて年齢階級ごとに見ると、男性においては「75 歳～79 歳」以降に増加する傾向にあります。女性においては増減があるものの、おおむね年齢が上がるごとに増加する傾向にあります。

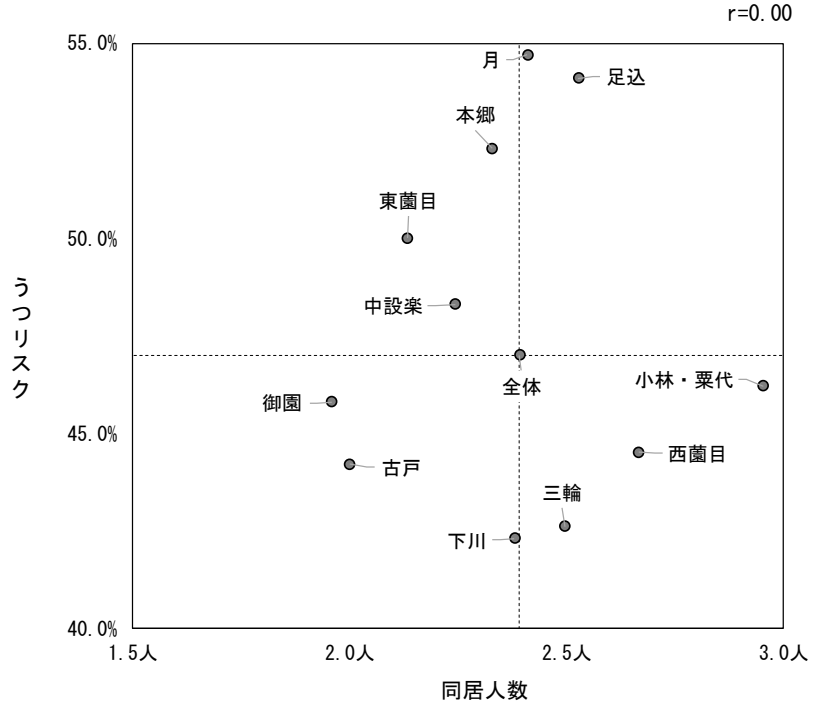
図表　性別・年齢階級別のうつリスクの該当率



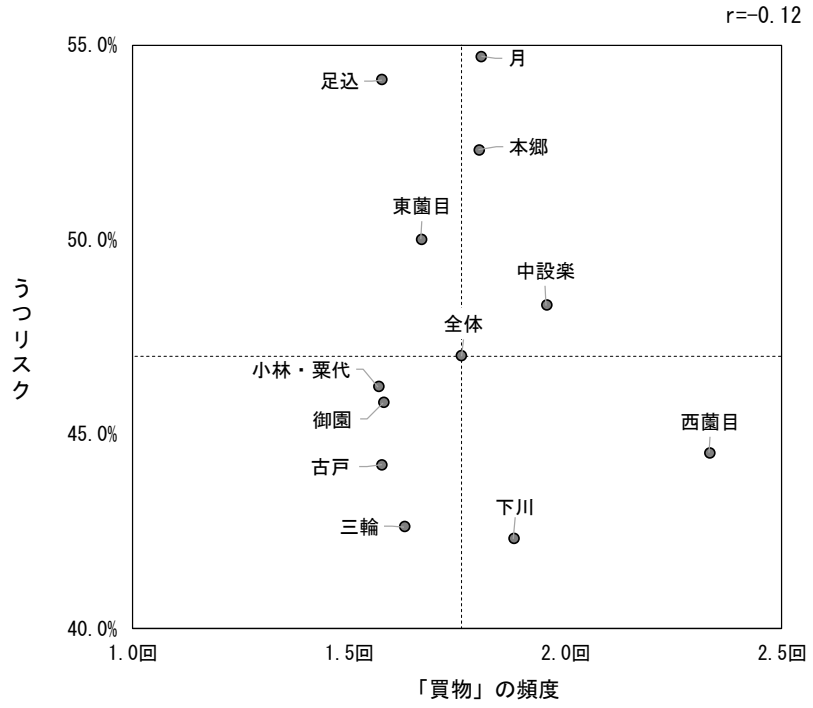
うつリスクと設問（30）同居人数と設問（31）１週間あたりの目的別外出回数とで相関分析を行いました。

その結果、「散歩や運動」「地域活動や趣味」「友人・知人と会う」に弱い負の相関が、「仕事」に負の相関がありました。

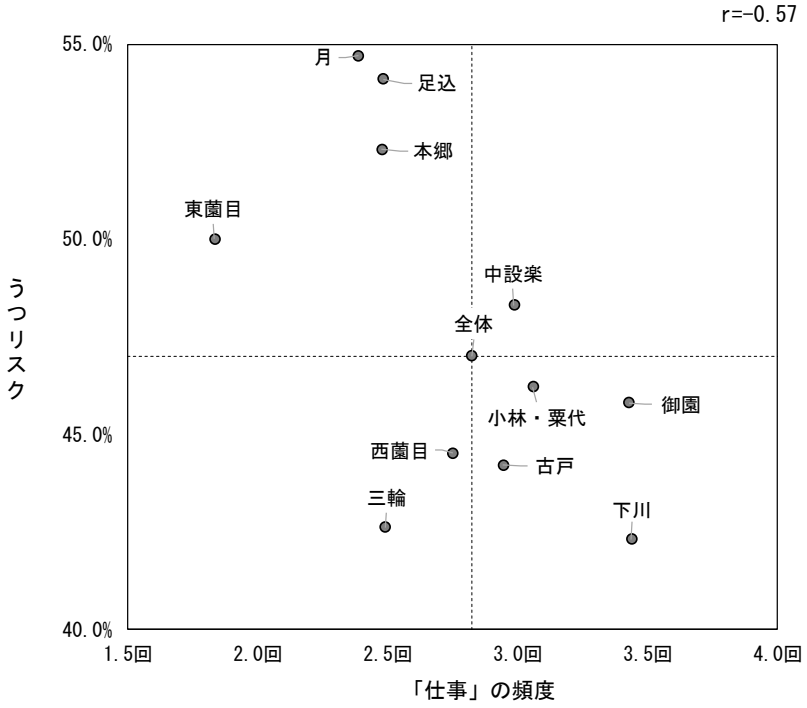
図表　うつリスクと「同居人数」の相関係数



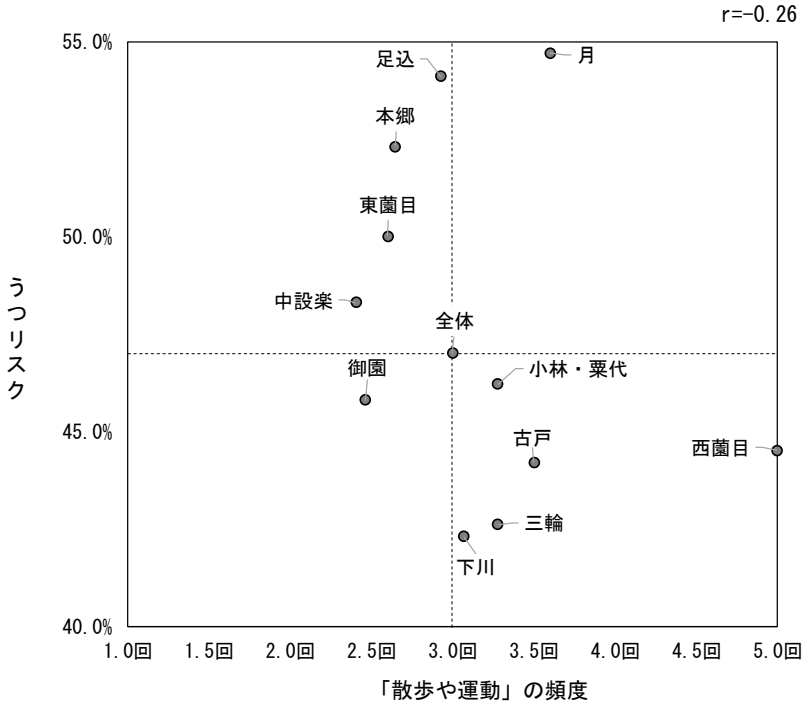
図表　うつリスクと「買物」の相関係数



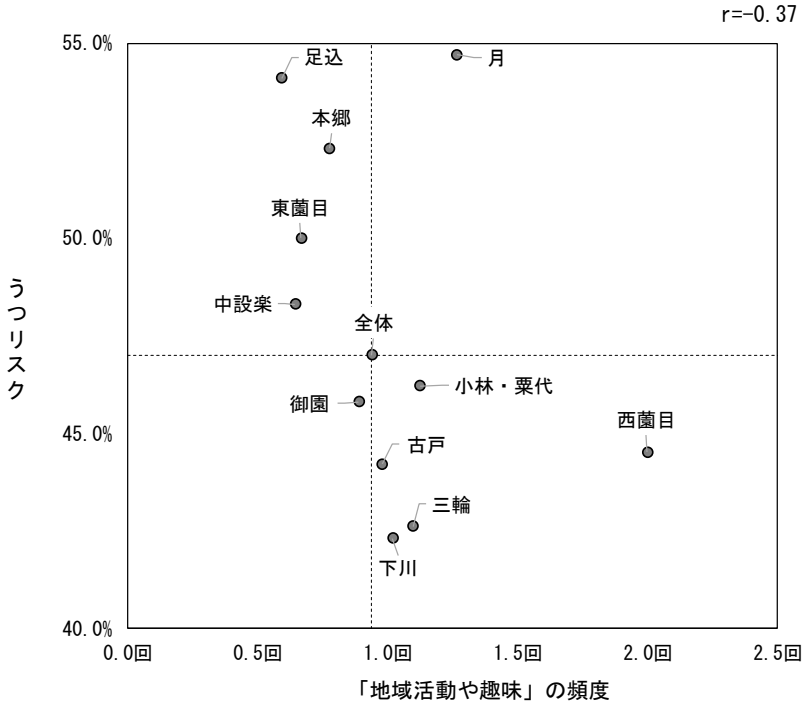
図表　うつリスクと「仕事」の相関係数



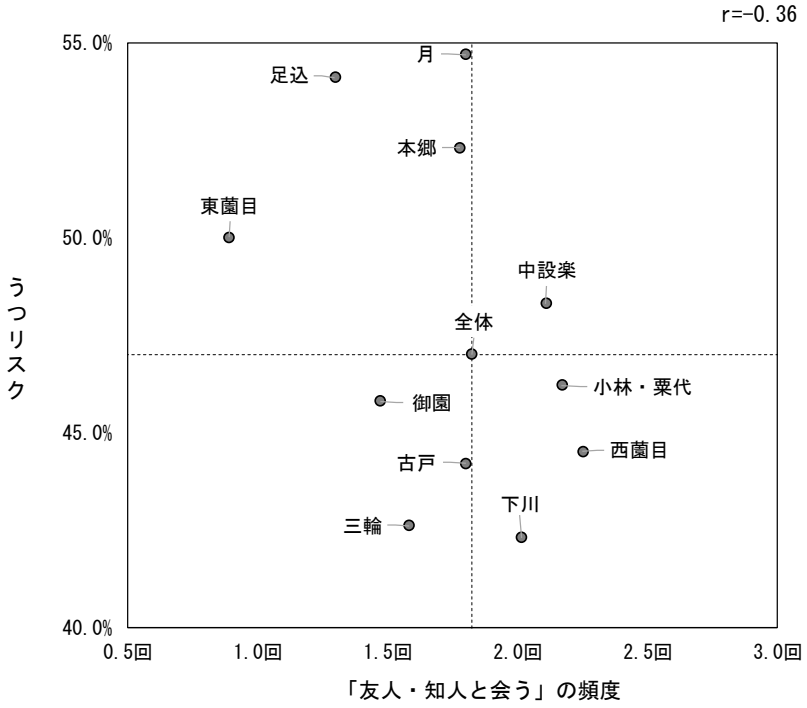
図表　うつリスクと「散歩や運動」の相関係数



図表　うつリスクと「地域活動や趣味」の相関係数



図表　うつリスクと「友人・知人と会う」の相関係数



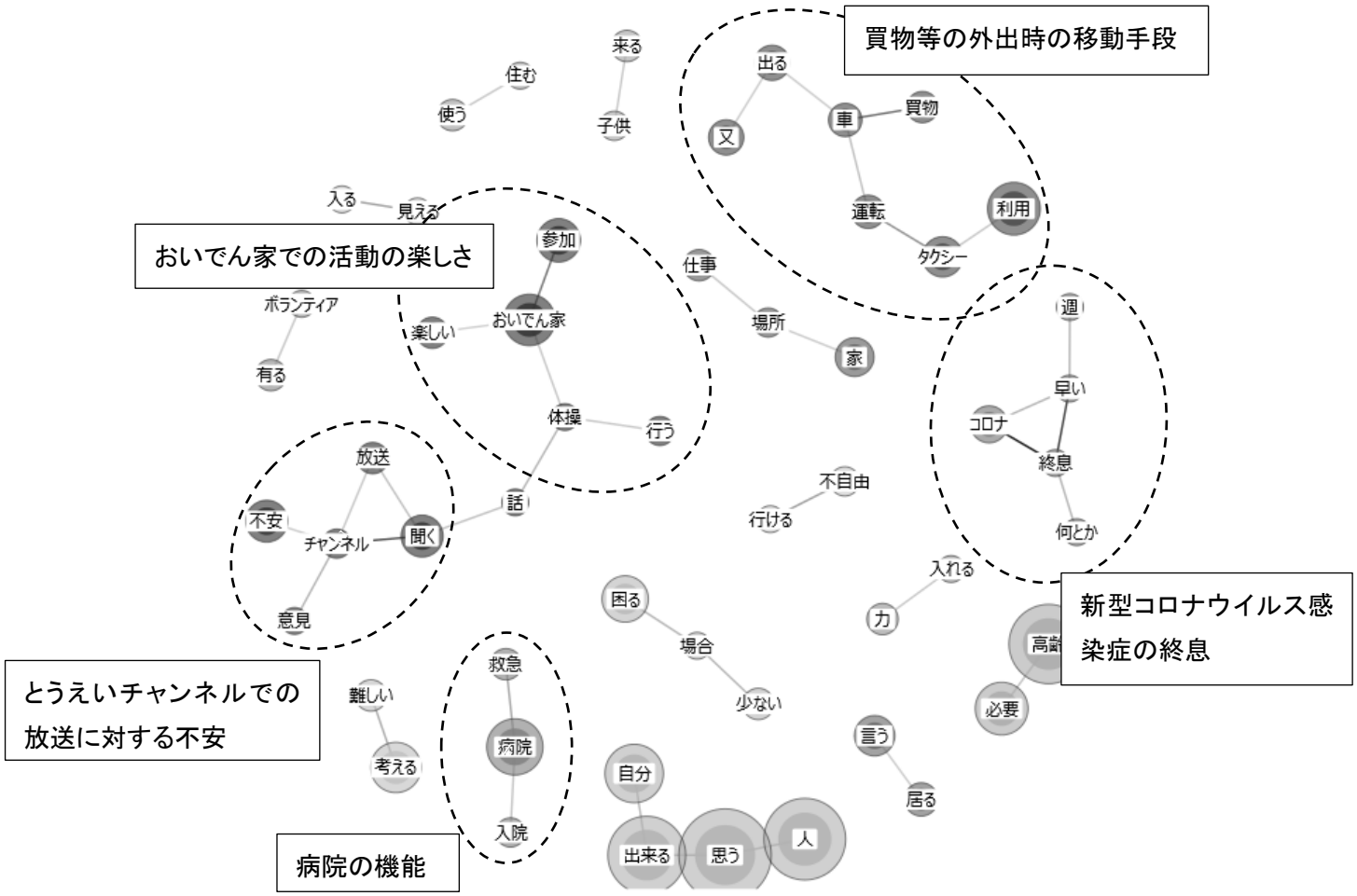
11. 自由意見

自由意見の概況

それぞれの自由意見の中で用いられた語と語の関係性を示した共起ネットワーク図を以下に示します。図における円の大きさは単語の出現数を、線で結ばれているもの同士が同じ文章内に共通に出現している共起関係にあることを示しています。

共起ネットワーク図からは、「おいでん家での活動の楽しさ」「買物等の外出時の移動手段」「とうえいチャンネルでの放送に対する不安」「新型コロナウイルス感染症の終息」「病院の機能」に関する意見が多いことがうかがえます。

図表　共起ネットワーク図



項目別件数

自由意見は 202 件の回答がありました。項目別に分類すると、「病院、医療に関すること」が 30 件と最も多くなっています。次いで、「交通や移動に関すること」が 29 件、「町の施策に関すること」が 23 件の順となっています。ただし、自由意見が複数の内容に関わる場合、重複して分類しています。

図表　自由意見の分類

内容（一部抜粋）	件数
１．病院、医療に関すること	30
医療の充実／病院の機能が縮小(入院)されるのが不安であり、不満である。／体調が急に悪くなった時に遠くの病院に行く不安	
２．交通や移動に関すること	29
町バス乗り降り大変で階段数を改良できたらと思います。／バスが入らない所への予約バスはとても良いと思います。／車に乗れなくなったらどう、生活がかわるのか心配です。	
３．町の施策に関すること	23
高齢者の皆さんが高齢者福祉でサービスが受けられることを知っていない。／高齢者福祉としてどんなことをしているのか分からない。／町社協・各ボランティアグループとの横の連携が必要。活動内容の重複など見られるため高齢者に混乱をきたしている。役割分担をして福祉施策の広がりを目指すべきでは？	
４．おいでん家に関すること	19
私もおいでん家へ行ってますが皆と話をしたり体操など家でできないことが楽しくできます。／おいでん家に来る人は固定しています。／おいでん家で少しずつでも手先を使ったことをやってほしい。	
５．人間関係、人付き合いに関すること	19
足腰が弱くなると、家にこもりがちになる。こまめな状況把握が大事だと思う、気軽に話ができる「お隣さん」的なものが大事になってくると思う。／高齢化もすすみ地域や近所での助け合いも難しくなると思います。	
６．介護保険・介護サービスに関すること	16
介護保険はどのような時、どのようなことで利用できるのですか?／家族の不幸や病気になった時、一時的でも年寄りを預かってくれると良いと思います。／やまゆり荘は建物が古く、現在の介護施設としては、成り立っていないと聞きますが、近い将来新しい施設を建てる計画はあるのでしょうか。	
７．感じている不安に関すること	13
２人暮らし、今のところはなんとか生活しているけど先が不安。／まだ自分で何でもできますが 10 年後、免許証を返納した時の不便さを考えると不安になります。／今のところ家事もできて生活していますが体が弱くなることが１番の心配です。	

８．自助・互助・共助・公助に関すること	12
町民相互の依頼に基づくプログラム(共助、公助等)があれば内容によりできる限り協力は惜しまない。／医療体制が不足、(入院、時間外、透析)　筋肉強化、自助、共助と、病気は別物。ケガは別物。	
９．町からの連絡・広報の方法に関すること	12
緊急事態宣言が出た時の放送がテレビチャンネルでは聞き逃す、また屋外の放送は家の中では全く聞こえないので不安／とうえいチャンネルで、地域のこと、行事、お知らせしますと聞いても、やり方が分からなくて、困っている人が多いと思います。	
10．福祉に関すること	13
核家族化で老々介護を身近に感じるようになりました。高齢者の福祉が充実できるようになれば、と思います。／仕事をしてくださる人材。働きやすい場所、楽しく働ける所があれば、福祉対策はクリアできるのではないでしょうか？	
11．一人暮らしに関すること	10
一人暮らし家庭には１か月か２か月に一度位、社会福祉の人が来てくれると心強い、民生委員の方でも良い。／一人暮らしの家に緊急時につながる、電話等を設備してもらいたいです。	
12．活動の場に関すること	10
健康維持のための健康講座など参加しやすい形で設けてほしい(また開催の告知を分かりやすく)／気軽に行ける公園があると良い。旧中央小学校の跡地(グランド)を利用させてほしい。公園の作成は地元のボランティアでやれる。	
13．見守りに関すること	7
おいでん家に来る人は固定しています。来ない一人暮らしの人への訪問や声かけが、これからは大切になってくるのでは…／90 歳超えたじいちゃんばあちゃんが多い東栄町　元気かいの声一言でいいです。思いやりをもっていただくとうれしいです。	
14．若い世代に関すること	7
町を出て行く人が多い中で、残ってくれている子育て世代に対しもっと力を注いであげてほしいと思います。／人手不足を解消し、若い世代が住み良い子どもを育てやすい環境を整えることが第一ではと思っています。	
15．買物に関すること	5
移動販売を増やしてほしい。／年々皆年を取っていくので車や歩くこともできなくなりますので買物の補助や手助けが必要と思います。	
16．草刈りに関すること	4
高齢者所有の空地の草刈り。火災予防のため／生活道の整備(道路上に伸びた古枝等の伐採)	
17．ゴミ出しに関すること	3
資源ゴミ回収のストックヤードは自分で持ち込みできる人には大変良いが、できない人への対応を検討願います。	
18．仕事やボランティア活動に関すること	2
高齢でも必要とされる仕事があれば、そこに人間関係も生じて考え、悩み活力も備わる。「明日も頑張るぞ。」と思える、自分自身になることが大事。	

Ⅳ　地区別カルテ

本調査結果をもとに、11 の地区ごとの人口や高齢化率、リスクの該当状況をまとめました。

図表　11 地区の状況と町全体との比較

			東栄町全体	中設楽	月	本郷	下川	御園	足込
1. 基礎データ									
	人口	（人）	2,990	336	166	751	623	83	95
	高齢者数	（人）	1,499	179	77	366	283	49	59
	高齢化率	（%）	50.1	53.3	46.4	48.7	45.4	59.0	62.1
	75 歳以上人口の割合	（%）	29.7	33.3	25.9	26.8	24.7	42.2	40.0
	高齢者1人を支える現役世代の人数	（人）	0.83	0.77	0.99	0.85	0.97	0.55	0.51
	世帯数	（世帯）	1,412	175	63	357	272	40	47
2. リスクの状況									
	生活機能全般リスク	（%）	8.6	12.6	9.5	9.2	6.0	12.5	10.8
	運動器機能リスク	（%）	23.1	21.8	28.6	24.1	19.2	41.7	32.4
	低栄養リスク	（%）	2.0	2.3	0.0	2.1	2.2	0.0	0.0
	口腔機能リスク	（%）	19.8	24.1	23.8	19.5	20.9	16.7	16.2
	閉じこもりリスク	（%）	17.2	18.4	11.9	18.5	15.9	25.0	18.9
	認知機能リスク	（%）	31.5	49.5	42.9	29.2	26.9	25.0	21.6
	うつリスク	（%）	47.0	48.3	54.7	52.3	42.3	45.8	54.1

			東栄町全体	東薗目	西薗目	小林・粟代	古戸	三輪
1. 基礎データ								
	人口	（人）	2,990	61	34	229	154	458
	高齢者数	（人）	1,499	34	20	104	91	237
	高齢化率	（%）	50.1	55.7	58.8	45.4	59.1	51.7
	75 歳以上人口の割合	（%）	29.7	27.9	44.1	30.6	38.3	31.2
	高齢者1人を支える現役世代の人数	（人）	0.83	0.71	0.60	1.03	0.58	0.81
	世帯数	（世帯）	1,412	34	19	94	75	236
2. リスクの状況								
	生活機能全般リスク	（%）	8.6	18.8	0.0	10.8	9.6	5.4
	運動器機能リスク	（%）	23.1	31.3	22.2	26.2	21.2	18.9
	低栄養リスク	（%）	2.0	12.5	22.2	3.1	1.9	0.0
	口腔機能リスク	（%）	19.8	18.8	22.2	20.0	15.4	18.2
	閉じこもりリスク	（%）	17.2	25.0	11.1	20.0	19.2	13.5
	認知機能リスク	（%）	31.5	37.5	44.4	27.7	34.6	29.1
	うつリスク	（%）	47.0	50.0	44.5	46.2	44.2	42.6

１．中設楽

地区の基礎データ

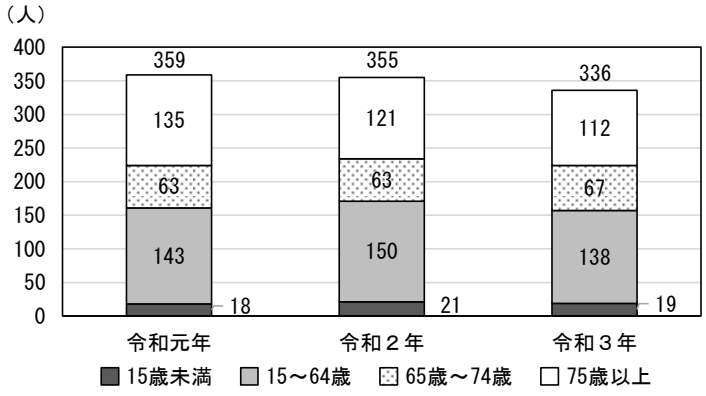
①人口と高齢化率

地区の人口は減少傾向にあり、令和３年度は 336 人となっています。高齢化率は 53.3%と町全体よりも 3.2 ポイント高くなっています。

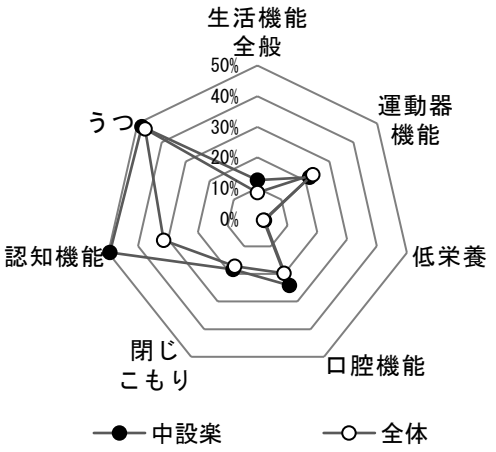
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、生活機能全般リスク、低栄養リスク、口腔機能リスク、閉じこもりリスク、認知機能リスク、うつリスクです。

図表　直近３年の人口の推移〔中設楽〕



図表　リスク該当状況〔中設楽〕



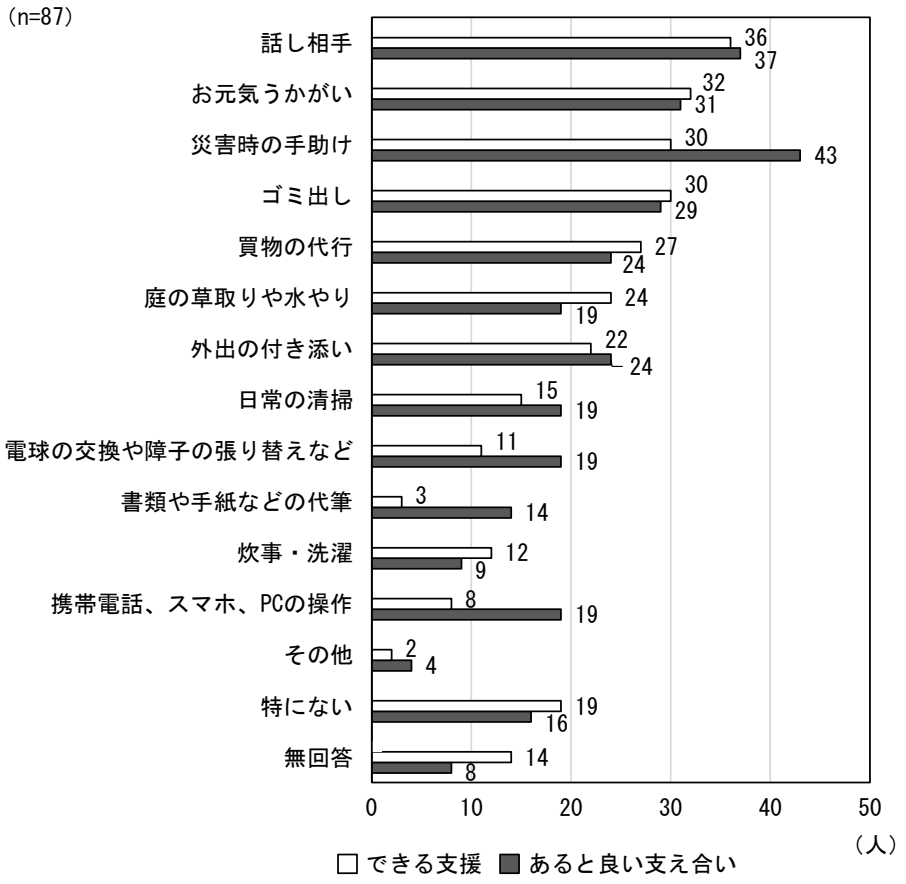
図表　地区の状況と町全体との比較〔中設楽〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	336 人	2,990 人	—	4/11 位
高齢者数	179 人	1,499 人	—	4/11 位
高齢化率	53.3%	50.1%	3.2	6/11 位
75 歳以上人口の割合	33.3%	29.7%	3.6	5/11 位
高齢者１人を支える現役世代の人数	0.77 人	0.83 人	-0.06	6/11 位
世帯数	175 世帯	1,412 世帯	—	4/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	12.6%	8.6%	4.0	2/11 位
運動器機能リスク	21.8%	23.1%	-1.3	8/11 位
低栄養リスク	2.3%	2.0%	0.3	4/11 位
口腔機能リスク	24.1%	19.8%	4.3	1/11 位
閉じこもりリスク	18.4%	17.2%	1.2	7/11 位
認知機能リスク	49.5%	31.5%	18.0	1/11 位
うつリスク	48.3%	47.0%	1.3	5/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「話し相手」が最も多く、次いで「お元気うかがい」「災害時の手助け」「ゴミ出し」「買物の代行」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。また、「携帯電話、スマホ、ＰＣの操作」「書類や手紙などの代筆」では、「あると良い支え合い」として回答した人よりも「できる支援」として回答した人が特に少なく、高齢者同士の支え合いでは補うことが難しいと考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔中設楽〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、住民同士の支え合いとして〈ゴミ出し〉、〈一緒に体を動かす（散歩、体操など)〉〈話し相手（近所付き合い含む)〉などを行っている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、田畑が多い地区であることから、農作業をしている姿を確認することで安否確認や見守りができている、自主的な集まり・活動が複数あるといった意見がありました。

地区で活動している団体

おいでん家のほか、お茶を飲んだり、体操をしたりする「火曜会」や「中設楽ロコモクラブ」など、地域の交流や介護予防につながる自主的な活動が行われています。地域づくりを行う「元気城山」も活動しています。

２．月

地区の基礎データ

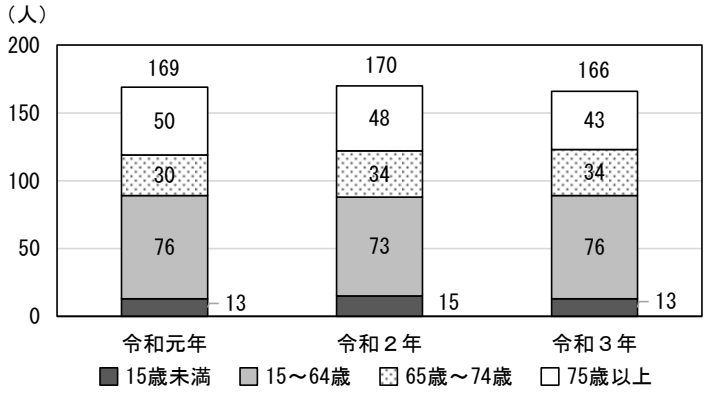
①人口と高齢化率

直近３年の地区の人口はおおむね横ばいです。高齢化率は町全体より 3.7 ポイント低く、町内では３番目に低くなっています。75 歳以上人口の割合は 25.9%と町内で２番目に低くなっています。

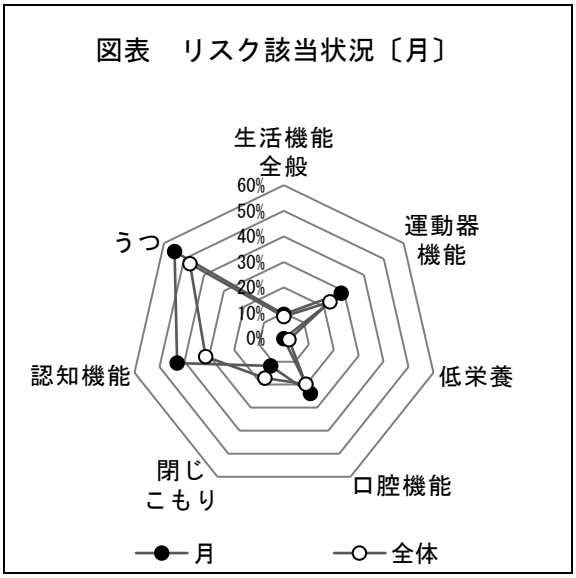
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、生活機能全般リスク、運動器機能リスク、口腔機能リスク、認知機能リスク、うつリスクです。

図表　直近３年間の人口の推移〔月〕



図表　リスク該当状況〔月〕



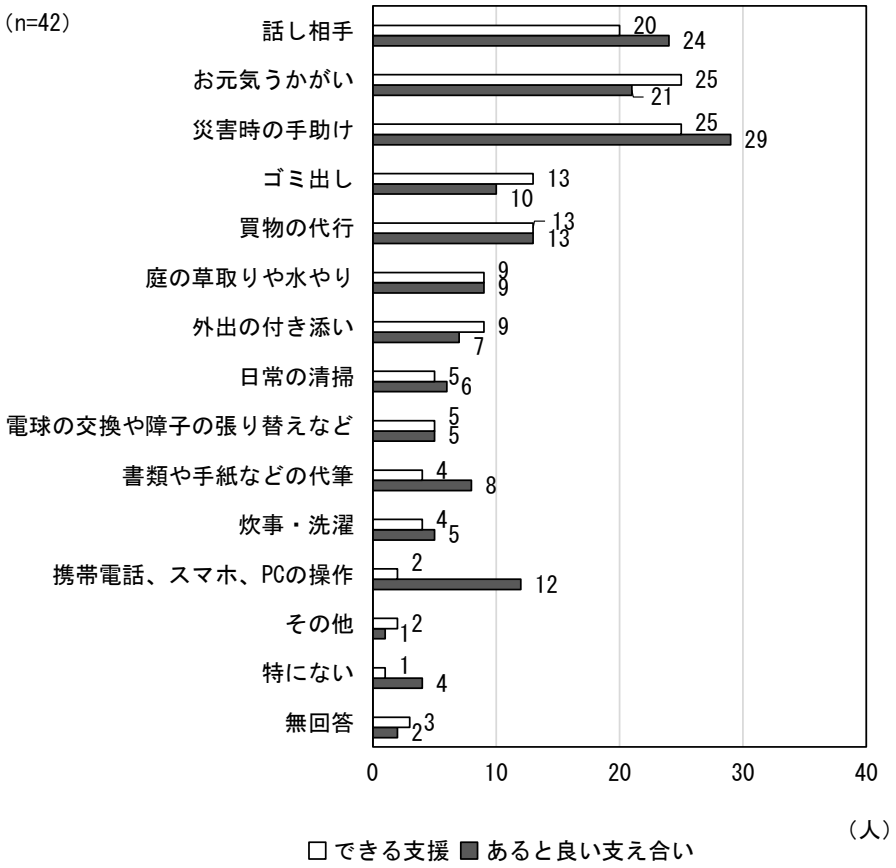
図表　地区の状況と町全体との比較〔月〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	166 人	2,990 人	―	6/11 位
高齢者数	77 人	1,499 人	―	7/11 位
高齢化率	46.4%	50.1%	-3.7	9/11 位
75 歳以上人口の割合	25.9%	29.7%	-3.8	10/11 位
高齢者１人を支える現役世代の人数	0.99 人	0.83 人	0.16	2/11 位
世帯数	63 世帯	1,412 世帯	―	7/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	9.5%	8.6%	0.9	7/11 位
運動器機能リスク	28.6%	23.1%	5.5	4/11 位
低栄養リスク	0.0%	2.0%	-2.0	8/11 位
口腔機能リスク	23.8%	19.8%	4.0	2/11 位
閉じこもりリスク	11.9%	17.2%	-5.3	10/11 位
認知機能リスク	42.9%	31.5%	11.4	3/11 位
うつリスク	54.7%	47.0%	7.7	1/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「お元気うかがい」「災害時の手助け」が最も多く、次いで「話し相手」「ゴミ出し」「買物の代行」となっており、これらは住民同士での支え合いを継続、充実できると考えられます。また、「携帯電話、スマホ、ＰＣの操作」「書類や手紙などの代筆」で、「あると良い支え合い」として回答した人よりも「できる支援」として回答した人が特に少なく、高齢者同士での支え合いは難しいと考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔月〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、住民同士の支え合いとして〈ゴミ出し〉や、「話し相手（近所付き合い含む)」などを行っている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、回覧板を回す時に内容を口頭で説明したり、農作業の手伝いをしたりする様子が見られるといった意見がありました。また、グラウンドゴルフのグループが自主的に始まり、介護予防・住民同士の交流につながる場が増えました。

地区で活動している団体

おいでん家のほか、グラウンドゴルフの自主グループが活動しています。

３．本郷

地区の基礎データ

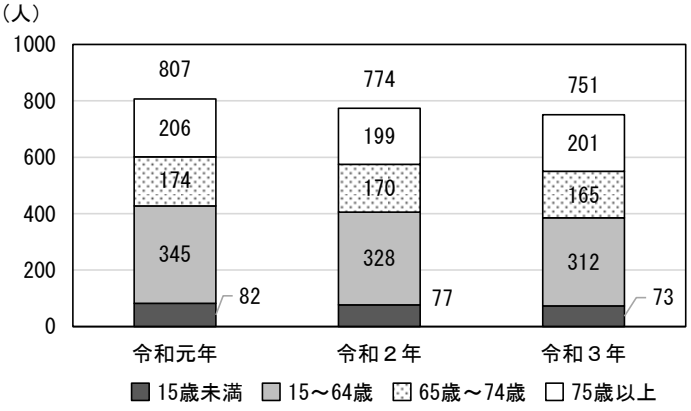
①人口と高齢化率

町内で最も人口の多い地区です。高齢化率は 48.7%と町全体よりも 1.4 ポイント低くなっています。75 歳以上の人口の割合は 26.8%と町全体よりも 2.9 ポイント低く、町内で３番目に低くなっています。

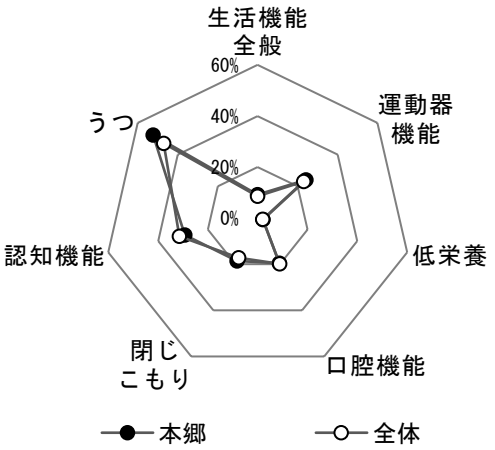
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、生活機能全般リスク、運動器機能リスク、低栄養リスク、閉じこもりリスク、うつリスクです。

図表　直近３年の人口の推移〔本郷〕



図表　リスク該当状況〔本郷〕



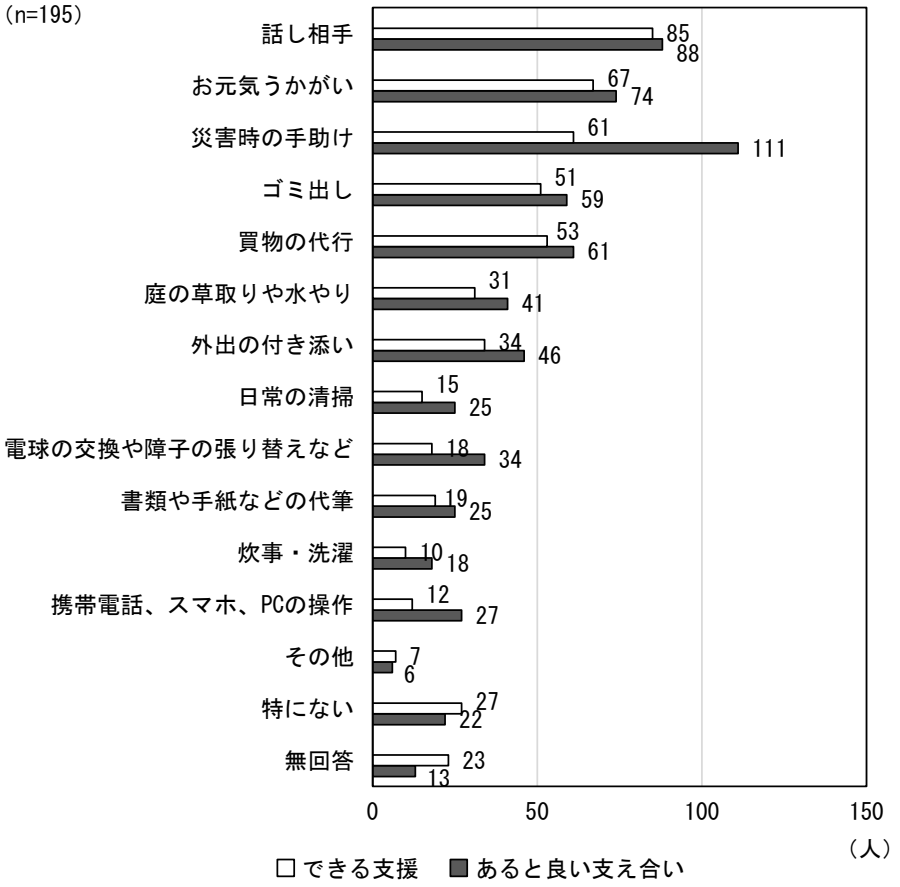
図表　地区の状況と町全体との比較〔本郷〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	751 人	2,990 人	—	1/11 位
高齢者数	366 人	1,499 人	—	1/11 位
高齢化率	48.7%	50.1%	-1.4	8/11 位
75 歳以上人口の割合	26.8%	29.7%	-2.9	9/11 位
高齢者１人を支える現役世代	0.85 人	0.83 人	0.02	4/11 位
世帯数	357 世帯	1,412 世帯	—	1/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	9.2%	8.6%	0.6	8/11 位
運動器機能リスク	24.1%	23.1%	1.0	6/11 位
低栄養リスク	2.1%	2.0%	0.1	6/11 位
口腔機能リスク	19.5%	19.8%	-0.3	6/11 位
閉じこもりリスク	18.5%	17.2%	1.3	6/11 位
認知機能リスク	29.2%	31.5%	-2.3	6/11 位
うつリスク	52.3%	47.0%	5.3	3/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「話し相手」が最も多く、次いで「お元気うかがい」「災害時の手助け」「買物の代行」「ゴミ出し」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。一方、「携帯電話、スマホ、ＰＣの操作」で、「あると良い支え合い」として回答した人よりも「できる支援」として回答した人が特に少なく、支え合いで補うことが難しいと考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔本郷〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、住民同士の支え合いとして〈声かけ・見守り（安否確認、お元気うかがい含む)〉、〈庭の草取り〉〈ゴミ出し〉〈一緒に体を動かす（散歩、体操など)〉、〈外出の付き添い（送迎含む)〉〈話し相手」(近所付き合い含む)〉を行っている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、住宅が密集しているという環境もあり、地区の中で小さな集まりや見守りが行われるなど、支え合いが行われているといった意見がありました。

地区で活動している団体

おいでん家のほか、地区の環境整備などを行う「かねば会」や「わかば会」「さわやかくらぶ」など自主的な集まりがあります。

４．下川

地区の基礎データ

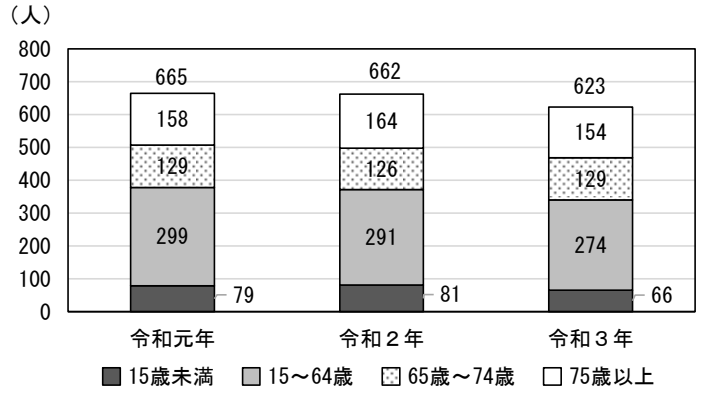
①人口と高齢化率

町内で２番目に人口の多い地区です。高齢化率は 45.4%と町全体よりも 4.7 ポイント低く、町内で２番目に低くなっています。75 歳以上人口の割合は 24.7%と町全体よりも 5.0 ポイント低く、小林・栗代地区と同率で町内で最も低くなっています。

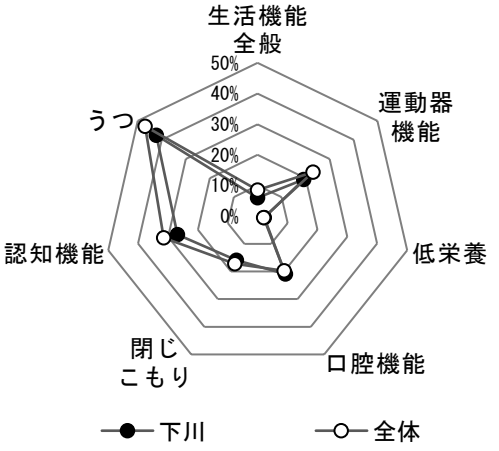
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、低栄養リスク、口腔機能リスクです。

図表　直近３年間の人口の推移〔下川〕



図表　リスク該当状況〔下川〕



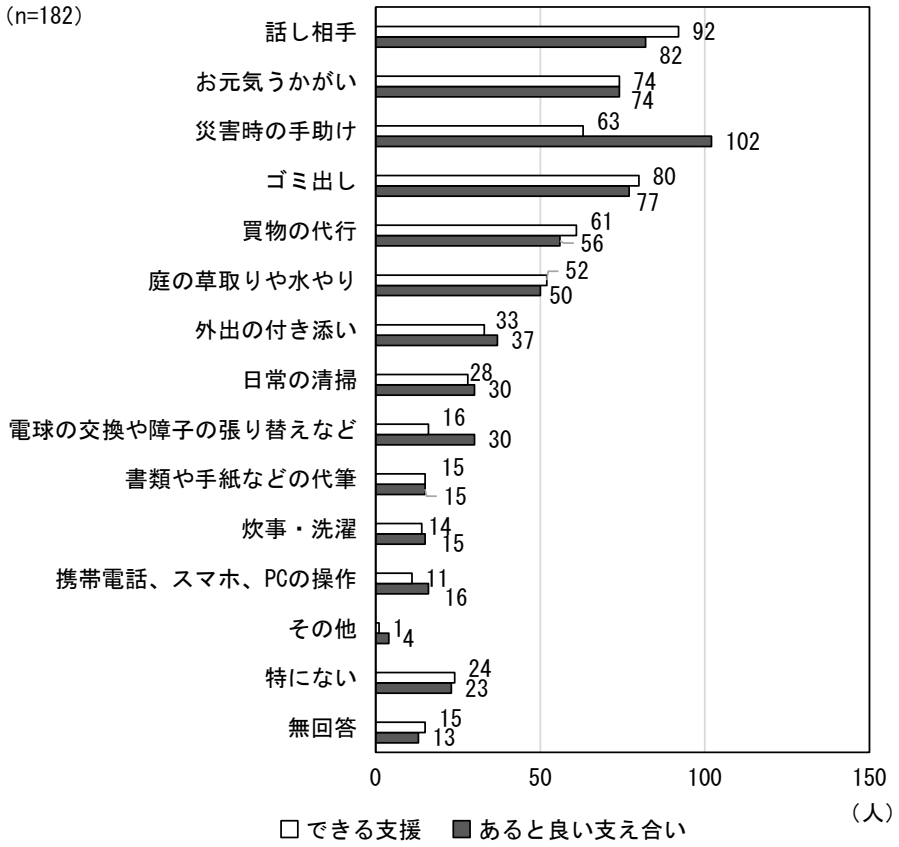
図表　地区の状況と町全体との比較〔下川〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	623 人	2,990 人	—	2/11 位
高齢者数	283 人	1,499 人	—	2/11 位
高齢化率	45.4%	50.1%	-4.7	10/11 位
75 歳以上人口の割合	24.7%	29.7%	-5.0	11/11 位
高齢者１人を支える現役世代の人数	0.97 人	0.83 人	0.14	3/11 位
世帯数	272 世帯	1,412 世帯	—	2/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	6.0%	8.6%	-2.6	9/11 位
運動器機能リスク	19.2%	23.1%	-3.9	10/11 位
低栄養リスク	2.2%	2.0%	0.2	5/11 位
口腔機能リスク	20.9%	19.8%	1.1	4/11 位
閉じこもりリスク	15.9%	17.2%	-1.3	8/11 位
認知機能リスク	26.9%	31.5%	-4.6	9/11 位
うつリスク	42.3%	47.0%	-4.7	11/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「話し相手」が最も多く、次いで「ゴミ出し」「お元気うかがい」「災害時の手助け」「買物の代行」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔下川〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、住民同士の支え合いとして〈ゴミ出し〉〈声かけ・見守り（安否確認、お元気うかがい含む）〉〈話し相手（近所付き合い含む）〉〈庭の草取り〉が行われている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、隣家が近いため孤立は少なく、外出の支援や食事の差し入れなどの支え合いが行われているといった意見がありました。

地区で活動している団体

おいでん家のほか、のき山学校を拠点に住民の活動が行われています。「川角 花いっぱい咲かす会」による花を植える活動や、盆踊りを継承する活動も行われています。

５．御園

地区の基礎データ

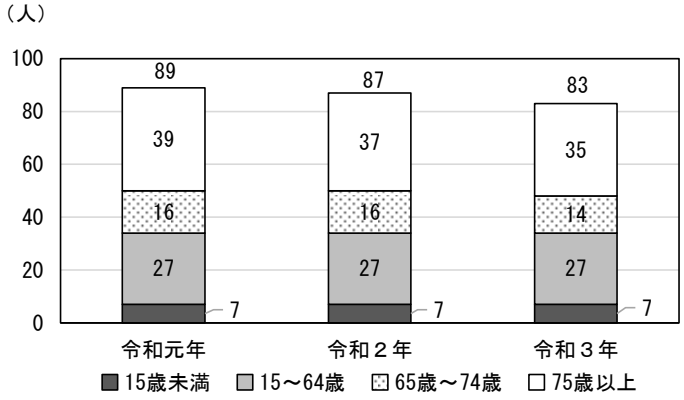
①人口と高齢化率

町内で３番目に人口の少ない地区です。高齢化率は 59.0%と町全体よりも 8.9 ポイント高く、町内では３番目に高くなっています。75 歳以上の人口の割合は 42.2%と町全体より 12.5 ポイント高く、町内では２番目に高くなっています。

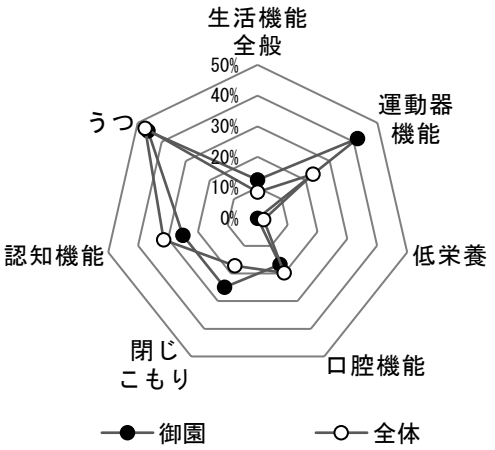
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、生活機能全般リスク、運動器機能リスク、閉じこもりリスクです。

図表　直近３年の人口の推移〔御園〕



図表　リスク該当状況〔御園〕



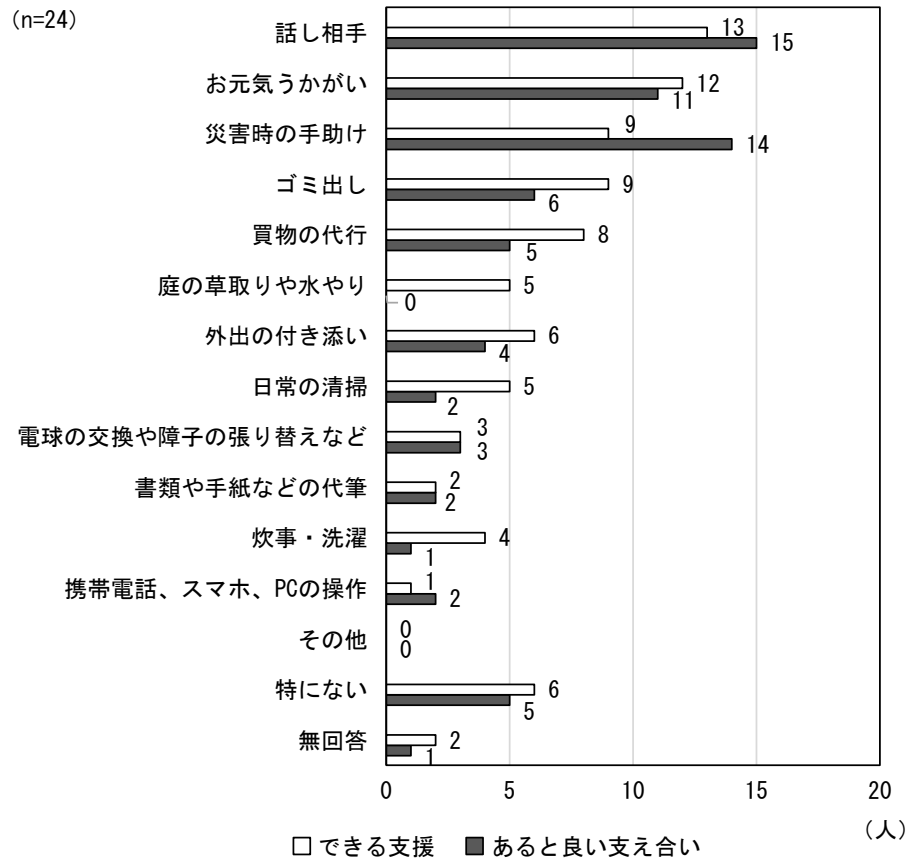
図表　地区の状況と町全体との比較〔御園〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	83 人	2,990 人	―	9/11 位
高齢者数	49 人	1,499 人	―	9/11 位
高齢化率	59.0%	50.1%	8.9	3/11 位
75 歳以上人口の割合	42.2%	29.7%	12.5	2/11 位
高齢者１人を支える現役世代の人数	0.55 人	0.83 人	-0.28	10/11 位
世帯数	40 世帯	1,412 世帯	―	9/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	12.5%	8.6%	3.9	3/11 位
運動器機能リスク	41.7%	23.1%	18.6	1/11 位
低栄養リスク	0.0%	2.0%	-2.0	8/11 位
口腔機能リスク	16.7%	19.8%	-3.1	9/11 位
閉じこもりリスク	25.0%	17.2%	7.8	1/11 位
認知機能リスク	25.0%	31.5%	-6.5	10/11 位
うつリスク	45.8%	47.0%	-1.2	7/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「話し相手」が最も多く、次いで「お元気うかがい」「災害時の手助け」「ゴミ出し」「買物の代行」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔御園〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、〈庭の草取り〉が行われている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、住民同士での食事の差し入れや地区での防災用品の確認などが行われているといった意見がありました。また、「魅その人こまめ会」の活動や夏休み中にはおいでん家で子ども一緒に過ごすなど、住民同士の交流が行われているといった意見もありました。

地区で活動している団体

おいでん家のほか、「魅その人こまめ会」が地域の生活文化の継承や住民同士の交流の活性化を目的に活動しています。また、「ＮＰＯ法人御園夢村興し隊」も地域の活性化を目指して活動しています。

６．足込

地区の基礎データ

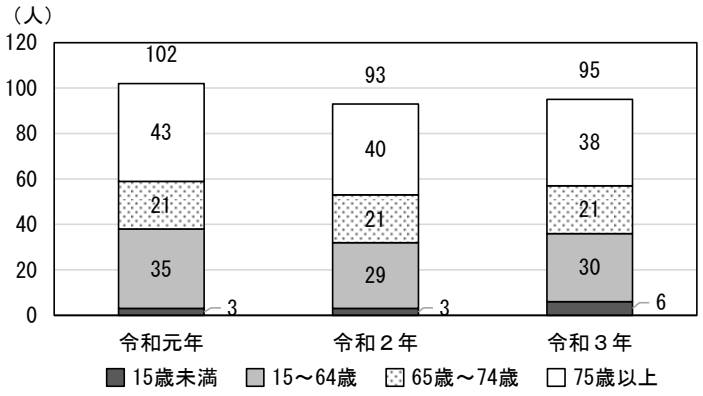
①人口と高齢化率

高齢化率が 62.1%と町全体より 12.0 ポイント高く、町内で最も高くなっています。75 歳以上の人の割合は、40.0%と全体より 10.3 ポイント高く、町内で３番目に高くなっています。

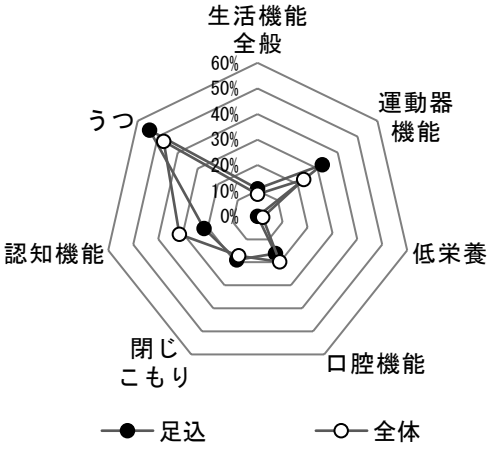
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、生活機能全般リスク、運動器機能リスク、閉じこもりリスク、うつリスクです。

図表　直近３年間の人口の推移〔足込〕



図表　リスク該当状況〔足込〕



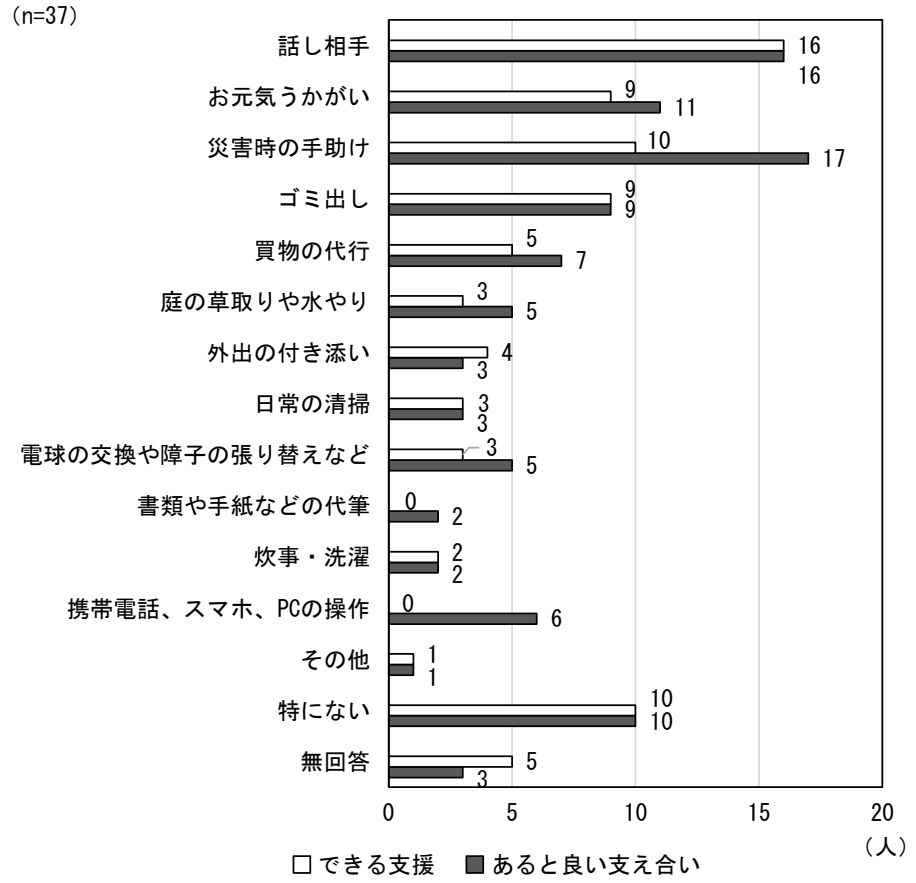
図表　地区の状況と町全体との比較〔足込〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	95 人	2,990 人	—	8/11 位
高齢者数	59 人	1,499 人	—	8/11 位
高齢化率	62.1%	50.1%	12.0	1/11 位
75 歳以上人口の割合	40.0%	29.7%	10.3	3/11 位
高齢者１人を支える現役世代の人数	0.51 人	0.83 人	-0.32	11/11 位
世帯数	47 世帯	1,412 世帯	—	8/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	10.8%	8.6%	2.2	4/11 位
運動器機能リスク	32.4%	23.1%	9.3	2/11 位
低栄養リスク	0.0%	2.0%	-2.0	8/11 位
口腔機能リスク	16.2%	19.8%	-3.6	10/11 位
閉じこもりリスク	18.9%	17.2%	1.7	5/11 位
認知機能リスク	21.6%	31.5%	-9.9	11/11 位
うつリスク	54.1%	47.0%	7.1	2/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「話し相手」が最も多く、次いで「災害時の手助け」「お元気うかがい」「ゴミ出し」「買物の代行」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。一方、「携帯電話、スマホ、ＰＣの操作」「書類や手紙などの代筆」で、「あると良い支え合い」として回答した人よりも「できる支援」として回答した人が特に少なく、支え合いで補うことが難しいと考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔足込〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、住民同士の支え合いとして〈一緒に体を動かす（散歩、体操など)〉〈声かけ・見守り（安否確認、お元気うかがいを含む)〉〈外出の付き添い（送迎含む)〉、〈話し相手（近所付き合い含む)〉などが行われている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、地区の人口が減ってしまったこともあり、個々に活動を行っているという意見がありました。

地区で活動している団体

今後、高齢者を中心に自然と人が集うことができる場が作られる予定があります。

７．東薗目

地区の基礎データ

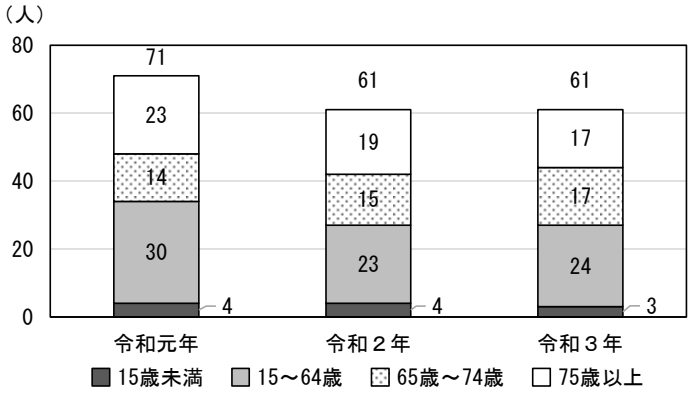
①人口と高齢化率

町内で２番目に人口の少ない地区です。高齢化率は 55.7%と町全体より 5.6 ポイント高くなっています。75 歳以上の人口の割合は、27.9%と町全体よりも 1.8 ポイント低くなっています。

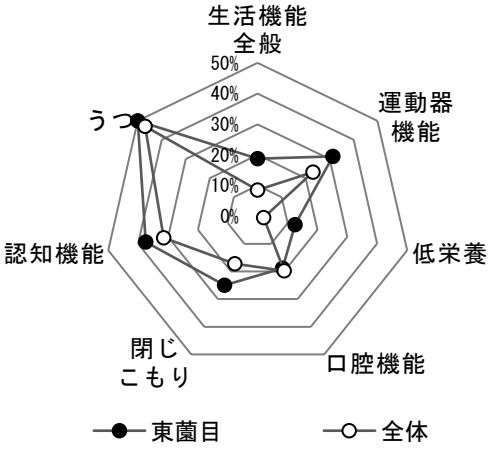
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、生活機能全般リスク、運動器機能リスク、低栄養リスク、閉じこもりリスク、認知機能リスク、うつリスクです。

図表　直近３年間の人口の推移〔東薗目〕



図表　リスク該当状況〔東薗目〕



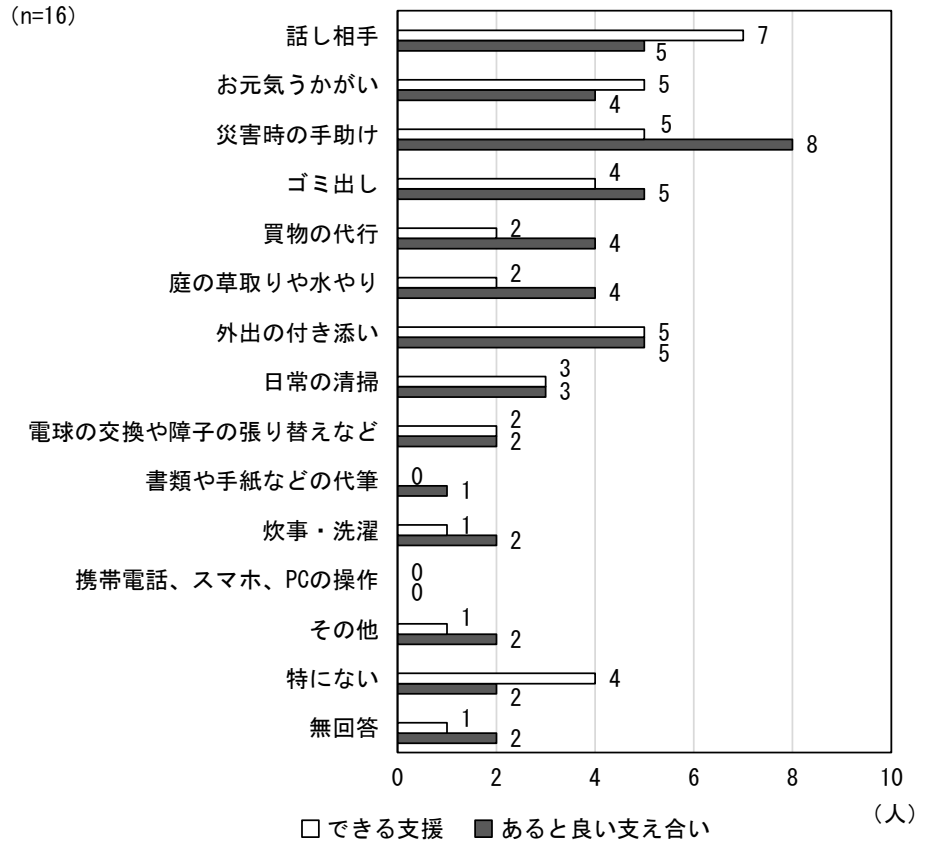
図表　地区の状況と町全体との比較〔東薗目〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	61 人	2,990 人	—	10/11 位
高齢者数	34 人	1,499 人	—	10/11 位
高齢化率	55.7%	50.1%	5.6	5/11 位
75 歳以上人口の割合	27.9%	29.7%	-1.8	8/11 位
高齢者１人を支える現役世代の人数	0.71 人	0.83 人	-0.12	7/11 位
世帯数	34 世帯	1,412 世帯	—	10/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	18.8%	8.6%	10.2	1/11 位
運動器機能リスク	31.3%	23.1%	8.2	3/11 位
低栄養リスク	12.5%	2.0%	10.5	2/11 位
口腔機能リスク	18.8%	19.8%	-1.0	7/11 位
閉じこもりリスク	25.0%	17.2%	7.8	1/11 位
認知機能リスク	37.5%	31.5%	6.0	4/11 位
うつリスク	50.0%	47.0%	3.0	4/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「話し相手」が最も多く、次いで「お元気うかがい」「災害時の手助け」「外出の付き添い」「ゴミ出し」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。また、「買物の代行」「庭の草取りや水やり」「炊事・洗濯」で「あると良い支え合い」として回答した人よりも「できる支援」として回答した人が特に少なくなっており、支え合いで補うことが難しいと考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔東薗目〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、〈ゴミ出し〉が行われている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、隣家との距離が遠く、人も少ないため地域での活動の様子が見えにくいという意見がありました。

地区で活動している団体

おいでん家が開かれています。

８．西薗目

地区の基礎データ

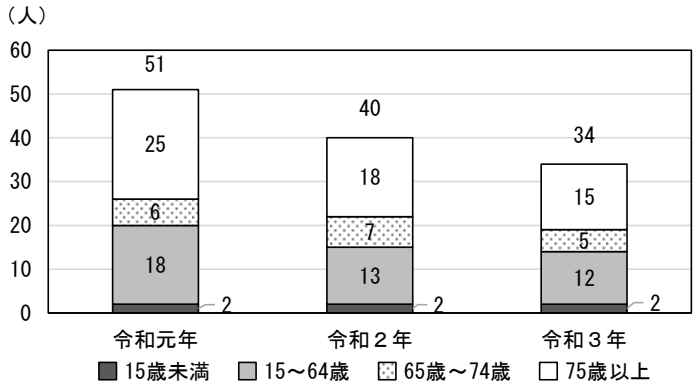
①人口と高齢化率

町内で最も人口の少ない地区です。高齢化率は、58.8%と町全体より 8.7 ポイント高くなっています。75 歳以上の人口の割合は、44.1%と町全体より 14.4 ポイント高くなっており、町内で最も高くなっています。

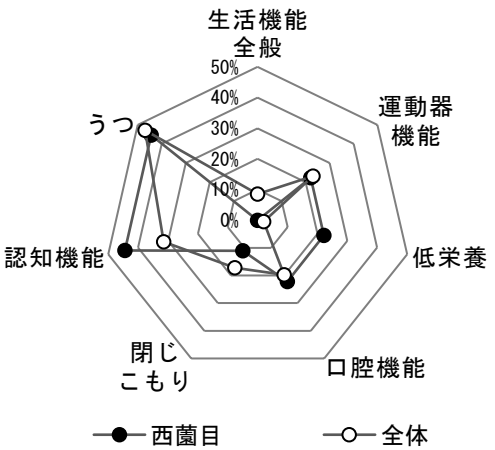
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、低栄養リスク、口腔機能リスク、認知機能リスクです。

図表　直近３年間の人口の推移〔西薗目〕



図表　リスク該当状況〔西薗目〕



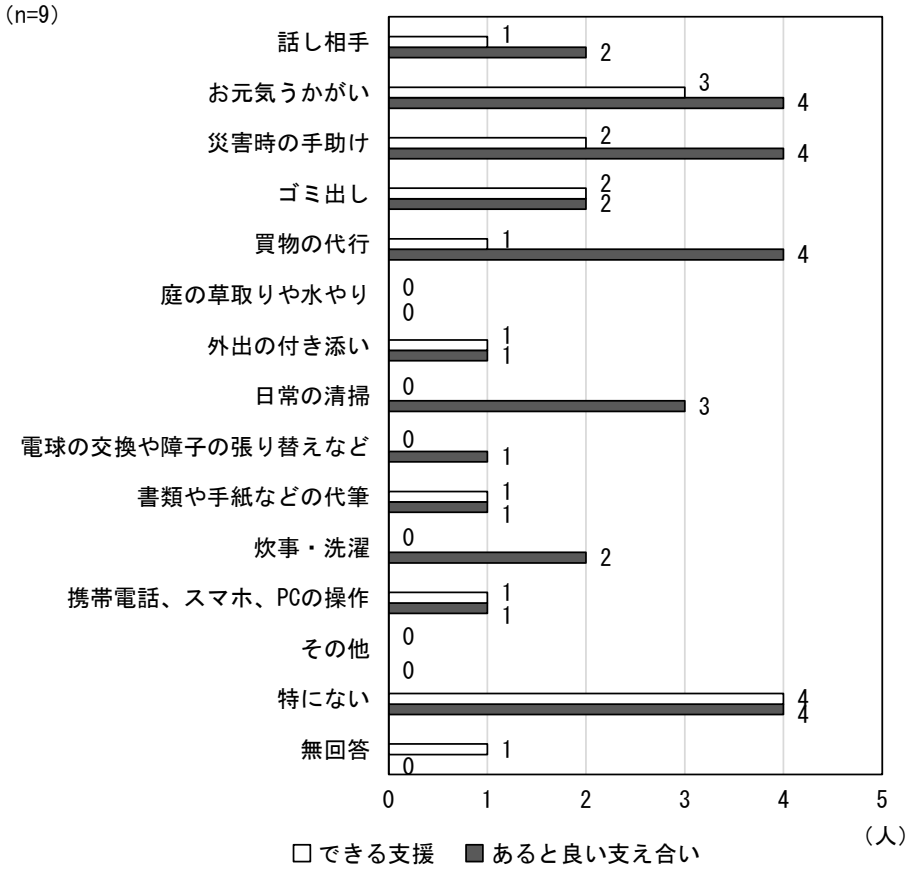
図表　地区の状況と町全体との比較〔西薗目〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	34 人	2,990 人	—	11/11 位
高齢者数	20 人	1,499 人	—	11/11 位
高齢化率	58.8%	50.1%	8.7	4/11 位
75 歳以上人口の割合	44.1%	29.7%	14.4	1/11 位
高齢者１人を支える現役世代の人数	0.60 人	0.83 人	-0.23	8/11 位
世帯数	19 世帯	1,412 世帯	—	11/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	0.0%	8.6%	-8.6	11/11 位
運動器機能リスク	22.2%	23.1%	-0.9	7/11 位
低栄養リスク	22.2%	2.0%	20.2	1/11 位
口腔機能リスク	22.2%	19.8%	2.4	3/11 位
閉じこもりリスク	11.1%	17.2%	-6.1	11/11 位
認知機能リスク	44.4%	31.5%	12.9	2/11 位
うつリスク	44.5%	47.0%	-2.5	8/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位３項目を見ると、「お元気うかがい」が最も多く、次いで「災害時の手助け」「ゴミ出し」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。また、日常生活に必要な「買物の代行」「日常の清掃」「炊事・洗濯」では支え合いのニーズはありそうですが、本調査では「できる支援」として回答した人が少なく、ニーズに応えていく方法の検討が必要だと考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔西薗目〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、〈一緒に体を動かす（散歩、体操など)〉が行われている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、民生委員・児童委員、おいでん家、移動販売（オニスター号）が見守りの中心となっており、隣家が遠いため住民同士の支え合いが難しいのではないかという意見がありました。

地区で活動している団体

おいでん家が開かれているほか、移動販売（オニスター号）が見守りの中心的な存在となっています。

９．小林・粟代

地区の基礎データ

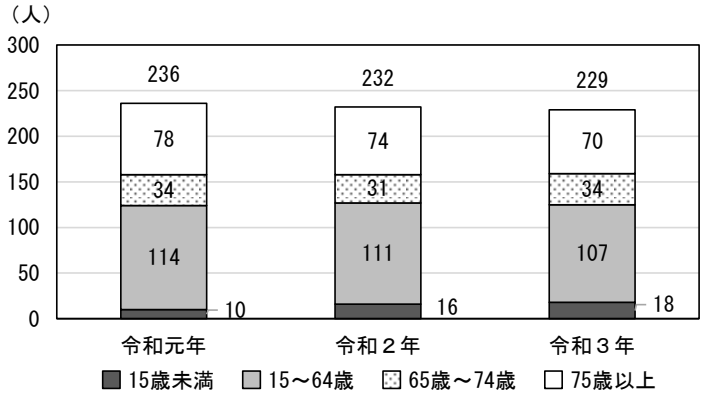
①人口と高齢化率

高齢化率が 45.4%と町全体よりも 4.7 ポイント低く、下川地区と同率で町内で最も低くなっています。

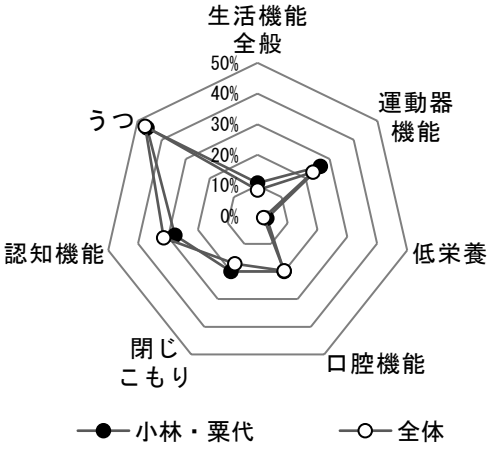
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、生活機能全般リスク、運動器機能リスク、低栄養リスク、口腔機能リスク、閉じこもりリスクです。

図表　直近３年間の人口の推移〔小林・粟代〕



図表　リスク該当状況〔小林・粟代〕



図表　地区の状況と町全体との比較〔小林・粟代〕

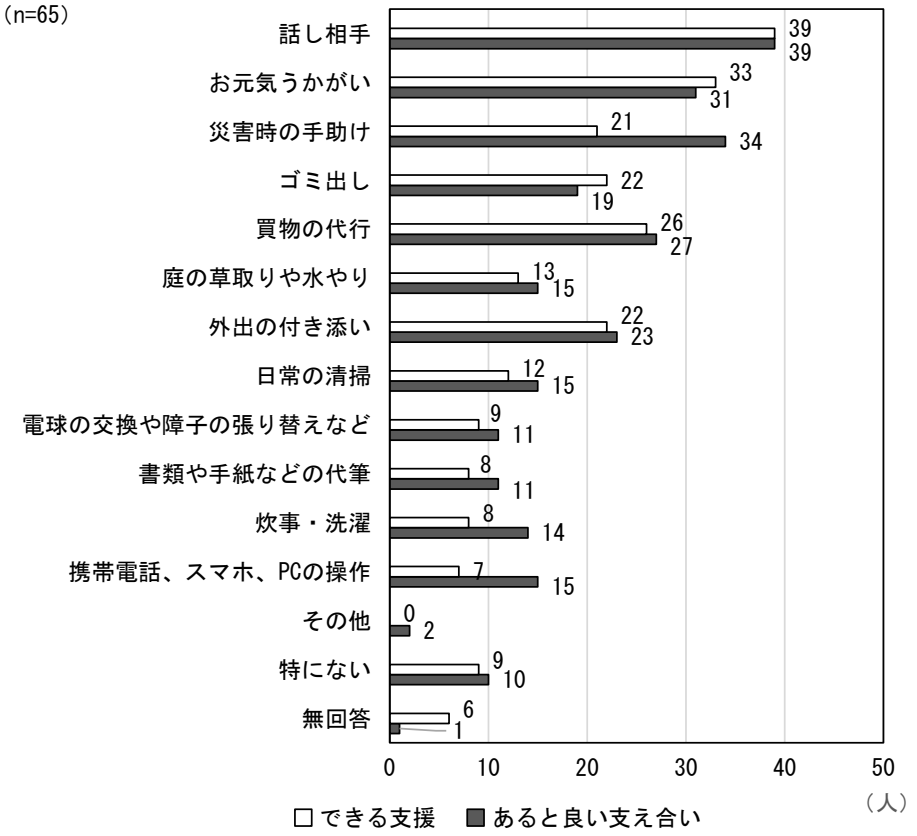
項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	229 人	2,990 人	—	5/11 位
高齢者数	104 人	1,499 人	—	5/11 位
高齢化率	45.4%	50.1%	-4.7	10/11 位
75 歳以上人口の割合	30.6%	29.7%	0.9	7/11 位
高齢者１人を支える現役世代	1.03 人	0.83 人	0.20	1/11 位
世帯数	94 世帯	1,412 世帯	—	5/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	10.8%	8.6%	2.2	4/11 位
運動器機能リスク	26.2%	23.1%	3.1	5/11 位
低栄養リスク	3.1%	2.0%	1.1	3/11 位
口腔機能リスク	20.0%	19.8%	0.2	5/11 位
閉じこもりリスク	20.0%	17.2%	2.8	3/11 位
認知機能リスク	27.7%	31.5%	-3.8	8/11 位
うつリスク	46.2%	47.0%	-0.8	6/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「話し相手」が最も多く、次いで「お元気うかがい」「買物の代行」「ゴミ出し」「外出の付き添い」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。

また、「携帯電話、スマホ、ＰＣの操作」で「あると良い支え合い」として回答した人よりも「できる支援」として回答した人が特に少なく、支え合いで補うことが難しいと考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔小林・粟代〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、〈外出の付き添い（送迎含む）〉〈声かけ・見守り（安否確認、お元気うかがい含む）〉〈野菜やおかずなどのおすそ分け〉などが行われている様子がうかがえました。ヒアリング調査では、住民同士で移動販売が来るところまで送迎し、買物の後に茶話会が開かれている、児童館で集まってカラオケが行われている、見守りが実践されているといった意見がありました。また、コロナ禍で地域住民の自主的な話し合いが行われ、外出制限を想定し、郵便局での食品販売が始まったとの意見がありました。

地区で活動している団体

おいでん家のほか、カラオケの集まりや移動販売での買物後の茶話会などが行われています。また、廃校となった小学校が様々な活動の拠点となっています。

10. 古戸

地区の基礎データ

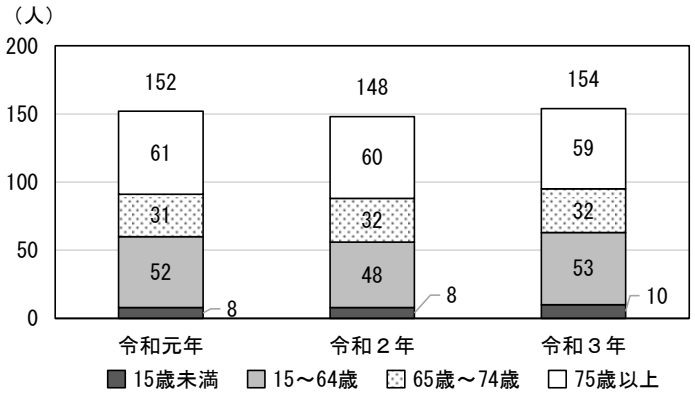
①人口と高齢化率

高齢化率は、59.1%と町全体よりも 9.0 ポイント高く、町内で２番目に高くなっています。

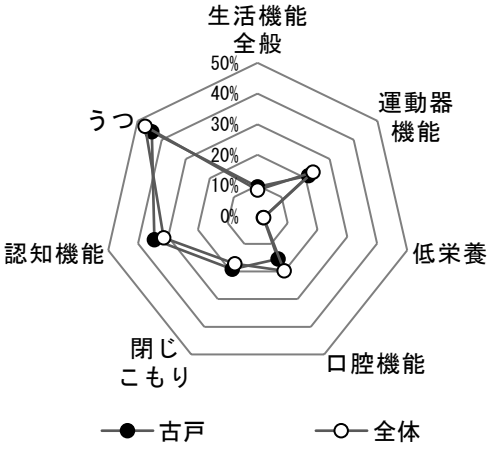
②リスクの該当状況

町全体よりもリスクの該当率が高くなっている項目は、生活機能全般リスク、閉じこもりリスク、認知機能リスクです。

図表　直近３年間の人口の推移〔古戸〕



図表　リスク該当状況〔古戸〕



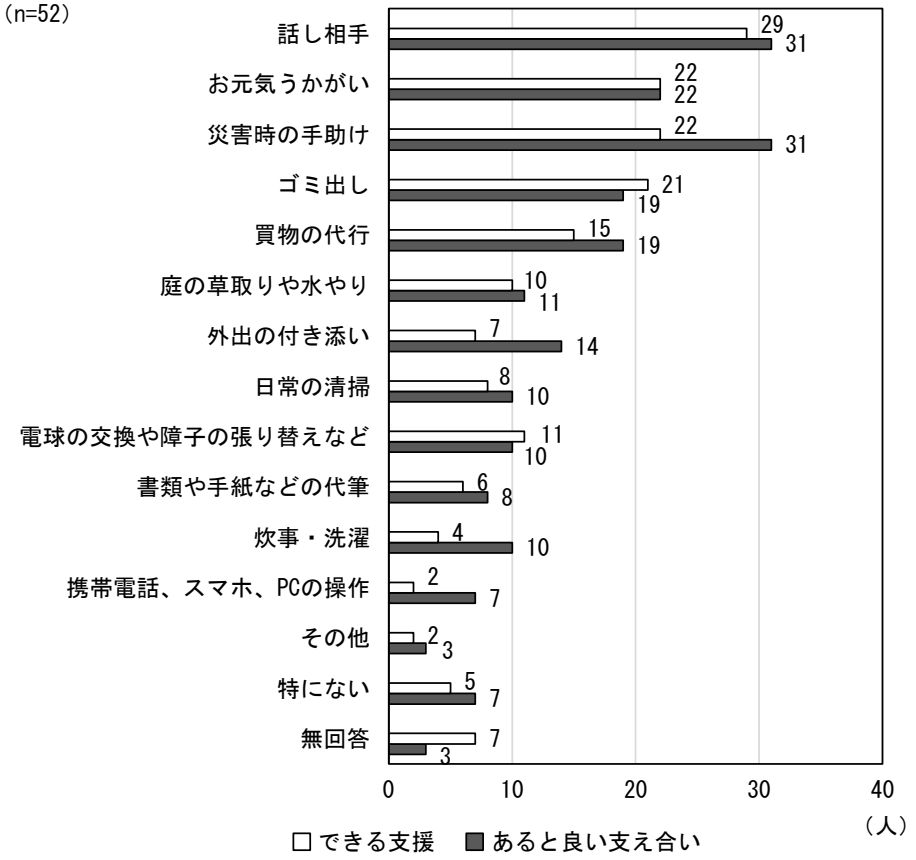
図表　地区の状況と町全体との比較〔古戸〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	154 人	2,990 人	—	7/11 位
高齢者数	91 人	1,499 人	—	6/11 位
高齢化率	59.1%	50.1%	9.0	2/11 位
75 歳以上人口の割合	38.3%	29.7%	8.6	4/11 位
高齢者１人を支える現役世代	0.58 人	0.83 人	-0.25	9/11 位
世帯数	75 世帯	1,412 世帯	—	6/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	9.6%	8.6%	1.0	6/11 位
運動器機能リスク	21.2%	23.1%	-1.9	9/11 位
低栄養リスク	1.9%	2.0%	-0.1	7/11 位
口腔機能リスク	15.4%	19.8%	-4.4	11/11 位
閉じこもりリスク	19.2%	17.2%	2.0	4/11 位
認知機能リスク	34.6%	31.5%	3.1	5/11 位
うつリスク	44.2%	47.0%	-2.8	9/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「話し相手」が最も多く、次いで「お元気うかがい」「災害時の手助け」「ゴミ出し」「買物の代行」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。また、「外出の付き添い」「炊事・洗濯」「携帯電話、スマホ、ＰＣの操作」で「あると良い支え合い」として回答した人よりも「できる支援」として回答した人が特に少なくなっており、高齢者同士の支え合いで補うことが難しいと考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔古戸〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、〈声かけ・見守り（安否確認、お元気うかがい含む）〉〈ゴミ出し〉〈野菜やおかずなどのおすそ分け〉が行われている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、「古戸ひじり会」による都会の人との交流が移住者獲得につながっているなど地域づくりが行われているという意見がありました。

地区で活動している団体

おいでん家のほか、「古戸ひじり会」が地域づくり活動を行っています。

11. 三輪

地区の基礎データ

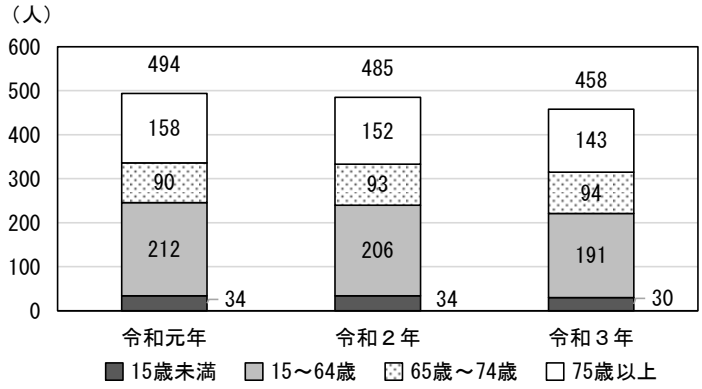
①人口と高齢化率

町内で３番目に人口の多い地区です。高齢化率 51.7%と町全体よりも 1.6 ポイント高くなっています。

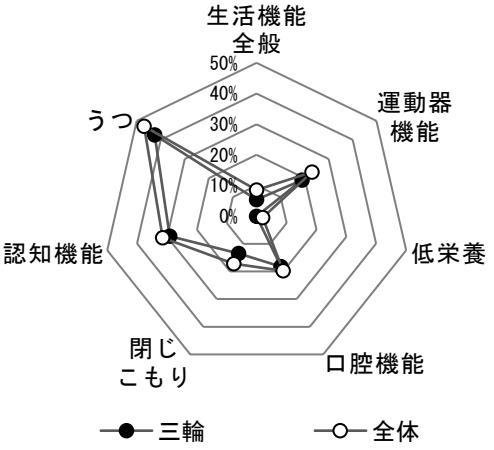
②リスクの該当状況

リスクの該当率は、すべての項目について、町全体よりも低くなっています。

図表　直近３年間の人口の推移〔三輪〕



図表　リスク該当状況〔三輪〕



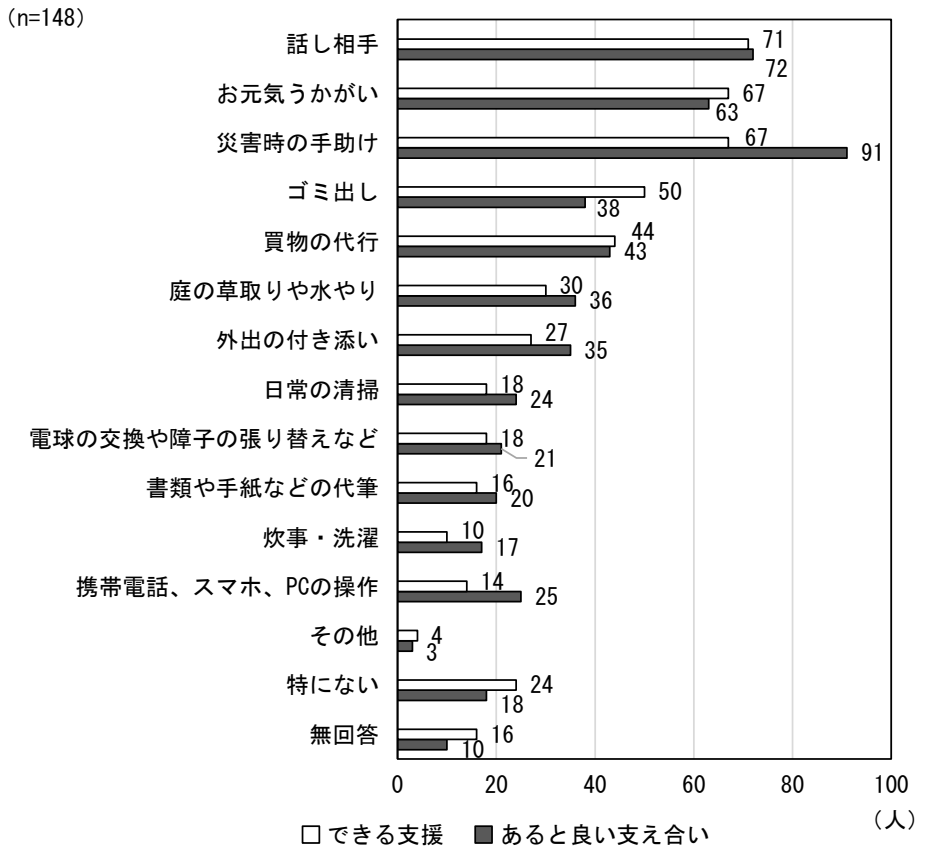
図表　地区の状況と町全体との比較〔三輪〕

項目	数値	町全体	町全体との差	町内順位
１．基礎データ（令和３年４月１日現在）				
人口	458 人	2,990 人	—	3/11 位
高齢者数	237 人	1,499 人	—	3/11 位
高齢化率	51.7%	50.1%	1.6	7/11 位
75 歳以上人口の割合	31.2%	29.7%	1.5	6/11 位
高齢者１人を支える現役世代	0.81 人	0.83 人	-0.02	5/11 位
世帯数	236 世帯	1,412 世帯	—	3/11 位
２．リスクの状況				
生活機能全般リスク	5.4%	8.6%	-3.2	10/11 位
運動器機能リスク	18.9%	23.1%	-4.2	11/11 位
低栄養リスク	0.0%	2.0%	-2.0	8/11 位
口腔機能リスク	18.2%	19.8%	-1.6	8/11 位
閉じこもりリスク	13.5%	17.2%	-3.7	9/11 位
認知機能リスク	29.1%	31.5%	-2.4	7/11 位
うつリスク	42.6%	47.0%	-4.4	10/11 位

これからの支え合いについて

「できる支援」として回答数が多い上位５項目を見ると、「話し相手」が最も多く、次いで「お元気うかがい」「災害時の手助け」「ゴミ出し」「買物の代行」となっており、これらは住民同士で支え合いを継続、充実できると考えられます。

図表　できる支援とあると良い支え合い（複数回答）〔三輪〕



すでに行われている支え合い

アンケートの結果からは、〈話し相手（近所付き合い含む)〉〈ゴミ出し〉〈一緒に体を動かす〉〈庭の草取り〉〈野菜やおかずなどのおすそ分け〉〈声かけ・見守り（安否確認、お元気うかがい含む)〉が行われている様子がうかがえます。ヒアリング調査では、見守りが行われている、地域の景観整備を行う団体がある、農産物の直売所が住民同士の交流の場となっている、といった意見がありました。

地区で活動している団体

おいでん家のほか、地域の景観整備を行う団体もあります。また、農産物の直売所が住民との交流の場にもなっています。

Ⅴ　まとめ

１．各種リスクについて

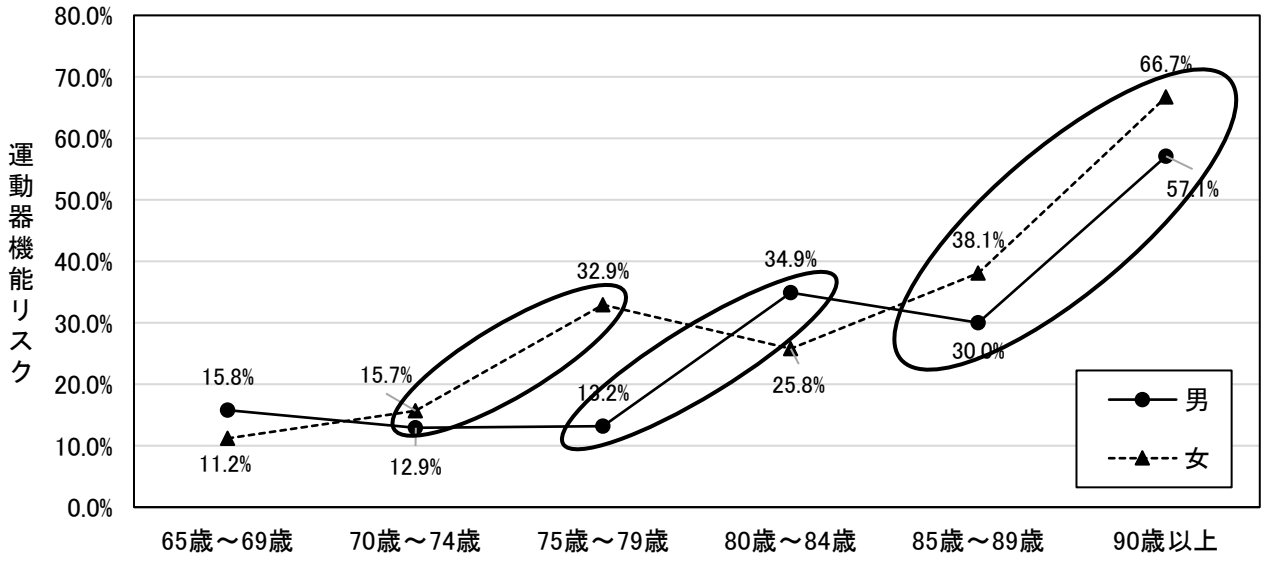
本調査で得られた結果から、生活機能全般リスク、運動器機能リスク、低栄養リスク、口腔機能リスク、閉じこもりリスク、認知機能リスク、うつリスクの該当状況を判定しました。ここでは、性別・年齢階級別のリスク該当状況から考えられることを整理します。

（１）身体機能との関連が強いリスク（生活機能全般リスク、運動器機能リスク、口腔機能リスク、閉じこもりリスク）

性別・年齢階級別に各種リスクの該当率を見ると、生活機能全般リスク、運動器機能リスク、口腔機能リスク、閉じこもりリスク、認知機能リスクは共通して、「85 歳～89 歳」から「90 歳以上」にかけてリスクの該当率が高くなっています。また、男性よりも女性の方がリスクの該当率が高い傾向にあります。

生活機能全般リスク、運動器機能リスク、口腔機能リスク、閉じこもりリスクは、いずれも身体機能の低下が影響しているため、特に「85 歳～89 歳」から「90 歳以上」にかけて身体機能が低下する方が多いと考えられます。

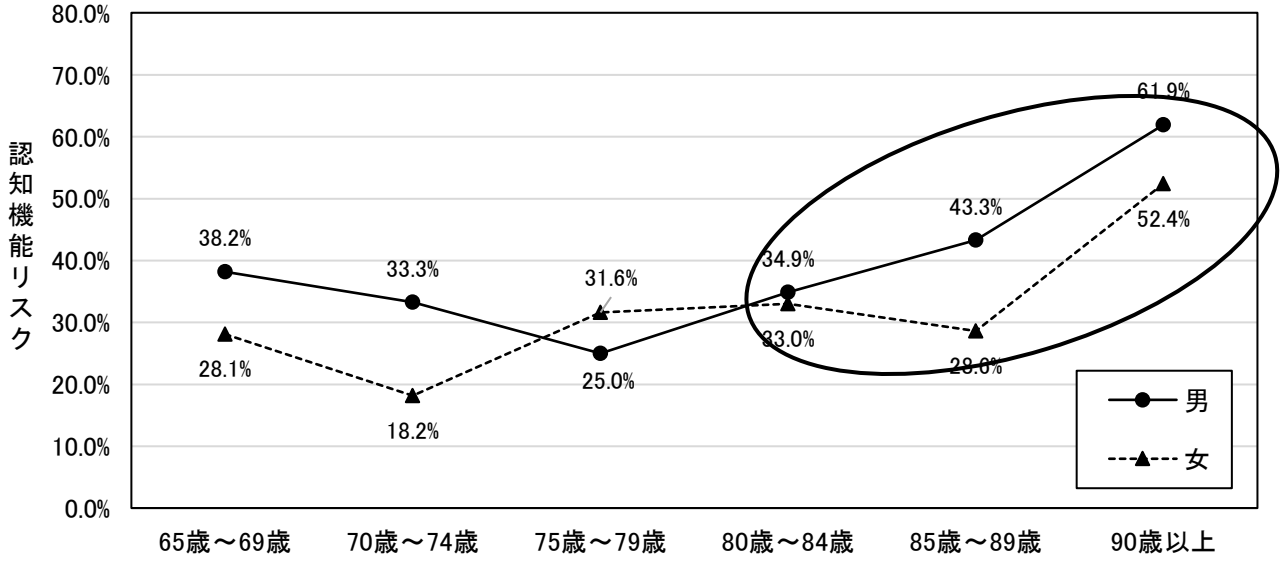
さらに、運動器機能リスクについて、性別・年齢階級別にリスクの該当率を見ると、女性では、「70 歳～74 歳」から「75 歳～79 歳」にかけて、男性では、「75 歳～79 歳」から「80 歳～84 歳」にかけてリスクの該当率が高くなっています。女性の方がリスクに該当する年齢階級が男性よりも低く、身体機能の低下を防ぐための活動は早期に行う必要があると考えられます。閉じこもりリスクについても、運動器機能リスクと類似の傾向が見られます。



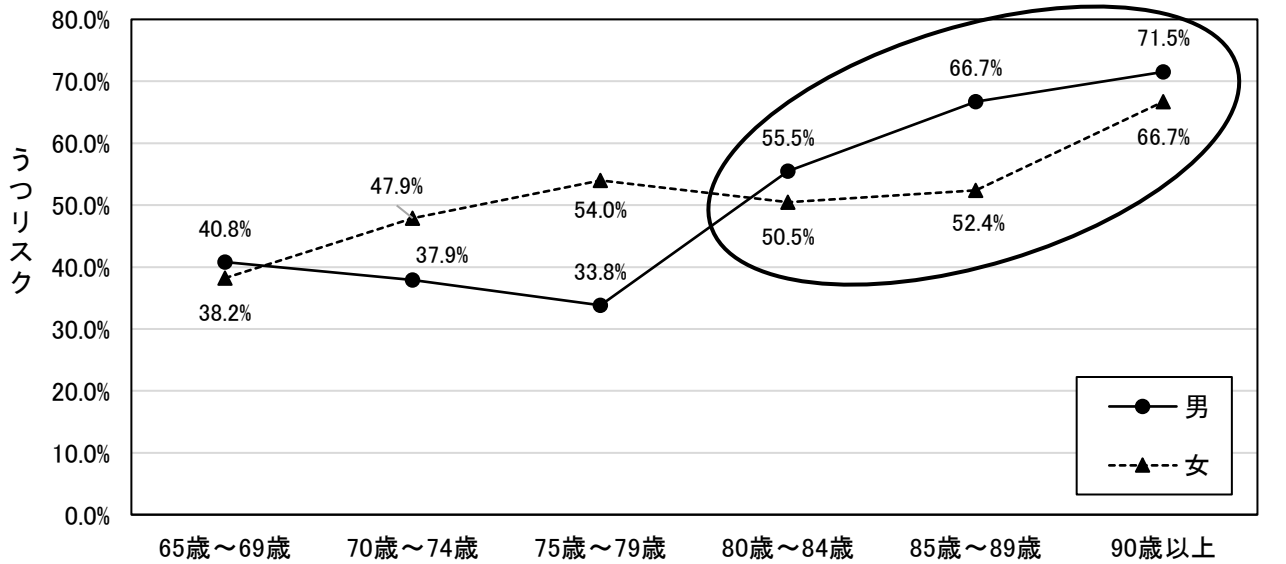
（２）認知機能リスクとうつリスク

認知機能リスクとうつリスクについては、いずれも「80 歳～84 歳」以降で、女性よりも男性の方がリスクの該当率が高くなっています。機能低下のリスクは、男女でも差があることがうかがえ、特に男性に対して、認知機能の低下やうつ状態の予防につながる取組が必要であると考えられます。

図表　性別・年齢階級別の認知機能リスクの該当率（再掲）



図表　性別・年齢階級別のうつリスクの該当率（再掲）



◎リスク予防に向けて

設問（30）の同居人数と設問（31）の外出頻度と、各種リスクで相関分析を行った結果を整理すると下表のようになります。

生活機能全般リスク、運動器機能リスク、閉じこもりリスク、うつリスクは、各項目と負の相関が見られました。つまり、目的に関わらず外出の回数が多い人は、生活機能全般リスク、運動器機能リスク、閉じこもりリスク、うつリスクに該当する割合が低くなっています。様々なリスク低下の予防のために外出の機会を増やすことも考えられます。

認知機能リスクは、４項目と正の相関があり、地区の中での見守りが必要であると考えられます。

図表　外出の頻度と各種リスクの相関分析の結果

	同居人数	買物	仕事	散歩や運動	地域活動や趣味	友人・知人と会う
生活機能全般リスク	負の相関	負の相関	弱い負の相関	強い負の相関	強い負の相関	負の相関
運動器機能リスク	弱い負の相関	弱い負の相関	―	弱い負の相関	弱い負の相関	負の相関
低栄養リスク	弱い正の相関	正の相関	弱い負の相関	正の相関	正の相関	―
口腔機能リスク	弱い正の相関	正の相関	―	弱い正の相関	弱い正の相関	正の相関
閉じこもりリスク	負の相関	負の相関	―	強い負の相関	負の相関	負の相関
認知機能リスク	―	正の相関	弱い負の相関	弱い正の相関	弱い正の相関	弱い正の相関
うつリスク	―	―	負の相関	弱い負の相関	弱い負の相関	弱い負の相関

２．住民同士の支え合い・自主的な活動

（１）現在行われている支え合い

アンケート調査の設問（26)「日常生活で地域の人と支え合っていること（声をかけあって散歩にでかける、ゴミ出しを手伝う）などはありますか。」とたずねたところ、「はい」と回答した方が３割程度となっています。「はい」と回答した方の具体的な支え合いの内容としては、「ゴミ出し」「声かけ・見守りをする（安否確認・お元気うかがい含む)」「話し相手（近所付き合い含む)」「一緒に体を動かす（散歩、体操など)」などが挙げられています。

図表　日常生活で地域の人と支え合っていることの具体的な回答（再掲）

NO.	内容	件数
1	ゴミ出し	32
2	声かけ・見守りをする（安否確認・お元気うかがい含む）	31
3	話し相手（近所付き合い含む）	31
4	一緒に体を動かす（散歩、体操など）	29
5	庭の草刈りをする	25
6	外出の付き添い（送迎含む）	20
7	野菜やおかずなどのおすそ分けする	18
8	地区・組の活動に参加する	13
9	日常の清掃	11
10	買物の代行	7
11	農作業の手伝い（野菜づくりの相談含む）	7
12	老人クラブ、おいでん家等の事業に参加する	6
13	その他	19

設問（26）で挙げられた支え合いのうち、インフォーマルなもの（地区・組の活動や、老人クラブ、おいでん家等制度化されていないもの）の中でも「買物の代行」「外出の付き添い（送迎含む)」「一緒に体を動かす（散歩、体操など)」「野菜やおかずなどのおすそ分け」などのように、支え合いの意識が強く働いているものもあると考えられます。

特に、「外出の付き添い（送迎含む)」は、移動には自動車の運転が欠かせず、地区によっては買物や通院のために通る道路の状況が良くない場所もあるため、支え合いの負担が大きく、住民同士でどこまで続けられるかが課題です。

（２）これからの支え合い

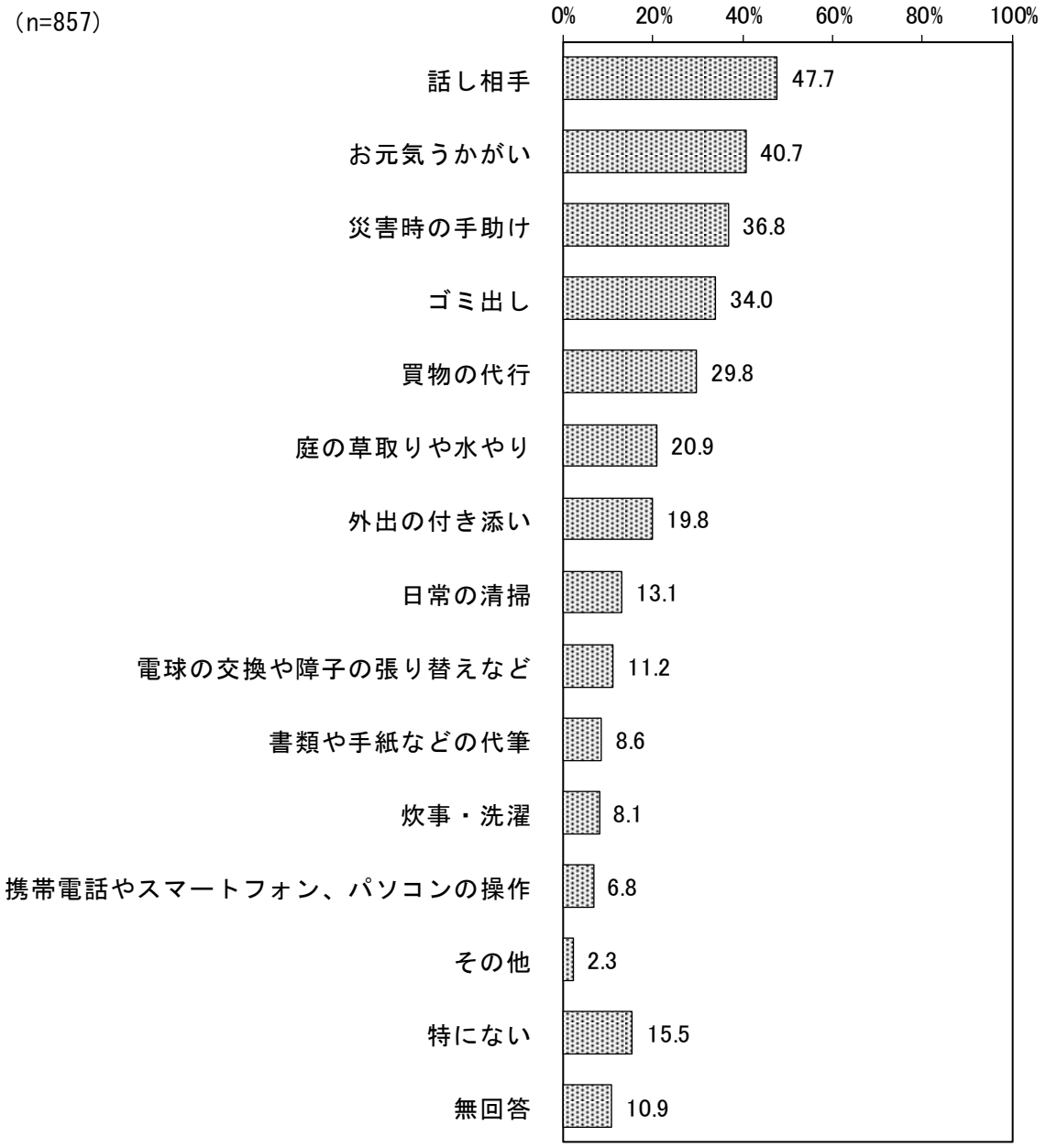
設問（27)「この地域で安心して暮らし続けるために、どのような支え合いがあると良いと思いますか。」とたずねたところ、「災害時の手助け」と回答した方の割合が 56.5%と最も高く、回答した方の割合が 30%以上の項目は、「話し相手」(48.0%)、「お元気うかがい」(40.4%)、「ゴミ出し」(31.9%)、「買物の代行」(30.7%）となっています。

設問（26）で得られた具体的な支え合いの内容と比較すると、回答の割合が 30%以上の項目については、「災害時の手助け」以外はすでに住民同士で行われていることが分かります。したがって、日常生活の中での支え合いのニーズに対しては、現在すでに行われている支え合いの活動を広げていく、活動に加わる人を増やしてくことが重要であると考えられます。

設問（27）あると良い支え合い		設問（26）の回答のうち対応するもの	
選択肢	回答の割合	具体的な回答内容	件数
災害時の手助け	56.5%	対応するもの無し	－
話し相手	48.0%	話し相手（近所付き合い含む）	31 件
お元気うかがい	40.4%	声かけ・見守り （安否確認・お元気うかがいを含む）	31 件
ゴミ出し	31.9%	ゴミ出しの手伝い	32 件
買物の代行	30.7%	買物の代行	7 件

「災害時の手助け」については、設問（28)「地域の人と支え合うために、あなたが支援できることはありますか」において回答の割合が 36.8%と３番目高くなっています。各地区の高齢化率等を踏まえ、災害時の住民同士の支え合いとしてどのようなことが可能かを検討し、共助・公助との役割分担を明確にすることが必要だと考えられます。

図表　地域の人と支え合うために、あなたが支援できることはあるか（複数回答）（再掲）



（３）住民の自主的な活動

住民同士の支え合い活動のほか、各地区では住民によって組織され、地区で活動を行っている団体があり、住民の生きがいや健康維持、交流の場となっています。住民の集まる場であることから、直接的に日常生活の支え合い活動につながる団体ではなくても、支え合い活動の拠点になることが期待されます。

地区の環境整備・景観づくり	元気城山、川角花いっぱい咲かす会、御園夢村興し隊、持続する楽しい地域の暮らしを作る会、等
地域での交流	火曜会、かねば会、魅その人こまめ会、古戸ひじり会、等 ほか自然発生的な集まり
運動	中設楽ロコモクラブ、グラウンドゴルフの自主グループ、等

◎生活支援の資源の整理

「東栄町地域包括ケア推進計画（第８期高齢者福祉計画）」で示される、町内にある生活支援の資源を整理した表に本調査で得られた結果を補足すると、以下の表のようになります。表中、斜体部分が本調査で得られた結果です。

項目	自助	互助	共助	公助
健康維持	本人（食生活、体操など）	***隣近所（声をかけあって散歩・体操など）***	ロコンティア	水中運動教室・健康診断
生きがい	本人（趣味・就職・シルバー）	老人クラブ ***野菜直売所*** ***各地区の自主的な活動団体***	脳いきいきサロン・老人クラブ	シルバー人材センター・生涯学習講座
移動	自家用車・家族送迎・タクシー	近所乗り合わせ		バス・予約バス・福祉タクシー券
買物	生協・コンビニ宅配	***隣近所（買物の代行）***		オニスター号
ゴミ出し	家族	***隣近所***		
食事	本人・家族	***隣近所（おすそ分け・差し入れ）***	ショートステイ・デイサービス・ヘルパー	配食
入浴	家庭風呂・温泉		ショートステイ・デイサービス	
家屋等	不動産管理委託	***隣近所（草刈り）***		町営住宅・空き家賃貸
安否確認	家族・警備サービス	***隣近所（声かけ・見守り）***		緊急通報システム
医療	民間医療機関		訪問看護・訪問診療・往診	東栄病院・下川診療所
支援施設			グループホーム・デイサービス・特別養護老人ホーム	おいでん家・緑風園
支援団体		ボランティア・ＮＰＯ法人	地域包括支援センター・社会福祉協議会	ドレミの会・民生委員

東栄町　高齢者実態調査　報告書
令和４年３月

発行：東栄町　住民福祉課（介護保険係）
北設楽郡東栄町大字本郷字上前畑 25 番地
電　話：0536-76-0503
ＦＡＸ：0536-76-1725